

Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 in CHIBA



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
千葉県開催記録誌

Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 in CHIBA

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会

千葉県開催記録誌



発刊に当たって



2021年夏、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大による1年の延期を経て、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されました。

千葉県では2会場を舞台として、幕張メッセで1会場では最多となる7競技が、釣ヶ崎海岸でオリンピック史上初となるサーフィン競技が実施されました。新型コロナウイルス感染症により前例のない大会であった中でも無事に終えることができましたのは、県民をはじめ、東京2020組織委員会、市町村、企業、医療関係者、ボランティアなど、多くの皆様に御尽力いただいたことによるものであり、心から感謝申し上げます。

大会は、残念ながら無観客となりましたが、世界最高峰の舞台での本県ゆかりの選手をはじめとするアスリートの活躍は、新型コロナウイルス感染症の影響が続く厳しい状況の中で、多くの方々に力を与えてくれました。また、パラリンピックの開会式・閉会式や、障害を乗り越えて自身の限界に挑戦するパラアスリートの姿などから、多様性や共生社会といった大会のテーマを言葉にせずとも共有できたことは大きな財産と考えています。加えて、パラリンピック閉会式では、共生社会の実現に向けて優れた取組を行った学校に贈られる2つの賞を、いずれも県内の学校が受賞するという大変喜ばしい出来事もありました。

大会の開催決定以来、県内では、企業や団体、行政などが一体となり、大会後も見据えながら、ホストタウン制度や事前キャンプ受入れによる国際交流の推進、観光客の受入環境の整備、ハード・ソフト両面からのバリアフリーの推進、パラスポーツの振興、ボランティア活動への参加促進等の多様な取組が展開されてきました。

さらに、オリンピック史上初のサーフィン競技開催地となったことを生かした地域づくりや、パラリンピックを契機とした障害のある方の様々な分野での社会参加の促進など、新たな動きも生まれてきており、これらを大きく育てていくことも重要です。

こうした取組を大会時の一過性のものとすることなく、スポーツと文化を通じた地域活性化、共生社会の実現を進め、本県の持続的な発展につなげていきたいと考えています。

結びに、この記録誌が、県内で8競技が実施された東京2020大会の感動の記憶や、大会を契機に各主体が共に積み重ねてきた財産を後世に伝える貴重な記録・資料として、さまざまな場面で幅広く活用されますよう祈念しまして、発刊の御挨拶といたします。

千葉県知事

熊谷 俊人

発刊に寄せて



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の熱い戦いも閉幕を迎え、ここに千葉県開催記録誌が発刊されますことは、誠に意義深く心からお喜び申し上げます。

本県では、県内2会場で、オリンピック・パラリンピックを合わせて、開催都市である東京都に次ぐ競技数となる計8競技が実施され、幕張メッセでは、フェンシング、テコンドー、レスリングのオリンピック3競技と、ゴールボール、シッティングバレーボール、テコンドー、車いすフェンシングのパラリンピック4競技が行われました。また、釣ヶ崎海岸では、オリンピック史上初となるサーフィンが行われ、連日熱戦が繰り広げられました。

今大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により1年の延期、そして無観客での開催を余儀なくされ、さらには徹底した感染防止対策が求められたほか、予定されていた事前キャンプの受入れや選手との交流の一部が中止となるなど、かつてないほど難しい大会となりました。

それでも大会本番を迎えると、世界各国から集まったトップアスリートたちが素晴らしいパフォーマンスを存分に発揮され、両大会を通じて日本の選手、特に本県ゆかりの選手の皆さんが数多くのメダルを獲得されるなど、大変見事な活躍をされ、県民に大きな勇気と希望、感動を与えてくれました。

この大会の開催決定を契機として、本県において、多くの方々が力を合わせて、スポーツ振興や国際交流、バリアフリーなどを進めてきたことは、千葉県の未来に活かされるものと信じております。

県議会といたしましても、これまで県民の皆様が一体となって進めてきた取組が次世代にしっかりと引き継がれ、本県の持続的な発展につながるよう、力を尽くしてまいります。

結びに、大会の開催に当たり御尽力いただきました、東京2020組織委員会の皆様、ボランティアの皆様、医療従事者の皆様、その他すべての関係者の皆様に感謝の意を表するとともに、本県スポーツの益々の発展と、皆様方の御健勝を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

千葉県議会議長

信岡光博

発刊に寄せて



東京2020大会は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、史上初めて開催が延期され、また世界中の人々の暮らしが大きく変化した1年を経て開催された、過去に類を見ない特別な大会となりました。

多くの困難と厳しい状況の中、ほとんどの会場で無観客での開催となりましたが、これまでの大会と変わらないアスリートの躍動によって、競技をご覧になった全ての方に感動や希望が届けられたと思います。

特に千葉県においては多くの大会競技が開催されました。釣ヶ崎海岸サーフィンビーチではオリンピック史上初の競技となるサーフィン競技が実施されました。幕張メッセでは1つの施設としては最多となるオリンピック・パラリンピック合わせて7競技が実施され、そのうちパラリンピック4競技は、開催都市に次いで多い競技数となりました。また、会場周辺や沿道を地域の子どもたちの育てたひまわりで彩る活動や、海岸周辺の継続的な清掃活動、またシティキャストによる空港でのオンラインによるお見送りなど、各国選手や大会関係者を「おもてなし」の気持ちで迎える取組も行っていました。

そして、東京2020大会をコロナ禍の下での最初の世界的なイベントとして、安全・安心の下で開催するために、千葉県の関係者の皆様には、県内自治体・保健所・医療機関等との連携などコロナ対策に特にご配慮いただきました。その成果として、大会を成功に導くことができ、コロナと闘いつつ、社会の営みを継続するための1つのモデルを示すことができたと考えます。

千葉県では、大会の開催決定を契機として、パラスポーツの普及や障害への理解促進等にも積極的に取り組んでおり、大会後もこうした取組を継続して、共生社会の実現を進めていくと聞いております。組織委員会としても、東京大会のレガシーをしっかりと構築し、より良い社会への変革へとつなげていけるように、最後まで取り組んでまいります。

関係者の皆様のスポーツ界への引き続きのご支援をお願いいたしますとともに、東京大会に携わった全ての方々に、改めて感謝申し上げます。

公益財団法人
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
会長

橋本聖子

発刊に寄せて



はじめに、IOC、IPC、東京都、組織委員会、千葉県をはじめ多くの関係者の皆様のご尽力により、千葉市の幕張メッセにおいて、オリンピック・パラリンピック7競技が無事開催されましたこと、また聖火リレーの点火セレモニーにより、多くの方の思いのこもった火がつながりましたこと、心から敬意と感謝を申し上げます。

今大会は、新型コロナウイルス感染症が収束していない厳しい状況下において、無観客による史上例を見ない異例の開催となりましたが、世界中から参加したアスリートをはじめ、本市ゆかりのアスリートや、市内開催競技での日本代表選手の大活躍は、千葉市民にとって特に強く印象に残り、多くの感動を与えてくれたものと確信しています。

さて、競技会場都市である本市は、東京2020大会を成功に導くとともに、準備から開催までに都市としてどこまで成長できるかが最大の意義であるという認識のもと、海浜幕張駅南口におけるエレベーター・エスカレーターの設置や、会場周辺の歩道の段差解消などのバリアフリー整備を行ったほか、ボランティア活動を支援するネットワークの設置、県・経済界等と連携した機運醸成イベントの実施など、オール千葉の一員として様々な取組を進めてまいりました。

特に、パラリンピック開催を共生社会実現の最大の機会と捉え、幕張メッセ会場を満員にしようと、市内で開催されるパラスポーツ大会に併せた産学官連携による集客イベントや、障害の有無に関わらず交流できるスポーツイベントなどを行い、機運を盛り上げるとともに、パラスポーツへの理解・関心を高め、障害のある人のスポーツ参加を促進するほか、オリ・パラ教育では、パラスポーツを授業の一環に位置づけるなど、パラスポーツの推進に重点的に取り組んでまいりました。

これまでの取組の成果に加え、パラリンピックでのアスリートの活躍などにより、「パラスポーツは障害者だけが行うスポーツではない」と、人々の認識が変化していると感じることが多くなりました。今後も障害のある人もない人もともに交流できるまちづくりを推進し、価値のあるレガシーとして後世に引き継いでまいります。

結びに、本記録誌が千葉県における東京2020大会の足跡を示す記録となり、多様性を尊重した共生社会の実現など更なる都市の発展に寄与する貴重な資料として広く活用されることを祈念し、発刊に寄せる挨拶といたします。

千葉市長 神谷 俊一

発刊に寄せて



令和3年夏、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、アスリートの皆様の素晴らしい活躍が我々の胸に深い感動を残しました。

7月25日から27日、一宮町の釣ヶ崎海岸ではオリンピック史上初のサーフィン競技が行われました。当町が会場に選ばれたことを大変嬉しく存じております。

大会期間中、遠くに台風が通って大波が立ち、世界トップレベルの選手達が豪快な技を繰り出すのに相応しい舞台となりました。日本選手も五十嵐カノアさんは銀メダル、都筑有夢路さんは銅メダルを獲得。当町出身の大原洋人さんは5位タイ、前田マヒナさんは9位タイと、素晴らしい戦績を残しました。動画放映が世界的に評判となり、大変嬉しい展開にもなりました。

一方、大会はコロナ禍において、1年延期、無観客での開催となりました。最も切望していた地元小中学生を対象とした観戦プログラム、地域のPR・交流の場として準備をしていたおもてなしの歓迎イベントは中止となりました。観戦を心待ちにしていた国内外の方々、都市ボランティアなどの形でオリンピックへの関与をご希望されていた方々をはじめ、オリンピックを肌で感じる機会を楽しみにしていた地域住民の方々にとって残念なことでありました。

しかしながら、当町には今後に向けて大きな収穫もございます。

ハード面では、大会開催時の活用を念頭に、JR上総一ノ宮駅に東口を開設いたしました。これは千葉県の援助を得て、はじめて可能になりました。また、会場跡地には千葉県と協力の上で約1haの自然公園を開設いたします。更に、会場付近で避難所機能を備えた収益的な施設の設営をめざすことも町内外から大きな推進力を頂きました。

ソフト面では、当町の知名度が決定的に上がりました。現在、当町の海岸部を中心に投資・建設ラッシュが起きており、先ごろの基準地価上昇率は2年連続で県下1位です。

今後はこうした遺産を適切に運用し、暮らしの質の長期的増進に、如何につなげていくかが行政の課題だと捉えております。

今回の大会は千葉県、一宮町にとって大きな飛躍のジャンプ台となる歴史的イベントでありました。大会組織委員会や千葉県ほか、お力を発揮頂いた皆様に、一貫してご協力頂いた県民の皆様、そして一宮町民の皆様に心から御礼を申し上げます。

結びに、本記録誌が貴重な資料として広く活用され、様々な分野の発展に寄与することを祈念し、発刊に寄せる挨拶といたします。

一宮町長

馬淵昌也

発刊に寄せて



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、千葉県内でも8競技が行われ、テレビなどの報道を通じてでしたが、世界中から集まった選手の素晴らしい活躍は、県民に大きな感動をもたらしました。

2014年から大会開催に向け、その効果を千葉県の一層の発展につなげ、次世代にしっかりと引き継ぐため、経済、スポーツ、文化、行政等各分野の代表者をメンバーとする「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」が設置されました。大会の開催は千葉県の国際的な魅力や知名度を高め、将来を担う人づくりや、経済の活性化、国際交流を推進する千載一遇のチャンスであるとの認識の下、企業・団体・大学・行政等が方向性を共有し、相互に連携しながら、大会後も見据えた取組を主体的に進めてまいりました。

また、県内経済6団体により結成された「みんなで応援！千葉県経済団体協議会」でも、県内企業が一体となって、「スポーツを応援するチーバくん」のロゴマークを活用したポスターの掲出や応援のぼりの設置を行うなど、機運醸成の活動を展開してきました。さらに、「パラリンピックのフルスタジアム実現」を目標に、県などと連携した体験会を開催するなど、パラスポーツの振興にも取り組みました。

大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による、史上初となる大会の延期、そして無観客での開催など、予想だにしなかった事態となりましたが、関係各位のご努力により無事に開催され、成功裡に閉幕を迎えることができました。大会に携わられた全ての皆様のご尽力に改めて感謝申し上げます。関係者が一丸となって、工夫を重ねながら大会に向けて取り組んできたことは、歴史に残る偉業であり、その取組自体も官民連携のレガシーとして残っていくと信じております。

結びに、オリンピック・パラリンピック開催で培った官民連携の精神を大切にして、千葉県の今後ますますの発展に力を注ぐこととお誓い申し上げ、発刊に当たってのご挨拶といたします。

2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議
議長

佐久間 英利

目 次

発刊に当たって／発刊に寄せて	2
----------------	---

第1部

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 in CHIBA — 15

I 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会と聖火リレー — 16

1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催	16
2 東京2020オリンピック競技大会と聖火リレー	26
3 東京2020パラリンピック競技大会と聖火リレー	30

Column

東京2020大会の概要／大会ビジョンと大会モットー	17
東京2020大会のエンブレム、マスコット、メダル	18
学校連携観戦プログラム	23
県立市川工業高校の生徒がデザインした「点火棒」	31
千葉県のアスリート強化・支援事業	34

II 東京2020オリンピック競技大会・千葉県内開催競技と千葉県ゆかりの選手の活躍 — 35

1 千葉県内開催競技	35
フェンシング 36 / テコンドー 38 / レスリング 40 / サーフィン 42	
2 千葉県ゆかりの選手の活躍	44

interview

須崎優衣選手 [レスリング]	52
大原洋人選手 [サーフィン]	54
ウルファロン選手 [柔道]	56
萱和磨選手、谷川航選手、橋本大輝選手 [体操競技]	58

III 東京2020パラリンピック競技大会・千葉県内開催競技と千葉県ゆかりの選手の活躍 61

- 1 千葉県内開催競技 61
 ゴールボール 62 / シットティングバレーボール 64 / テコンドー 66 / 車いすフェンシング 68
- 2 千葉県ゆかりの選手の活躍 70

interview

- 小川和紗選手 [柔道] 82
- 秦由加子選手 [トライアスロン] 84
- 川原凜選手 [車いすバスケットボール] 86
- 国枝慎吾選手 [車いすテニス] 88
- 里見紗奈選手、杉野明子選手、村山浩選手 [バドミントン] 90

Column

- 声援を届けよう～私たちの東京2020大会 in CHIBA ～ 94
- 千葉県ゆかりの選手へのエール 106
- 東京2020大会メダリストへ千葉県県民栄誉賞・知事特別賞・知事賞を贈呈 108

第2部

東京2020大会に向けて 大会後を見据えたCHIBAの取り組み 109

I オール千葉の体制づくり 110

- 1 取組方針と推進体制 110
- 2 「オール千葉」連携強化の取り組み 113

II 事前キャンプの誘致とホストタウン交流 118

- 1 国際大会と事前キャンプ 118
- 2 県内のホストタウンと東京2020大会事前キャンプ受け入れ 123
- 特集** オランダ代表チームの事前キャンプ（千葉県） 128

Column

- フランスでつながる！ホストタウン連携プロジェクトの取り組み 150
- 千葉県スポーツコンシェルジュの取り組み 152
- ホストタウンで繋ぐ写真展リレー 153

III パラスポーツの振興とオリンピック・パラリンピック教育 154

1 パラスポーツの振興 154

2 オリンピック・パラリンピック教育 168

特集 I'mPOSSIBLEを活用！「共生社会の実現」を目指して学び・実践
(木更津市立清見台小学校) 174

特集 「オリ・パラ」サマーセッション in 東金 2021 オンラインで障害者スポーツを体験！
(県立東金特別支援学校) 178

Column

市町村におけるパラスポーツ振興の取り組み 166

I'mPOSSIBLEアワード 173

IV 機運醸成の取り組みと文化振興 188

1 機運醸成の取り組み 188

2 県内開催競技の国際大会 200

3 文化プログラム関連イベント等の開催と文化振興 206

特集 千葉・県民音楽祭2021 世界に響け！みんなでつくるハーモニー 210

特集 感動を再び！「ARIGATO TOKYO 2020」フェスティバル 214

Column

世界に一体のモニュメント 194

市町村における機運醸成の取り組み 198

市町村における文化振興 213

V おもてなしの取り組み 216

1 オール千葉おもてなしアクション！ 216

2 都市ボランティア「City Cast Chiba」の歩み 224

3 県民によるさまざまなボランティア 236

Column

看板のデザインコンセプト 220

千葉市の官民連携のボランティア登録制度「チーム千葉ボランティアネットワーク」 227

ネーミングとユニフォーム 228

通訳ボランティアの養成 239

VI 千葉の魅力発信と環境整備 240

1 千葉の魅力発信と地域振興 240

2 成田空港の利便性向上と受け入れ環境整備 245

資料編

東京2020オリンピック・パラリンピック競技会場一覧	248
千葉県内開催競技結果一覧（日本代表選手）	250
千葉県ゆかりのオリンピック選手・パラリンピック選手結果一覧	252
2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議の開催状況	254
2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議 委員名簿	255
県内開催競技のテストイベント開催実績	256
県内の公式練習会場等	256
千葉県オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧	257
千葉県の東京2020大会広報	258
東京2020オリンピック・パラリンピックに関する主な動き	260

※本文中の名称や役職、世界ランキング等は当時のものを記載

2020大会の開催都市決定から大会開催までの県内の主な動き

	2015年度以前	2016年度	2017年度	
東京2020大会 (p.16~108)	2013.9 2020年大会の開催都市が東京に決定  写真：代表撮影／AP／アフロ	2015.6 幕張メッセでオリンピック3競技の開催決定 2015.11 幕張メッセでパラリンピック4競技の開催決定 2016～ 幕張メッセ大規模改修	2016.12 釣ヶ崎海岸でオリンピックのサーフィン競技開催決定  幕張メッセ	
オール千葉の体制づくり (p.110~117)	2013.11 千葉県東京オリンピック・パラリンピック戦略推進本部設置 2014.11 2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議設置 2015.3 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略策定		2017.7 みんなで応援!千葉県経済団体協議会設立	
事前キャンプ誘致・ホストタウン交流 (p.118~153)		2015.6 千葉県スポーツコンシェルジュ設置 2015.8 世界陸上の事前キャンプを受け入れ 2016.1～ 千葉県内の21市町が21カ国・地域のホストタウンとして登録・交流を推進	2017.12～ 千葉県がオランダのホストタウンとして登録・交流を推進	
パラスポーツ振興 (p.154~167) オリパラ教育 (p.168~187)	 車いすフェンシング体験会  ゴールボール体験会	2016～ パラスポーツフェスタちば開催 2016～ パラスポーツフォーラム in CHIBA開催 2016.2 JOCパートナー都市協定締結	2018.1～ 学校訪問プロジェクト実施 2017.4 千葉県オリンピック・パラリンピックを活用した教育の取組方針策定 2017～ オリンピック・パラリンピック教育推進	
機運醸成・文化振興 (p.188~215) おもてなし・魅力発信 (p.216~247)		 開催3年前イベント 2016～ 文化プログラム関連イベント実施	2017.7～8 開催3年前イベント開催 2017.10～11 開催1000日前イベント開催 2017.7～ おもてなしCHIBAプロジェクト実施 2017.7 東京2020大会に向けたボランティア推進方針策定	

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
 幕張メッセの新設エレベーター  2018～ 釣ヶ崎海岸整備	2020.3 大会開催の1年延期決定 2020.7 JR上総一ノ宮駅 東口新設 	2021.7.1～7.3 千葉県内でオリンピック聖火リレー実施 2021.7.23～8.8 オリンピック競技大会開催 (千葉県内では7.24～8.7に競技実施) 2021.8.18 千葉県内でパラリンピック聖火リレー 千葉県聖火フェスティバル実施 2021.8.24～9.5 パラリンピック競技大会開催 (千葉県内では8.25～9.5に競技実施)	
 2019.1 「スポーツを応援する チーバくん」発表 2019.3～ 千葉県内を「スポーツを応援する チーバくん」でいっぱいにする運 動を展開	 事前キャンプ	東京2020大会	
 文化交流 2019.5～7 世界リレー、世界水泳の 事前キャンプを受け入れ	2021.7～8 千葉県および県内の15市が大会出場 14カ国の事前キャンプを受け入れ		
 サーフィン体験会  オリパラ教育	 I'mPOSSIBLEアワード © ロイター/アフロ		
2018.7～8 開催2年前イベント開催  2018.8 オール千葉おもてなし隊結成 2018.9～12 都市ボランティア募集	2019.7 開催1年前イベント開催 2021.3 開催500日前イベント開催  開催1年前イベント 2019.10～ 都市ボランティア研修実施		 都市ボランティア 2021.5～9 オンラインの活用等による 都市ボランティア活動実施



TOKYO 2020



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES



第1部

東京2020

オリンピック・パラリンピック

競技大会 in CHIBA



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会と聖火リレー

1

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催

東京開催の決定

2013（平成25）年9月7日、アルゼンチンのブエノスアイレスで開かれた国際オリンピック委員会（IOC）総会において、2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市が東京に決定した。この決定時点において、東京都、（公財）日本オリンピック委員会（JOC）、IOCの3者により、各当事者が大会開催に向けて遵守すべき合意書である「開催都市契約」が締結され、東京は、1964（昭和39）年以来、56年ぶり2度目のオリンピック・パラリンピック開催都市となった。

開催都市契約を受け、2014年1月、大会開催に向けた準備や運営を行うため、東京都とJOCにより、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委

員会（東京2020組織委員会）が設立され、JOCや日本パラリンピック委員会（JPC）、東京都、政府、経済界、その他関係団体とともに、オールジャパン体制で大会開催への準備が進められることとなった。

なお、東京2020組織委員会が開催都市契約に加わることで、東京都、東京2020組織委員会、JOC、IOCの4者で大会開催に向けての合意がなされた。

こうして東京開催へ向けて動き出した中、2015年2月、東京2020組織委員会は、大会までの準備業務を5年余りという期間で確実に進めていくため、「東京2020大会開催基本計画」を策定した。基本計画では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）の礎となる「大会ビジョン」が掲げられ、この大会ビジョンにおいて、招



開催都市を発表するジャック・ロゲ IOC 会長
写真：代表撮影／AP／アフロ



東京開催の決定を喜ぶ日本の招致委員会、招致アンバサダーのメンバー

© ZUMA Press／アフロ



東京2020大会の概要

東京2020オリンピック競技大会

正式名称……………第32回オリンピック競技大会（2020／東京）
開催期間……………2021年7月23日（金・祝）～8月8日（日・祝）
※当初予定：2020年7月24日（金・祝）～8月9日（日）
競技数……………33競技339種目
競技会場数……………42会場（1都8道県）
参加国・地域数……………206カ国・地域
選手数……………11,417人

東京2020パラリンピック競技大会

正式名称……………東京2020パラリンピック競技大会
開催期間……………2021年8月24日（火）～9月5日（日）
※当初予定：2020年8月25日（火）～9月6日（日）
競技数……………22競技539種目
競技会場数……………21会場（1都3県）
参加国・地域数……………163カ国・地域
選手数……………4,403人



大会ビジョンと大会モットー

大会ビジョン

スポーツには 世界と未来を変える力がある。

1964年の東京大会は日本を大きく変えた。
2020年の東京大会は、
「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、
「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、
「そして、未来につなげよう（未来への継承）」
を3つの基本コンセプトとし、
史上最もイノベティブで、
世界にポジティブな改革をもたらす大会とする。

大会モットー

United by Emotion

世界は、間違いなく異なる国や人種や性や世代でできていて、
多種多様な価値観が存在する。
それが時として私たちに戸惑わせ、
距離を生じさせることもあるだろう。

しかし、その異なる私たちは、
アスリートの肉体や勇気や挑戦を共に目撃して、
共に心震わせ、笑い、泣き、拳をあげるのだ。

そう、人と人は明らかに異なり、しかし間違いなく同じだ。

ひとつの風景を共有し、体験をする。
そこで共に抱く感情が、壁の向こう側を想像する力になり、
互いを区別するものを超えてゆく力になる。
人は、時間と場所を共有することで共に生きる意味を見つめるのだ。
人間は人間がいる光景から未来への大事なことを知る。

致の際のスローガン「Discover Tomorrow ～^{あした}未来をつかもう～」を基に取りまとめた「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」の3つの基本コンセプトが示された。

また同年6月、東京2020大会の円滑な準備および運営に関する施策を総合的かつ集中的に推進するため、政府が「東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部」を設置し、同年11月に「2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施

策の推進を図るための基本方針」が策定された。基本方針では、この大会を日本再興の契機とすること、パラリンピック競技大会をオリンピック競技大会と一体的に運営することで障害者の社会参加の拡大を図り、日本全体で「夢と希望を分かち合う大会」にすること、次世代に誇れる有形・無形の遺産（レガシー）を全国に創出するとともに、日本が持つ力を世界に発信することなどの基本的な考え方や施策の方向性が明らかにされた。



東京2020大会のエンブレム、マスコット、メダル

東京2020組織委員会は、2015年に東京2020大会のエンブレムデザインを募集。2016年4月、応募総数14,599件から、「組市松紋」のデザインが選ばれ「東京2020エンブレム」として決定した。

2017年には、アンバサダーとなるマスコットキャラクターが公募され、応募総数2,042件から最終候補3作品を選定。小学生（日本全国の小学校および海外の日本人学校等）の学級単位による決選投票により、2018年2月にデザインが決まり、同年7月に名前が「ミライトワ」「ソメイティ」に決定した。

また、東京2020大会のメダルは、使用済みの小型家電から得たリサイクル金属を原材料に製作された。

◆エンブレム



くみいちまつもん
組市松紋

歴史的に世界中で愛され、日本では江戸時代に市松模様として広まったチェッカーデザインを、日本の伝統色である藍色で、粋な日本らしさを描いた。

形の異なる3種類の四角形を組み合わせ、国や文化・思想などの違いを示す。

違いはあってもそれらを超えてつながり合うデザインに、「多様性と調和」のメッセージを含め、オリンピック・パラリンピックが多様性を認め合い、つながる世界を目指す場であることを表した。

◆マスコット——史上初、小学生の投票で決定



東京2020オリンピックマスコット

ミライトワ MIRAITOWA

〈名前の由来〉

ミライトワという名前は、「未来」と「永遠（とわ）」というふたつの言葉を結びつけて生まれた。名前に込められたのは、素晴らしい未来を永遠にという願い。東京2020大会を通じて、世界の人々の心に、希望に満ちた未来をいつまでも輝かせる。



東京2020パラリンピックマスコット

ソメイティ SOMEITY

〈名前の由来〉

ソメイティという名前は、桜を代表する「ソメイヨシノ」と非常に力強いという意味の「so mighty」から生まれた。桜の触角を持ち、驚きの強さを見せるソメイティ。東京2020大会を通じて、桜を愛でる日本の心とパラリンピックアスリートの素晴らしさを印象づける。

◆メダル



©Tokyo 2020/shugo takemi

東京2020オリンピック

うら面のデザインは、原石を磨くようなイメージで、光や輝きをテーマとし、輝きの部分は世界中の人々が手をつないでいる様子もイメージしている。おもて面のデザインは、IOCにより、パナシナイコスタジアムに立つ勝利の女神ニケ像、東京2020オリンピック競技大会の正式名称およびオリンピックシンボルの要素を含めた構図と規定されている。



©Tokyo 2020/shugo takemi

東京2020パラリンピック

「扇の要を中心として生み出される新しい風は人々に熱気を与え、また新たな風を生み出す原動力となる」——人々の心を束ね、世界に新たな風を吹き込む「扇」をモチーフにしたデザイン。214件のデザイン案の中から、浦安市出身のデザイナー松本早紀子さんのデザインが採用された。



©Tokyo 2020/shugo takemi

メダルケース

八千代市在住のプロダクトデザイナー吉田真也さんのデザインが公募により決定された。

千葉県内の競技開催が決定

「都市の中心で開催するコンパクトな大会」を目指す東京2020大会では、当初、千葉県内での競技実施は予定されていなかったが、東京2020組織委員会や東京都では、競技会場の建設コストの高騰などから招致段階の会場計画を見直すことを検討していた。

このような動きがある中、2015年4月、東京2020組織委員会の森喜朗会長から千葉県の森田健作知事に対して、幕張メッセ（千葉市）をオリンピックのフェンシング、テコンドー、レスリングの競技会場候補地としたいとの意向が示された。協議や調整が進められた結果、同年6月、IOC理事会において、オリンピック競技のうち、フェンシング、テコンドー、レスリングの3競技を幕張メッセで開催することが決定された。

幕張メッセでの開催決定を受けて森田知事は、「千葉県で3競技が開催されることを心から歓迎します。組織委員会および東京都ならびに各競技団体と緊密に連携を図りながら、大会に向けて、千葉県民の総力を集め“チーム千葉”で取り組んでまいります」とコメントした。

さらに同年11月に、国際パラリンピック委員会（IPC）理事会で、パラリンピック競技のうち、ゴールボール、シッティングバレーボール、テコンドー、車いすフェンシングの4競技も幕張メッセで開催することが決定された。

競技会場に関わるこのような動きとともに、東京2020大会における追加競技をめぐる動きも活発化していた。東京2020大会では、2014年12月のIOC臨時総会で、開催都市による追加競技種目の提案な

どを可能とする「オリンピック アジェンダ2020」が承認され、どの競技が追加されるかが注目された。こうした中、2015年9月に、東京2020組織委員会からIOCへサーフィンを含む5競技を東京大会の追加種目とすることが提案された。

千葉県内では2015年11月、九十九里・外房地域の16市町村長およびサーフィン競技団体各支部長から、県内での開催の実現への協力を求める要望書が県に提出された。これを受けた千葉県は、2016年2月に九十九里・外房地域でのサーフィン競技の開催について東京2020組織委員会に要望を行い、県内でのサーフィン誘致をめぐる熱が一気に高まった。

そして、2016年8月に開催されたIOC総会において、東京2020大会でサーフィンを含む5競技を追加種目として実施することが決まり、同年12月のIOC理事会において、一宮町の釣ヶ崎海岸をサーフィン競技会場とすることが決定された。

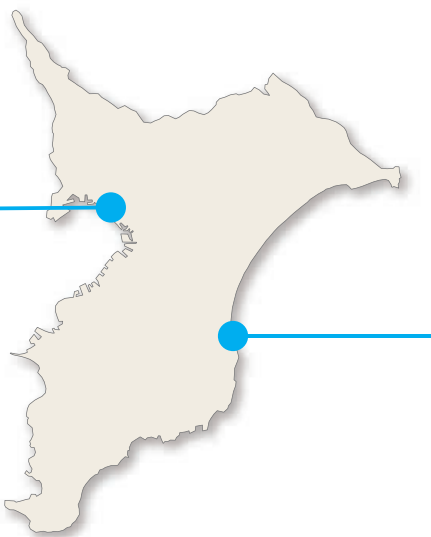
この決定を受けて森田知事は、「オリンピック史上初となるサーフィン競技が本県で開催されることは光栄なことであり、競技会場の誘致を進めてきた地元の皆様と、この思いを分かち合いたいと思います。大会成功に向けて、組織委員会をはじめ、九十九里・外房地域の関係市町村や競技団体等と緊密に連携を図りながら、準備を進めてまいります」とコメントした。

こうして千葉県内では、幕張メッセでオリンピック3競技とパラリンピック4競技の計7競技、釣ヶ崎海岸でオリンピック史上初の開催となるサーフィン競技の実施が決まり、2会場合わせて8競技が行われることとなった。



幕張メッセ

210,000㎡の広大な敷地に、国際展示場、国際会議場、イベントホールを有する日本最大級の複合コンベンション施設。1989年に開設し、近年は、年間900件超の催事が開催され、年間の総来場者数は約700万人に上る。



釣ヶ崎海岸

九十九里浜の南端に位置し、良質な波を求めて多くのサーファーが集まる。大会時は、東京2020組織委員会が県有地等に運営用のプレハブ等の仮設施設を整備し、競技会場の周囲をフェンス等で囲んで競技が実施された。





東京 2020 大会の開催に合わせて新設された国立競技場（オリンピックスタジアム） © USA TODAY Sports /ロイター／アフロ

大会開催の延期

大会開催まで半年余りとなった2019年12月、中国湖北省武漢市において初の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染者が確認された。2020年になると感染は世界中に拡大し、同年3月には世界保健機関（WHO）がパンデミックに至っているとの認識を示した。世界各国ではオリンピック・パラリンピックの代表選考会や国際大会の延期・中止が相次ぎ、国によってはロックダウン（都市封鎖）や外出禁止令が敷かれ、大会を目指す選手たちはトレーニングすらままならない状況となっていくた。

日本でも大会開催への懸念が高まる中、オリンピック聖火が古代オリンピック発祥の地ギリシャから日本に到着した直後の2020年3月24日、安倍晋三内閣総理大臣とIOCのトーマス・バハ会長が電話会談を行い、「大会を概ね1年程度延期、遅くとも2021年夏までに開催する」ことで一致し、東京2020大会は史上初の開催延期となることが決定した。そして同年3月30日には、IOC臨時理事会で、延期後のオリンピックは2021年7月23日に、パラリンピックは同年8月24日に開幕することが決定された。

延期後の競技会場や各競技の実施日程については、2020年4月16日、東京2020組織委員会とIOCの共同声明により「2021年夏の大会は、延期前に決定した競技会場と競技スケジュールを踏襲することが望ましい」とされ、同年7月17日にオリンピック

の競技会場と各競技の実施日程が、同年8月3日にパラリンピックの競技会場と各競技の実施日程がそれぞれ発表された。

千葉県では、両大会の実施日程の変更にあたり、大会開催と経済活動との調和を図ることが重要と考え、関係者と協力して丁寧に調整を進め、準備期間を含む東京2020大会での幕張メッセの施設使用期間のさらなる短縮を実現した。

新型コロナウイルス感染症対策の検討

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が続く中、2020年6月10日、東京2020組織委員会は、大会開催に向けて「安全・安心な環境の提供」「費用の最小化」「大会の簡素化」の3点を基本原則とする新たな方針と大会までのロードマップを発表した。

一方、政府は、感染症対策について総合的に検討・調整するため、同年9月4日、政府を中心に東京2020組織委員会、東京都、JOC、JPCに有識者を加えた「東京オリンピック・パラリンピック競技大会における新型コロナウイルス感染症対策調整会議」を立ち上げた。この調整会議は、2021年4月28日までの間に計7回開催され、選手や観客などの区分ごと、また、入国から事前キャンプ、競技会場などの場面ごとに、感染の予防的対策や感染時の対応策などの検討が進められた。

さらに、同年2月から6月までにかけては、選手

や大会関係者等が感染症対策について守るべきルール等を定めた「プレイブック」が作成されるなど、大会開催に向けて新型コロナウイルス感染症対策の具体化が進められていった。

無観客での開催の決定

2020年12月に開催された政府の調整会議における中間整理では、観客数の上限について、最終的な決定は2021年春までに行う方針とされていた。

2021年3月20日、IOC・IPC・東京2020組織委員会・東京都・政府による五者協議が行われ、海外観客の受け入れについては断念することとなり、国内観客の上限については4月に方向性を決めていくこととされた。

しかし、緊急事態宣言が繰り返し発出されるなど、新型コロナウイルス感染症の影響が続き、オリンピックの国内観客については、開会式の15日前となる同年7月8日の五者協議において、緊急事態宣言の発出が決まった東京都内は無観客での開催となることが決定された。続いて行われた会場自治体との協議において、埼玉県、千葉県および神奈川県についても、新型コロナウイルス感染症対策上、1都3県で足並みをそろえることが必要との考えから無観客とすることが合意された（その後、北海道と福島県についても無観客となった）。

また、パラリンピックについては、同年8月16日、IPC・東京2020組織委員会・東京都・政府による四者協議で、全競技会場での無観客開催が決定した。

大会前の千葉県の動き

2021年3月25日にスタートしたオリンピック聖火リレーでは、新型コロナウイルスの感染状況から、公道での聖火リレーを中止し、代替措置の実施により聖火をつなぐこととした自治体も少なくなかった。

千葉県での聖火リレーは7月であったが、同年5月27日、熊谷俊人知事は、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中では、沿道での観覧者の密集は避けられず、県内全域に人流を発生させ、感染拡大につながる懸念があることから、県内全区間で聖火ランナーの走行を取りやめることを判断し、代替措置として無観客で点火セレモニーを実施するという県としての考え方を発表した。これは、千葉県では、感染拡大につながるような形での聖火リレ

ーの実施はしないというメッセージを県民に発信し、その信頼を得ることが東京2020大会開催に向けて重要と考えたことによるものであった。その後、大会期間中に予定していた東京2020ライブサイト等のイベントについても、同年6月10日に中止を発表した。

また、東京2020組織委員会などによって大会の観客の取り扱いをめぐる議論が進められる中では、安全・安心な大会の実現に向けて都道府県をまたぐ移動や不要不急の外出の自粛など、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための県民への要請内容と大会運営の整合が図られていることが重要であるとの県の考えを示した。

無観客での開催となったことなどにより、大会時に予定していたさまざまな事業が縮小や中止となったが、千葉県では、同年7月15日、県のホームページに特設のページを立ち上げ、聖火リレーのセレブレーションやライブサイトのステージで予定されていた合唱やダンスなどの映像のほか、聖火リレーの沿道を飾る予定だった応援メッセージなども掲載した（「声援を届けよう～私たちの東京2020大会 in CHIBA～」についてはp.94参照）。

さらに、無観客の決定から大会までの限られた期間の中、県民が自宅で大会を楽しめるよう、県の公式ツイッターで千葉県にゆかりのある出場選手などの情報を日々発信するとともに、競技の日程や結果を県のホームページで掲載するなど、県全体で選手を後押しする機運をつくれるように取り組んだ。



@Tokyo2020/Uta MUKUO

選手村内に設置された選手たちの交流施設「ビレッジプラザ」
日本各地の木材を使用して建てられ、千葉県産木材も使用された。

◆観客の取り扱いをめぐる動きと千葉県の対応

2020年12月2日	■新型コロナウイルス感染症対策調整会議の中間整理（政府・東京2020組織委員会・東京都・JOC・JPC・有識者） 観客数の上限について、国内の上限規制に準拠することを基本として、最終的な決定は2021年春までに行う方針
2021年1月7日	■埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言発出（1月8日適用） ※当初は2月7日まで、最終的に3月21日まで延長
3月3日	■五者協議（IOC・IPC・東京2020組織委員会・東京都・政府） 海外観客の日本への受け入れを3月中に判断することで合意
3月20日	■五者協議（IOC・IPC・東京2020組織委員会・東京都・政府） 海外観客の日本への受け入れを断念し、4月に国内観客の上限について方向性を決めていく方針を確認
3月25日	■オリンピック聖火リレー 福島県をスタート
4月23日	■東京都に緊急事態宣言発出（4月25日適用） ※当初は5月11日まで、最終的に6月20日まで延長
4月28日	■五者協議（IOC・IPC・東京2020組織委員会・東京都・政府） 国内観客の上限については、6月に国内のスポーツイベント等における上限規制に準拠することを基本に行うことで合意
5月27日	■千葉県がオリンピック聖火リレーでのランナーの走行取りやめを発表
6月10日	■千葉県が東京2020ライブサイト等の実施取りやめを発表
6月21日	■五者協議（IOC・IPC・東京2020組織委員会・東京都・政府） 観客数の上限を「収容定員50%以内で1万人」とすること、7月12日以降緊急事態宣言等が発動された場合は措置内容を踏まえた対応を基本とすること等を合意
6月23日	■関係自治体等連絡協議会（東京2020組織委員会・政府・会場所在自治体） 6月21日の五者協議における合意内容についての報告等
7月1日～3日	■千葉県内でのオリンピック聖火リレー 3日間とも無観客で点火セレモニーを実施
7月8日	■東京都に緊急事態宣言発出（7月12日適用） ※当初は8月22日まで、最終的に9月30日まで延長 ■五者協議（IOC・IPC・東京2020組織委員会・東京都・政府） オリンピックについて、東京都への緊急事態宣言を受け、より厳しい措置（一般のイベントは一定のルールのもと観客を入れて開催）として無観客とすること、緊急事態宣言以外の区域は首長と協議の上、具体的な措置を決めること等を合意 ■関係自治体等連絡協議会（東京2020組織委員会・政府・会場所在自治体） 埼玉県、千葉県および神奈川県は、新型コロナウイルス感染症対策上、1都3県で足並みをそろえることが必要との考えから、東京都と同様に無観客へ ↳協議会后、東京2020組織委員会から、無観客となった会場については、学校連携観戦も中止とする方針が示される →その後、北海道（7月9日）、福島県（7月10日）も無観客を決定
7月23日～8月8日 東京2020オリンピック開催	
7月30日	■埼玉県・千葉県・神奈川県に緊急事態宣言発出（8月2日適用） ※当初は8月31日まで、最終的に9月30日まで延長
8月5日	■千葉県がパラリンピック聖火リレーでのランナーの走行取りやめを発表
8月16日	■東京2020パラリンピック競技会場所在自治体懇談会（東京2020組織委員会・政府・会場所在自治体） 四者協議に先立ち、日本側の方針について協議を行い、合意 ■四者協議（IPC・東京2020組織委員会・東京都・政府） すべての競技について、より厳しい措置として無観客とすること、学校連携観戦については、保護者等の意向を踏まえて自治体や学校設置者が希望する場合には、安全対策を講じた上で実施可能とすること等を合意
8月18日	■パラリンピック聖火リレー千葉県聖火フェスティバル 無観客で集火式、点火セレモニー・出立式等を実施
8月24日～9月5日 東京2020パラリンピック開催	

※新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言については、埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県の実況のみを掲載



学校連携観戦プログラム

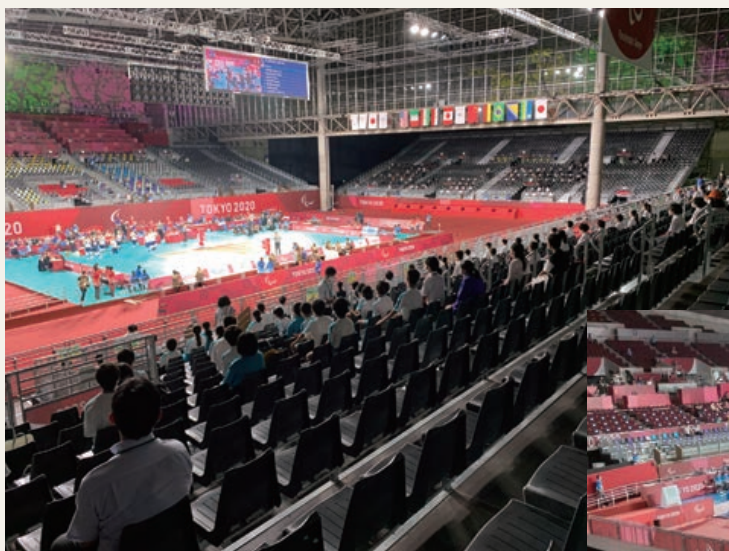
学校連携観戦プログラムは、オリンピック・パラリンピックの競技観戦を通じて、次世代を担う子どもたちに、一生の財産として心に残るような機会を提供するための事業として実施された。東京2020組織委員会が、東京都、競技会場が所在する8道県、東日本大震災の被災3県の小・中学校、高校、特別支援学校を対象に観戦チケットを特別価格で販売し、両大会合わせて計100万人以上の子どもたちが観戦する計画であった。

千葉県では、2020年1月時点において県内約830校から計約10万5,000枚のチケット申し込みがあったが、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、感染への不安等からキャンセルが相次いだ。

こうした状況の中、2021年7月8日には、東京都へ緊急事態宣言を発出することが決定され、同日開催された五者協議において、オリンピックについて東京都内の会場は無観客での開催となることが決定した。また、引き続き開催された関係自治体等連絡協議会において、まん延防止等重点措置が適用されていた埼玉県、千葉県、神奈川県については、新型コロナウイルス感染症対策上、1都3県で足並みをそろえることが必要との考えから、無観客とすることが合意された。この決定に併せて、東京2020組織委員会から、無観客となった会場については学校連携観戦も中止とする方針が示され、1都3県での学校連携観戦は中止することとなった。

パラリンピックについては、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、8月16日に開催された四者協議において、すべての会場で無観客での開催となることが決定した。一方、学校連携観戦については、共生社会の実現に向けた教育的要素が大きいことに鑑み、保護者等の意向を踏まえて自治体や学校設置者が希望する場合には、安全対策を講じた上で実施可能とされた。これを受けて県では、東京2020組織委員会が行う感染防止策に加え、独自の対策を講じた上で学校連携観戦を実施することとし、市町村、学校の意向を確認した上で、8月25日から幕張メッセで開催される競技を子どもたちが観戦した。

しかしながら、引率した学校の教員が、競技観戦後に行った検査で新型コロナウイルスの陽性が確認されるという事態が生じたため、保護者の不安を払拭するさらなる感染防止策に要する時間や教育現場の新たな負担などを考慮し、実施自治体と協議した結果、8月31日以降の学校連携観戦の中止を決定した。なお、8月30日までの6日間で、約3,000人の子どもたちが東京2020大会を観戦した。



パラリンピックで実施された学校連携観戦



千葉県内における競技会場の整備と大会運営への協力

2015年から2016年に、幕張メッセと釣ヶ崎海岸で東京2020大会の計8競技が実施されることが決定して以降、県内では、千葉県や競技会場が所在する千葉市、一宮町などにより、大会開催に向けたさまざまな準備が進められた。

競技会場の整備については、東京2020組織委員会が、競技実施に必要な仮設施設の整備等を行い、競技会場が所在する自治体等が、それぞれ所有する施設に必要な恒久的改修を実施した。

東京2020大会の全会場のうち1施設としては最も多くの競技が開催された幕張メッセは、国内外の展示会やイベントが数多く開催されるアジア有数の複合コンベンション施設である。開設から約30年経過し、施設の老朽化が進行していたことから、千葉県は大規模改修の一環として、老朽化対策とともに、エレベーターの増設、中央エントランス・トイレのリニューアルなどを実施。施設の一部を所有する㈱幕張メッセもイベントホールへのエレベーター増設や、競技会場最寄り駅となるJR海浜幕張駅と幕張メッセをつなぐ連絡デッキを新設するなど、大

会開催時の利便性向上だけでなく、大会後の幕張メッセの利用促進を図るための整備を行った。

また千葉市においては、JR海浜幕張駅南口広場にエレベーター・エスカレーターを新設するとともに、会場周辺の歩道の段差解消を図るなど、関係者が連携の上、大会に向けて幕張メッセおよび周辺のさらなるバリアフリー化を進めた。

オリンピック史上初のサーフィン競技が実施された釣ヶ崎海岸は、県立九十九里自然公園の南端に位置するサーフィンの名所で、国際的な大会も多数開催されている。サーフィンの競技会場は、大部分が保安林などの県有地であり、大会実施にあたっては、千葉県が保安林の再整備をする過程で東京2020組織委員会に土地を貸し出し、また一宮町も、海岸利用者の利便性を向上させるために、トイレやシャワー、多目的スペースを備えた利便施設を整備し、大会時は東京2020組織委員会に活用された。なお、千葉県は大会後、保安林エリアで植樹を進めるとともに、自然公園エリアで駐車場等の整備を進めている。

会場周辺の施設整備としては、釣ヶ崎海岸に向かう観客の円滑な移動を確保するため、一宮町が千葉



JR海浜幕張駅南口広場に新設されたエスカレーターとエレベーター。シェルターも増設された。



幕張メッセの国際展示場展示ホール9～11とJR海浜幕張駅へ続くスカイウェイをつなぐ連絡デッキが新設された。



大会時のJR上総一ノ宮駅東口。新設された跨線橋の壁面等にはオリンピック装飾が施された。



通行止めとされたメッセ大通り。大会時は警備強化のため、幕張メッセの外周に高さ3m程度のセキュリティフェンスが設置された。



幕張メッセ会場周辺では、メッセ大通りの通行止めや大会専用レーンの設置などの交通規制が実施された。



釣ヶ崎会場最寄りに位置する県立長生特別支援学校の駐車場に並ぶ消防車両等。学校の協力により、大会時は県内消防応援部隊の待機場所となった。



大会時のJR海浜幕張駅南口広場。千葉市が幕張メッセまでのラストマイルなどにおいて東京2020大会の装飾を行った。



釣ヶ崎海岸前の県道沿いは、東京2020大会ののぼりと、地域の子どもたちが栽培したひまわりで装飾された。

県の支援や東日本旅客鉄道(株) (JR東日本) 千葉支社の協力のもと、JR上総一ノ宮駅に東口を新設し、エレベーターを設置するなど駅周辺のバリアフリー化を図った。JR東日本千葉支社においても、独自にJR上総一ノ宮駅の駅舎等の改修や西口のバリアフリー化を実施するなど、関係者が連携し、観客を受け入れるための環境整備を行った。

東京2020大会の運営は、東京2020組織委員会によって行われたが、千葉県をはじめ競技会場が所在する千葉市・一宮町や地元警察・消防などの関係機関もそれぞれの立場・役割から、大会の安全かつ円滑な運営に協力した。

安全の確保については、オリンピック・パラリンピックは世界中から注目を集める国際的な大規模スポーツイベントであるため、東京2020組織委員会が行う自主警備や安全対策に加え、千葉県警察を中心に官民が連携し、テロの未然防止に向けた訓練等の各種取り組みを実施したほか、競技会場やその周辺をはじめ、不特定多数が集まる大規模集客施設や公共交通機関等に対する警戒を強化するなどした。テロ等の不測の事態に備え、県内の両競技会場には地元消防等の協力により救急車等が配備され、釣ヶ崎海岸においては、県内18の消防(局)本部が連

携し、県内初の大規模な広域応援体制を構築するなど、安全な大会運営の実現に協力した。競技会場のほか、成田空港においても県内の11消防本部が連携し、警戒を強化した。

また、選手や大会関係者の移動により、高速道路や会場周辺の道路等で混雑が懸念されていたことから、競技会場周辺の交通規制をはじめ、東京2020組織委員会が行う各種交通対策について、千葉県および千葉県警察等が連携しながら、県内の経済団体や会場周辺の企業や住民に対して交通対策への理解・協力を呼びかけるなど、円滑な大会運営の確保に協力した。

さらに、大会期間中は、東京2020組織委員会内に大会運営情報を統括するメインオペレーションセンターが設置され、国や競技会場が所在する自治体等と幅広い情報を共有・伝達する体制が敷かれた。千葉県も東京2020組織委員会との情報連携として、千葉市や一宮町と連携しながら、災害、ライフライン、道路、公衆衛生などの都市情報と、東京2020組織委員会が有する大会運営に関わる情報の共有を図ったほか、競技会場の所有者としての危機管理を行い、競技会場が所在する自治体の立場から、安全、円滑の両側面から大会運営をサポートした。

東京2020オリンピック聖火リレー

東京2020オリンピック聖火リレーは、東京2020大会の延期を受けて、当初予定のおよそ1年後となる2021年3月25日、福島県のナショナルトレーニングセンターJヴィレッジにおいてグランドスタート。グランドスタートの第一走者は「2011FIFA女子ワールドカップ」で優勝したサッカー女子日本代表「なでしこジャパン」のメンバーが務めた。

その後、聖火リレーは、新型コロナウイルスの感染状況から、一部の自治体では公道等でのリレー中止を余儀なくされたものの、「Hope Lights Our Way / 希望の道を、つなごう。」をコンセプトに114日（移動日含め121日間）をかけて約1万人の聖火ランナーが47都道府県で聖火をつないだ。



千葉県最初の聖火ランナー
1996年アトランタオリンピックで陸上女子10000mに出場した千葉真子さん

トーチキスで次の聖火ランナーに聖火をつなぐ
右は1984年ロサンゼルスオリンピックで女子マラソンに出場した増田明美さん

千葉県のオリンピック聖火リレー

2021年5月27日、千葉県では新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、終盤に実施する首都圏の自治体では初めてオリンピック聖火リレーの聖火ランナーの走行中止を判断した。

千葉県での聖火リレーは、2021年7月1日から3日までの3日間で実施し、当初は東京湾アクアラインのパーキングエリア「海ほたる」からスタートして、競技会場の釣ヶ崎海岸や幕張メッセ周辺など県内各地を、計258人・グループが走る予定であった。

この当初予定していた聖火ランナーの走行による聖火リレーに代えて、7月1日は県立蓮沼海浜公園第2駐車場（山武市）、2日は幕張メッセ駐車場（千葉市）、3日は松戸中央公園（松戸市）の各セレブレーション会場において、無観客で点火セレモニーを実施した。

237人の聖火ランナーがそれぞれの思いを込めてつないだ聖火は、最終日の7月3日、松戸中央公園で本県でのグランドフィナーレを迎え、希望の光として茨城県へと引き継がれた。



トーチキスを盛り上げるグループランナー



千葉県最後の聖火ランナーによる聖火皿への点火

セレブレーション会場と当初予定していたオリンピック聖火リレールート

3日目

歴史・伝統文化と先進的まちづくりが融合した
活気あふれる都市をアピールするルート

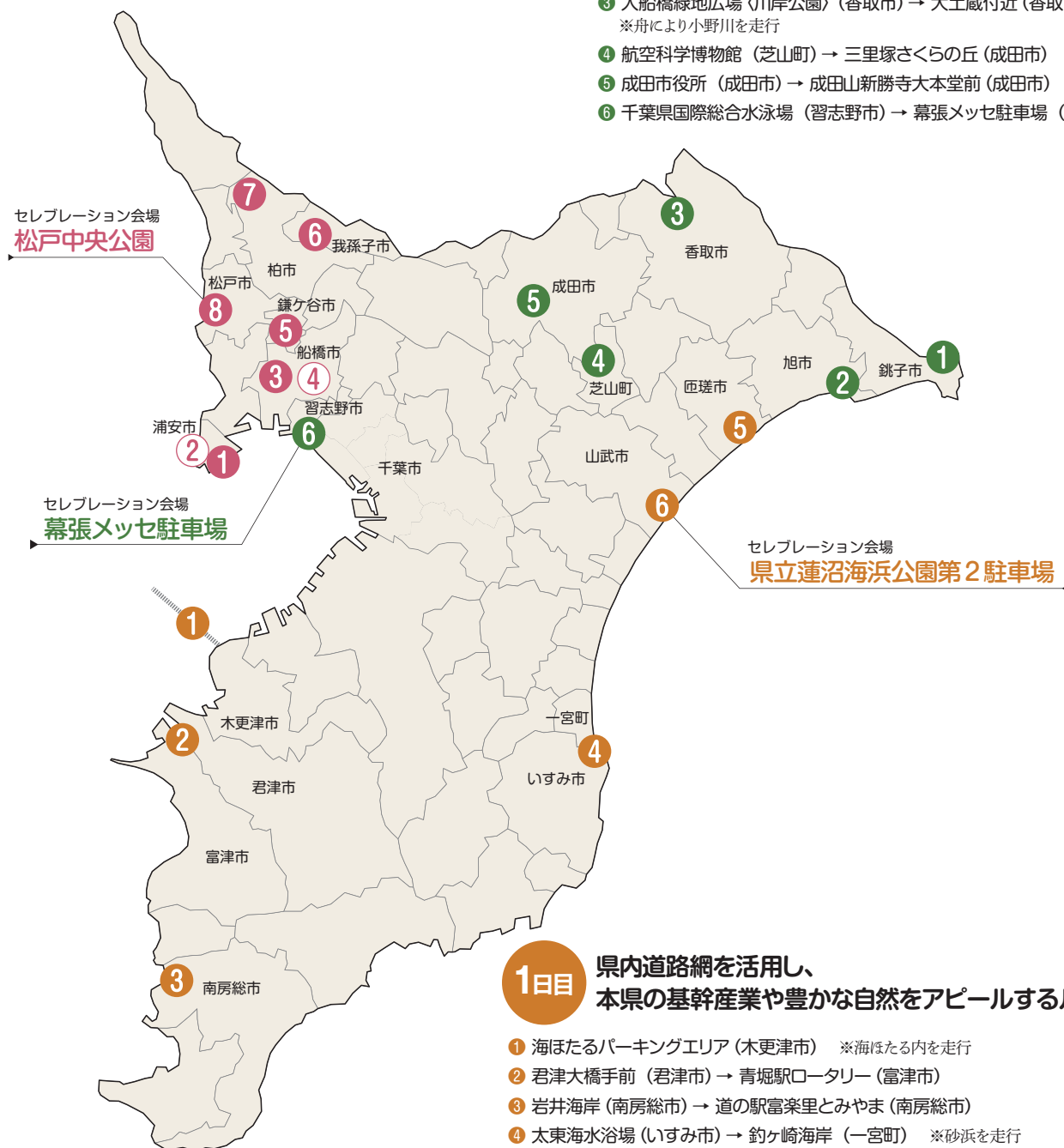
- ① シンボルロード交流広場（浦安市）→ 浦安市総合公園展望デッキ（浦安市）
- ② NTTコミュニケーションズラグビーグラウンド（アークス浦安パーク）（浦安市）
- ③ 行田運動広場（船橋市）→ 船橋市保健福祉センター前（船橋市）
- ④ NTT船橋グラウンド（船橋市）
- ⑤ 鎌ケ谷市役所（鎌ケ谷市）→ 新鎌ふれあい公園（鎌ケ谷市）
- ⑥ 道の駅しょうなん（柏市）→ 手賀沼公園（我孫子市）
- ⑦ 県立柏の葉公園（柏市） ※公園内を走行
- ⑧ 松戸市小山地区（松戸市）→ 松戸中央公園（松戸市）

※②、④は東京2020組織委員会および関係機関が実施する区間

2日目

本県の魅力あふれる歴史・伝統文化や
国際都市をアピールするルート

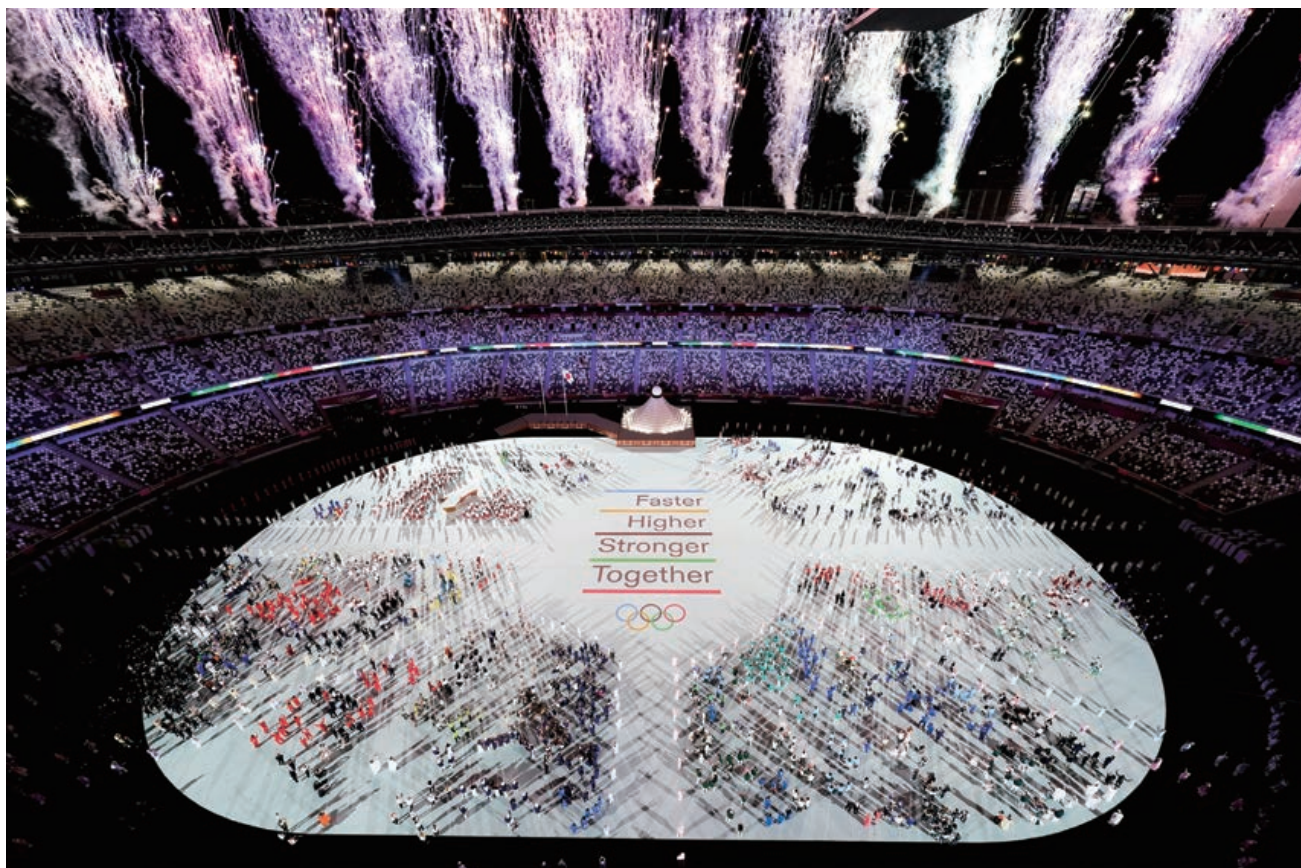
- ① 銚子ポートタワー（銚子市）→ 銚子市役所（銚子市）
- ② いいおかみなと公園（旭市）→ いいおかユートピアセンター（旭市）
- ③ 入船橋緑地広場（川岸公園）（香取市）→ 大土蔵付近（香取市）
※舟により小野川を走行
- ④ 航空科学博物館（芝山町）→ 三里塚さくらの丘（成田市）
- ⑤ 成田市役所（成田市）→ 成田山新勝寺大本堂前（成田市）
- ⑥ 千葉県国際総合水泳場（習志野市）→ 幕張メッセ駐車場（千葉市）



1日目

県内道路網を活用し、
本県の基幹産業や豊かな自然をアピールするルート

- ① 海ほたるパーキングエリア（木更津市） ※海ほたる内を走行
- ② 君津大橋手前（君津市）→ 青堀駅ロータリー（富津市）
- ③ 岩井海岸（南房総市）→ 道の駅富楽里とみやま（南房総市）
- ④ 太東海水浴場（いすみ市）→ 釣ヶ崎海岸（一宮町） ※砂浜を走行
- ⑤ 匝瑳市立野栄中学校（匝瑳市）→ 野栄ふれあい公園（匝瑳市）
- ⑥ 蓮沼交流センター（山武市）→ 県立蓮沼海浜公園第2駐車場（山武市）



オリンピック開会式

© AP / アフロ



上：日本選手団の入場行進

© 長田洋平 / アフロスポーツ

中：「動くスポーツピクトグラム」のパフォーマンス

右：東京2020オリンピックの聖火台へ点火する最終聖火ランナーの大坂なおみ選手（テニス）



© AFP / アフロ



© 新華社 / アフロ

東京2020オリンピック競技大会

2021年7月23日、新型コロナウイルスの感染拡大で史上初めて1年延期となった東京2020オリンピック競技大会が開幕した。

新設された国立競技場において、午後8時から無観客で開催された開会式には、選手約6,000人が参加した。

入場行進では、オリンピック発祥の地ギリシャを先頭に、あざやかな民族衣装を身にまとったり、国旗をデザインしたマスク、公式ブレザーを着用した

りするなど、さまざまな姿の選手団等の行進が日本の有名なゲームの音楽に合わせて行われ、日本選手団ではレスリングの須崎優衣選手（松戸市出身）とバスケットボールの八村塁選手が旗手を務めた。

「United by Emotion（感動で、私たちは一つになる）」をコンセプトとする開会式の中では、日本の伝統文化やスポーツピクトグラムを活用したパフォーマンスなどが披露された。

そして、富士山とその上に輝く太陽をモチーフにした聖火台に聖火が灯され、大会が幕を開けた。

大会には、206カ国・地域から11,417人の選手（難民選手団を含む）が参加。開催地の東京は緊急事態宣言下にあったが、大会では、選手等に対する行動制限をはじめとする新型コロナウイルス感染症対策や競技の開始時間を変更するなどの暑さ対策等を講じながら、史上最多の33競技339種目が実施された。

日本からは過去最多の583人の選手団が結成され、金27、銀14、銅17の計58個とアメリカ、中国に次ぐ数のメダルを獲得。日本勢が新競技のスケートボードやサーフィンなどで活躍したほか、千葉県ゆかりの選手も、体操競技の橋本大輝選手が個人総合と種目別鉄棒の2種目で金メダル、レスリングの須崎優衣選手と柔道のウルフアロン選手もそれぞれ金メダルに輝くなど、見事な活躍を見せた（オリンピックにおける千葉県内開催競技の様子と千葉県ゆかりの選手の活躍についてはp.36参照）。

8月8日の午後8時から国立競技場で始まった閉会式には、選手約4,500人が参加した。

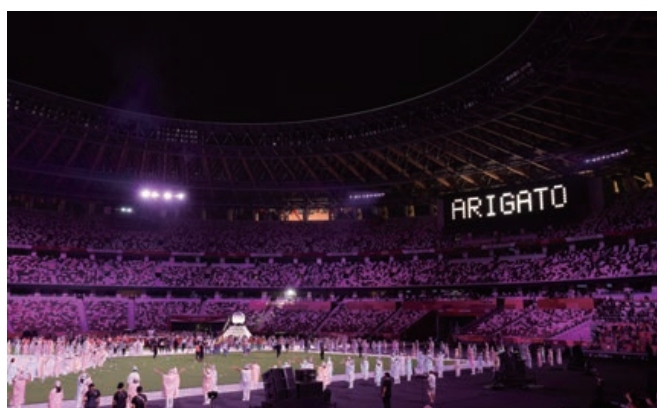
「Worlds we share（一人ひとりの持つ異なる世界を共有しあって生きている）」をコンセプトとする閉会式の中では、各地の伝統的な踊りなどのパフォーマンスのほか、選手村や競技会場で大会運営を支えたすべてのボランティアに対して感謝を伝えるセレモニーも行われた。

閉会式の終盤には、東京都の小池百合子知事から、IOCのトーマス・バハ会長を経て2024年開催都市パリのアンヌ・イダルゴ市長に五輪旗が引き継がれた。午後10時過ぎに聖火台の聖火が消されると競技場の上空に花火が打ち上がり、場内の大型スクリーンに「ARIGATO」の文字が大きく映し出され、東京2020オリンピック競技大会は17日間の日程を終えて閉幕した。



閉会式でステージを囲むように整列した選手

© ロイター／アフロ



© 青木紘二／アフロスポーツ

聖火台の火が消されると競技場の上空に花火が打ち上げられ、場内の大型スクリーンに「ARIGATO」の文字が大きく映し出された。



© ロイター／アフロ

閉会式に出席したアーティスティックスイミング日本代表「マーメイドジャパン」（4位入賞） 右から3番目が大網白里市出身の塚本真由選手

東京2020パラリンピック聖火リレー

東京2020パラリンピック聖火リレーは、2021年8月12日から16日にかけて、パラリンピック競技開催4都県（東京都・埼玉県・千葉県・静岡県）を除く43道府県で「採火」「出立式」などを開催。17日から20日には、競技開催4都県で聖火リレーも加えて実施されるなど、「聖火フェスティバル」が展開された。8月20日に迎賓館赤坂離宮（東京都港区）で「集火式」が実施され、全国各地で採火された火が一つとなって誕生した「東京2020パラリンピック聖火」が21日から24日にかけて、開催都市の東京都内で聖火ランナーによってつながれた。

東京2020パラリンピック聖火リレーは「Share

Your Light / あなたは、きっと、誰かの光だ。」のコンセプトに基づき、人と人、人と社会との、「新しいパートナーシップ」を考えるきっかけとなることを目指し、原則として「はじめて出会う3人」がチームになって行われた。

千葉県のパラリンピック聖火リレー

千葉県は、千葉市内の全5区間でパラリンピック聖火リレーを実施し、約150人が聖火をつなぐ予定であったが、2021年8月5日、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、聖火ランナーの走行を取りやめ、公道での聖火リレーに代えて無観客で点火セレモニーを実施することを発表した。

8月18日、県内の全市町村が独自の方法で採火した「市町村の火」を市原スポレクパーク（市原市）での集火式で一つに合わせて「千葉県の火」とし、千葉ポートタワー前広場（千葉市）で点火セレモニーを実施。聖火ランナーは、オリンピック聖火リレーと同様にステージ上で聖火をつなぎ、点火セレモニー終了後に行われた「出立式」において「千葉県の火」を開催都市である東京都に送り出した。



船橋市での採火



東金市での採火

集火式で「市町村の火」を一つに合わせて「千葉県の火」とした。



3人一組の聖火ランナーによる次の聖火ランナーへのトーチキス



聖火皿に「千葉県の火」を灯す千葉県最後の聖火ランナー

当初予定していたパラリンピック聖火リレールート



県立市川工業高校の生徒が デザインした「点火棒」

千葉県では、市町村が「市町村の火」をランタンに移す場面や集火式において「市町村の火」から「千葉県の火」を作る場面などで使用する点火棒のデザイン作成を、県内の高校で唯一インテリア科を有する県立市川工業高校に依頼した。

《点火棒のコンセプト》

- ◆パラリンピックのシンボルマーク（スリーアギトス）に着目して光の3原色（赤・青・緑）を使用
- ◆県の花である「菜の花」をモチーフとした風車を配置
- ◆鈴により目の不自由な方も知覚できるよう工夫





© AP / アフロ



© ロイター / アフロ

車いすテニスの国枝慎吾選手とゴルフの浦田理恵選手が主将・副主将として選手宣誓を行った。



© AP / アフロ

上：パラリンピック開会式
左：「片翼の小さな飛行機」の物語

最終聖火ランナーの車いすテニスの上地結衣選手、ボッチャの内田峻介選手、パワーリフティングの森崎可林選手の3人が共に火を灯した。



© 新華社 / アフロ

東京2020パラリンピック競技大会

オリンピックの閉幕からおよそ2週間後の2021年8月24日、東京2020パラリンピック競技大会が開幕した。同一都市で夏季大会が二度開催されるのは初めてのことであった。

午後8時から国立競技場で開催された開会式には、選手約3,400人が参加した。難民選手団を先頭に入場行進が始まり、日本選手団ではトライアスロンの谷真海選手と卓球の岩渕幸洋選手が旗手を務めた。

「WE HAVE WINGS（私たちには翼がある）」をコンセプトとする開会式の中では、「片翼の小さな飛行機」の物語の演出やダンスパフォーマンスなど

が披露された。

聖火台には、最終聖火ランナーを務めた3人の選手により聖火が灯され、大会が幕を開けた。

パラリンピックは、障害の種類や程度によってクラス分けされており、22競技539種目と種目数が多い。大会には、163カ国・地域から4,403人の選手（難

民選手団を含む）が参加し、運動機能障害（肢体不自由）、視覚障害、知的障害など、さまざまな障害のある選手が日々積み重ねてきた努力の成果を発揮した。

日本からは254人の選手団が結成され、金13、銀15、銅23の計51個と、2004年アテネ大会の52個に次ぐ数のメダルを獲得。新種目のバドミントンで里見紗李奈選手がシングルスとダブルスの2冠を達成し、車いすテニスの国枝慎吾選手がシングルスで金メダル、水泳の鈴木孝幸選手が出場全種目で金メダルを含む計5個のメダルを獲得するなど、千葉県ゆかりの選手が躍進した（パラリンピックにおける千葉県内開催競技の様子と千葉県ゆかりの選手の活躍についてはp.62参照）。

9月5日の午後8時から国立競技場で始まった閉会式には、選手約2,000人が参加した。

「Harmonious Cacophony（違いが輝く世界）」をコンセプトとする閉会式の中では、「すべての違いが輝く街」の演出などが披露されたほか、「I'mPOSSIBLEアワード」の表彰も行われ、千葉県内の2つの学校が受賞した（p.173参照）。

式典の終盤には、パラリンピックのシンボルマークである「スリーアギトス」の旗が、東京都の小池百合子知事から、IPCのパーソンズ会長を経て、2024年開催都市パリのアンヌ・イダルゴ市長へ引き継がれ、パーソンズ会長が「ありがとう、東京」と日本語でメッセージを発した。午後10時過ぎ、聖火台の聖火が消されると、競技場の上空に花火が打ち上がり、場内の大型スクリーンに「ARIGATO」、そしてフィールドに「SEE YOU IN PARIS 2024」の文字が大きく映し出され、東京2020パラリンピック競技大会は13日間の日程を終えて閉幕した。



未完成の東京の街に、旗手たちが「輝き」を象徴する鏡を貼り付けていき、最後は東京スカイツリーをデザインした模型を立ち上げ、「すべての違いが輝く街」が完成した。

提供：Joe Toth / IOC / OIS / アフロ

「I'mPOSSIBLEアワード」で表彰された「開催国最優秀賞」の木更津市立清見台小学校（写真右）と「開催国特別賞」の県立東金特別支援学校（写真中央）



© ロイター / アフロ



フィールドに映し出された「SEE YOU IN PARIS 2024」の文字

© 三船貴光 / フォート・キシモト



千葉県のアスリート強化・支援事業

千葉県は、東京2020大会に出場する千葉県ゆかりの選手を一人でも多く輩出することを目指し、2014年度から主にジュニア世代や障害者スポーツ選手を対象とした強化・支援事業を開始した。東京2020大会のオリンピック開催33競技^{▶1}、パラリンピック開催22競技^{▶2}に出場可能な年齢で有望なアスリートを指定し、外部指導者活用、スポーツ医・科学サポート、競技用具の整備、海外遠征、国際大会の視察、国内遠征、強化合宿、選手・チームの招へいなどの取り組みに対する助成を行った。

2014年度は「めざせ東京オリンピックちばジュニア強化事業」として、東京2020大会柔道男子100kg級で金メダルを獲得したウルフアロン選手、体操男子団体で銀メダルを獲得した萱和磨選手、谷川航選手などを特別強化の選手に指定した。

また、2015年度から実施した「東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業」では、パラアスリートの指定も開始。パラリンピック競技の特別強化指定選手として、東京2020大会車いすテニス男子シングルスで金メダルを獲得した国枝慎吾選手、車いすバスケットボール男子で銀メダルを獲得した香西宏昭選手、川原凜選手などを指定し、アスリートの育成や強化を図った（千葉県ゆかりの選手の競技結果については資料編p.252参照）。

- ▶1 水泳競技、アーチェリー、陸上競技、バドミントン、野球・ソフトボール、バスケットボール競技、ボクシング、カヌー、自転車競技、馬術、フェンシング、サッカー、ゴルフ、体操、ハンドボール、ホッケー、柔道、空手、近代五種、ボート、ラグビー、セーリング、射撃、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィン、卓球、テコンドー、テニス、トライアスロン、バレーボール競技、ウェイトリフティング、レスリング
- ▶2 アーチェリー、陸上競技、バドミントン、ボッチャ、カヌー、自転車競技、馬術、5人制サッカー、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、ボート、射撃、シットイングバレーボール、水泳、卓球、テコンドー、トライアスロン、車いすバスケットボール、車いすフェンシング、車いすラグビー、車いすテニス



「東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業」強化指定証授与式（2019年度）

東京2020オリンピック競技大会・ 千葉県内開催競技と 千葉県ゆかりの選手の活躍

1

千葉県内開催競技

千葉県内では、東京2020オリンピック競技大会において、7月24日から8月7日までの15日間に、幕張メッセ（千葉市）で、フェンシング、テコンドー、レスリングの3競技、釣ヶ崎海岸（一宮町）でオリンピック史上初となるサーフィンが実施された。



幕張メッセ

◎フェンシング

幕張メッセ B ホール（国際展示場 9～11ホール）
2021年7月24日（土）～8月1日（日）

◎テコンドー

幕張メッセ A ホール（国際展示場 1～8ホール）
2021年7月24日（土）～7月27日（火）

◎レスリング

幕張メッセ A ホール（国際展示場 1～8ホール）
2021年8月1日（日）～8月7日（土）

◎サーフィン

釣ヶ崎海岸サーフィンビーチ
2021年7月25日（日）～7月27日（火）



テコンドー



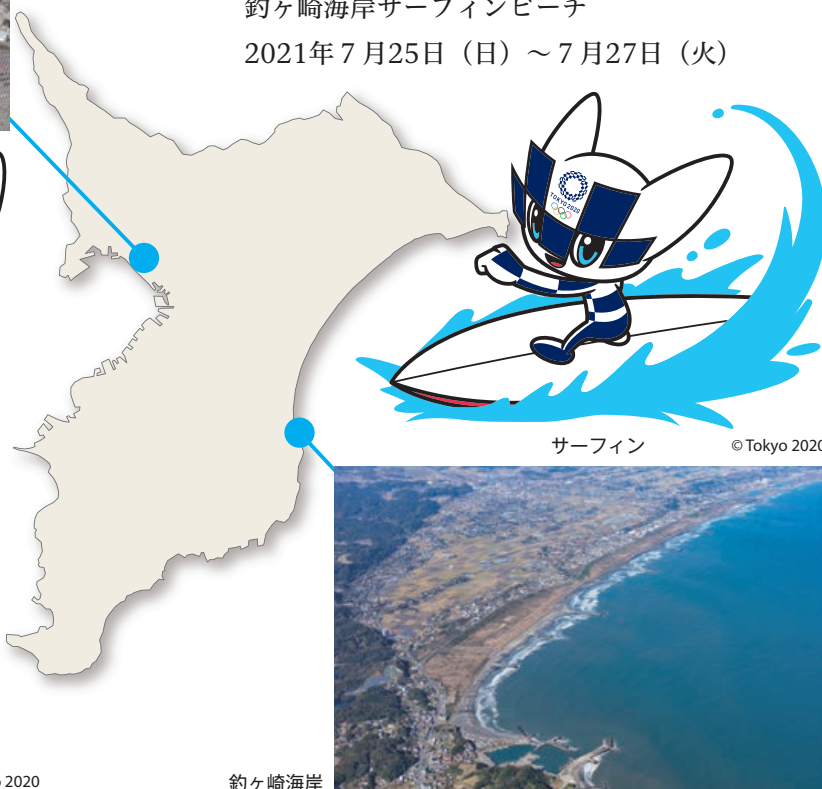
レスリング

© Tokyo 2020



フェンシング

© Tokyo 2020



サーフィン

© Tokyo 2020

釣ヶ崎海岸



男子エペ団体決勝 右が加納選手

© AFLO / アフロ



フェンシング

フェンシングは、7月24日から8月1日までの9日間、幕張メッセBホールで、フルーレ、エペ、サーブルの3種目について、男女それぞれ個人戦と団体戦が実施された。フルーレ、エペ、サーブルの大きな違いは、有効面と呼ばれるポイントを獲得できる範囲にある。フルーレは、頭部と両腕を除いた上半身が有効面であり、攻撃をするには「優先権」が必要となる。エペは全身が有効面で、フルーレと異なり「優先権」の考え方はなく、先に相手を突いた選手の得点となる。サーブルでは、フルーレやエペの「突き」に加えて、「斬り」の攻撃も有効で、頭部と両腕を含む上半身全体が有効面となる。今大会では、日本は女子エペ団体以外の全種目に出場した。

加^か納^{のうこうき}虹輝選手、見^み延^{のべかずやす}和靖選手、山^{やま}田^{だまさる}優選手、宇^う

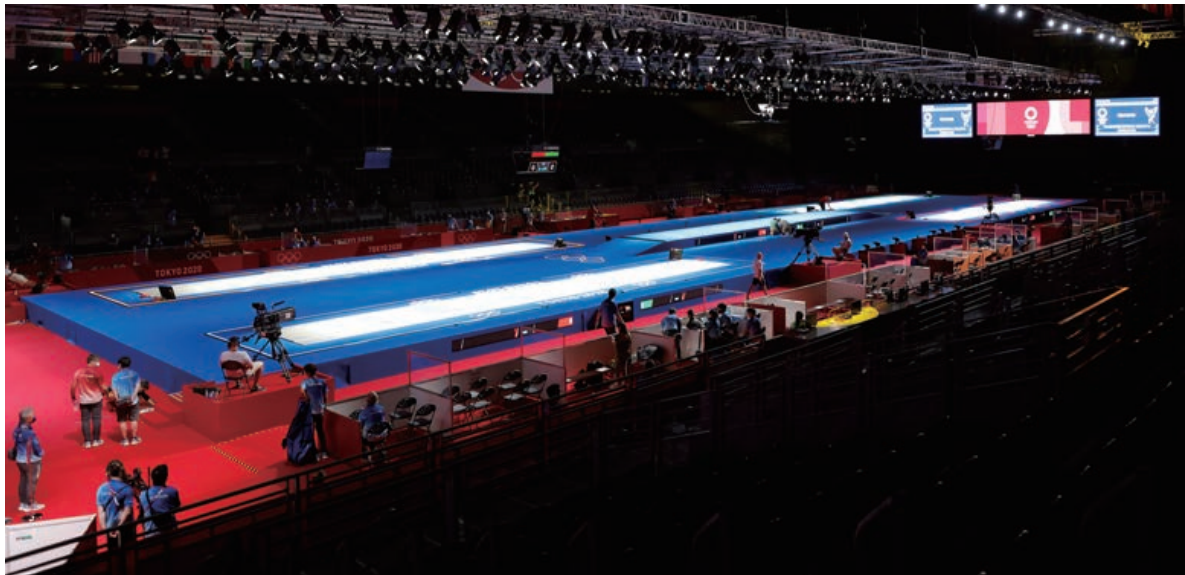
山^{やま}賢^{さとる}選手が出場した男子エペ団体では、日本は世界ランキング8位で大会に臨み、準々決勝で同1位のフランス、準決勝で同5位の韓国に勝利。決勝では、同2位のロシアオリンピック委員会を破り、日本のオリンピックフェンシング史上初めての金メダルを獲得した。

男子フルーレ団体には、敷^{しき}根^ね崇^{たかひろ}裕選手、西^{さい}藤^{とうし}俊^や哉選手、松^{まつ}山^{やま}恭^{まこと}助^{すけ}選手、永^{なが}野^の雄^{ゆう}大^{だい}選手が出場し、3位決定戦に臨んだが、世界ランキング1位のアメリカに敗れ、4位入賞となった。また、女子サーブル団体は5位、女子フルーレ団体は6位にそれぞれ入賞した。個人戦では、団体戦にも出場していた男子フルーレの敷根選手が4位入賞、男子エペの山田選手が6位入賞、女子フルーレの上^{うえ}野^の優^{ゆう}佳^か選手が6位入賞を果たした。

千葉県の学校訪問プロジェクトで講師を務めた女子エペの佐藤希望（のぞみ）選手



© AFLO / アフロ



フェンシング会場

© ロイター / AFLO



千葉県の学校訪問プロジェクトで講師を務めた男子サーブルの徳南堅太選手（左）

© ロイター / アフロ



© アフロスポーツ

男子エペ団体で金メダルを獲得した日本代表選手
左から加納選手、見延選手、宇山選手、山田選手
高校総体で団体競技があるのはフルレだけだが、世界で最も競技人口が多いのはエペ。日本フェンシング協会は、競技人口拡大のためにエペの普及と強化に努め、その成果もあり、東京2020大会で史上初の快挙を成し遂げた。



3位決定戦で戦う女子49kg級の山田選手（左）

© AP / アフロ



テコンドー

テコンドーは、7月24日から7月27日までの4日間、幕張メッセAホールで、男女それぞれ4階級、計8種目が実施された。「足のボクシング」とも呼ばれるテコンドーは、胴体と頭部への蹴り、胴体へのパンチが得点になり、ノックアウトまたは合計得点で競う。パンチによる得点は1点だが、蹴りは種類に応じて2点から5点と得点が高くなるため、選手は蹴りを中心に攻撃を組み立てる。

女子49kg級には2018年ジャカルタ・アジア大会銅メダルの山田美諭選手が登場した。山田選手は父の啓悟さんの道場で3歳から空手を始めたが、兄の勇磨さん（元テコンドー日本代表）の影響で、中学1年生でテコンドーに転向。千葉県の記事取材に「華麗な足技はもちろんですが、試合展開が早く観ている方も引き込まれるような競技だと思います」とテ

コンドーの魅力について語った。

山田選手は1回戦終盤に中段蹴りを入れて台湾の選手を逆転し、準々決勝に進出。準々決勝では2017年、2019年の世界選手権46kg級覇者であるシム・ジェヨン選手（韓国）に快勝したが、準決勝で世界ランキング1位のパニバック・ウォンパッタナキット選手（タイ）に敗れた。

続く3位決定戦では2016年のリオデジャネイロ大会の銀メダリスト、ティヤナ・ボグダノヴィッチ選手（セルビア）と対戦。惜しくもメダル獲得はならず、5位入賞となった。

男子68kg級の鈴木リカルド選手、男子58kg級の鈴木セルヒオ選手、女子57kg級の濱田真由選手の3選手は残念ながら初戦敗退となった。



男子68kg級の1回戦で戦う
鈴木リカルド選手

© AP / アフロ

男子58kg級の1回戦で戦う
鈴木セルヒオ選手



© 西村尚己 / アフロスポーツ



女子57kg級の1回戦で戦う濱田選手

© 森田直樹 / アフロスポーツ



テコンドー会場

© 森田直樹 / アフロスポーツ



決勝で勝利し金メダルを獲得した須崎選手

©フォート・キシモト



レスリング

レスリングは、8月1日から8月7日までの7日間、幕張メッセAホールで、男女フリースタイル各6階級と男子グレコローマンスタイル6階級の計18階級が行われた。レスリングの試合は、直径9メートルの円内で行われ、試合時間は1ピリオド3分間で2ピリオドを実施する。フリースタイルでは全身、グレコローマンスタイルでは上半身だけを使って戦い、技を決めるごとに得点が与えられる。

女子62kg級決勝では、川井友香子選手が2019年世界選手権金メダリストのアイスルー・ティニベコワ選手（キルギス）を破り、金メダルを獲得。翌日には2016年リオデジャネイロ大会金メダリストの姉、川井梨紗子選手が女子57kg級でオリンピック2連覇を飾った。同じ夏大会における姉妹での金メダル獲得は日本初であった。

女子50kg級には松戸市出身の須崎優衣選手が登

場。決勝では、開始からわずかに約1分30秒で一気にポイントを重ね、10対0でテクニカルフォール^{▶1}勝ち。全試合で対戦相手に1ポイントも許さず、すべてテクニカルフォール勝ちという圧倒的な強さを見せ、オリンピック女子個人種目で千葉県出身者初の金メダリストとなった。

さらに、女子53kg級に出場した向田真優選手、男子フリースタイル65kg級に出場した乙黒拓斗選手も金メダルを獲得した。

なお、女子76kg級には松戸市在住の皆川博恵選手が出場したが、残念ながら3位決定戦で敗れ、5位入賞となった。

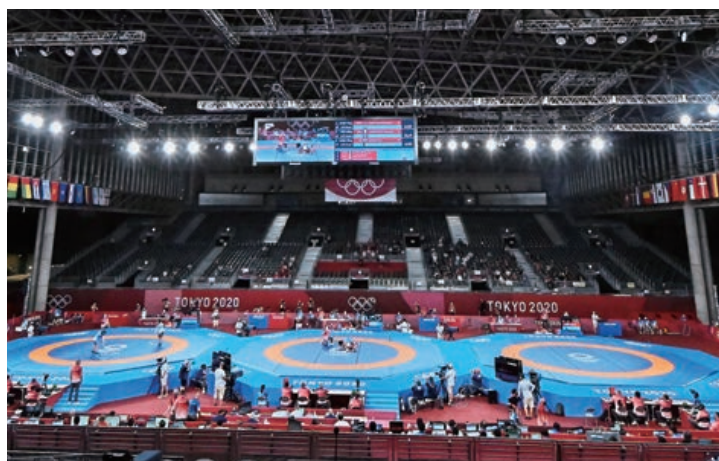
日本は、男子が金、銀、銅を1つずつ、女子が金4つと計7つのメダルを獲得した。

▶1 グレコローマンスタイルでは8点差、フリースタイルは10点差がついた場合、試合終了（テクニカルフォール）となる。



姉妹で金メダルを獲得した
川井友香子（左）・梨紗子（右）姉妹

© アフロスポーツ



レスリング会場

© UPI / アフロ



金メダルを獲得した向田選手

© アフロ



女子76kg級で金メダルを獲得した
ドイツの選手と準決勝で対戦する皆川選手

© USA TODAY Sports / ロイター / アフロ



男子65kg級で金メダルを
獲得した乙黒選手

© Abaca / アフロ



男子準々決勝での大原選手の演技

提供：共同通信社



サーフィン

7月25日、東京2020大会で初めてオリンピック競技として採用されたサーフィン(ショートボード)^{▶1}が、一宮町の釣ヶ崎海岸サーフィンビーチで開幕した。記念すべきファーストヒートに地元一宮町出身の大原洋人選手^{おおはらひろと}が登場。大原選手がこの組で2位になるなど、日本代表の選手4人はそろって2日目の第3ラウンドに進出した。翌26日、大原選手は第3ラウンド終了間際にエアリバース^{まへだ}^{▶2}で逆転。前田マヒナ選手はこのラウンドで敗退し、9位となった。

7月27日には、台風8号の影響により翌28日に予定されていた3位決定戦と決勝が前倒しされ、準々決勝・準決勝と合わせて1日で実施された。大原選手は準々決勝で2019年の世界チャンピオンであるイタロ・フェヘイラ選手(ブラジル)に惜敗し、5位入賞となった。一方、五十嵐カノア選手^{いがらし}は、準決勝で世界ランキング1位のガブリエウ・メジナ選

手(ブラジル)に逆転勝ちした。決勝では不規則な波を乗り越えたフェヘイラ選手に敗れたが、オリンピックでのサーフィン初の銀メダリストとなった。また、女子の都筑有夢路選手^{つづきあむろ}は準決勝でカリッサ・ムーア選手(アメリカ)に敗れたが、3位決定戦を制し、銅メダルを獲得。男女でメダルを獲得したのは日本だけとなった。

釣ヶ崎海岸は、五十嵐選手の父・勉さんがサーフィンに通ったゆかりの場所で、アメリカで暮らす五十嵐選手も日本に来たときはこの海岸で波に乗っていたという。神奈川県藤沢市出身の都筑選手はより良い練習環境を求め、釣ヶ崎海岸の近くに移り住み、2019年WSL QS6000一宮千葉オープンで優勝した経験を持つ。

▶1 サーフボードには6フィート(約183センチ)前後のショートボード、長さ9フィート(約274センチ)以上のロングボードなどがある。

▶2 波から飛び出し一回転する大技



男子準決勝での五十嵐
選手の演技
決勝に進出し、銀メダ
ルを獲得

©ロイター／アフロ



女子準々決勝での都筑選手の演技
3位決定戦で勝利し、銅メダルを獲得

©KONDO／アフロ



女子第1ラウンドでの前田選手の演技

©ロイター／アフロ



Photo by Tokyo 2020/Uta Mukuo

サーフィン会場



©KONDO／アフロ

東京2020オリンピック競技大会には、千葉県にゆかりのある数多くの選手が出場し、メダル獲得や入賞を果たすなど、素晴らしい活躍を見せた（千葉県ゆかりの選手の競技結果については資料編p.252参照）。

体操競技——かやかず ま萱和磨選手、たにがわたる谷川航選手、はしもとだい き橋本大輝選手

体操競技の男子団体には、今大会がオリンピック初出場となる萱和磨選手、谷川航選手、橋本大輝選手、きたぞのたける北園丈琉選手が出場し、予選を1位で通過。決勝ではロシアオリンピック委員会の262.500に次ぐ262.397と0.103の僅差で惜敗したが、銀メダルを獲得した。

また、男子個人総合では、橋本選手が同種目最年少の金メダリストとなり、同種目ではロンドン大会（2012年）、リオデジャネイロ大会（2016年）の2大会で金メダルを獲得した内村航平選手と合わせ日

本人選手の3連覇となった。さらに種目別では、あん馬で萱選手が銅メダルを獲得した。あん馬での表彰台は、2004年アテネ大会以来4大会ぶりであった。また、鉄棒には橋本選手が出場。決勝出場選手中ただ一人15点台をマークし、男子個人総合に続く2つ目の金メダルを獲得した。鉄棒での金メダル獲得は、ロサンゼルス大会（1984年）以来、37年ぶりの快挙となった。

船橋市出身の萱選手は、小学校時代に体操を始め、市立習志野高校を卒業後、順天堂大学に進み、同じく船橋市出身の谷川選手も小学校時代に本格的に体操を始め、市立船橋高校を経て順天堂大学に進んだ。また橋本選手は、下総町（現在の成田市）出身で、小学校時代に体操を始め、市立船橋高校を経て順天堂大学に進んでいる。なお、男子団体に出場した日本代表4選手の平均年齢は21.5歳で、決勝に進んだ8カ国の中で最も若かった。



男子個人総合で金メダルを獲得した橋本選手

©ロイター/アフロ



銀メダルを獲得した体操競技男子団体の表彰式
左から橋本選手、萱選手、北園選手、谷川選手

©Agencia EFE /アフロ



あん馬の種目別決勝で銅メダルを獲得した萱選手

提供：共同通信社



金メダルを獲得したソフトボール日本代表 前列右から1番目が市口選手、2列目右から3番目が峰選手

©YUTAKA /アフロスポーツ

ソフトボール——^{いちぐち ゆ か}市口侑果選手、^{みねゆき よ}峰幸代選手

7月21日に全競技に先駆けて、3大会ぶりにオリンピック競技として採用されたソフトボールが開幕した。予選リーグを2位で通過した日本は決勝でアメリカを破り、金メダルに輝いた。

県にゆかりのある選手では、木更津総合高校出身の市口侑果選手（内野手）と峰幸代選手（捕手）が代表メンバー入りを果たした。市口選手は決勝で二塁手として出場し、峰選手は決勝での出場はなかつ

たが、一次リーグで活躍し、他の試合ではメンバーにアドバイスするなどチームを支えた。

ソフトボールは1996年アトランタ大会で初めて正式種目に採用され、日本は2000年シドニー大会の銀、2004年アテネ大会の銅、2008年北京大会の金に続き、ソフトボールが実施された4大会連続となるメダルを手にした。



©AFLO / アフロ

準決勝に臨むサッカー男子日本代表
前列右から2番目が旗手選手、後列左から
2番目が酒井選手、5番目が中山選手



チリ戦でシュートを打つ菅澤選手（中央9番）

©フォート・キシモト

サッカー男子——^{さかい ひろ き}酒井宏樹選手、^{なかやまゆう た}中山雄太選手、^{はたて うれ お}旗手怜央選手

7月22日に開幕したサッカー男子では、日本は全勝でグループリーグを通過し、準々決勝ではPK戦の末ニュージーランドに勝利。準決勝でスペイン、3位決定戦でメキシコに敗れ、53年ぶりのメダル獲得はかなわなかったが、4位入賞を果たした。

県ゆかりの選手としては、酒井宏樹選手（柏市出身）、中山雄太選手（県立柏南高校卒業）、旗手怜央選手（順天堂大学卒業）が代表入り。酒井選手と中山選手はディフェンス陣の一角として準決勝までの失点を合計2点に抑え、旗手選手はグループリーグのフランス戦で1アシストを決めるなど、チームに貢献した。

サッカー女子——^{すがさわ ゆ い か}菅澤優衣香選手、^{ひらお ち か}平尾知佳選手

サッカー女子では、県にゆかりのある菅澤優衣香選手（千葉市出身）と平尾知佳選手（松戸市出身）が日本代表に選出された。菅澤選手は、兄の影響で



ウエイトリフティング女子59kg級で ©長瀬友哉 / フォート・キシモト
銅メダルを獲得した安藤選手

サッカーを始め、今大会でオリンピック初出場。高身長を生かしたポストプレーやヘディングシュートを強みとし、グループリーグではカナダ戦とチリ戦に出場した。平尾選手は、今大会での出場はなかったが、バックアップメンバーとしてチームを支えた。

チームは、準々決勝で強豪のスウェーデンに敗れ、8位入賞となった。

ウエイトリフティング——^{あんどう み き こ}安藤美希子選手

ウエイトリフティング女子59kg級では、2大会連続でオリンピック代表に選ばれた安藤美希子選手が銅メダルを獲得した。本番1カ月前に右膝にけがを負い、練習を再開できたのは大会1週間前だったが、けがを乗り越えての表彰台となった。安藤選手は白井市出身で、同市初のオリンピックとして2018年度から「しろいふるさと大使」を務めており、東京2020大会でのメダル獲得により同市初のオリンピックメダリストとなった。



3x3バスケットボール男子準々決勝でプレーする保岡選手

© 新華社／アフロ



柔道男子100kg級で戦うウルフ選手

© 築田純／アフロ

3x3バスケットボール——やすおかりゅう と保岡 龍斗選手

今大会から正式種目に追加された3x3バスケットボール男子には、保岡龍斗選手（日本体育大学柏高校卒業）が代表入りした。日本は6位で予選リーグを突破して準々決勝に臨んだが、ラトビアに敗れ6位入賞となった。保岡選手は、2019年に初めて日本代表に選ばれ、今大会では、日本が準々決勝進出を決めた中国戦において計8得点を挙げるなど、チームの勝利に貢献した。

柔道——ウルフアロン選手

柔道では男子100kg級において、東海大学付属浦安高校出身で、了徳寺大学（浦安市）職員のウルフアロン選手がオリンピック初出場で金メダルを獲得した。この階級を制したのは、いのうえこうせい井上康生日本代表監督（東京2020大会当時）以来5大会ぶりだった。今大会での金メダル獲得により、ウルフ選手は史上



トランポリン女子の決勝で演技する宇山選手

© 青山紘二／アフロスポーツ

8人目となるオリンピック、世界選手権、全日本選手権の3冠を達成した。また、今大会から新種目として採用された柔道混合団体にも出場した。混合団体は、男女それぞれ3人ずつの6人制で行われ、同じ階級同士で戦い、先に4勝した国が勝者となる。日本は決勝でフランスに敗れたものの、銀メダルを獲得した。

トランポリン——うやまめぐ宇山芽紅選手

印西市出身の宇山芽紅選手がトランポリン女子に出場し、日本女子で過去最高の成績となる5位入賞を果たした。宇山選手は、小学4年生でトランポリンを始め、ジュニア世代から日本代表として国際舞台に出場しており、2021年6月まで行われていたワールドカップ6大会の合計成績からオリンピック初出場を決めた。現在は、佐倉市を拠点とするスポーツクラブでトランポリンのコーチを務めている。



ボクシング女子フライ級で銅メダルを獲得した並木選手 © 西田尚己／アフロススポーツ



3000m障害で先頭争いをする三浦選手

© YUTAKA / アフロススポーツ



人馬一体となり障害を越える福島選手

© ロイター／アフロ

ボクシング——^{なみきつきみ}並木月海選手

ボクシングでは、女子フライ級に成田市出身の並木月海選手が出場した。ボクシング女子は、ロンドン大会からオリンピック正式種目として採用されていたが、日本は今大会が初出場となった。並木選手は、1、2回戦で圧勝し、準々決勝では2016年のリオデジャネイロ大会銅メダリストのイングリット・バレンシア選手（コロンビア）にポイントで勝利。準決勝でブルガリアの選手に敗れたが、見事に銅メダルを獲得した。並木選手は、幼いころから空手やキックボクシングに取り組み、中学2年生でボクシングを始め、オリンピック初出場でのメダル獲得を成し遂げた。

陸上競技——^{みうらりゅうじ}三浦龍司選手

陸上競技男子3000m障害には、印西市を拠点に活動する順天堂大学陸上競技部の三浦龍司選手が出場した。三浦選手は、3000m障害の予選で自身が持つ記録を更新する日本新記録で走り、全体2位で

決勝に進出。日本人として1972年のミュンヘン大会以来49年ぶりに臨んだ決勝では、一時は先頭に立つなど積極的なレースを展開し、同種目日本人初となる7位入賞を果たした。三浦選手は2021年6月に行われた日本選手権のレース終盤で転倒しながらも日本新記録で初優勝し、初のオリンピック代表入りを果たした。

馬術——^{ふくしまだいすけ}福島大輔選手

馬術の障害飛越決勝では、佐倉市出身で、千葉市立千城台南中学校、敬愛学園高校の卒業生でもある福島大輔選手が優勝決定戦である「ジャンプオフ」を経て6位に入賞した。オリンピックで実施される馬術には、総合、馬場、障害の3種類があり、福島選手が出場した障害馬術では、さまざまな障害物を規定時間内に次々と飛び越え、障害物の落下や障害物を避けるなどの減点が少ない馬が上位となる。福島選手は10歳で父が経営する佐倉ライディングクラブで乗馬と競走馬の育成を始め、高校1年生から



金メダルを獲得した野球日本代表 前列左から2番目が近藤選手

Photo by Tokyo 2020 / Ken Ishii

3年生まで国民体育大会を3連覇した。高校2年生のときには全日本大障害選手権の全種目（予選2種目、決勝）を完全優勝し、同選手権の優勝最年少記録（17歳）を保持している。

ゴルフ——^{いなみ もね}稲見萌寧選手

ゴルフ女子最終日は、台風10号接近の影響を受けて、予定より1時間早い午前6時30分にプレーが開始された。この日、首位から5打差の3位タイでスタートした稲見萌寧選手は、2位タイでホールアウト。リディア・コー選手（ニュージーランド）とのプレーオフを制して、日本ゴルフ界初のメダル



ゴルフ女子で銀メダルを獲得した稲見選手

© 青山紘二／アフロスポーツ

となる銀メダルを獲得した。

四街道市在住の稲見選手は、小学4年生でゴルフを始め、当時から千葉市内のゴルフクラブを練習拠点としている。2016年にナショナルチーム入りし、2019年にはツアー初優勝、2020～2021年シーズンの国内ツアーではオリンピック開催までに6勝しており、今大会が初めてのオリンピック出場となった。

野球——^{こんどう けんすけ}近藤健介選手

3大会ぶりに正式競技として復活した野球の日本代表には、千葉市出身の近藤健介選手が外野手として選出された。

代表チームは、出場する6カ国を2グループに分けて行ったオープニングラウンド（予選リーグ）で、ドミニカ共和国、メキシコと対戦し、両国に勝利。決勝トーナメントでは、初戦でアメリカ、準決勝で韓国、決勝で再度対戦したアメリカに勝利し、予選リーグから全勝で、オリンピックの正式競技となつてからは初の金メダル^{▶1}を獲得した。

▶1 公開競技（オリンピックにおいて試験的に実施する競技。正式競技とは区別される）として行われた1984年のロサンゼルス大会で、金メダルを獲得している。



アーティスティックスイミング日本代表のフリールーティン © AP / アフロ
の演技 右から4番目が塚本選手



空手の女子組手61kg超級予選で戦う植草選手 © 森田直樹 / アフロスポーツ

近藤選手は、捕手経験もある好打者で、ドミニカ共和国戦では9回に代打で安打を放ち、その後の逆転勝ちにつなげた。また、準決勝の韓国戦ではスターティングメンバーとして出場し、日本の優勝に貢献した。

アーティスティックスイミング——^{つかもと まゆ}塚本真由選手

大網白里市出身の塚本真由選手がアーティスティックスイミングの「チーム」に出場した。

今大会では、8人で演技する「チーム」と2人で演技する「デュエット」の種目があり、塚本選手が出場した「チーム」では、予選を実施せず、決まった8つの動きを取り入れるテクニカルルーティンと自由に演技するフリールーティンの合計点で競う。

日本は、テクニカルルーティンでは「空手」、フリールーティンでは「祭」をテーマに力強い演技を見せ、4位に入賞した。

塚本選手は、今大会で初のオリンピック出場を果たし、チームの演技では、高身長を生かしてジャンパーを下から高く飛ばす役割を務めるなど、勢いのあるリフトを担当した。



提供：共同通信社

銀メダルを獲得したバスケットボール女子代表
前列左から2番目が三好選手、3番目が宮崎選手、後列左から2番目が宮澤選手、後列右から2番目が林選手、3番目が赤穂選手

空手——^{うえくさ あゆみ}植草歩選手

今大会から正式競技となった空手の女子組手61kg超級には、八街市出身の植草歩選手が出場し、7位に入賞した。

組手は、「突き」「打ち」「蹴り」を繰り返し、技に応じたポイントによって勝敗が決まる。

植草選手は、スピードのある「突き」を持ち味としており、これまでに2016年の世界選手権で優勝、体重無差別の全日本選手権では女子初となる4連覇を果たすなど、多くの大会で活躍してきた。

バスケットボール——^{みよし なほ}三好南穂選手、^{はやし さき}林咲希選手、^{みやざき さおり}宮崎早織選手、^{みやざわ ゆき}宮澤夕貴選手、^{あかほ}赤穂ひまわり選手

バスケットボール女子日本代表には、市川市出身の三好南穂選手、柏市をホームタウンとして活動するバスケットボールチームに所属している林咲希選手と宮崎早織選手、昭和学院高校（市川市）の卒業生である赤穂ひまわり選手が選出された。同じく日本代表に選出された宮澤夕貴選手は、2021年5月まで、林選手、宮崎選手と同じチームに所属しており、県ゆかりの選手が5人代表入りを果たした。

予選リーグ初戦で、世界ランキング10位の日本は同5位のフランスに勝利。同1位のアメリカには



レスリング女子50kg級の表彰式で金メダルを手にする須崎選手 © エンリコ / アフロスポーツ



レスリング女子76kg級 3位決定戦に臨む皆川選手 © エンリコ / アフロスポーツ

敗れたが、2勝1敗で決勝トーナメントに進んだ。準々決勝の対戦相手は、世界ランキング6位のベルギーで、一時は大差をつけられたが、最終第4クォーターの残り約15秒で、林選手が3ポイントシュートを決めて劇的な勝利を飾った。準決勝では、フランスとの対戦で再び勝利。決勝では大会7連覇を目指すアメリカに敗れたが、男女通じてオリンピック初となる歴史的な銀メダル獲得を果たした。三好選手、宮澤選手は、2大会連続のオリンピック出場、林選手、宮崎選手、赤穂選手は今大会がオリンピック初出場となった。

レスリング女子50kg級——須崎優衣選手

今大会がオリンピック初出場となる須崎優衣選手（松戸市出身）は、女子50kg級に出場。全試合で対戦相手に圧勝し、金メダルを獲得した。開会式では、八村塁選手とともに日本選手団の旗手を務めた。

須崎選手は、小学1年生から父親がコーチを務めるクラブでレスリングを始め、高校3年生で出場した2017年の世界選手権では、2002年の伊調馨選手以来となる高校生での世界チャンピオンとなった。



サーフィン男子第3ラウンドでターンを決める大原選手 提供：共同通信社

2019年世界選手権の出場をかけた試合に敗れ、一時は今大会への出場が絶望的になったものの、2021年4月のアジア予選で代表の座を勝ち取った。

レスリング女子76kg級——皆川博恵選手

レスリング女子の最重量級である76kg級に松戸市在住の皆川博恵選手が出場。表彰台には届かなかったものの、5位入賞となった。

皆川選手は、この階級では小柄な選手だが、動き回って正面や横から相手を崩してタックルポイントを重ねるスタイルを武器にしている。

膝のけがでリオデジャネイロ大会への出場を逃した後、一時は引退することも考えたが、2017年、2018年の世界選手権で銅メダル、2019年には銀メダルを獲得し、オリンピック出場権を獲得した。

サーフィン——大原洋人選手

今大会から正式競技となったサーフィン男子には、競技会場となった釣ヶ崎海岸がある一宮町出身の大原洋人選手が出場した。第3ラウンドでは終了間際に逆転。準々決勝では金メダルを獲得したブラジルの選手に敗れたものの、5位入賞を果たした。

大原選手は、8歳のころに父親の影響でサーフィンを始め、釣ヶ崎海岸で初めて波に乗った。18歳で出場したUSオープンでは、サーフィンの本場アメリカで、日本人として初優勝。また、2021年の世界選手権で4位に入り、今大会の代表入りを決めた。



interview

レスリング女子50kg級決勝で戦う須崎選手

© エンリコ/アフロスポーツ

レスリング ^{す さ き ゆ い} 須崎優衣選手

諦めなければ夢はかなう

——東京2020大会を振り返り、須崎選手にとって、どのような大会でしたか。

須崎選手 東京でのオリンピック開催が決まってからずっと「東京オリンピックに出場して金メダルを獲得する！」と思い続けてきた夢の舞台であり、特別な大会でした。また、レスリング競技は地元の千葉県で実施されました。地元開催でのオリンピックで金メダルを獲得できたことで、私にとってさらに特別な大会になりました。

——開会式では日本選手団の旗手も務められました。どのような気持ちで大会に臨まれましたか。

須崎選手 初めお話をいただいたときは、私がそんな大役をやらせていただいて良いのかと心配にもなりましたが、せっかく選んでいただけたのだから自分にできることを全うしよう！という気持ち

で臨みました。また、日本選手団が良いスタートを切れるよう旗手として元気良く力強く行進しようと思いました。

——レスリングを始めたきっかけやオリンピックを目指そうと思ったきっかけを教えてください。

須崎選手 父がレスリングをやっていたということもあって、テレビでレスリングの試合を見ていて面白そう、私もやってみたい！と思うようになり、松戸ジュニアレスリングクラブに連れて行ってもらいました。

子どものころからレスリングが大好きで、水泳やピアノなども習っていましたが、習い事の中で一番レスリングが楽しかったです。小学5年生のころに、ナショナルトレーニングセンター（NTC）で行われるエリート合宿に参加しました。エリー

ト合宿には全国大会で優勝した選手だけが参加でき、NTCを訪れたときに充実した施設に衝撃を受け、そこから、オリンピックで金メダルを取れる選手になりたい！というのが私の夢になりました。

——左肘の靱帯断裂という大けがをされていますが、どのように乗り越えられましたか。

須崎選手 大けがは初めての経験でした。天皇杯前ということで大事なオリンピック選考会が始まる時期だったので、けがをした瞬間はもう東京オリンピックへ間に合わないのではないかと思います。大けがをして苦しい日々が続きましたが、周りの方々のたくさんの励ましや支えのおかげではい上がることができました。絶対に東京オリンピックに出場して金メダルを獲得して支えてくれた方々に恩返ししたいと改めて強く思い、それも自分の中の大きな原動力となりました。

——日ごろの練習や生活で、心がけていることはありますか。

須崎選手 「挑戦」という言葉を私は大切にしています。

——レスリングの魅力や難しさについて教えてください。

須崎選手 レスリングの魅力はお互い駆け引きの中で技を掛け合い、攻防をしていくことだと思います。また、気持ちが全面的にプレースタイルに表れるので、そういったところもレスリングの魅力だと思います。相手がいる競技なので、その中で自分が練習してきたことや自分の強みを出し切ることが難しいですが、そこが楽しさでもあります。——今後の目標をお願いします。

須崎選手 次の目標は、パリオリンピックに出場して、絶対に金メダルを獲得し、オリンピック二



コーチと監督の手を取って喜びを表す須崎選手（中央）

© エンリコ/アフロスポーツ



日本選手団の入場行進で旗手として国旗を持つ須崎選手

Photo by Tokyo 2020 / Shugo Takemi

連覇を果たすことです。そのためにこれから出場する全日本選手権、世界選手権で絶対に優勝したいと思っています。一つひとつ自分が掲げた目標を達成していき、最大の目標を達成できるよう頑張ります。

——最後に、未来のアスリート、子どもたちへメッセージをお願いします。

須崎選手 私は15年間レスリングをやってきて今大会でようやく夢をかなえることができました。夢をかなえて学んだことは二つあります。

一つ目は夢を言葉にすることです。私はずっと「東京オリンピックに出場して金メダルを獲得することが私の夢です」と宣言していました。そうすることによって、自分の言葉で言ったからには絶対かなえるぞ！という思いにつながり、自分自身を奮い立たせることができました。また、夢を言葉にすることで周りの方々も自然と応援してくれるようになり、私の大きな力になってくれました。けがや敗戦で、苦しかったときもありましたが、そのたびに周りの方々が励まし、応援してくれたおかげで今の私があります。

二つ目は絶対に諦めないことです。私は一度、世界選手権の出場をかけたプレーオフで負け、オリンピック出場の可能性が絶望的になりましたが、東京オリンピックで金メダルという夢を諦めたくないと思い、すぐに練習を再開しました。そうした中で、再びチャンスが巡ってきて国内予選においてプレーオフで負けた相手にリベンジし、オリンピックの代表権を獲得することができました。東京オリンピックは私にとって「諦めなければ夢はかなう」ということを体感させてくれる大会になりました。



interview

サーフィン男子で5位入賞した大原選手

© AP / アフロ

サーフィン 大原洋人選手

目標を見失ったときは、 初心に戻る

——大原選手にとってのサーフィンの魅力を教えてください。

大原選手 自然相手のスポーツなので、同じ波は二度と来ません。波のコンディションは毎日違います。ボードに立って、進んでいく感覚が毎日新鮮で、毎日違った練習ができたから続けられたのだと思います。いつ何が起きるかわからないことにわくわくする気持ちがサーフィンの良さであり、魅力です。

——サーフィンの難しさはどのようなところですか。

大原選手 波のコンディションがいつも違うことです。試合までの課題は明確なのに、練習になる波が来ない日が続く。そんなとき上達することの

難しさを感じます。これは当然のことなので克服していくしかない。他には、試合中に自分で波を探すこと。試合会場によって異なるので、その時々への対応が問われます。

——これまでどのような困難にぶつかり、それを乗り越えるためにどうされましたか。

大原選手 15歳のとき世界戦の直前に病気になりました。出られなくなった試合で同世代の日本選手が活躍する姿を見て、自分だけ置いていかれているような感覚に陥ったのですが、カリフォルニアに拠点を移し、有望な選手の登竜門である大会に参加してから、サーフィン人生が一変しました。この大会は1年間に10戦あるのですが、海外での試合を重ねることでアウェー感がなくなっ

て自信を持てるようになり、他の日本人選手との差も巻き返すことができました。

——地元である釣ヶ崎海岸で、オリンピック史上初となるサーフィン競技が開催されましたが、どのような心境で大会に臨まれましたか。

大原選手 代表になれなかった日本人サーファーの分まで頑張ろうと思いました。

——未来の子どもたちにとって、釣ヶ崎海岸はどのような海であってほしいと思いますか。

大原選手 環境問題として話題になっていることはいくつもありますが、何も手をつけずにいると、10年後、20年後に海に来る人が減ってしまうという危機感に加え、サーフィンができなくなることも危惧されます。具体的に解決するのは難しいのですが、最低限、現状を維持していきたい。自分の言動も含めて、未来の子どもたちのために海を大切にする姿勢を持ち続けたいと思っています。——オリンピックの開催をきっかけに、サーフィンの競技人口が増えていくことが期待されています。サーフィンの普及に向けて、大原選手がこれまで関わってきたことやこれから取り組みたいことを教えてください。

大原選手 サーフィンを始める子どもたちのために、サーフィンもメジャースポーツになってほしいと思っています。サーフィンで豊かな生活を送ってほしい。他のプロスポーツ選手と同じようになりたい。自分としてはできる限り結果を残して、サーフィン界の理想の未来につなげていきたい。同じような考えを持っているサーファーは多いので、サーフィンの明るい未来のために取り組んでいきたいと思っています。



インタビューに応える大原選手



サーフボードの手入れをする大原選手

——3年後のパリ大会に向けて目標をお聞かせください。また、その目標に向けて取り組んでいきたいことや特に強化したいことがあれば教えてください。

大原選手 目標は、何色でも良いので、メダルを取ることです。2023年の世界戦(エルサルバドル)が最終選考の場になるのですが、それまでに世界のトップサーファーと同じ舞台上、1回でも多く挑むことで、自分の道が見えてくるとしています。そうすることが強化につながり、メダルも見えてくると信じています。

——地元一宮町では、多くの小学生や中学生がサーフィンをしていて、朝や放課後には海に行ってサーフィンを楽しむなど、サーフィンが生活の一部になっていると聞いています。未来のオリンピックに向けて、メッセージをお願いします。

大原選手 上達することだけにこだわらず、目標を見失ったときは初心に戻って心から楽しんでほしいし、続けてほしいです。周りの目を気にせず、課題や目標を見つけ、自分がやりたいようにやってほしい。何でも負けが続くと意欲が下がりますが、気持ちの切り替えを大切にしてほしいですね。乗りたい波、やりたい技、楽しめている自分、この繰り返しのサイクルが次につながると思います。何があっても本質を見失わず、前に進んでほしいと思っています。



interview

柔道男子100kg級で金メダルを決めた瞬間のウルフ選手

© ロイター/アフロ

柔道 ウルフアロン選手

失敗の中に 成功のかけらを見つけて

——柔道男子100kg級での金メダル、混合団体での銀メダル獲得、おめでとうございます。

ウルフ選手 ありがとうございます。高校の3年間は千葉県で柔道に打ち込みましたので、僕にとって千葉県は柔道の故郷です。千葉県からは毎年さまざまな支援をいただき、それを力に変えることができました。次の世界選手権、オリンピックに向けて頑張っていきます。

——東京2020大会が1年延期になった後、どのようにモチベーションを維持されましたか。

ウルフ選手 2019年の年末に右膝の半月板を損傷してしまいました。次の年がオリンピックだったので少し焦りもあったのですが、1年延期にな

ったことでパフォーマンスを上げるための期間が増えたとプラスに考えるようにしました。その結果、1年間しっかりと準備をすることができたので、僕にとってこの延期はマイナスではなかったと思っています。

——これまで何度もけがをされた経験があると思いますが、挫けそうになったとき、どのように自分を奮い立たせて成果にたどり着いてこられましたか。

ウルフ選手 けがとの向き合い方というのはすごく大事で、けがをすると気持ちが沈んでしまう選手も多いと思うのですが、けがをしたときにしかできないことが必ずあります。



準決勝で戦うウルフ選手（左）

© 築田純／アフロ



男子100kg級の表彰式

© L／アフロスポーツ

膝をけがしたのであれば上半身の強化。またそのリハビリの部分でも、快復して試合に復帰したとき、けがをしたときよりも強くなった自分で戻って来られるように。そういうことを考えながら日々リハビリやトレーニングをするようにしていました。

——ウルフ選手にとって、柔道の魅力はどのようなところにありますか。

ウルフ選手 みんなもちろん努力しているのですが、天性の才能というように、もともと持っているものありきの競技もある中で、柔道は、本当に考えれば考えるほど奥が深く、どんな選手でも、またセンスがなくても勝てる競技です。僕自身はそこが柔道の魅力だと思っています。僕よりも技が切れる選手はたくさんいますが、どうしたら勝てるかをすごく考えます。そういう選手に勝ったときにより達成感を感じます。

——東京2020大会で初めて団体が種目に入りました。出場されてみていかがでしたか。

ウルフ選手 団体戦で対戦した選手は100kg超級の選手でしたので、100kg級よりもひと回りもふた回りも大きく、力強いと感じました。一方、動きが遅いところもあったので、そこが隙だと思いました。

——団体での銀メダルというのは、皆さんで勝ち取った一つの成果ですね。

ウルフ選手 そうですね。優勝に越したことはなかったということにはなりますけど、日本選手全員で勝ち取った銀メダルなので、そこには大きな意味があると思います。やはりみな悔しい思いをしましたので、次のパリのオリンピックでは優勝できるように、これからの3年間、しっかりと準備をしていきたいと思っています。

——けがをしたり、何かにつまずいたりしたとき、挫けない強い心を持つにはどうすればよいか、改めて子どもたちにメッセージをお願いします。

ウルフ選手 子どもたちには本当にさまざまなことにチャレンジしてほしいと思います。その人に合うもの、合わないものというのは人それぞれたくさんあると思いますし、それを見つけるためにも、まずはさまざまなことにチャレンジしてほしいです。そうすると、やれることの幅も広がりますし、また自分に合ったものが見つかると思います。

また、挫折したり、けがをしたり、失敗したりすることはたくさんあると思いますし、僕自身もありました。失敗から目をそらさずに、その失敗から見つけられるもの、その失敗の中に成功のかけらが必ず何かあると思うので、それを見つけて、自分自身の目標に向かって頑張ってもらいたいなと思います。



銀メダルを獲得した体操男子団体

© AP / アフロ

interview

体操競技

かやかずま

たにがわわたる

はしもとだい き

萱和磨選手、谷川航選手、橋本大輝選手

夢中になって楽しめることを続けて

——団体銀メダル、橋本選手の個人総合と種目別鉄棒で金メダル、萱選手の種目別あん馬の銅メダル獲得、おめでとうございます。東京2020大会を振り返り、どのような大会でしたか。

萱選手 初めてのオリンピックでキャプテンになり、チームを引っ張らなければいけないという中で、メンバーのことを気かけながら試合に臨んでいたもので、結果を残しただけでなく成長することもできたと思います。団体では0.1点差の銀メダルでしたので、次回のパリ大会で金メダルを取るために、この悔しさを忘れずに頑張っていきたいと思います。

谷川選手 今回は銀メダルという結果で、やはり金メダルが欲しかったという思いが残っているの

で、この悔しさを忘れずに、パリ大会では絶対金メダルを取れるようにこれからも頑張ります。

橋本選手 団体では、チームのみんながオリンピック初出場で今大会に挑みました。金メダルを獲得できなかったのは悔しいですが、一人ひとりが自分の役割を果たして全18演技をつなぐことができたおかげで、銀メダルを手にすることができたと思っています。

また、個人総合と種目別鉄棒では、団体戦での悔しさから気持ちを切り替えて、金メダルを獲得することができ、あの舞台では演技をするを通して自分の成長を感じることができました。3年後のパリ大会では今大会のうれしい結果と悔しい結果を受け入れて、また日本代表の一人として

体操競技を引っ張っていきたいと思います。

——団体戦では、萱選手の演技に入る前と演技に入った後の気持ちが伝わってくるような仕草に引き込まれていました。どのような気持ちで演技に臨まれたのですか。

萱選手 団体決勝では出場全種目で僕がトップバッターだったので、失敗するわけにはいかない、やはり次の選手にバトンを渡さなければいけないという思いがありました。トップバッターには緊張感がありますし、独特な雰囲気もあるので、その雰囲気に飲まれないために自分だけの世界を作って演技をしました。

——谷川選手や橋本選手は萱選手の演技や仕草を見て、どのように感じましたか。

谷川選手 普段の国内の大会でも気合いが入っていて声が大きかったりするのですが、オリンピックでは本当に気合いが入っていて、気持ちが伝わってきたので、しっかりいい演技をして、受け取ったバトンをもたつなげようという思いで演技しました。

橋本選手 萱選手はすごく集中していて、他を寄せ付けなくらいの気迫を感じました。その気迫

をチームにつないでいくという思いが強く伝わってきて、僕らの気を引き締めてくれたと思います。

——お話を伺うとまさに団体戦という感じが伝わってきます。オリンピックに出場して感じたことはありますか。

橋本選手 僕はあの舞台で演技をすること自体に成長を感じられました。個人総合決勝の鉄棒では前の選手が次々と落下し、独特の緊張感があったのですが、もう集中するしかないと思って強さを出せたことが金メダルにつながったと思っています。また、個人総合と鉄棒の2種目で金メダルを取ることができたのは僕だけの力ではないので、本当にいろいろな人に感謝しています。金メダルを取ったことはもう過去なので、また新たな自分として挑戦していきたいと思っています。

谷川選手 跳馬の予選では失敗してしまいましたが、団体戦ではしっかり決めることができましたので、そこはよかったと思っています。一方で、種目別跳馬の決勝に進むことができなかったのも、一発で技を決める強さをもっと磨いていかないといけないと思いました。



萱選手

© 丸山康平／アフロ



谷川選手

© ロイター／アフロ



橋本選手

© 丸山康平／アフロ

——これまで千葉県で体操に取り組まれてきて、千葉県の体操の環境についてはどのように思いますか。

萱選手 千葉県は生まれ育った県であり、成長したところです。僕が体操を始めたときはまだクラブが少なく、中学生のときに特設体操部を作ってもらい、総合体育大会に出場しました。そのため、今後、体操の競技人口が増えてほしいという思いやもっとサポートしてほしいという思いがありました。僕らが頑張ることによって体操の認知度が高まり、体操教室などが広がれば、子どもたちの夢につながると思います。

谷川選手 僕も千葉県で生まれ育ったので、千葉県には感謝の気持ちでいっぱいです。僕は幼稚園のクラブで体操を始めました。その幼稚園の体育館も新しくなり、市立船橋高校や順天堂大学の体育館も素晴らしい設備の体育館になっています。このような環境で練習させてもらってきたからこそ、体操選手の4人中3人が千葉県出身ということになったと思います。本当に恵まれた環境で育ってきて不自由なく練習できていて、とても感謝しています。

——千葉県で成長した選手が自国開催のオリンピックの舞台上で活躍されたことは、子どもたちの大きな励みになると思います。改めて子どもたちに

メッセージをお願いします。

萱選手 僕は2004年のアテネオリンピックを見て体操を始めましたが、ずっと楽しいことをやり続けてきたと思っています。つらいこともありましたが、楽しいとつらいことも乗り越えられます。スポーツ以外でも何でも、ワクワクするような、時間を忘れて夢中になってしまうことをやり続けていけばいいと思います。

谷川選手 同じことになりますが、みんな「楽しい」の延長でここまでやってきていると思います。楽しくないと続けていけないし、自分が夢中になれることを続けることが、その道を極めることにつながると思うので、自分が楽しいと思えることを選んで、それを周りがサポートできるという環境があれば、何でも極めていけると思います。

橋本選手 僕は兄の影響で嫌々体操を始めたのですが、やっているうちに楽しくなりました。僕は大学生ですが、体操を息抜きにしたり、他のスポーツを息抜きとして考えたりすることも必要なかなと思います。何かに行き詰まってもリフレッシュできるようにして、少しでもスポーツに触れられるように、なおかつそれをサポートできる人も増えて、また仲間と切磋琢磨していけば、スポーツに向き合える時間が増えるのではないかと思います。



銀メダルを手に笑顔で喜ぶ体操男子団体 左から1番目が萱選手、2番目が谷川選手、右から1番目が橋本選手

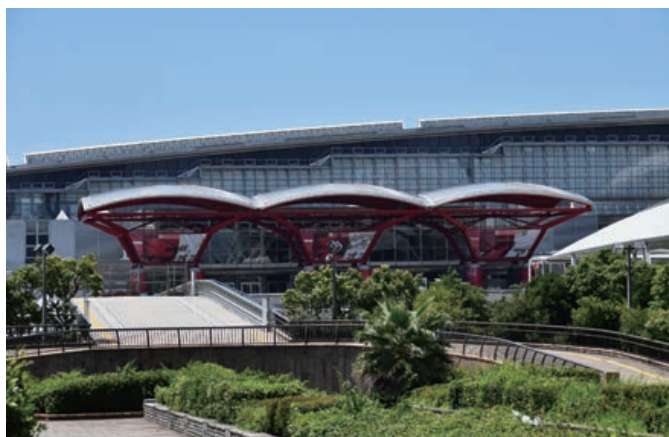
©丸山康平／アフロ

東京2020パラリンピック競技大会・ 千葉県内開催競技と 千葉県ゆかりの選手の活躍

1

千葉県内開催競技

千葉県内では、東京2020パラリンピック競技大会において、8月25日から9月5日までの12日間に、幕張メッセ（千葉市）で、ゴールボール、シッティングバレーボール、テコンドー、車いすフェンシングの4競技が実施された。



幕張メッセ



シッティングバレーボール



ゴールボール



テコンドー

◎ゴールボール

幕張メッセ C ホール（イベントホール）
2021年8月25日（水）～9月3日（金）

◎シッティングバレーボール

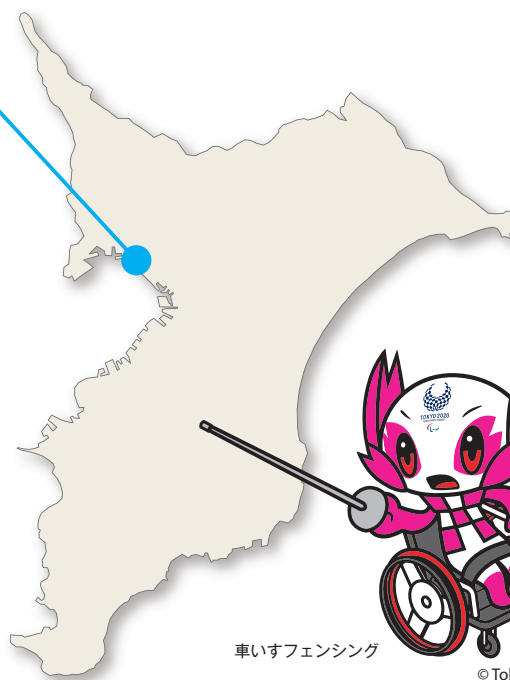
幕張メッセ A ホール（国際展示場 1～8 ホール）
2021年8月27日（金）～9月5日（日）

◎テコンドー

幕張メッセ B ホール（国際展示場 9～11ホール）
2021年9月2日（木）～9月4日（土）

◎車いすフェンシング

幕張メッセ B ホール（国際展示場 9～11ホール）
2021年8月25日（水）～8月29日（日）



車いすフェンシング

© Tokyo 2020



女子3位決定戦でブラジルと戦う日本代表 奥側左から萩原紀佳選手、高橋利恵子選手、欠端瑛子選手
Photo by Tokyo 2020/Kenta Harada



ゴールボール

8月25日から9月3日までの10日間、幕張メッセCホールでゴールボールが実施され、男女各10チームが参加した。

ゴールボールでは、1チーム3人がアイシェード（目隠し）を着け、相手方ゴールを狙って交互にボールを投げ合い、前後半各12分での合計得点を競い合う。攻撃側は、音が鳴る鈴入りのボールを、転がしたりバウンドやカーブさせたりしてゴールを狙い、守備側は、ボールの鈴の音や相手の足音を聞き分け、ボールが来る方向を判断して体全体で防御する。競技者全員がアイシェードを着用するので、障害の程度にかかわらず条件が平等となり、3人のチームワークや相手をかく乱させる駆け引きなどが勝敗を左右する。

2012年のロンドン大会以来、2大会ぶり2度目の金メダル獲得を目指す女子代表チームは、予選リ

ーグを2勝1敗1分け、グループ3位で突破した。続く決勝トーナメントでは、準々決勝でイスラエルに勝利し、準決勝でトルコに敗退したものの、3位決定戦でブラジルを破って、銅メダルを獲得した。なお、トルコが金メダルとなった。

世界ランキング10位の男子代表チームは、予選リーグで、アルジェリアに快勝し、2016年のリオデジャネイロ大会銀メダルのアメリカ、金メダルのリトアニアを撃破。世界ランキング1位で今大会の金メダルを獲得したブラジルには敗れたが、予選リーグを3勝1敗、グループ1位で突破した。決勝トーナメントでは準々決勝で中国に敗れ5位入賞となった。

日本代表チームは男女とも6人で構成され、男子代表チームのメンバーとして、印西市にある順天堂大学在籍の佐野優人選手が^{さの ゆうと}出場した。



女子3位決定戦
背番号7が高橋選手、3が欠端選手

Photo by Tokyo 2020/Kenta Harada



男子準々決勝でボールを止める佐野選手

© 森田直樹/アフロスポーツ



ゴールボール日本代表 後列左から5番目が佐野選手

© YUTAKA /アフロスポーツ



ゴールボール会場

© 森田直樹/アフロスポーツ



男子7-8位決定戦に臨む男子代表

© 西村尚己/アフロスポーツ



シッティングバレーボール

8月27日から9月5日までの10日間、幕張メッセAホールでシッティングバレーボールが実施され、男女各8チームが参加した。

シッティングバレーボールは、下肢などに障害がある選手が床にお尻を着けて、座った状態でプレーする6人制のパラリンピック競技。ボールの大きさや基本的なルールはオリンピックのバレーボールと同じだが、コートがひと回り狭く、ネットも低く設定されている。障害の程度が軽い選手の出場はコート上で1人のみで、ボールに触れる際にはお尻の一部が床に着いていないと反則となるなどのルールがある。

日本チームは男女とも開催国枠で出場。男子代表チームは、予選リーグで、ロシアパラリンピック委員会、エジプト、ボスニア・ヘルツェゴビナと対戦

し、0勝3敗で決勝トーナメントの進出を逃した。女子代表チームは、予選リーグで、イタリア、ブラジル、カナダと対戦。0勝3敗という結果であった。最終的に男女とも7-8位決定戦で敗れたため、8位となった。

男子代表チームは12人で構成され、千葉県障害者スポーツ・レクリエーションセンター（千葉市）を練習拠点とするチームから、加藤昌彦選手（松戸市出身）、田澤隼選手、皆川鉄雄選手の3人が出場した。

また、女子代表チームは9人で構成され、館山市出身の長田まみ子選手が出場した。

なお、大会では、身長246cmの選手を擁する男子のイランが話題を集め、そのイランが金メダルを獲得。女子は、アメリカが金メダルという結果となった。



シッティングバレーボール男子代表 背番号3が加藤選手、4が皆川選手、6が田澤選手

© 長瀬友哉／フォート・キシモト



シッティングバレーボール女子代表 背番号10が長田選手

© 森田直樹／アフロスポーツ



シッティングバレーボール会場

© ロイター／アフロ



男子75kg級敗者復活戦1回戦で戦う工藤選手
Photo by Tokyo 2020/Kenta Harada



テコンドー

9月2日から4日までの3日間、東京2020大会から正式競技として採用されたパラリンピックのテコンドーが、幕張メッセBホールで実施された。

パラリンピックのテコンドーには、主に上肢障害の選手が行うキョルギ（組手）と、知的障害や視覚障害、下肢障害の選手が行うプムセ（型）の2種類がある。東京2020大会ではキョルギが採用され、通常は障害の程度で4階級に分かれるところ、障害の程度が軽い2つの階級を統合した形で男女とも3階級に分かれて競技が行われた。

八角形のコートや身に着ける防具などはオリンピックのテコンドーと同じで、胴部への攻撃のみが有効となるのは、パラリンピックならではのルールであり、突き技は得点とならず、頭部への攻撃は禁止されている。

日本代表では、国内選考を勝ち抜いた、^{た なかみつ や}田中光哉

選手（男子61kg級）、^{く どうしゅんすけ}工藤 俊介選手（男子75kg級）、^{お お た し ょ う こ}太田 渉子選手（女子58kg超級）の3選手が出場した。

初日の男子61kg級には、田中選手が登場し、初戦と敗者復活戦1回戦で敗れ9位となった。翌日の男子75kg級に登場した工藤選手は初戦で敗れたが、敗者復活戦1回戦でセネガルの選手に勝利。敗者復活戦2回戦で敗れ7位となった。

最終日には、女子58kg超級に太田選手が出場した。太田選手は冬季パラリンピックの2006年トリノ大会バイアスロンで銅メダル、2010年のバンクーバー大会ではクロスカントリースキーで銀メダルを獲得し、2014年のソチ大会の開会式では旗手を務めている。初めての出場となった夏季大会では初戦で敗れ、敗者復活戦1回戦は対戦相手の棄権による勝利。同2回戦で敗退して7位となった。



女子58kg超級敗者復活戦2回戦で戦う太田選手

© YUTAKA / アフロスポーツ



テコンドー会場

© YUTAKA / アフロスポーツ



男子61kg級で戦う田中選手

© SportsPressJP / アフロ



男子サーブル個人（カテゴリー B）で戦う恩田選手（左）
© AP / アフロ



車いすフェンシング

8月25日から29日までの5日間、幕張メッセ B ホールで、車いすフェンシングが実施された。

車いすフェンシングは、ピストと呼ばれる台に車いすを固定して戦う競技で、オリンピックのフェンシングと同様、胴体だけを突く「フルーレ」、上半身全体の突きを行う「エペ」、上半身全体の突きに斬る動作が加わる「サーブル」の3種目がある。また、メタルジャケットや剣などの基本用具やルールもほぼオリンピック競技と同様となる。

3種目ともそれぞれ障害の種類や程度によって、カテゴリー A・B の2つのクラスに分かれ、障害の程度は、カテゴリー A が軽度、カテゴリー B が重度のクラスになる。今大会には、日本代表として男子3人、女子3人の6人が出場した。

女子個人種目では、阿部知里選手（カテゴリー B）がフルーレとサーブルに、櫻井杏理選手（カテゴリー

ー B）と聖徳大学短期大学部を卒業した松本美恵子選手（カテゴリー A）がフルーレとエペに出場した。世界ランキング6位の櫻井選手が女子エペ個人において予選リーグを4勝2敗で通過し、決勝トーナメントに進出。準々決勝では世界ランク1位のビクトリア・ボイコワ選手（ロシアパラリンピック委員会）に敗れたが、6位入賞を果たした。櫻井選手のフルーレと他の選手は予選リーグでの敗退となった。

男子個人種目では、恩田 竜二選手（カテゴリー B）と加納慎太郎選手（カテゴリー A）がフルーレとサーブルに、藤田道宣選手（カテゴリー B）がフルーレとエペに出場したが、いずれも予選リーグ突破はなかった。

また団体戦では、男子がフルーレ団体（恩田選手、加納選手、藤田選手）に出場し、予選リーグで敗退、女子は選手の負傷によりエペ団体が棄権となった。



女子エペ個人
(カテゴリー A) に出場した松本選手 (写真上、右)

© 長瀬友哉/フォート・キシモト

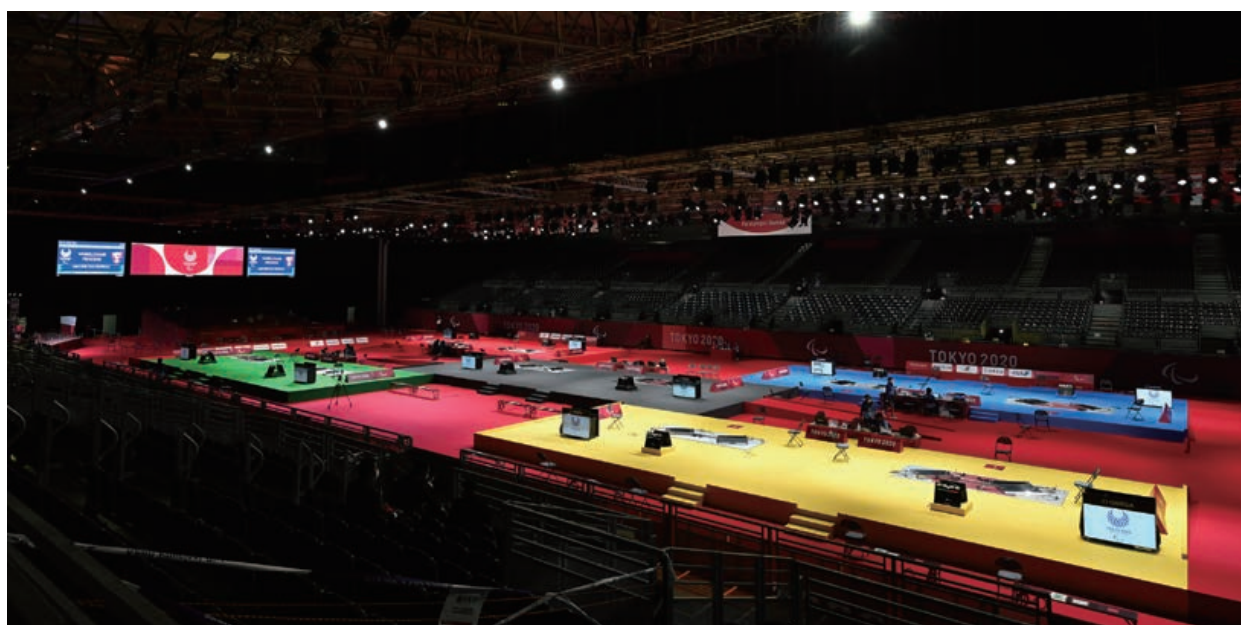


© 長瀬友哉/フォート・キシモト



女子エペ個人 (カテゴリー B) で6位に入賞した櫻井選手

© ロイター/アフロ



車いすフェンシング会場

Photo by Tokyo 2020/Kenta Harada

東京2020パラリンピック競技大会には、千葉県にゆかりのある数多くの選手が出場し、メダル獲得や入賞を果たすなど、素晴らしい活躍を見せた（千葉県ゆかりの選手の競技結果については資料編p.252参照）。

水泳男子50m平泳ぎ、50m・100m・200m自由形、150m個人メドレー——鈴木孝幸選手

浦安市在住の鈴木孝幸選手は、パラリンピックに5大会連続の出場を果たし、出場した水泳^{※1}5種目すべてでメダルを獲得した。鈴木選手は先天性の四肢欠損という障害により、右腕は肘まで、左手は指が3本、両足は膝下がなく、6歳から水泳を始め、高校3年生で出場した2004年のアテネ大会では、メドレーリレーで銀メダルを獲得し、その後2008年の北京大会で金（50m平泳ぎ）と銅（150m個人

▶ 1 Sは自由形・背泳ぎ・バタフライ、SBは平泳ぎ、SMは個人メドレー、数字の1～10は運動機能障害（肢体不自由）の重度～軽度、11～13は視覚障害の重度～軽度、14は知的障害、15は聴覚障害、21はその他。

メドレー）、2012年のロンドン大会で銅2個（50m平泳ぎ、150m個人メドレー）のメダルを獲得した。2016年のリオデジャネイロ大会では50m平泳ぎと150m個人メドレーに出場したが、4位入賞とメダルを逃し、再び世界の頂点を目指して練習しながら、東京2020パラリンピック競技大会の招致にも携わった。

今大会では、50m平泳ぎと50m・100m・200



男子100m自由形のメダル授与式で金メダルを手にする鈴木選手

© YUTAKA / アフロスポーツ



男子100m自由形決勝で泳ぐ鈴木選手

© フォート・キシモト

m自由形、150m個人メドレーの5種目に出場。8月25日のパラリンピック初日に50m平泳ぎ（運動機能障害SB3）で銅メダル、翌26日の100m自由形（運動機能障害S4）では2008年北京大会以来の金メダルを獲得した。この金メダルは、東京2020パラリンピック日本勢初の金メダルであり、パラリンピックでの日本勢の金メダル獲得は2大会ぶりとなった。

さらに8月28日の男子150m個人メドレー（運動機能障害SM4）で銅メダル、30日の200m自由形（運動機能障害S4）では銀メダル、9月2日に行われた最終種目の50m自由形（運動機能障害S4）でも銀メダルを獲得し、出場全種目におけるメダル獲得を達成した。

水泳男子100m背泳ぎ——^{くぼた こうた}窪田幸太選手、 男子4×100m 34ポイントメドレーリレー ——^{おぎわら こうたろう}窪田幸太選手、^{おぎわら こうたろう}荻原虎太郎選手

千葉市出身（県立実籾高校卒業）の窪田幸太選手は、今大会で水泳競技3種目に出場した。左腕に先天性の障害がある窪田選手は、0歳からスイミングスクールに通っており、小学5年生から本格的に水泳を始めた。男子100m背泳ぎ（運動機能障害S8）の決勝では自身が予選で出した日本新記録をさらに更新するタイムで5位に入賞した。また、男子4×100m 34ポイントメドレーリレーでも日本新記録で8位に入賞した。



男子4×100m 34ポイントメドレーリレー決勝で背泳ぎのスタートを切る窪田選手
© 松尾／アフロスポーツ

千葉市出身（千葉明德高校卒業）の荻原虎太郎選手は、5歳からスイミングスクールに通い、中学生で本格的に水泳を始めた。4歳のときに悪性になった軟骨肉腫を摘出したことで、右肩と右足にまひが残った。今大会では4種目に出場し、男子4×100m 34ポイントメドレーリレーでアンカーを務め、日本の8位入賞に貢献した。

窪田選手、荻原選手ともに今回が初のパラリンピック出場となった。

水泳女子50m・400m自由形、混合リレー ——^{つじうちあやの}辻内彩野選手

昭和学院高校（市川市）を卒業した辻内彩野選手は、50m・400m自由形（視覚障害S13）、100m平泳ぎ（視覚障害SB13）、混合4×100m 49ポイントフリーリレーの4種目に出場した。400m自由形では予選で日本記録を更新して8位に入賞し、50m自由形では決勝で日本新記録を更新して7位入賞となった。また、混合リレーでも日本新記録を更新し、5位入賞を果たした。

辻内選手は、父がスイミングクラブの指導者、母



男子4×100m 34ポイントメドレーリレー決勝で自由形を泳ぐ荻原選手
© 松尾／アフロスポーツ



女子400m自由形決勝で泳ぐ辻内選手
© 長田洋平／アフロスポーツ



卓球男子シングルス準々決勝で戦う竹守選手

© 松尾／アフロスポーツ



卓球女子団体で戦う竹内選手

© フォート・キシモト



アーチェリー混合団体で的を狙う大山選手

© 長瀬友哉／フォート・キシモト

は高校総体や国体に出場した元水泳選手という水泳一家に育ち、小学生から水泳に打ち込んできたが、高校3年生で病気を発症、進行性の黄斑ジストロフィーと診断され、大学でパラ水泳に転向した。

卓球男子シングルス——^{たけもり たけし}竹守 彪 選手

松戸市出身の竹守彪選手は卓球²男子シングルスC11（知的障害）に出場した。竹守選手は発達遅滞の障害があり、中学生のとき、卓球部に入ったことをきっかけに卓球競技を始めた。21歳のときに出場したアジアパラ競技大会で金メダルを獲得し、2016年のリオデジャネイロ大会では、卓球男子の知的障害クラスで唯一の日本代表となった。2大会連続のオリンピック出場を果たした今大会では、予選リーグを1勝1敗で突破した後、準々決勝で敗れ、5位入賞となった。

卓球女子団体——^{たけうち のぞみ}竹内 望 選手

鎌ヶ谷市出身（県立松戸六実高校卒業）の竹内望選手は、生まれるときに首に圧力がかかったことが原因で、右腕の首元から指先がまひしている。

20歳でパラリンピックの卓球競技を始め、これまでに国内外の大会で活躍しており、今回が初のパラリンピック出場となった。

今大会では卓球競技2種目に出場し、女子団体（C9-C10）では、初戦で金メダルを獲得したポーランドに敗れ、5位となった。

アーチェリー——^{おおやま こうじ}大山 晃 選手

松戸市出身の大山晃選手は、警視庁初のパラリンピアンであり、アーチェリー³競技の男子個人と混合団体に出場し、両種目で6位入賞を果たした。

大山選手は、2012年に大学で所属していた体操



フィニッシュへ向かって走る秦選手

© 青木紘二／アフロスポーツ

部の練習中に頸椎^{けいつい}を損傷し、一時は、首から下が完全にまひ状態となった。右腕があまり動かないため、左手で弓を持ち、口で矢を引いている。リハビリの過程で2016年にアーチェリーを始め、警察署に勤務しながら、わずか1年後の2017年に全国大会で優勝した。

トライアスロン——^{はた ゆ か こ}秦由加子選手

トライアスロン⁴女子（運動機能障害PTS2）には千葉市出身の秦由加子選手が出場した。秦選手は13歳のとき骨肉腫^{だいたいぶ}を発症し、右脚を大腿部より切断している。2008年からパラ水泳のクラブチームに所属し競泳でパラリンピック出場を目指したがかなわず、2013年にトライアスロンに転向してパラリンピアンとなった。今大会では、パラリンピック初出場となった2016年のリオデジャネイロ大会に続いて6位に入賞した。

パワーリフティング——^{う じ ょ う は じ め}宇城元選手

パワーリフティング⁵男子72kg級に、9年ぶり



パワーリフティングの試技を終えた宇城選手

© 松尾／アフロスポーツ

3大会目のパラリンピック出場となる順天堂大学職員（佐倉市在住）の宇城元選手が出場し、6位に入賞した。宇城選手は、大学4年生のときにバイクの事故が原因で車いす生活となり、車いすバスケットボールを始めた後、パワーリフティングに出会った。2004年のアテネ大会は8位、2012年のロンドン大会は7位で、男子72kg級および80kg級の日本記録を持っている。

▶2 C1～5は車いすの重度～軽度、C6～10は立位の重度～軽度、C11は知的障害。

▶3 弓は一般的なリカーブに加えて先端に滑車のついたコンパウンドの2種類を使用。障害の種類や程度に応じてW1（四肢に障害のある車いす使用者）、W2（下半身にまひなどのある車いす使用者）、ST（立位または座位）の3クラスがある。男女3種目（リカーブ、コンパウンド、W1）と団体（リカーブ、コンパウンド、W1の男女ペア）があり、障害の種類や程度に応じて用具を工夫することも認められている。

▶4 パラリンピックはオリンピックの半分のスプリント・ディスタンス（スイム0.75km・バイク20km・ラン5km）の合計タイムで競争。障害の種類やレベルによりクラス分けされ、座位・立位・視覚障害の選手が出場する。PTWC1～2は車いすの重度～軽度、PTS2～5は運動機能障害（肢体不自由・立位）の重度～軽度、PTV11～3は視覚障害の重度～軽度。

▶5 下肢に障害がある選手が上半身の力を使ってバーベルを持ち上げ、重さを競う。



銅メダルを獲得した車いすラグビー日本代表
前列左から1番目が池崎選手、4番目が今井選手、5番目が羽賀選手

© 松尾／アフロスポーツ



車いすラグビー準決勝でボールをキープする羽賀選手（中央） © AP／アフロ

車いすラグビー——^{いまいともあき}今井友明選手、^{はがまさゆき}羽賀理之選手、^{いけさまだいすけ}池崎大輔選手

8月25日に、車いすラグビー⁶の予選リーグが開幕した。予選リーグでは、フランス、デンマーク、世界ランキング1位のオーストラリアと対戦して全勝し、準決勝に進んだ。準決勝でイギリスに敗れたものの、3位決定戦では再びオーストラリアに勝利し、リオデジャネイロ大会に続いて銅メダルを獲得した。

県ゆかりの選手としては、^{けいずい}頸髄損傷で両手足に障害を持つ今井友明選手（我孫子市出身）と羽賀理之選手（松戸市出身、千葉市在住）、進行性の難病で両手足などにまひのある池崎大輔選手（浦安市在住）



柔道女子70kg級3位決定戦で戦う小川選手

© 長田洋平／アフロスポーツ

が代表入りした。今井選手と羽賀選手は、リオデジャネイロ大会からの2大会連続出場、池崎選手は、ロンドン大会からの3大会連続出場を果たした。今大会で、今井選手は守備の要、羽賀選手は副キャプテン、池崎選手はエースとしてチームを牽引した。

柔道——^{おがわかずき}小川和紗選手

視覚障害者による柔道女子70kg級の3位決定戦で、パラリンピック初出場の小川和紗選手がロシアパラリンピック委員会の選手から技ありを奪って優勢勝ちし、銅メダルを獲得した。小川選手は市原市出身で、先天性の視神経^{こうしゆ}膠腫のため視力は両眼とも0.01程度である。中学校で柔道を始めたが、視力



5人制サッカーのフランス戦に出場した佐々木選手（背番号8）

© 松尾／アフロスポーツ



メダル授与式で金メダルを手にする国枝選手

© SportsPressJP /アフロ



男子シングルス決勝でボールを追う国枝選手

© 青木結二／アフロスポーツ

が低下し、高校2年生で盲学校へ転入した。その後一度競技から離れたが、高校卒業後に視覚障害者柔道を始め、2017年ワールドカップでは銅メダルを獲得している。

5人制サッカー——^{さ さ き や す ひ ろ}佐々木康裕選手

今大会が5人制サッカー（ブラインドサッカー）でパラリンピック初出場となる日本は、初戦でフランスに勝利。その後の試合に敗れ、予選リーグ突破はなかったが、5－6位決定戦でスペインを破り、5位入賞となった。

初戦に出場した四街道市出身（麗澤大学卒業）で千葉県職員の佐々木康裕選手は、生まれつきの緑内障に加え、小学生のころに網膜剥離を併発したことで手術を繰り返すうちに視力が低下した。

視力があったころからサッカーが好きで、27歳のときにブラインドサッカーを始めた佐々木選手は、

競技を始めて数年後には日本代表に選出され、これまで国際大会にも多く出場している。

車いすテニス——^{くにえだしんご}国枝慎吾選手

車いすテニス⁷では、柏市出身の国枝慎吾選手が男子シングルスと男子ダブルスの2種目に出場した。シングルスでは、決勝でトム・エフベリンク選手（オランダ）をストレートで破り、2大会ぶり3度目の金メダルに輝いた。前日に行われた^{さなだたかし}眞田卓選手とペアで出場したダブルスでは、3位決定戦で同じエフベリンク選手とマイケル・シェファース選手のペアに屈し、4位入賞となっていた。

国枝選手は、9歳のときに^{せきずい}脊髄の病気で下半身が

▶6 障害の程度ごとに最も重い0.5から最も軽い3.5まで0.5刻みに持ち点が定められており、障害の軽い選手の数が多くなならないよう、コート上の4人の合計を8点以内としなければならない。

▶7 ツーバウンドでの返球が認められているほかは、オリンピックのテニスと競技ルールは変わらない。



ボッチャチーム3位決定戦でボールを投げる廣瀬選手

© 西村尚己／アフロスポーツ

不自由になり柏市の吉田記念テニス研修センターで車いすテニスを始めた。初のパラリンピック出場となった2004年アテネ大会から5大会連続でパラリンピックに出場し、これまでも多数のメダルを獲得してきた車いすテニスの第一人者であり、今大会には世界ランキング1位で臨み、日本選手団の主将も務めた。

ボッチャチーム——^{ひろ せ たかゆき}廣瀬隆喜選手

君津市出身（県立袖ヶ浦養護学校卒業）の廣瀬隆喜選手は、ボッチャ^{▶8}チーム（脳性まひ・運動機能障害BC1/BC2）に出場し、2大会連続のメダルとなる銅メダルを獲得した。先天性の脳性まひにより、四肢に障害があり、中学校でビームライフル、高校で車いす陸上に取り組んだ後、特別支援学校の教員に勧められてボッチャを始めた。廣瀬選手は、2008年の北京大会でパラリンピックに初出場してから、4大会連続で出場を果たしており、リオデジャネイロ大会ではチームで銀メダルを獲得した。



ボッチャペア決勝でランプを用いて投球する高橋選手

© SportsPressJP／アフロ

ボッチャペア——^{たかはしかずき}高橋和樹選手

9月4日に行われたボッチャペア（脳性まひ・運動機能障害BC3）準決勝に高橋和樹選手が登場し、世界ランキング1位のギリシャを5対1で撃破した。決勝で同4位の韓国に同点からのタイブレークの末敗れたが、ペア初のメダルとなる銀メダルを獲得した。

高橋選手は、市川市出身（千葉商科大学卒業）で、中学校、高校時代に県大会や地方大会で優勝するなどの経験を持つ柔道選手だったが、高校2年生のときに練習試合で頸椎を骨折するけがを負い、車いす生活となった。パラリンピックの東京開催が決まった翌2014年にボッチャを始め、2016年のリオデジャネイロ大会に出場したが、同大会では予選敗退。今大会で初のメダル獲得を果たした。

▶8 白のジャックボール（目標球）を投げた後、対戦する両者がそれぞれ赤と青の6球を投げ合い、自球をよりジャックボールに近づけたチームまたは個人が勝者となる。手で投げるのでない選手はキック、あるいは競技アシスタントのサポートを受けながら「ランプ」と呼ばれる投球補助具（勾配具）を使ってボールを転がすことができる。BC3は脳性まひおよびその他の障害の最も重いクラス、BC1～2は脳性まひの重度～軽度、BC4はその他の重度障害。



男子5000m決勝で走る樋口選手

© YUTAKA / アフロスポーツ



やりを投げる山崎選手

© AP / アフロ

陸上競技男子5000m——ひぐちまさゆき樋口政幸選手

柏市在住で、柏市を拠点として競技に取り組んでいる樋口政幸選手は、陸上⁹男子5000m（車いすT54）で決勝に進出し、8位に入賞した。

今大会でパラリンピック3大会連続出場となる樋口選手は24歳のときにバイク事故で脊髄を損傷し、リハビリの一環で車いすマラソンを始め、ロンドン大会出場の後マラソンからトラック種目に転向した。前回のリオデジャネイロ大会では4位入賞を果たしており、今大会では順位を下げたものの、レース中は集団の中で巧みな位置取りをし、ベテランの力を見せた。

陸上競技男子やり投——やまざきあきひろ山崎晃裕選手

8月30日に、順天堂大学（印西市）職員の山崎

晃裕選手が陸上男子やり投（上肢障害F46）の決勝に出場し、7位に入賞した。

山崎選手は生まれたときから右手首の欠損があり、高校生までは野球部に所属し、大学では身体障害者野球で世界大会に出場した。その後パラリンピック出場を目指して2015年に野球で培った強肩を生かせるやり投に転向し、2017年には60m65cmの日本記録を樹立した。また、日本パラ陸上競技選手権

▶ 9 Tは競走種目・跳躍種目、Fは投擲（とうてき）種目。数字の11～14は視覚障害の重度～軽度、20は知的障害、30～34は車いす脳性まひの重度～軽度、35～38は立位脳性まひの重度～軽度、40～41は低身長¹⁰の重度～軽度、42～44は義足なし・下肢切断/下肢機能障害の重度～軽度、45～47は上肢切断・上肢機能障害の重度～軽度、48はその他の軽度の片下肢または両下肢の障害、49はその他の軽度の片上肢または両上肢の障害、51～57は車いすの脳性まひ以外（頸椎損傷、脊椎損傷、切断、機能障害）、58は座位のその他の軽度の下肢障害、61～64は義足・下肢切断の重度～軽度。



男子400m決勝で走る松本選手（左）

© SportsPressJP / アフロ



男子1500mで力走する岩田選手

© 西村尚己 / アフロスポーツ

およびジャパンパラ陸上競技大会では4連覇を成し遂げるなど、数々の世界大会に出場し、上位入賞を果たしている。

陸上競技男子400m——^{まつもと たける}松本武尊選手

今大会がパラリンピック初出場となる千葉市出身（専修大学松戸高校卒業）の松本武尊選手は、陸上男子100m（脳性まひT36）・400m（脳性まひT36）に出場した。400m決勝では7位入賞、100mではパーソナルベストを更新するという成績を取めた。松本選手は短距離選手として活躍していた高校2年生のときに病に見舞われ、両手足にまひが残った。一時陸上を断念したが、リハビリ後にパラリンピックメダリストと同じレースに出場したことがきっかけでパラ陸上を始めた。100m、200m、400mで日本記録を更新し、現在3種目で日本記録を保持している。

陸上競技男子1500m——^{いわた ゆうき}岩田悠希選手

流山市出身（県立特別支援学校流山高等学園卒業）の岩田悠希選手は、男子1500m（知的障害T20）に出場し、8位に入賞した。数字に強いこだわりがある岩田選手は、所属する陸上クラブの指導者から示される目標タイムを達成することで実力を伸ばし

てきた。2020年に行われた日本選手権の男子1500m知的障害のクラスで、世界ランキング5位相当の好タイムを記録し、今大会でパラリンピック初出場を果たした。

陸上競技混合4×100mユニバーサルリレー、^{すずき ともき}男子マラソン——鈴木朋樹選手

館山市出身・千葉市在住（木更津総合高校、城西国際大学卒業）の鈴木朋樹選手は、陸上競技で計4種目に出場した。

混合4×100mユニバーサルリレーではアンカーを務め、銅メダルを獲得した。ユニバーサルリレーは男女2人ずつの4人が視覚障害、切断と機能障害（立位）、脳性まひ（立位）、車いすの順で走るパラリンピックの多様性を象徴する新種目で、バトンを使わず背中など体の一部にタッチする。

鈴木選手は大会最終日の9月5日に東京・国立競技場を発着点とするロードで行われた男子マラソン（車いすT54）では7位に入賞した。生後8カ月の交通事故で脊髄を損傷した鈴木選手は、両親の勧めで車いす陸上に出会い、中学校から本格的に競技に取り組むようになった。2019年4月のロンドンマラソンで3位となり、今大会のパラリンピック代表内定の第一号となった。



ユニバーサルリレーで
高松選手からのタッチを受けて走る鈴木選手



里見選手のシングルス決勝の試合

© 松尾／アフロスポーツ



女子ダブルス金メダルの里見選手（左）と山崎選手（右）

© 長瀬友哉／フオート・キシモト

バドミントン女子シングルス、女子ダブルス

——さとみ さりな里見紗李奈選手

東京2020パラリンピックから正式競技となったバドミントン^{▶10}の女子シングルス（WH1）で、八街市出身（県立千城台高校卒業）の里見紗李奈選手（世界ランキング1位）がスジラット・プッカム選手（タイ・世界ランキング2位）との決勝に臨み、金メダルを獲得した。また、やまざき ゆま山崎悠麻選手とペアを組んで出場した女子ダブルス（WH1-WH2）でも決勝で中国の劉禹彤・尹夢璐選手を破り、金メダルを獲得した。

里見選手は、高校3年生の2016年に交通事故で脊髄を損傷し、両脚に障害が残ったが、翌年、父親に連れられて、むらやまひろし村山浩選手が代表を務める千葉市の車いすバドミントンクラブの練習に参加し、競技を始めた。2018年には「インドネシア2018アジアパラ競技大会」で銅メダルを獲得し、同年から日本選手権で3連覇を果たしている。

バドミントン女子シングルス、混合ダブルス

——すぎの あきこ杉野明子選手

女子シングルス（SU5）の3位決定戦で、市原市出身（県立市原八幡高校卒業）の杉野明子選手がかめやまかえで亀山楓選手との日本人対決を制し、銅メダルを獲得した。また、混合ダブルス（SL3-SU5）で、準決勝でフランスのペアに敗れたが3位決定戦でインドのペアに勝利し、銅メダルを獲得した。

杉野選手は生まれつき左腕に障害があるが、中学時代にバドミントンを始め、大学時代にパラバドミントンに出会った。2017年の世界選手権では女子ダブルスで金メダルを獲得。2018年11月には左膝靭帯断裂のけがを負ったが、けがから復帰し、今大

▶10 「車いす」と、上肢障害、下肢障害、低身長「立位」に分かれ、障害の程度により区分されている。また車いすと立位のSL3では、半面のコートを使用するなど特別ルールが適用される。WH1～WH2は車いすの重度～軽度、SL3～SL4は立位の下肢障害の重度～軽度、SU5は立位の上肢障害、SH6は立位の低身長。

混合ダブルス3位決定戦でシャトルを追う杉野選手（左）



© アフロスポーツ



男子ダブルス3位決定戦でレシーブする村山選手（右）

© 森田直樹／アフロスポーツ



男子シングルス予選で戦う長島選手

© SportsPressJP／アフロ

会では女子シングルス、混合ダブルスの2種目でメダル獲得を果たした。

バドミントン男子シングルス、男子ダブルス

——^{むらやまひろし}村山 浩 選手、^{ながしまおさむ}長島 理 選手

村山浩選手（四街道市出身、県立千葉商業高校・城西国際大学卒業）は、男子シングルス（WH1）準々決勝で長島理選手（千葉大学卒業・千葉大学大学院修了）に勝利したが、準決勝で中国選手に、3位決定戦で韓国選手に敗れ、4位入賞となった。^{かじわらだい}梶原大暉選手とのペアで臨んだ男子ダブルス（WH1-WH2）の3位決定戦では、タイのペアを破って銅メダルを獲得。長島選手は、男子シングルス（WH1）で5位入賞となった。

村山選手は34歳で難病を発症し車いす生活に、長島選手は大学時代に交通事故で脊髄を損傷し車い

す生活となった。両選手とも、これまでに車いすバドミントンの国内外の大会で活躍してきた実績を持っている。

車いすバスケットボール

——^{かわはらりん}川原 凜 選手、^{こうざいひろあき}香西 宏昭 選手

車いすバスケットボール¹¹日本男子は、予選リーグをグループ2位で通過し、その後、強豪のオーストラリア、イギリスに勝利し、初の決勝進出を決めた。決勝ではリオデジャネイロ大会で金メダルを獲得したアメリカに惜しくも敗れたが、この競技で日本男子初のメダルとなる銀メダル獲得を果たした。車いすバスケットボール男子代表は、この競技の中

▶11 障害の程度ごとに最も重い1.0から最も軽い4.5まで0.5刻みに持ち点が定められており、障害の軽い選手も重い選手も等しく出場できるよう、コート上の5人の合計を14点以内としなければならない。



車いすバスケットボール男子で銀メダルを獲得した日本代表 前列左端が川原選手、国旗の右側（向かって左）を持つのが香西選手 ©長田洋平／アフロススポーツ



車いすバスケットボール男子決勝で戦う香西選手 ©長田洋平／アフロススポーツ

心選手として活躍してきた京谷和幸さん（元千葉県教育委員）がヘッドコーチを務めており、県ゆかりの川原凛選手（千葉市在住、千葉ホークス所属）、香西宏昭選手（千葉市立若松小学校・若松中学校卒業）が代表メンバーとして選出された。川原選手は、生まれたときから脊髄の病気で下半身に障害があり、病院でクラブチームの監督から声をかけられたことがきっかけで高校に入ってから本格的に競技に取り組んだ。香西選手は、生まれたときから両足のももから下がなく、小学6年生のときに体験会に参加したことがきっかけで競技を始めた。

川原選手は今大会が初めてのパラリンピック出場、香西選手は今大会で4大会連続のパラリンピック出場となった。



ゴールボール男子予選でスローイングを行う佐野選手

©YUTAKA／アフロススポーツ

ゴールボール——佐野優人選手

順天堂大学（印西市）に在籍する佐野優人選手が出場したゴールボール男子は、パラリンピック初出場ながら予選リーグを1位通過。準々決勝で中国に敗れたが、5位入賞を果たした。

佐野選手は、中学3年生のときに、視力が徐々に低下するレーベル遺伝性視神経症と診断され、当時打ち込んでいた野球を断念したが、家族の勧めでゴールボールを始めた。競技歴5年ながらすべてのポジションで安定した守備力が評価され、日本代表に選出。本大会では計13点を決めるなど、攻撃面でもチームに貢献した。



interview

銅メダルをかけて柔道女子70kg級3位決定戦で戦う小川選手

© 長瀬友哉/フォート・キンモト

柔道 お が わ か ず さ 小川和紗選手

ロスタイムをチャンスに、何かにぶつかっても良い方向に切り替える

——東京2020パラリンピック柔道女子70kg級銅メダル獲得おめでとうございます。

小川選手 ありがとうございます。初めてパラリンピックに参加できたこと、また、コロナ禍で開催していただいたことに感謝しています。たくさんの方々に支えられ、コンディションを整えて万全の状態でいろいろなことができました。その中で銅メダルを取ることができて、とても達成感がありましたし、金メダルがほしいという欲が出ました。今まで24年間育ててくれた両親をはじめ周りの人に銅メダル以上の恩返しをしたいので、これから技とともに人間的な部分も磨いて、パリ大会まで3年間で仕上げていきたいと思っています。

す。応援していただいてありがとうございました。

——盲学校に転入して一度柔道から離れた後、再び柔道を始められて、大きな成果を挙げられました。パラリンピックは1年延期となりましたが、どのような気持ちで臨まれましたか。

小川選手 私はむしろこの1年がチャンスだと思いました。できることは限られているので、電柱にチューブをくくりつけてひたすら打ち込みをしたり、手首の強化をしたりしました。

——初めてのパラリンピックは想像していたとおりでしたか。それともまた違った感覚でしたか。

小川選手 やはり無観客というイメージはなかったもので想像とは違いました。でもいろいろな方々

が支えてくれたという自信はありましたし、楽しかったです。

——試合の中で苦しい時間帯にはどうしているのかを考えて臨まれているのですか。

小川選手 私は苦しいとはあまり思わなくて、もうすべて楽しいと思いながらやっています。

——柔道から一度離れた後、柔道を再開するきっかけはどういったものだったのですか。

小川選手 私が柔道より楽しいものを見つけることができずにいたとき、母に「視覚障害があっても柔道ができる場所はないの」と言われて。母は私に好きな柔道をさせて、私の人生をもっと華やかにしたいという気持ちがあったみたいですね。盲学校の3年生のときに体育の先生に相談して道場を探していただいて、卒業後にそこに行きました。

——柔道の魅力はどういうところにありますか。

小川選手 ^{かのうじごろう} 嘉納治五郎さんが唱えた“自他共栄”だと思います。柔道は相手なしではできませんし、常に相手に感謝という気持ちを教えてもらえる武道なので、私は柔道が素敵だと思います。

——今まで試合をされてきた中で印象に残っている相手はいますか。

小川選手 パラリンピックの3位決定戦で対戦したロシアのオルガ・ザブロドスカヤ選手とはこれまで4回戦っているのですが、70kg級に変更して世界選手権に出場した初めての対戦で、肘の関節を取られてけがをしてしまいました。でも、そういう苦しい思いもあった中でリベンジがかなって、この最高の舞台で勝つことができたことをとてもうれしく思っています。



自分自身を写した写真パネルにサイン



練習中の小川選手（左）

——小川選手はけがをしたときなどに、どういうことを考えますか。

小川選手 一般的にけがはロスタイムだと思うのですが、私は逆にチャンスだと考えるようにしています。けがをしたところは安静にしないといけません、それ以外は健康なので、苦手な部分を強化するのに最適な時間だと思って取り組んでいると、自然と回復も早まります。そうして乗り越えています。

——次のパリ大会に向けた意気込みをお聞かせください。

小川選手 今回銅メダルを取ることができましたが、表彰台で隣の金メダルを見たので、やはり次は金メダルが欲しいという欲がかなり大きいです。もう少し自分自身や技を磨いて、パリ大会に3年間で仕上げていきたいと思っています。

——千葉県の子どもたちに、小川選手のようにいつもポジティブに元気で将来に向かっていけるメッセージをお願いします。

小川選手 例えば、私は会場が眩しくて最悪、と思っても、そこは選手を派手に見せてくれる演出だと切り替えます。その場その場でいろいろ苦しいことがあると思いますが、つらいと思うと本当につらくなってしまうので、別のことを考えて気分を変えたいと思います。考える時間も大事ですし、いろいろなことを良い方向に考えて、ぶつかっているものと向き合ってほしいと思います。



interview

トライアスロン女子で6位に入賞した秦選手（左）

トライアスロン は た ゆ か こ 秦由加子選手

視野を広く持って、 地球規模の経験を

——現在所属している千葉ミラクルズSC（スイミングクラブ）への入会が人生の転機になったと聞きました。

秦選手 2008年に27歳で千葉ミラクルズに入って、初めて自分と同じような境遇の仲間ができました。足を切断したのは13歳、中学1年生のときで、多感な時期だったこともあり、障害があるということが私にとってはコンプレックスでした。友達はたくさんいて、いろいろな面で助けてくれましたが、友だちが走っているのを見るのも嫌だったし、みんなと同じようにはできないと思って体育の授業には一度も参加せず、体育祭も中学校、高校の6年間で一度も見に行ったことすらありません。人前に出ることも恥ずかしかったので、義

足であるということを常に隠しながら過ごしていたような気がします。

社会人になって何か人生を変えるきっかけが欲しいって思って始めたのが水泳で、初めにリーダーの^{うえだたかし}上田孝司さんにこれから水泳でどんどん人生が楽しくなるよと言われたのですが、そのとおりになりました。

——その後トライアスロンに転向されたのは、何がきっかけでしたか。

秦選手 2012年のロンドンパラリンピックを目指すため、仕事の前の朝6時から練習できる稲毛インターナショナルスイミングクラブのトライアスロンコースに入会したのがきっかけです。水泳のトレーニングが目的でしたが、ロンドン大会出

場を逃した後、初めてトライアスロンがパラリンピックの種目に加わる2016年のリオデジャネイロ大会で日本初の代表になることを目標の一つに決めたのですが、何よりもトライアスリートが生き生きして楽しそうだったのが2013年に転向した決め手です。

——実際にトライアスロンを始めてみてどうでしたか。

秦選手 心の底からやってよかったと思っています。毎日が挑戦だし、大腿切断でトライアスロンをやっている日本の女子選手は私しかいないので、周りの人からアドバイスをもらいながら前例のないことをやっていく作業が楽しいというところもあります。また、32歳でトライアスロンを始めて、義足を自分で調整するようになって初めて自分の義足に愛着がわきました。何にも気にせず外に出られるようになったのも32歳からですね。

——障害を乗り越えるきっかけとしてトライアスロンが大きかったということですね。

秦選手 競技特性が大きいと思います。屋外競技なので心が開放的になるし、トライアスロンは常に自分との戦いで、障害の有無など当然関係ないし、年齢も性別も関係ありません。それぞれが自分たちの可能性を広げて互いにそれを称え合う。それがトライアスロンのいいところです。そういう人たちに憧れて、自分も開放的に毎日を過ごしていけたら幸せになるだろうと思いました。

——パラリンピックについてどのように考えていますか。

秦選手 パラリンピックという世界規模のイベン

トがあるからこそ、たくさんの人に関わってもらえて、私たちも可能性を広げていけるし、競技を見た人が「私も何かやってみたい」と思うきっかけになるかもしれません。目的はパラリンピックではなくて、日常生活でより健康に過ごしていくということだと思います。パラリンピックはいろんな人の目に届きやすい大会なので、まず知るきっかけとして大切だと思っています。

——これからの目標、夢についてお願いします。

秦選手 2024年のパリ大会を目指します。その一方で、私自身も人生を豊かにするために競技活動をやっていますので、一人でも多くの人と出会っていろいろな考えを聞かせてもらって、誰もが本当に心地よく住みやすい社会になるよう、微力ながら自分ができていることをやっていければ、支援していただきながら競技をやっている意味が出てくるのかなと思っています。

——アスリートとして、未来のアスリート、子どもたちにメッセージをお願いします。

秦選手 世界は広いよって感じです。自分が知っているのはコップの中の水で、それ以外に世界は広がっています。何かを続けていったあかつきには地球規模の経験ができるので、どんどんやっていてもらいたいと思いますね。いろいろなところに行って、いろいろな人と出会うということが刺激になるので。視野を広く持って、競技活動を通して何をやるかというところまで考えてスポーツに取り組んだら楽しいよ、ということを伝えたいと思います。



千葉ミラクルズSCの仲間と（後列左から3番目が秦選手）





interview

車いすバスケットボール男子決勝でアメリカと戦う川原選手

© 松尾／アフロスポーツ

車いすバスケットボール 川原凜選手

マシンとマシンのぶつかり合う迫力、 多様な連携プレーの魅力を伝えたい

——東京2020パラリンピック銀メダル獲得おめでとうございます。車いすバスケットボールに大きな扉が開かれたと思います。

川原選手 決勝でアメリカと競ったことや、準決勝でイギリスを相手に「走るバスケットボール」で勝てたということは、本当に大きな収穫になりました。チームのテーマであった「ディフェンスで世界に勝つ」ということと、スローガンであった「一心」ということを一貫してやった成果で、本当にうれしく思っています。

——車いすバスケットボールを始めたきっかけと障害の程度について教えてください。

川原選手 生まれたときから脊髄空洞症という病気で下半身に障害があり、お腹の下くらいから感

覚がありません。1.5クラスです。病院で地元のクラブチームの監督に声をかけられたのがきっかけですが、車いすバスケットボールを描いた漫画「リアル」(井上雄彦^{いのうえたけひこ}作)の影響もありました。2012年、高校1年生から競技に取り組むようになり、高校を卒業して18歳で千葉ホークスに入団しました。

——ご自身はパラリンピック初出場でした。

川原選手 最初は緊張して硬くなってしまいましたが、2戦目の韓国戦からは本当に楽しんでプレーできました。

——イギリスに勝ったときはどんなお気持ちでしたか。

川原選手 2018年世界選手権で金メダルを獲得

した強豪チームなので、胸を借りる気持ちで準決勝に臨んだのですが、実感がなかったですね。

——川原選手はディフェンスをはじめ活躍されましたが、自分の中でこれはいいプレーだったと感じられたのはどの場面でしたか。

川原選手 イギリス戦でシュートを決めたシーンも印象的だったと思うのですが、決勝のアメリカ戦で、世界ナンバーワンのスティーブ・セリオ選手から意図的にファールを誘って取れたというのは本当に自信になりました。

——流れを引き寄せるようなプレーだったと思います。車いすバスケットボールにさらに関心が高まってきたと思いますが、車いすバスケットボールがさらに強くなるために県民の皆さんなどをお願いしたいことはありますか。

川原選手 健常者と障害者という偏見の目があって、これから先もその目はなくならないかもしれませんが、差は縮められると思うのです。そのつなぎ役をするのが私たちパラアスリートだと思っていますので、フラットな気持ちで応援いただけるとありがたいです。

——車いすバスケットボールの試合の迫力を会場で見ると、本当にアスリートの世界だというのが実感できると思います。

川原選手 そうですね。生で見ただけだと、迫力があって本当におもしろいスポーツなので、

機会があればぜひお越しいただければと思います。——今後の目標を教えてください。

川原選手 天皇杯の優勝は悲願です。また、2022年11月に開催される世界選手権で結果を出すということも目標にしています。追われる立場になり、勝ち続けていくということがまた重要になってくると思いますので頑張りたいと思っています。——車いすバスケットボールの魅力についてお伺いします。

川原選手 マシンとマシンがぶつかり合うので、「激しさ」が魅力の一つ。もう一つは、障害の重い人と軽い人が共にコートに出るという特徴があるのですが、その中で生み出される連携プレーというのが車いすバスケットボールのおもしろみだと思います。その魅力を今やらせてもらっている学校での講演やメディアなどを通して伝えていければと思っています。

——最後に、県民の皆さんへのメッセージをお願いします。

川原選手 千葉県民の皆さんは、車いすバスケットボールをはじめとするパラスポーツに対して本当に理解を持っていただいていると感じています。皆さんにもっとパラスポーツ、そしてパラアスリートを見ていただけるよう頑張っていきますので、これからも応援をよろしくお願いします。



練習中の川原選手



interview



車いすテニス男子シングルス決勝で戦う国枝選手

提供：Bob Martin / IOC / OIS / アフロ

車いすテニス 国枝慎吾選手

諦めないで一日一日力を尽くすことが 夢につながる

——シングルスでの金メダル獲得おめでとうございます。今回のパラリンピックでは、日本選手団主将として出場されましたが、どのような心境で大会に臨まれましたか。

国枝選手 主将として自分の活躍で引っ張ってきたいという気持ちは当然ありましたし、逆に言えば早期に敗退するわけにはいかないというプレッシャーもありました。また、自分自身のキャリアがおそらく終盤に差し掛かっているところで、こうして日本でパラリンピックが開催されるという奇跡的なめぐり合わせがあり、その大舞台へ臨

む気持ちは、それまでの大会とは比べものになりませんでした。最後の最後までちょっとハイな状態でプレーできたのは、ホームの力があったからだと思います。

——「俺は最強だ」という言葉を座右の銘とされているということですが、どのような思いでその言葉を選んだのでしょうか。

国枝選手 僕が世界10位だった2006年に、アン・クインさんというオーストラリアの有名なメンタルトレーナーからカウンセリングを受けたのがきっかけでした。僕がナンバーワンになりたいと言

ったら、「なりたい」ではなくて自分自身が「ナンバーワンだ」と断言するトレーニングから始めましょうと。

——最初にその話を聞いたとき、そのような方法で大丈夫なのかと思いませんでしたか。

国枝選手 当然半信半疑でしたが、何事もやってみないとわからないだろうと思いました。朝起きて鏡の前で「俺は最強だ」と自分に言って、ラケットに貼ったりもしました。世界10位だった僕が3カ月くらいでグランドスラムのタイトルを獲得して世界ランキング1位になったのは、メンタルがプレーに及ぼす影響がこれだけ大きいのかということを感じた瞬間でした。

——「ナンバーワン」ではなく「最強だ」としたことには何か意味があるのですか。

国枝選手 アン・クインさんから、気持ちが乗りやすいものを選び、自分でどんどん変えていきなさいというアドバイスから言葉を選びました。

——人間どうしても弱気になりますが、その言葉だけで乗り切れるものですか。

国枝選手 当然、裏づけが必要です。例えば風邪をひいて休んでいたのに「俺は最強だ」と言ってもプレーに表れないですし、裏でどれだけやっているかということが自信になるからこそ力になるのだと思います。

——けがなどの困難にぶつかったとき、どのようにして乗り越えてきましたか。

国枝選手 トレーナーやドクター、妻の支えもありますし、自分自身でもどうしたらけがをしないように打てるのかと、人体の構造を研究したりも

しました。

——パラスポーツの発展のためにどのような取り組みが必要だと思いますか。

国枝選手 選手自身が技術や力を見せることで興味を持ってもらえるコンテンツにしていかないと継続しません。見る人の想像を超えるプレーが競技の盛り上がりにつながると思います。

——国枝選手にとって車いすテニスの魅力、難しさはどのようなところでしょうか。

国枝選手 ショットと車いすの操作という両方のテクニックが必要というところが魅力だと思います。一方で、健常者がサイドステップを踏めるところで車いすではターンしないと横に動けないので、相手から目を離さなければなりません。そういったところが難しさです。

——テニスは健常者と戦えるスポーツですね。

国枝選手 そうですね。僕は1年間のうち8割くらい健常者とプレーしていて、本当に健常者と障害者の垣根が低い競技だと思います。ルールもツーバウンドまでの返球が許されるというところ以外変わりませんし、トップになればなるほどツーバウンドで取ることも少なくなります。僕も7、8割くらいはワンバウンドもしくはノーバウンドです。

——最後に、ご自身の経験を踏まえて、子どもたちにメッセージをお願いします。

国枝選手 やはり日々の積み重ねで世界1位になり、こうしてパラリンピックのチャンピオンになることができました。諦めないで一日一日とにかく力を尽くすことが夢につながると思います。



笑顔でインタビューに応える国枝選手



日本国旗を手にガッツポーズ

© ロイター/アフロ



interview

バドミントン女子シングルスと女子ダブルスで金メダルを獲得した里見選手

© 松尾／アフロスポーツ

バドミントン

さと み さ り な

すぎ の あ き こ

む ら や ま ひ ろ し

里見紗李奈選手、杉野明子選手、村山浩選手

新たな出会いが人生を変える

——バドミントンは東京2020大会でパラリンピックに初めて採用されましたが、日本代表で合わせて、金3個、銀1個、銅5個、計9個のメダルを獲得するという素晴らしい成績でした。

村山選手 私はシングルスでは4位入賞でしたが、ダブルスでは梶原大暉選手と組んで銅メダルを獲得することができました。

杉野選手 私はシングルスと混合ダブルスで、どちらも銅メダルでした。パラリンピックが日本で開催されたことによって、テレビを通してでしたが、実際にプレーを見ていただくことができ、「見たよ」「よかったね」という言葉をたくさんいただきました。3年後のパリ大会に向けて、ここからまたスタートしていきたいと思っています。

里見選手 私はシングルスとダブルスの両方で金メダルを獲ることができました。今回コロナ禍で大会が開催されたこと自体が嬉しいことでしたし、パラリンピックの舞台に立てたことも金メダルを2つ獲ることができたことも、とても嬉しく思っています。

東京パラリンピックはパラバドミントンを知ってもらえるチャンスだと思っていたので、「パラバドミントンっておもしろいな」「こんなスポーツがあったのか」といった書き込みをネットで見つけると、知ってもらえるきっかけを作れたなと思いました。パリに向けて引き続き頑張っていきたいです。

——村山選手はパラバドミントン界のパイオニア



女子シングルスと混合ダブルスで銅メダルを獲得した杉野選手

© アフロスポーツ



男子ダブルスで銅メダルを獲得した村山選手

© アフロスポーツ

的な存在ですが、長らく活動されてきて、ここまでの活動を振り返っていかがですか。

村山選手 私はパイオニアでも何でもなくて、ただ自分でチームを作って体育館の予約をしているだけですが、34歳のとき病気で障害を負っていろいろなことができなくなり、会社も辞めざるを得なくなりました。私は今47歳ですが、近所に

千葉県障害者スポーツ・レクリエーションセンター（千葉市）があり、バドミントンと出会ったことで新たな目標を持つことができましたし、やはりバドミントンがあったからこそ人生の幅が大きく広がったと心から思っています。

この競技や応援してくれている方々に恩返しをしたいと思ってきた中で、東京パラリンピックの



本番会場となる国立代々木競技場第一体育館を使っ
ての練習風景（東京都渋谷区）

左上：杉野選手、右上：村山選手、右下：里見選手



出場権をつかみ、銅メダルを獲得できたことは、
目標を持って臨んできた結果だと思っています。

当初、車いすバドミントンの競技人口は少な
かったですが、自身の競技力を上げながら、競技人
口を増やしたいと思って普及活動が続け、県の協
力もあり、だんだん競技人口が増えてきました。
その中の一人が里見選手で、初代女王として2つ
の金メダル獲得を成し遂げてくれたというのは本
当にすごく嬉しく思います。パラバドミントンに
は6つのカテゴリーがありますが、全体としては
まだ競技人口が少ないので今回パラバドミント
ンの認知度が上がったことを活かし、自身の競技
力向上だけでなく、普及など色々と活動してい
きたいです。

——杉野選手が競技を始めたきっかけは何でし
ょうか。

うか。

杉野選手 千葉県障害者バドミントンチームの
代表が普及活動の一環で私のいた中学校に來ら
れて、誘いを受けたのがきっかけです。

——試合で苦しい展開のときは、どのように自
分を奮い立たせていますか。

杉野選手 今大会は無観客だったということも
あって、コートでの声がテレビの前でも聞こえ
ていたのではないかと思います。私はリードして
いる場面でも、負けている場面でも、「大丈夫、大
丈夫」「次取れば大丈夫だから」と常に同じト
ーンでずっと自分に言い聞かせていました。苦
しい場面では応援してくださっている人たちの
顔が浮かぶものだという話を聞いていましたが、
それは本当で、ここまで応援してくれてあり
がとうという気持ち



バドミントンで金メダル3個、銀メダル1個、銅メダル5個のメダルを獲得した8人のメダリスト
前列左から2番目が里見選手、右から1番目が村山選手、後列右から2番目が杉野選手

© アフロスポーツ

も自分を後押ししてくれて、気持ちが引かずに押して行けたので、勝てたのではないかと思います。

里見選手 私も苦しい場面では声を出して自分を鼓舞して気持ちを盛り上げていこうとしていました。パラリンピックでは頭の切り替えもスムーズにできて、ここを落としても大丈夫だと思うことが次の展開につながったのではないかと思います。——里見さんは世界ランキング1位の選手として注目されていましたが、プレッシャーを楽しめるほうですか。

里見選手 取材でプレッシャーについて聞かれたときには、ないと答えましたが、考えていると夜中に足が震えるような感じになりました。世界ランキング1位、第1シードだと言われるのは気持ちがよくて、嬉しい部分ではありましたが、やはり結果を残さなければという気持ちもあり、結果を残せて本当にほっとしました。

交通事故で車いすになった後、父に連れられて村山選手のクラブで競技を始めたころは、趣味程度の気持ちでしたが、パラバドミントンに出会って人生が本当に変わりました。このように一歩踏み出して何かを始めてくれる人が増えれば嬉しいなと思います。

——応援してきた県民の皆さんへのメッセージを

お願いします。

里見選手 私は応援がプレーに影響するので、本当なら沢山の方々に会場でバドミントンを観ていただきたかったですが、コート脇にいらっしゃるメディアの方のカメラの向こうで皆さんが応援してくれていると思うだけですごく力になりました。本当にありがとうございました。

杉野選手 たくさんの応援のおかげで、いま自分がここに立てているのだと思っています。実際にプレーを見ていただくことはできませんでしたが、メディアを通してパラリンピックを見ていただくことができ、今まで知らなかった人にも知ってもらえたというのが嬉しいことだと思います。私は生まれも育ちも千葉県で、本当に地元の力がパワーになりました。今後も頑張っていきたいと思っていますので、引き続き応援をよろしくお願いします。

村山選手 もう感謝しかありません。会場は代々木で千葉県ではありませんでしたが、本当にたくさんの人から応援や激励のメッセージをいただいて、震えるくらい嬉しかったです。苦しい局面でも応援が背中をぐっと押してくれていました。また、パリ大会を目指して頑張りますので、応援のほどよろしくお願いします。



声援を届けよう～私たちの東京2020大会 in CHIBA ～

千葉県では、東京2020大会の感動と興奮をより多くの人々が共有できるように、大会期間中、東京2020組織委員会との共催で、幕張メッセ近くの県立幕張海浜公園において「東京2020ライブサイト」の開催を予定していた。ライブサイト会場では、大型スクリーンでの競技中継やステージイベント、大会パートナーの出展などを行い、また、ライブサイトの隣接地では、市町村や経済団体等と連携し、県内各地の観光情報の提供や特産品の販売などを行う県主催のPRイベントも開催する予定であった。

両イベントは、実施競技が集中し、集客が見込める土曜日と日曜日に開催することとし、オリンピック期間は2021年7月31日と8月1日に、パラリンピック期間は同年8月28日と8月29日に行う予定で準備を進めていた。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、千葉県では、当初見込んでいた感動と興奮の共有や県のPR等の事業目的を達成することは難しいと判断して、2021年6月10日、両イベントの中止を決定した。

また、7月1日から7月3日までの3日間で実施したオリンピック聖火リレーでは、聖火ランナーの走行を取りやめ、代わりにセレブレーション会場において無観客での点火セレモニーを実施した。これにより、沿道での聖火ランナーへの応援やステージで予定した演奏などのイベントは中止となった。

このため千葉県では、ライブサイトのステージへの出演等を通して大会に参画することを楽しみにしていた人たちの思いが伝わるよう、「声援を届けよう ～私たちの東京2020大会 in CHIBA～」を県のホームページ上で立ち上げた。ホームページでは、ライブサイトのほか、聖火リレーのセレブレーションに出演予定であった団体による合唱やダンスなどの映像を掲載。そのほか、聖火リレーの沿道やセレブレーションを飾る予定であった制作物、大会時に会場周辺を飾るひまわりを添えた応援メッセージなども紹介した。

◆ 聖火リレーやライブサイトなどへの出演を予定していた団体のパフォーマンス映像など

■ パフォーマンス映像



柏市立柏高校吹奏楽部／演奏（柏市）



市民合同合唱チーム／合唱（松戸市）



Candy Girls／チアダンス（松戸市）



子どものための箏クラブ in ちば（千葉県三曲協会）／演奏



あさひ少年少女合唱団／合唱（旭市）



きみつ少年少女合唱団／合唱（君津市）



船橋市立行田中学校管弦楽部／演奏（船橋市）



Halau Na Lehua O Laulea／フラダンス（いすみ市）



松戸市消防音楽隊／演奏（松戸市）



富津市立大佐和中学校吹奏楽部／演奏（富津市）



のさか太鼓／演奏（匝瑳市）



和太鼓USÂGI／演奏（鎌ヶ谷市）



スポーツ少年団 勝山会／空手演武（鋸南町）



和太鼓 風／演奏（いすみ市）



県立君津商業高校・県立天羽高校吹奏楽部／演奏（富津市）



松戸商工会議所女性会・小金原9丁目太鼓・聖徳大学
／東京五輪音頭-2020-（松戸市）



松戸ダンスアカデミー／ダンス（松戸市）



Baton Team T's Y／バトントワリング（市川市）



B&G香取市小見川海洋クラブ／カヌー競技披露（香取市）



光栄VERITAS中学校・高校／バトントワリング（松戸市）



富津市立富津中学校吹奏楽部／演奏（富津市）



昭和学院中学校・高校／バトントワリング（市川市）



千葉交響楽団／演奏（千葉市）

■ 応援メッセージ



一宮町在住のサーフィン日本代表・大原洋人選手、
がんばれ！！
一宮町立東浪見小学校／東浪見基句（一宮町）



鈴木朋樹選手（館山市出身）、貴田裕美選手（市ふるさと大使）、
がんばれ！
館山市立豊房小学校／リズム体操とよさこいソーラン（館山市）



打倒コロナ！打倒世界！誇りと勇気を胸に！
ガンバレ日本!!
ピア・ダンス研究会／ダンス（匝瑳市）



オリパラ大会がアスリートの輝ける舞台になる事を願っています！
輝貌／よさこいソーラン（浦安市）



共に未来へ、共生社会の炎を
学生団体おりがみ／Earth Light Project（千葉市）

〔サポートランナー（セレブレーション会場等で聖火ランナーをサポート）に選出された子どもたち〕



金メダルを目指してがんばってください！
心から応援しています！
／長生村選出サポートランナー



皆さんの活躍で日の丸を世界中に轟かせて
きて下さい。応援しています。
／長南町選出サポートランナー



ランナーがつかないだ聖火には、私たちの想い
も込められています！
／山武市選出サポートランナー



完全燃焼ガンバレ！日本！
／市川市選出サポートランナー



・日本代表の皆さん、練習の成果を發揮して大会を盛り上げてください！
・日本選手のみなさん、応援しています。がんばってください！
／香取市選出サポートランナー



明るい気持ちになる大会になることを祈っています。
／銚子市選出サポートランナー



あたたかい気持ちも繋がっていきますように。
皆さんの活躍を願っています。
／長柄町選出サポートランナー



コロナに負けず力を出し切ってください！がんばれニッポン！
／白子町選出サポートランナー



積み上げた努力を信じて最後まで全力プレーで目指せ金メダル！！
／茂原市選出サポートランナー

◆ 聖火リレーの沿道を飾る予定だった応援横断幕など

■ 君津市内の小・中学校、高校の児童・生徒による手作りの応援横断幕



外箕輪小学校



坂田小学校



周西小学校



周南小学校



貞元小学校



小系小学校



小櫃小学校



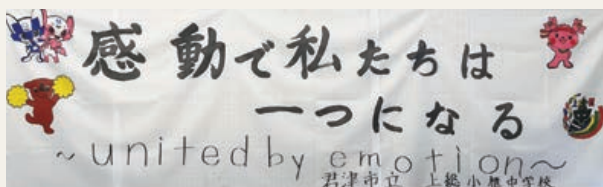
清和小学校



南子安小学校



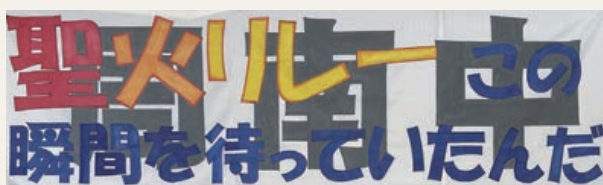
北子安小学校



上総小櫃中学校



君津中学校



周南中学校



県立君津高校



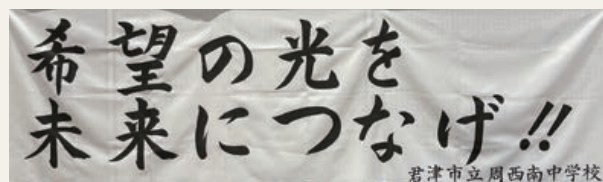
上総小学校



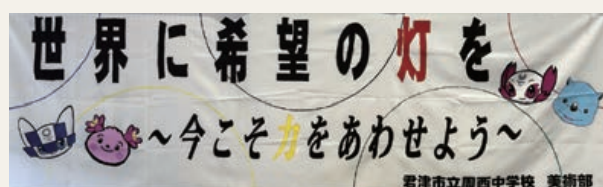
大和田小学校



八重原小学校



周西南中学校



周西中学校



周東中学校



八重原中学校

■ 富津市内の小・中学校の児童・生徒による寄せ書き



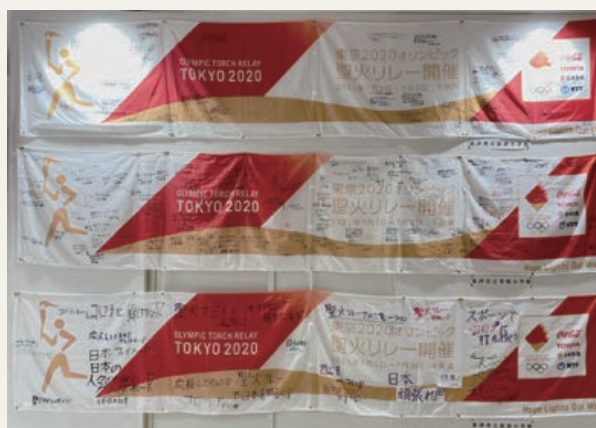
大佐和中学校・吉野小学校・佐貫小学校



飯野小学校・大貫小学校



天羽中学校・天羽小学校・環小学校



富津中学校・青堀小学校・富津小学校

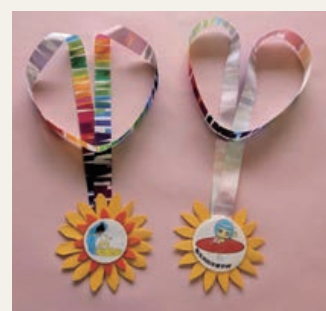
■ その他聖火リレー沿道や セレブレーション会場を飾る予定だった制作物



外房16市町村の小学生による合同制作
ひまわり（折り紙）のメッセージボード



山武市民の合同制作 笑顔のフォト
モザイクアート



県立長生特別支援学校の児童・生徒が
聖火ランナーのために作ったロゼット
メダル



県立君津高校・県立君津青葉高校栽培
沿道装飾用プランター

◆ 学校連携観戦プログラム参加予定校・おもてなしCHIBAプロジェクト参加団体からの応援メッセージ

■ 学校連携観戦プログラム参加予定校



自分の力を出し切って、最高の喜びや感動を味わってください。
／香取市立小見川北小学校



フェンシングカッコいい！がんばれ日本！フレイフレイ日本！！
／県立松戸特別支援学校



勇気をありがとう！世界にはばたけ！／東葉高校（船橋市）



全力でスポーツに取り組む選手のみなさんを応援しています！
／成田市立向台小学校



一生懸命、旗を作ったので世界を目指して頑張ってください！
／船橋市立二宮小学校



世界のアスリートのみなさん、ベストを目指してがんばれ！／県立東金特別支援学校

BIG WAVEの先の景色を！「結果≦経験」～明聖日本最推し～
／明聖高校（千葉市）





ROCフェンシングチームも日本もがんばれ！／長柄町立長柄小学校



頑張れ日本！応援しています／習志野市立香澄小学校



がんばれニッポン！全力ENJOY！
／市川市立国府台小学校



ガンバレ ニッポン！ ROC！／長柄町立日吉小学校



メダル目指して最善を尽くせ！！フェンシング日本・ROC代表！／長柄町立長柄中学校

■おもてなしCHIBAプロジェクト参加団体



こどもたちの夢をのせたひまわりです。活躍を楽しみにしています。／須賀保育園（匝瑳市）



みんな光輝け！金メダル目指してファイト！応援しています！／長生村立高根小学校



全力で挑戦！ファイトだ！オリンピック・パラリンピック！
／いすみ市立太東小学校4年1組



日本で開かれる最高のオリンピック！たくさんの金メダルを！
／いすみ市立太東小学校4年2組



つかめ勝利の栄光を！Go for it! Team Japan!
／いすみ市立太東小学校5年



Welcome to Japan！世界を明るく元気に！
／いすみ市立太東小学校6年



金メダルを目指して頑張ってください。みんなで応援しています！
／平和保育所（匝瑳市）



今までの練習の成果を信じ、金メダルを目指して頑張ってください！
／旭市立日の出保育所



ゴールに向かって力いっぱい頑張ってください。応援しています。／旭市立古城保育所



輝け！ Smile！！／一宮町立いちのみや保育所



力の限り最後まで！金メダル目指してがんばれ！／旭市立池の端保育所



フレー！フレー！ファイト！！応援しているみんなの声届け！／旭市立中央第二保育所



波に乘れ！波を超えろ！応援しています！頑張ってください！！／一宮町立一宮中学校



自分を信じて頑張れ！日本！！／匝瑳保育園（匝瑳市）



すべての波を乗り越えなせ！ Catch the wave／千葉トヨタグループ



TOKYO2020がんばれ!!日本!! みんなで応援してるので、頑張ってね／匝瑳市立豊和保育所



千葉県ゆかりの選手へのエール

東京2020大会には、千葉県出身や県内在住、県内学校卒業など、千葉県にゆかりのある数多くの選手が出場した。

ゆかりのある市町村や学校、企業等では、広報誌やホームページ、懸垂幕や横断幕等を活用して、それぞれゆかりのある選手を紹介するなど、さまざまな形でエールを送った。



館山市立房南中学校の生徒による鈴木朋樹選手への応援旗と応援うちわ



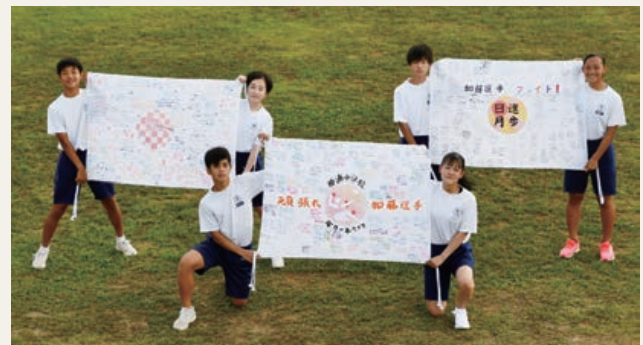
一宮町 大原洋人選手への応援懸垂幕と横断幕



流山市 岩田悠希選手、竹守彪選手杜行会（県立特別支援学校流山高等学園）



市原市 秦由加子選手の杜行会 姉崎中学校の生徒による応援旗



勝浦市立勝浦中学校の生徒による加藤昌彦選手への応援旗



君津市 廣瀬隆喜選手の試合をオンラインビューイング



君津市 県立君津特別支援学校の児童・生徒による廣瀬隆喜選手への応援横断幕



鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校の生徒による竹内望選手への応援旗と横断幕



多古町
土井レミイ杏利選手への応援懸垂幕



成田市 並木月海選手、橋本大輝選手の出場を祝う横断幕とのぼり



白井市 安藤美希子選手への応援横断幕



野田市立第二中学校の生徒による
戸邊直人選手への応援メッセージ



野田市 大岩千未来選手、戸邊直人選手
の出場を祝う懸垂幕



松戸ジュニアレスリングクラブによる応援旗（須崎優衣選手、皆川博恵選手）





東京2020大会メダリストへ千葉県県民栄誉賞・知事特別賞・知事賞を贈呈

千葉県は、2021年11月、東京2020大会においてメダルを獲得した千葉県ゆかりの選手に県民栄誉賞・知事特別賞・知事賞を贈呈する表彰式を実施した。

表彰式で熊谷俊人知事は「新型コロナウイルス感染拡大の中で、県民に勇気と元気を与えていただきました。皆さんの一つ一つのプレーや、1年延期という前代未聞の環境の中でも集中力を切らさず大会に向け準備をされてきた道のりに、心から敬意を表したいと思います」とあいさつし、メダリストの栄誉をたたえた。



熊谷知事から受賞者へ表彰状を贈呈



受賞者と熊谷知事による記念撮影



「チーバくん」から副賞（ちばの逸品詰め合わせやチーバくんのぬいぐるみ）を贈呈

県民栄誉賞

広く県民に敬愛され、社会に明るい希望と活力を与えるとともに、千葉県の名を高めることに顕著な功績のあった方の栄誉をたたえて表彰

オリンピック

- 野球 金メダル
近藤健介選手（千葉市出身）
- ソフトボール 金メダル
市口侑果選手（木更津総合高校卒業）
- 体操競技男子個人総合 金メダルほか
橋本大輝選手（成田市出身など）
- 柔道男子100kg級 金メダルほか
ウルフアロン選手（東海大学付属浦安高校卒業）
- レスリング女子フリースタイル50kg級 金メダル
須崎優衣選手（松戸市出身）

パラリンピック

- バドミントン女子シングルス 金メダルほか
里見紗奈選手（八街市出身など）
- 水泳男子100m自由形 金メダルほか
鈴木孝幸選手（浦安市在住）

知事特別賞

県民栄誉賞に匹敵する功績があった方を表彰（過去、金メダル獲得により県民栄誉賞を受賞）

オリンピック

- ソフトボール 金メダル
峰幸代選手（木更津総合高校卒業）

パラリンピック

- 車いすテニス男子シングルス 金メダル
国枝慎吾選手（柏市出身など）

知事賞

千葉県の発展に寄与した方、県民の福祉の増進に功労のあった方、その他広く県民の模範となる方を表彰

オリンピック

- バスケットボール女子 銀メダル
赤穂ひまわり選手（昭和学院高校卒業）
林咲希選手（柏市在勤など）
宮崎早織選手（柏市在勤など）
宮澤夕貴選手（過去に柏市在勤など）
三好南穂選手（市川市出身）
- ボクシング女子フライ級 銅メダル
並木月海選手（成田市出身）
- ゴルフ女子 銀メダル
稲見萌寧選手（四街道市在住など）
- 体操競技男子団体 銀メダルほか
萱和磨選手（順天堂大学卒業）

- 体操競技男子団体 銀メダル

谷川航選手（順天堂大学卒業）

- ウエイトリフティング女子59kg級

銅メダル

安藤美希子選手（白井市出身）

パラリンピック

- 陸上競技4×100mユニバーサルリレー

銅メダル

鈴木朋樹選手（館山市出身など）

- バドミントン男子ダブルス 銅メダル

村山浩選手（四街道市出身など）

- バドミントン女子シングルス 銅メダルほか

杉野明子選手（市原市出身など）

- ボッチャ混合ペア 銀メダル

高橋和樹選手（千葉商科大学卒業）

- ボッチャ混合チーム 銅メダル

廣瀬隆喜選手（君津市出身など）

- 柔道女子70kg級 銅メダル

小川和紗選手（市原市出身など）

- 車いすバスケットボール男子 銀メダル

川原凜選手（千葉市在住）

香西宏昭選手（千葉市出身など）

- 車いすラグビー混合 銅メダル

池崎大輔選手（浦安市在住）

今井友明選手（我孫子市出身など）

羽賀理之選手（松戸市出身など）

第2部

東京2020大会に向けて

大会後を見据えたCHIBAの取り組み



オール千葉の体制づくり

1

取組方針と推進体制

基本方針の策定

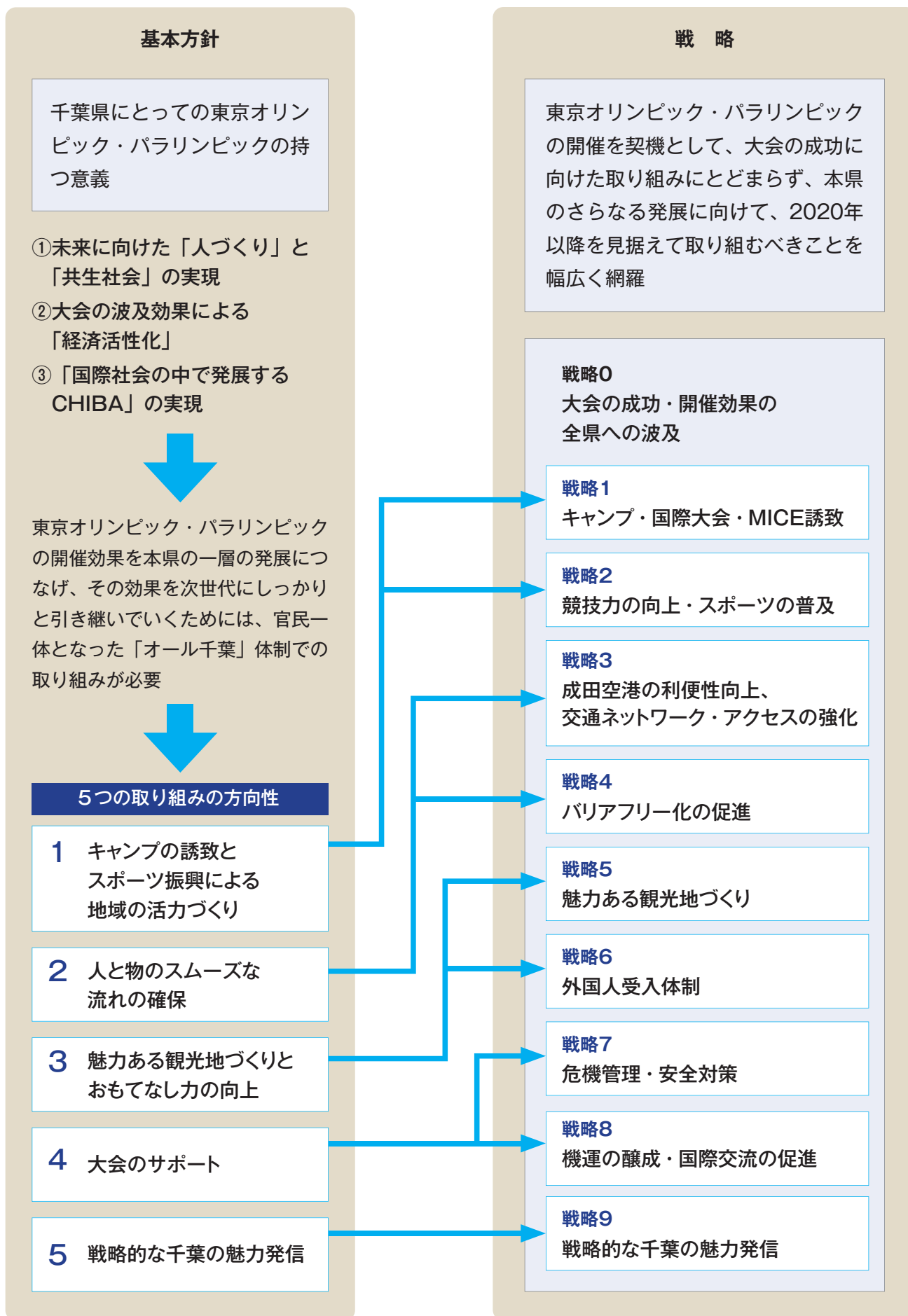
2013（平成25）年9月、アルゼンチンのブエノスアイレスで開かれたIOC総会で2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市が東京に決定した。

千葉県では、オリンピック・パラリンピックの開催は、国や世代、文化を越えた交流を通じて、日本を夢や希望にあふれた社会にする千載一遇のチャンスと捉え、1964（昭和39）年の東京オリンピック

で先人たちが素晴らしい財産を残してくれたように、私たちだけでなく次世代を担う子どもや孫たちが恩恵を得られるよう、千葉の魅力を高める未来への投資を行い、本県の発展につながる「宝」づくりに取り組んでいくこととした。そして、千葉県は2013年11月に千葉県知事を本部長とする「千葉県東京オリンピック・パラリンピック戦略推進本部」を設置した。翌2014年4月には「2020年東京オリンピック・パラリンピックに係る基本方針策定協議会」を設置して具体的な施策の内容を検討し、同年7月



オール千葉初の機運醸成イベント（イオンモール幕張新都心）



に「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組の基本方針」を策定。企業、団体、大学、行政などが、互いに取組みの方向性を共有しながら連携し、相乗効果を生み出していくため、「オール千葉」体制で取り組むこととした。

「2020年東京オリンピック・パラリンピック CHIBA推進会議」の設置と千葉県の戦略

基本方針の策定を受けて、2014年11月、経済、交通、観光、スポーツ、文化、国際交流、行政の各分野を代表する有識者の参画を得て「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」を設置した。また、推進会議の下に9つの専門部会を設置し、具体的な取組みについて検討を行い、翌2015年3月には「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」を策定した。

この戦略は、基本方針の5つの方向性に沿って、①「キャンプ・国際大会・MICE誘致」、②「競技力の向上・スポーツの普及」などの9つの戦略で構成され、オリンピック・パラリンピックの成功に向

けた取り組みにとどまらず、県のさらなる発展に向けて、2020年以降を見据えて取り組むべきことを幅広く示した。

2015年6月、オリンピック3競技（フェンシング、テコンドー、レスリング）が千葉市の幕張メッセで開催されることが決定。県内での開催決定に伴い、2015年10月には新たに「戦略0」として、「大会の成功・開催効果の全県への波及」を追加するとともに、既存の9戦略の改訂を行った。

本戦略に基づき、各主体がそれぞれ相互に連携し、大会後も見据えた、本県の持続的な発展につながるさまざまな取り組みが県内各地で展開された。



2020年東京オリンピック・パラリンピック CHIBA推進会議（2019年3月）

みんなで応援！千葉県経済団体協議会の設立

2017年7月、千葉県内の経済団体が一丸となり、オール千葉体制のもと東京2020大会等の成功と、その取り組みを通じて活力ある地域づくりに資することを目的に、「みんなで応援！千葉県経済団体協議会」が設立された。同協議会は、県内の主要経済6団体（千葉県経営者協会、千葉県経済同友会、千葉県経済協議会、千葉県商工会連合会、千葉県中小企業団体中央会、千葉県商工会議所連合会）によって構成され、①団体横断的・統一的に取組可能な独自の活動、②行政との連携・協力による活動、③他

分野の団体等との連携による活動を柱に、「おもてなし」（声かけ・サポート運動や美化活動の展開、講習会の開催）、「機運の醸成」（競技紹介パネル・ポスターの掲示やスポーツ応援運動の展開）、「情報の発信」（県内企業の取組状況の一体的発信）の事業を展開した。

オール千葉初の「千葉にオリンピック・パラリンピックがやってくる！」

2017年8月には、千葉県、千葉市、みんなで応援！千葉県経済団体協議会、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会の共催により「千葉にオリンピ



オール千葉初の機運醸成イベントにおけるテコンドーのデモンストラーション



オリンピック・パラリンピック等経済界協議会が開催したボッチャ体験会（イオンモール幕張新都心／3年前イベント）



「千葉にオリンピック・パラリンピックがやってくる！」のチラシ



千葉交響楽団によるオープニングアクト



車いすフェンシングステージ



車いす体験会



学生×よしもと2020夢を語ろう！



音と光の体験型メディアアート
「PLAY THE WHEELS」

千葉市が3年前カウントダウンイベントの一つとして実施。スピーカーやLEDをつなげた特別なスポーツ用の車いすに乗り、車輪の動きに合わせて奏でられる音や光の変化を楽しんだ。

ック・パラリンピックがやってくる！」をイオンモール幕張新都心で開催。東京2020大会に向け、千葉県、千葉市、経済団体等が連携して取り組んだ初の機運醸成イベントとなった。

会場内では、県内開催競技であるテコンドー、フェンシング、車いすフェンシングの競技紹介ステージに加え、千葉交響楽団による演奏やチアリーダー

体験会など、さまざまなイベントが実施された。また、オープニングセレモニーではスポーツ庁の鈴木大地長官、2016年リオデジャネイロオリンピックのレスリング金メダリスト川井梨紗子選手などがゲストとして登場したほか、吉本興業の人気芸人が各イベントに登場し、会場を盛り上げた。



官民学連携セミナー「オール千葉で盛り上がろう！」(2018年)

県内の経済団体との連携

2018年1月、千葉商工会議所において官民学連携セミナー「オール千葉で盛り上がろう！～東京2020大会の成功とレガシーの創出に向けて～」を千葉県、千葉市、一宮町、みんなで応援！千葉県経済団体協議会の共催で開催した。セミナーでは、(公財)日本障がい者スポーツ協会の高橋秀文常務理事による講演「共生社会実現への道」や、千葉市在住のパラバドミントンの村山浩選手によるパラアスリート雇用についての講話、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会や千葉大学・帝京平成大学の学生による取組事例の発表、競技会場やホストタウンにおける事例紹介が行われ、約200人が来場した。

そして東京2020大会開催を直前に控えた2021年7月には、新型コロナウイルス感染症の影響によって経済社会が様変わりした中で、オンラインセミナー「オリンピック・パラリンピック開催に向けてのこれまでの取り組みの成果と今後の千葉市経済の活性化に向けて」を開催（千葉商工会議所主催）した。基調講演では、神谷俊一千葉市長がこれまでの取り組みを通じた千葉市の都市としての成長について総括し、パネルディスカッションでは、千葉大学の神野真吾准教授が文化芸術を専門とする立場から「そこにしかない要素の魅力」に気づくことの大切さについて具体的な事例を通して説明。さらに千葉商工会



千葉商工会議所の会報誌「夢シティちば」
2021年7月号（サーフィン特集）

議所の粟生雄四郎副会頭は、おもてなしやまちづくりなど、経済界としての取り組みの成果を発信した。

また千葉商工会議所は、会員企業向けに毎月発行している会報誌「夢シティちば」において、千葉県、県立中央博物館と連携して、県内で開催される8競技のルールと見どころ、東京2020大会に出場する選手や千葉のスポーツ史などを紹介する記事を大会に向けて連載。開催前には、この連載記事を1冊にまとめた「ちば応援ガイドブック」を発行し、競技の普及や大会に出場する選手の応援につなげた。

「スポーツを応援するチーバくん」でいっぱいに

ラグビーワールドカップ2019日本大会をはじめとする国際スポーツ大会の開催や事前キャンプの誘致・受け入れ準備などが進められる中、2019年1月、千葉県はスポーツをオール千葉で応援する機運を一層高めるため、千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」の新しいデザインとなる「スポーツを応援するチーバくん」を発表した。2010年の「ゆめ半島千葉国体」「ゆめ半島千葉大会」のマスコットキャラクターとして誕生して以来、多くの人に愛されている「チーバくん」が、スポーツを“する”“みる”“ささえる”人を応援し、みんなでスポーツを盛り上げていくイメージで制作された。

これを受けて、「みんなで応援！千葉県経済団体



千葉県・千葉市・千葉商工会議所の連携により、千葉銀座商店街に掲出された東京2020大会エンブレムのバナーフラッグ（左）とスポーツを応援するチーバくんのバナーフラッグ（右）



「ちば応援ガイドブック」



スポーツを応援するチーバくんを使用したグッズ



JOC パートナー都市のロゴ

JOCパートナー都市としての取り組み

2016年2月、千葉県と日本オリンピック委員会（JOC）は、国際競技力の向上やオリンピック・ムーブメントの推進、スポーツ振興等で積極的に連携・協力することを目的に「JOCパートナー都市協定」^{▶1}を締結し、同年から県内の公立中学校の2年生を対象とした「JOCオリンピック教室」（p.182参照）を開催するなど、各種オリンピック・ムーブメント推進事業を実施している。

同協定の締結対象は、国際スポーツ大会や国際スポーツ会議の開催経験を持つ都市、JOCとオリンピック・ムーブメント事業を長期的に連携・実施することを具体的なスポーツ施策に取り入れた都市で、千葉県は20番目の締結都市となった。なお、同協定では、東京2020大会以降もJOC・協定都市の双方にとってメリットのあるオリンピック・ムーブメント

▶1 2001年度、自治体が所有するスポーツ施設をトップアスリートの強化に活用し、競技力向上を図るためにスタート。初期の目的が概ね達成された2018年度にパートナー都市の位置づけが見直された。

協議会」は、2019年3月のオリンピック500日前イベントを契機として、千葉県内を「スポーツを応援するチーバくん」と県内開催競技のチーバくんでいっぱいにする運動を推進。その一環として、ステッカーや卓上のぼりを制作し、企業の店舗やオフィス、社用車などに展開した。

また同年7月には、開催1年前に合わせて、東京2020大会エンブレムとスポーツを応援するチーバくんのデザインを活用したバナーを千葉駅周辺の商店街に掲出するなど、経済界や行政などが連携して一体感のある取り組みが展開された。



フェンシング三宅諒選手によるJOCオリンピック教室（浦安市立浦安中学校、2016年）



第15回JOCスポーツと環境・地域セミナー（2019年）



ビーチクリーン・キャンペーンの紹介

ント推進事業を実施していくことになっている。

2019年10月には、連携事業の一環として「第15回JOCスポーツと環境・地域セミナー」（JOC主催、幕張メッセ）が開催され、県内のスポーツ関係者など約120人が参加した。

JOCは、「スポーツと環境の関わり」をテーマに環境問題がもたらすスポーツへの影響について参加者に訴えかけたほか、東京2020組織委員会が取り

組んでいる「みんなの表彰台プロジェクト」、「スポーツごみ拾い」などを紹介。また千葉県は、県内の環境保全に向けた取り組みとして、2019年から実施している「ビーチクリーン・キャンペーン」や「ちばアクアラインマラソン」における木更津市内の住民による会場周辺の花植え活動「花いっぱい運動」、清掃活動「クリーン作戦」などを紹介した。

事前キャンプの誘致と ホストタウン交流

1

国際大会と事前キャンプ

国際大会・事前キャンプの誘致

国際大会や事前キャンプの誘致は、地域のイメージアップを図る絶好の機会であり、地域スポーツのレベルアップや施設の有効活用、さらに交流人口の増加による地域の活性化につながることが期待できる。千葉県は、東京2020大会の開催を契機に、県内市町村や関係者等と連携し、国際大会や大会に伴う事前キャンプの誘致を進めた。

2015年世界陸上北京大会

2015（平成27）年開催の第15回IAAF世界陸上競技選手権（世界陸上北京大会）に向けて、海外の代表チームが日本国内で事前キャンプ地を探す動き

が見られたことから、千葉県は、成田空港を有するという利点を生かして、アメリカおよびオランダの事前キャンプ誘致に向けて取り組んだ。



アメリカ代表チームによる体験イベント



アメリカ代表チームの
練習風景



風鈴の絵付け体験をするオランダ代表チーム



昭和学院秀英中学校・高校によるオランダ代表チームの書道体験



県内の中学生と高校生を対象としたオランダ・ベルギー代表チームのコーチによる陸上クリニック参加者全員での記念写真

アメリカ代表チームの事前キャンプについては、順天堂大学、成田市、佐倉市と連携し、共同での誘致を推進した。2014年10月には関係者が県内の練習会場候補の陸上競技場や宿泊候補のホテルなどを視察。競技施設が充実していることなどが高く評価され、2015年1月にアメリカ代表チームの世界陸上北京大会の事前キャンプ地として選定された。8月10日から25日まで、中台運動公園（成田市）、岩名運動公園（佐倉市）、順天堂大学さくらキャンパス（印西市）が練習会場として利用され、事前キャンプには185人の選手・コーチが参加した。8月17日には、中台運動公園陸上競技場（成田市）で公開練習を行ったほか、選手やコーチによる交流イベントや歓迎セレモニーも行われた。

一方、オランダ代表チームについては、同チームと親交の深いベルギー代表チームとの合同合宿を想

定して、県立の千葉県総合スポーツセンター（千葉市）を練習施設とした誘致に取り組んだ。2014年10月、視察に訪れたオランダ、ベルギーの陸上競技連盟関係者から施設が高く評価され、翌2015年2月に世界陸上北京大会における両国の事前キャンプ地として選定された。事前キャンプは8月12日から23日まで行われ、オランダ代表チーム45人、ベルギー代表チーム30人が参加した。8月14日には、千葉県総合スポーツセンター陸上競技場で公開練習を行い、また、県内の中学生と高校生を対象とした代表チームのコーチによる陸上クリニックや歓迎セレモニーも実施された。

いずれのキャンプにおいても、県内の大学生や高校生が練習サポートや通訳のボランティアとして協力した。

2015IWBFアジアオセアニアチャンピオンシップ

車いすバスケットボールの国際大会である2015IWBFアジアオセアニアチャンピオンシップが、2015年10月、千葉ポートアリーナ（千葉市）で、2016年リオデジャネイロパラリンピック競技大会の地域予選を兼ねて開催された（（一社）日本車いすバスケットボール連盟主催、千葉県、千葉市共催）。

男子は12チームが参加し、上位3チームに与えられるリオデジャネイロ大会出場権をオーストラリア、イラン、日本が獲得した。また、女子は3チー

ムのうち優勝国のみがリオデジャネイロ大会へ出場できるという条件の中、中国が優勝し、日本は3位であった。

本大会は、千葉県、千葉市、日本車いすバスケットボール連盟が協力して誘致に成功した大会であり、千葉県と千葉市は共催者として運営に関わった。また、高校生、大学生、一般のボランティアが通訳や運営補助を行い、開会式や試合中のハーフタイムには県内の中学生や高校生がパフォーマンスを披露するなど、多くの県民が参加した大会となった。



3位決定戦の試合



千葉市立稲毛高校附属中学校の生徒によるエイサーのパフォーマンス



2015IWBFアジアオセアニアチャンピオンシップで銅メダルを獲得した日本代表チーム

2018年世界女子ソフト
ボール選手権 開会式



児童・生徒が作成した応援幕



多くの観客が集まった決勝戦

2018年世界女子ソフトボール選手権

2018年8月、千葉県内において、東京2020大会の予選会を兼ねた第16回WBSC世界女子ソフトボール選手権大会が開催された（世界野球ソフトボール連盟主催、千葉市、成田市、習志野市、市原市共催）。

各大陸の予選を勝ち抜いた16カ国・地域のチームが、ZOZOマリンスタージアム（千葉マリンスタージアム、千葉市）、ナスパ・スタジアム（大栄野球場、成田市）、第一カッター球場（秋津野球場、習志野市）、ゼットエーボールパーク（臨海球場、市原市）の4会場で11日間にわたる熱戦を繰り広げ、優勝はアメリカ、準優勝は日本、3位はカナダという結果であった。

この大会は、国際大会や東京2020大会の事前キャンプの誘致に取り組む「千葉県スポーツコンシェルジュ」（p.152参照）によって開催が実現した。事

前キャンプも県内各地で行われ、銚子市が台湾、印西市がカナダ、市原市と君津市がニュージーランド、市川市がイタリア、佐倉市がオランダとボツワナ、山武市がイギリス、長柄町が南アフリカを受け入れた。

会場の成田市では、児童・生徒が参加チームへの応援幕を作成し、各国の選手を応援。習志野市では、球場隣の多目的広場で訪日外国人に「日本の夏祭り」を体験してもらうイベントを開催し、市原市では、選手や来場者を地元グルメや特産品でおもてなしをするなど、さまざまな国際交流が実現した。

また千葉市では、東京2020大会の都市ボランティア募集開始に先立ち、2018年2月に約100人の都市ボランティアリーダー候補者を募集し、延べ250人がボランティア活動を実施。周辺施設や観光スポットの案内、対戦カードの情報提供などを行った。



南アフリカ代表歓迎セレモニー（浦安市）



がれきの撤去を手伝うアイルランド代表チームスタッフ（市原市）



カール・ボキノさんと柏ラグビースクールの子どもたちによるハカ（柏市）

ラグビーワールドカップ2019

ラグビーワールドカップ2019におけるキャンプには、大会期間中に選手団が滞在し練習を行う「公認チームキャンプ地」（（公財）ラグビーワールドカップ2019組織委員会が決定）と、大会開催前に選手団が滞在し練習を行う「事前キャンプ地」（自治体等と出場国が任意に決定）があり、県内の自治体は、それぞれのキャンプの条件や住民交流による効果等を勘案し、関係者等と連携して誘致を進めた。その結果、2018年7月、同組織委員会との契約締結により、市原市がアイルランド、浦安市がニュージーランド、オーストラリアおよび南アフリカの「公認チームキャンプ地」に決定した。

浦安市では、歓迎セレモニーや南アフリカ代表選

手による小学校訪問が行われた。

市原市では、地元の小学生との交流が行われたほか、「キャンプ中の対応へ恩返しをしたい」と、代表チームのスタッフが台風で被災した運動広場のがれきの撤去を手伝い、市民を勇気づけた。

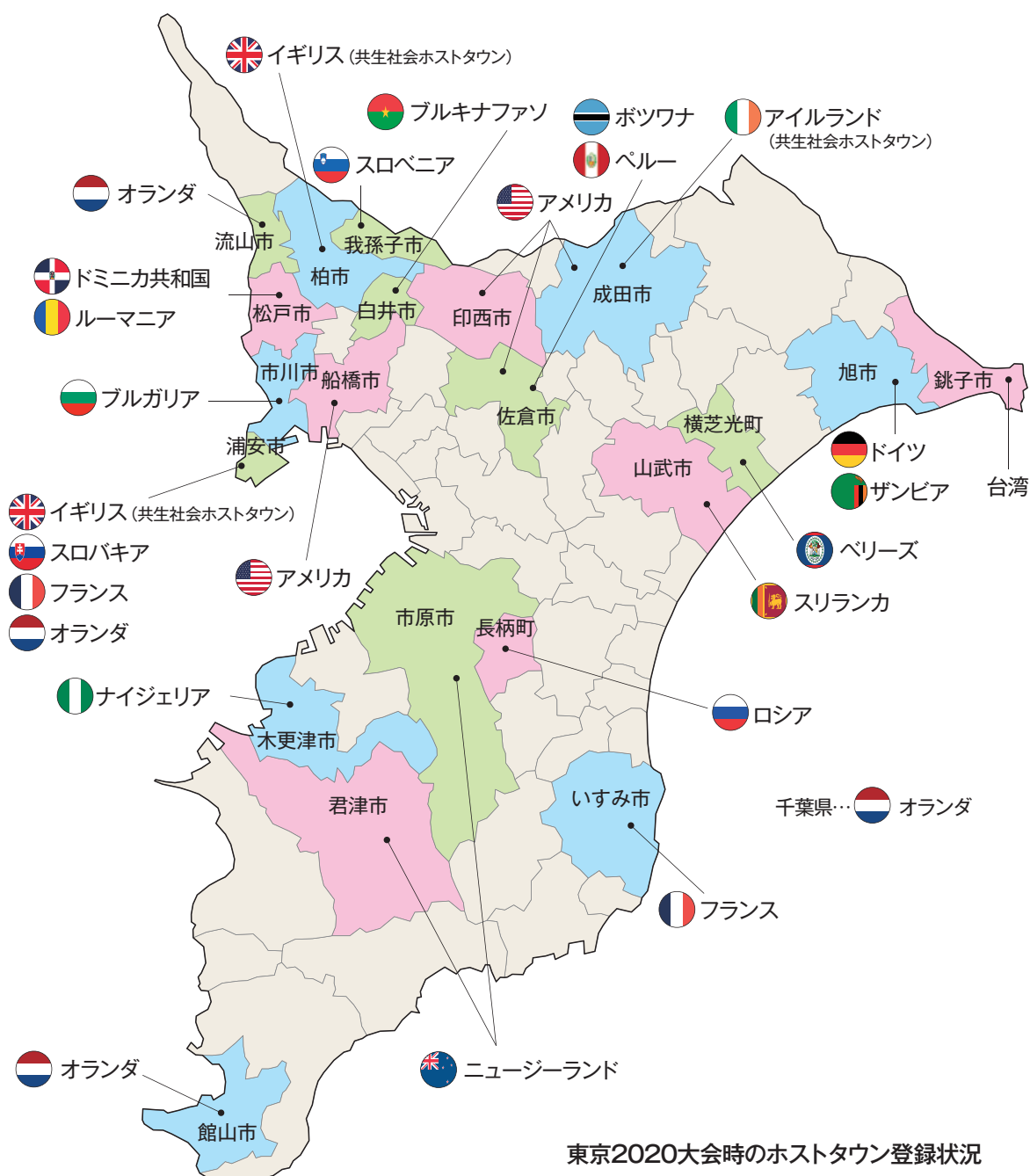
一方、柏市はニュージーランド代表「ALL BLACKS」の事前キャンプ地に決定した。事前キャンプでは、県立柏の葉公園総合競技場で市民との交流イベントを実施。柏ラグビースクールの子どもたちや流通経済大学付属柏高校ラグビー部の生徒たちが、選手と約7,000人のファンを前に、マオリ族の血を引くカール・ボキノさんが制作したオリジナルの「柏ハカ」を披露した。

千葉県内のホストタウンと事前キャンプ地

内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局は、東京2020大会を契機に、全国の地方公共団体と大会参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を通じ、スポーツの振興、教育文化の向上、共生社会の実現、地域活性化等に資する取り組みを行う地方公共団体

を「ホストタウン」として登録した。千葉県内では、従来からの国際交流を契機とした誘致や千葉県スポーツコンシェルジュの取り組みなどにより、県および21市町が、21カ国・地域のホストタウンとして登録された（共生社会ホストタウン3市を含む）。

また、県内では、東京2020大会開催にあたり、県および15市が14カ国の事前キャンプを受け入れた。



◆ 県内のホストタウンと東京2020大会事前キャンプ受け入れ

自治体	相手国・地域	事前キャンプ	ホストタウン登録
千葉県	オランダ	オリンピック	競泳、アーティスティックスイミング、水球女子、陸上
		パラリンピック	陸上
	アメリカ	オリンピック	水球女子
銚子市	台湾	－	－
市川市	ブルガリア	オリンピック	新体操
船橋市	アメリカ	オリンピック	体操男子
館山市	オランダ	オリンピック	マラソンスイミング男子、トライアスロン
木更津市	ナイジェリア	オリンピック	陸上、カヌー、ボート、卓球、テコンドー、レスリング
		パラリンピック	陸上、パワーリフティング、ボート、卓球
松戸市	ドミニカ共和国	オリンピック	テコンドー
	ルーマニア	オリンピック	陸上
成田市	カナダ	オリンピック	サッカー女子
	オランダ	オリンピック	3x3バスケットボール男子
	オーストラリア	オリンピック	陸上
	スロベニア	オリンピック	陸上
	アイルランド	パラリンピック	アーチェリー、陸上、パワーリフティング、水泳、卓球
佐倉市	ボツワナ	－	－
	ペルー	－	－
	ドイツ	オリンピック	レスリング女子
佐倉市・成田市・印西市	アメリカ	－	－
旭市	ドイツ	－	－
	ザンビア	－	－
柏市	イギリス	パラリンピック	車いすテニス
市原市	オーストラリア	オリンピック	サッカー男子
	イスラエル	オリンピック	陸上、新体操
市原市・君津市	ニュージーランド	－	－
流山市	オランダ	オリンピック	ハンドボール女子、卓球
		パラリンピック	卓球
我孫子市	スロベニア	オリンピック	柔道女子、テコンドー男子
鴨川市	オランダ	オリンピック	サッカー女子
浦安市	イギリス	－	－
	スロバキア	オリンピック	陸上
	フランス	－	－
	オランダ	オリンピック	アーチェリー
印西市	アメリカ	オリンピック	体操女子
	オランダ	オリンピック	体操
	アイルランド	オリンピック	体操男子
白井市	ブルキナファソ	－	－
香取市	スロバキア	オリンピック	カヌー
山武市	スリランカ	－	－
いすみ市	フランス	－	－
横芝光町	ベリーズ	－	－
長柄町	ロシア	－	－

千葉県×オランダ

2015年8月に開催された世界陸上北京大会でオランダ陸上代表チームの事前キャンプを受け入れたことをきっかけに、千葉県は、東京2020大会での事前キャンプの誘致を進めた。千葉県の森田健作知事は、2016年7月に、オランダを訪問。オランダでは、KLMオランダ航空のエルバース社長兼CEOと面談し、オランダ陸上競技連盟およびオランダオリンピック委員会との橋渡しをしてもらったことへの謝意を伝えた。また、オランダオリンピック委員



千葉県とオランダの合意書署名式（2016年）



オランダリレー代表チームの練習（2019年）

会ボルハウス会長との最終交渉において、東京2020大会の事前キャンプを千葉県で実施することについて基本合意に達し、合意書に署名した。

この基本合意により、さまざまな競技の事前キャンプを千葉県内各地で受け入れることとなり、オランダのオリンピック委員会・競技団体、県内市町村との調整を、千葉県が窓口となって進めていくこととなった。また基本合意に加え、オランダ競技関係者によるスポーツ教室の開催や交流事業の実施についても合意したことから、千葉県はオランダのホストタウンに申請し、2017年12月11日に登録された。

2019年5月には、IAAF世界リレー 2019横浜大会に向けて、オランダ代表チームが千葉県総合スポーツセンター陸上競技場を練習会場として事前キャンプを行った。5月6日には、オランダ代表チームの公開練習のほか、IAAF世界リレー 2019横浜大



万祝（まいわい）や和装の試着体験をするオランダリレー代表チーム（2019年）



公開練習を見学した中学生とオランダリレー代表チーム（2019年）

会国内アンバサダーの塚原直貴さん（2008年北京オリンピック男子4×100mリレー銀メダリスト）による陸上クリニック、プロ車いす陸上アスリートの廣道純さんによる講話などが実施された。

また2019年6月から7月にかけては、韓国・光州で開催された第18回世界水泳選手権大会に向けて、オランダ代表の競泳チームとアーティスティックスイミングチームが千葉県国際総合水泳場を練習会場として事前キャンプを実施。7月6日には、オランダ代表チームによる公開練習のほか、県内の高

校生を対象としたオランダ代表コーチによる水泳クリニックが行われた。

事前キャンプ以外の交流としては、2018年11月に経済・スポーツをテーマに、在日オランダ商工会議所の前会頭ハンス・ファン・デル・タンクさんを講師に迎えて講演会を行ったほか、2019年3月にオランダの魅力を紹介する「オランダを知ろう！ホストタウンイベント」（p.192参照）を開催した。また、2020年の冬には駐日オランダ大使館からチューリップの球根12種約1,000個が贈られ、チューリップ



アーティスティックスイミングチームの練習（2019年）



オランダ代表コーチによる水泳クリニック（2019年）



駐日オランダ大使館から贈られたチューリップ球根の開花の様子と植え付け参加者（2021年）



ちば・オランダサポーター提供の浴衣を着た選手（2021年）



ちば・オランダサポーターが提供したおもてなしグッズ（2021年）

の名所として知られる佐倉ふるさと広場に佐倉市職員や佐倉市観光協会、佐倉日蘭協会の協力のもと植え付けを行った。翌年の春には、開花したチューリップが多彩な景色を見せてくれた。

そして2021年の春、千葉県は事前キャンプの受け入れに向け、県全体でオランダチームを応援・サポートし、おもてなしの気持ちを伝えるため、県内の企業・団体等から「ちば・オランダサポーター」を募集。新型コロナウイルス感染症の影響で交流が制限される中でも、浴衣やマスク、折り紙のギフトや千羽鶴といった日本の伝統を感じられるような記念品の提供、オランダ国歌の演奏や合唱など、積極的な応援・サポートが数多く集まり、オランダ代表チームを迎えることができた。

千葉県×アメリカ

2016年5月、千葉県、成田市、佐倉市、印西市、順天堂大学は、アメリカ陸上代表チームの東京2020大会事前キャンプの受け入れに合意したが、2021年4月、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、アメリカ陸上競技連盟から「選手の安全面に関して懸念が生じている」との理由で事前キャンプ中止の申し入れがあった。

一方、千葉県はオランダから水球女子代表チームの事前キャンプをアメリカと合同で実施したいとの依頼を受け、両国との調整の結果、合同での受け入れを決定した。アメリカ水球女子代表チームは、2021年7月14日から21日まで千葉県国際総合水泳場で事前キャンプを実施し、オランダ水球女子代表チームとの練習試合も行われた。大会では、アメリカ水球女子代表チームが金メダルを獲得した。



アメリカ水球女子代表チームの練習（2021年）



アメリカ水球女子代表チーム（2021年）



オランダオリンピック陸上代表チームの選手たち（上）／アーティスティックスイミング代表チームの練習（左下）
パラリンピック女子マラソン（T54 クラス）で銅メダルを獲得したニキータ・デン・ブル選手（右下）

オランダ代表チームの 事前キャンプ

千葉県がホストタウンになったオランダのオリンピック代表チームでは、水泳代表チーム（競泳、アーティスティックスイミング、水球女子）44人が、2021年7月11日から26日までの日程で千葉県国際総合水泳場（習志野市）において、陸上代表チーム55人（オランダ代表コーチに師事するスイス代表選手2人を含む）が、7月16日から8月2日までの日程で千葉県総合スポーツセンター陸上競技場（千葉市）において、それぞれ事前キャンプを実施

した。7月17日には、水泳代表チームを激励するため、熊谷俊人知事が千葉県国際総合水泳場を訪問。日本とオランダとの歴史的な交流に触れながら歓迎の意を表し、「事前キャンプを通して素晴らしい結果を残されることを期待します」と激励した。これに対し、オランダ水泳連盟テクニカル・ディレクターのアンドレ・カッツさんは、「皆さんの歓迎の気持ちを感じます。安全で素晴らしい練習環境を整えてくれていることに感謝しています。いよいよ始ま

1年間の思いを込めて

県立八千代高校家政科3年

あさだしょうこ
浅田祥子さん

ただきあいな
但木愛菜さん

約1年をかけて、40人の3年生全員で大小合わせて360個のオリジナルチーバくんを作りました。衣装は日本を意識してもらえよう「祭り」をイメージした法被で、水引で作った梅の頭飾りや漢字を書いたうちわ、開くと折り紙の祝い鶴が立ち上がるメッセージカードも付けました。カードには9種類の漢字に合わせた英語のメッセージを一つひとつ手書きしました。数が多いので裁断と縫製が本当に大変でしたが、オランダチームに手渡されたのを見たときは、苦労して作った甲斐があったとうれしくなりました。

また、制約が多い練習の中で日本食が励みになったという選手の言葉を聞いて、食を通して日本に触れてもらえるのは誇らしいと思いました。私たちは家政科の生徒として、これからもっと食の勉強もしていきたいと思います。



選手激励のため千葉県国際総合水泳場を訪れた生徒たち



生徒たちが制作したチーバくん



オランダ×アメリカの水球女子代表チームの練習試合



練習中のアルノ・カミンハ選手。100m 平泳ぎ、200m 平泳ぎに出場し、両種目で銀メダルを獲得



テクニカル・ディレクターのアンドレ・カツさんにチーバくんを贈呈する熊谷知事



県内学校の児童・生徒によるオランダチーム応援のための横断幕

るオリンピックを楽しみたい」と抱負を語った。

また、7月24日には、千葉県総合スポーツセンター陸上競技場でのオランダオリンピック陸上代表チームの練習を熊谷知事が視察し、チームを激励。

スタンドでは「ちば・オランダサポーター」の佐倉太鼓衆（佐倉市）が和太鼓と篠笛によるオランダ国歌の演奏を披露し、選手から大きな拍手を受けた。

新型コロナウイルス感染症の影響により、さまざま

まな感染対策が求められる事前キャンプとなったが、陸上女子のダフネ・シパーズ選手（2016年リオデジャネイロ大会女子200m銀メダリスト）は、自身のインスタグラムに、検温や消毒、食事、練習風景、県民からの歓迎を受ける様子などを動画で公開し、千葉県への感謝のコメントを綴った。

千葉県での事前キャンプに参加した選手のうち、陸上代表チームでは、男子4×400mリレーで銀メダル、女子400mハードルでフェムケ・ボル選手が銅メダル、女子七種競技でアナウク・フェッター選手が銀メダル、エマ・オーステルウェヘル選手が銅メダルを獲得した。水泳代表チームでは、アルノ・カミンハ選手が男子100m平泳ぎ、200m平泳ぎでいずれも銀メダルを獲得した。

パラリンピック代表チームでは、陸上代表チーム23人が、8月12日から8月23日まで千葉県総合ス

ポーツセンター陸上競技場において事前キャンプを実施した。8月16日には熊谷知事からチームマネージャー兼コーチのフィン・ヴァン・ブーレンさんと視察に訪れていたオランダパラリンピック選手団長のエステル・フェルヘルさんへ、県立八千代高校家政科の生徒たちがデザインし手作りした衣装をまとったチーバくんが手渡され、選手団からはオランダ代表チームのロゴ入りTシャツを着た、オランダ生まれの絵本の主人公「ミッフィー」のぬいぐるみが贈呈された。なお、同校制作のチーバくんは、県内で実施されたすべてのオランダ代表チームの事前キャンプにおいて、選手たちへ贈呈された。

大会では、オリビエ・ヘンドリクス選手が男子400m（T62クラス）で銀メダル、フラー・ヨング選手が女子走幅跳（T64クラス）で金メダル、キンバリー・アルケマデ選手が女子200m（T64クラス）



佐倉太鼓衆による和太鼓と篠笛の演奏（左）を鑑賞する陸上の選手たち

夢は必ず実現すると信じて

女子100m、200m出場（T64クラス：下肢切断・機能障害の義足着用クラス）
キンバリー・アルケマデ 選手

私は日本製の競技用義足（ブレード）を着用しています。これまでいろいろなブレードを試してきましたが、これは私の走りのスタイルにとっても合っていて、東京大会できっとパフォーマンスを上げてくれると期待しています。コロナの影響でキャンプ中の行動には制限がありますが、チームの仲間とゲームをしたりしながら意識して楽しむように過ごすることで、チームの絆がより深まりました。私は「Fly Baby Fly」という言葉をモットーにしています。諦めずに頑張れば夢は必ず実現すると信じて、この大会に臨みたいと思います。



キンバリー・アルケマデ選手。100mは5位、200mでは銅メダルを獲得

で銅メダル、マーレーネ・ファン・ハンスウィンケル選手が女子100m (T64クラス) で金メダル、女子200m (T64クラス) で金メダル、女子走幅跳 (T64クラス) で銅メダル、ノエル・ロールダ選手が女子やり投 (F46クラス) で銀メダル、ニキータ・デン・ブール選手が女子マラソン (T54クラス) で銅メダルを獲得した。



パラリンピック陸上代表チームの選手たちと熊谷知事



オリンピック陸上代表チームの混合リレーの練習



パラリンピック陸上代表チームの練習

また千葉県に戻ってきます

オランダ陸上連盟テクニカル・ディレクター

アド・ロスカム さん (ロスカムさんから贈られた手紙／訳)

オランダ陸上チームのサポーターの皆さんへ

私たちは、オリンピックに向けた事前キャンプ中の、千葉県のすべての友人からの温かい歓迎に感謝を示したいと思います。

私たちは、すべてのギフトやサプライズ、素晴らしい太鼓の演奏や合唱のパフォーマンス、すべての友情的なメッセージと折り紙のギフトをととてもうれしく思っています。

いつか皆さんが、オランダを訪問した際には、お返しとしておもてなしができればと思います。東京での陸上競技期間中は、私たちのチームを応援してください。もちろん私たちは、日本チームも大きな成功をおさめ、皆さんの誇りとなることを願っています。

千葉県のすべての友人へ、本当にありがとうございます。私たちは、2015年から千葉県に3回滞在しており、また千葉県に戻ってきます。もう一度皆さんにお会いしたいです。その際には、皆さん全員と競技場で安全な形で会いし、直接お話ができればと思っています。

オランダチームに代わって、皆さんのご健康とご多幸を願っています。



アド・ロスカムさん

銚子市×台湾

銚子市は、2017年東アジアカップ、2018年世界選手権に出場する台湾のソフトボール女子代表チームの事前キャンプを受け入れ、地元中学生への技術指導やお茶体験などの市民交流を行ったことをきっかけに、2018年10月、台湾のホストタウンとして登録された。その後、スポーツ交流はもとより、台湾の子どもたちが銚子を訪ねて海洋環境保全をテーマとする人形劇を行うなど多方面で交流を続けてきた。



世界女子ソフトボール選手権台湾代表による地元中学校のソフトボール部員への技術指導（2018年）



銚子「大漁節」踊りによる交流（2018年）



台湾バナナ贈呈式（2021年）

同チームは、東京2020大会の予選で敗退し、出場権を得ることはできなかったが、台湾ソフトボール協会理事長からは、書面による結果報告とともに「銚子市が宿泊、交通やエキシビジョン戦の手配で私たちを大いにサポートしてくださったことには非常に感謝しています。おかげでトレーニングに集中することができました。皆さんの温かい歓迎は、チームのスキル向上を後押しし、私たちはより強くなることができました」との言葉が届けられ、継続的な交流に向けた足掛かりにすることができた。また2021年6月には、東京2020大会後にも一層交流が深まることを期待し、台湾から市内小学校の給食向けに台湾バナナ500本が贈られた。

市川市×ブルガリア

市川市は、ブルガリアの国花と市の花が同じバラという共通点を持ち、当時の日本代表選手が所属する新体操クラブや全国トップレベルの新体操部を有する学校が市内にあることから、ブルガリアの新体操チームの事前キャンプを誘致。既に事前キャンプの受け入れが決定していた山形県村山市と連携して、同市が大会前のキャンプ、市川市が選手村入村後のチームの練習会場やスタッフの活動拠点となるよう調整し、2017年12月、ブルガリアのホストタウンとして登録された。

2019年7月にはブルガリア新体操代表チームの選手が市内の小学校を訪問し、児童たちと交流をした後、市内の新体操チームとブルガリア新体操代表チームによる合同演技披露会を開催。同年11月のいちかわ市民まつりでは、ブルガリアやブルガリア新体操代表チームとの交流実績を紹介するとともに、



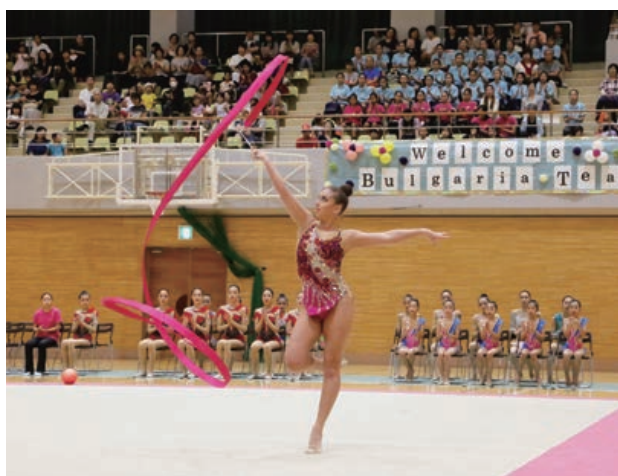
ブルガリア新体操代表チームと児童との交流（2018年）



いちかわ市民まつりでブルガリア新体操チームへの応援メッセージを書く子ども（2019年）



市川市内の小学生とブルガリア新体操選手との交流（2019年）



新体操の合同演技披露会（2019年）



児童・生徒が作成したブルガリア新体操の応援のぼり旗の前で（2021年）

市民から応援メッセージを寄せてもらい、ブルガリア新体操代表チームへ届けた。

東京2020大会の新体操団体総合で金メダルを獲得するなど、活躍した選手たちが大会終了後の2021年8月9日に市川市を訪れ、練習会場となった国府台市民体育館でオンライン交流会を実施。市内の小・中学校の各クラスで作成した応援のぼり旗と児童・生徒が育てた応援の花を会場の国府台市民体育館に飾り、選手たちへ思いを伝えた。

船橋市×アメリカ

船橋市は、成田空港と羽田空港から車で約45分圏内に位置する利点を生かし、東京2020大会に向けた事前合宿の誘致や参加国との人的・文化的交流、各種イベントなどを展開。2016年10月に国際体操連盟の総会で参加各国に船橋市の利点などをPRしたところ、立地条件の良さや、国際基準を満たす最新設備を備えた市立船橋高校の体操専用体育館（2017年12月竣工）などがアメリカ体操協会から

高く評価された。また、1986年にアメリカのカリフォルニア州ヘイワード市と姉妹都市提携を結び、高校での交換留学をはじめとする交流を行ってきた縁もあることから、アメリカ体操チームの事前キャンプの受け入れに向けた調整を行い、2016年12月、アメリカのホストタウンとして登録された。

2018年6月にはアメリカ体操男子代表チームのトレーニングキャンプを受け入れ、歓迎レセプションや東京2020大会に向けた事前キャンプ協定書調印式、練習の一般公開、小学校での給食体験といった交流プログラムを実施。さらに、こうした取り組みをプレスリリースや広報紙、SNSなどで情報発信し、機運を醸成するとともに、国内外に向けた市の知名度向上に取り組んだ。なお、この取り組みは2019年2月に開催された内閣官房主催の「ホストタウンサミット2019」で評価され、「情報発信『いいね！』賞」の一つ“SNS賞”を受賞した。

東京2020大会の事前キャンプでは、アメリカ体操男子代表チーム22人を受け入れ、2021年7月19



アメリカ体操男子代表の公開練習（2019年）



市立船橋高校の生徒による茶道体験（2019年）



船橋市内の小学校での給食体験（2019年）



船橋市内の小学校での体操指導（2019年）



アメリカ体操男子代表チームが船橋市長を表敬訪問（2021年）



オランダとアメリカの応援フラッグを作成した館山中学校芸術部の生徒たち
館山市はアメリカトライアスロン代表チームの事前キャンプの受け入れも予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

日には、選手が市立船橋高校で練習している様子をオンライン中継した後、市立七林小学校の児童が英語でメッセージを送り、選手からコメントをもらう形でオンライン交流会を実施。また、練習が休みの日には、パラリンピック競技でもあるボッチャの体験会を開催し、選手やコーチも参加してチーム戦で大いに盛り上がった。

そして、大会を終えた代表チームから、「私たちのためにしてくれたことのすべてに感謝しています。またお会いできることを楽しみにしています。ありがとうございます。そして、橋本大輝選手、金メダルおめでとうございます！」との言葉と動画が贈られた。

館山市×オランダ

館山市は、千葉県とオランダオリンピック委員会との基本合意に基づき、オリンピック3種目（マラソンスイミング、トライアスロン、ビーチバレー）、パラリンピック1種目（トライアスロン）の受け入れの調整を進めるとともに、オランダのパラリンピックを含む自転車競技の事前合宿誘致を推進。2017年12月にオランダのホストタウンに登録された。

2019年8月には、オランダトライアスロン代表チームが館山市で「ITUワールドトライアスロンオリンピッククオリフィケーションイベント」の事前キャンプを実施。オランダトライアスロンチームは、



オランダから館山市に贈られたチューリップ



東京2020大会事前キャンプで食事をするオランダ代表選手（館山市）

大会出場に向けて出発する日に館山市役所を訪問し、ヘッドコーチは「素晴らしい環境でとてもリラックスでき、美味しいものも食べられました。館山は東京に近く、良いコンディションをつくることができました。会う人が皆フレンドリーで温かく迎えてくれた最高のキャンプでした。大会ではトップ5を目指します」と語った。

2021年7月には、オランダ、南アフリカのトライアスロンとオランダのマラソンスイミング男子代表チーム計12人を受け入れ、館山湾、市営50mプール、房総フラワーラインで東京2020大会に向けた事前キャンプを実施。最終日にはバスで出発する選手たちを市民と市職員が手作りの旗を振って見送った。東京2020大会においてオランダ代表チームは、トライアスロン女子でレイチェル・クラマー選手が4位、同男女混合リレーで4位の結果を残した。ヘッドコーチは「今回の結果に大変満足しています。選手たちを誇りに思っています。今回の結果は、間違いなく館山キャンプのおかげです！ありがとう。また館山で会いましょう！」とコメントした。



房総フラワーラインで練習するオランダ代表選手（館山市）



ナイジェリアU-12と木更津市のサッカークラブとの交流試合(2019年)
交流試合後には懇親会を実施。ナイジェリアU-12は大会初出場ながらヨーロッパやアジアの強豪を抑えて優勝した。

木更津市×ナイジェリア

木更津市では2013年に開催した「西アフリカフェスティバル IN 木更津」をきっかけにナイジェリアとの交流が始まり、2019年4月、東京2020大会の事前キャンプに関する覚書を締結。同年8月にはホストタウンに登録された。また同月、U-12ジュニアサッカーワールドチャレンジ2019に出場するナイジェリアチームと地元のサッカークラブとの交流試合等を実施した。

同年9月には、ナイジェリアパラリンピック委員会が江川総合運動場陸上競技場を視察。同年11月には事前キャンプの詳細を協議するため、市長がナイジェリアを訪問した。また市では、図書館、市内全公民館やイオンモール木更津においてナイジェリアホストタウン展を行った。

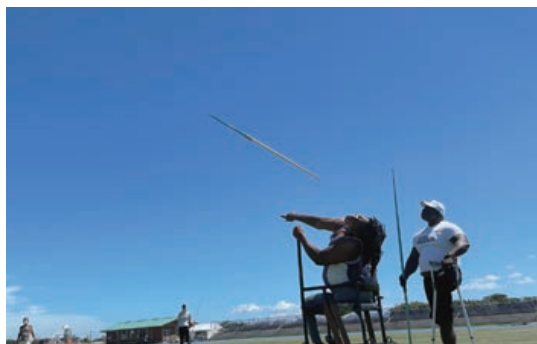
木更津市では、ナイジェリア代表チームの事前キャンプで2021年7月にオリンピック6競技（陸上、カヌースプリント、ボート、卓球、テコンドー、レスリング）、8月にパラリンピック4競技（陸上、パワーリフティング、ボート、卓球）を受け入れ、



ナイジェリアのオリンピック
陸上・卓球代表の練習



ナイジェリアのパラリン
ピックボート・やり投代
表の練習



それぞれ到着時には市内の小学生が作った横断幕やナイジェリア国旗を振って出迎えた。ホテルや練習会場には、小・中学生が作成した応援メッセージやおもてなしプランター、横断幕を設置。7月23日には市内の小・中学生を対象に陸上競技の公開練習を実施した。なお、選手たちは、オリンピックの開会式で小学生が作成した手旗を持って入場した。

松戸市×ドミニカ共和国、ルーマニア

ドミニカ共和国との交流は、2015年9月に松戸市が外務省との共催で実施した「駐日外交団地方視察ツアー」に世界34カ国の大使11人を含む52人を招待し、市の魅力や都内、成田・羽田両空港へのアクセスの良さをアピールした際に、同国から交流を提案されたことがきっかけとなった。2016年3月にはドミニカ共和国政府主催の「DR EXPORTS 2016（多部門輸出トレードフェア）」への招待を受け、東京2020大会に向けた事前キャンプ誘致に関する交渉を開始。同年6月には松戸市の訪問団が初めてドミニカ共和国を訪問した。

2018年8月にはドミニカ共和国の3競技（ソフトボール、テコンドー、バレーボール）の連盟代表が松戸市を訪れ、市内施設を視察。市民との交流を通して松戸の文化を体験した後、各競技連盟と事前キャンプ実施に係る覚書を締結した。2019年11月

には、同国体操競技連盟代表が松戸市を訪れ、市内施設を視察し、市民との交流や日本文化を体験。翌2020年1月に、市長をはじめとする松戸市訪問団がドミニカ共和国を訪れた際に、事前キャンプ実施に係る覚書を締結した。

また、ルーマニアとは、2016年1月、七草マラソン大会にルーマニアの陸上競技の2選手を招待したことを契機に、翌2017年9月にルーマニアオリンピック委員会会長をはじめとする5競技（水泳、陸上、フェンシング、卓球、レスリング）の連盟代表が松戸市を視察し、事前キャンプ実施に係る覚書を締結。2019年5月には、「セイコーゴールデングラプリ陸上2019大阪」の開催に先立ってルーマニア陸上代表チーム（短距離）が松戸市で事前キャンプを実施し、高校生との合同練習、市立松戸高校への訪問、壮行セレモニーなどの交流を行った。

2016年12月に松戸市がドミニカ共和国、ルーマニアのホストタウンとして登録されてから、市はホストタウンとしての機運を高めるため、市内で行われるイベントでPRを実施。2017年12月にはルーマニアのブラショフ・フィルハーモニー交響楽団が森のホール21でコンサートを開催し、ルーマニアワイン試飲会などが行われた。

2021年には、7月からドミニカ共和国テコンドー代表チーム6人が柿ノ木台公園体育館、ルーマニ



ドミニカ共和国テコンドー代表チームの練習（左）とオンライン交流（右）



ルーマニア陸上代表チームとの交流イベント（左）とオンライン交流（右）

ア陸上代表チーム9人が松戸運動公園陸上競技場などで、東京2020大会の事前キャンプを行った。7月17日にはドミニカ共和国テコンドー代表チームとのオンライン交流会を実施。また、ルーマニア陸上代表チームとは、20日には交流イベント「学生によるルーマニア選手団応援～未来につながるエール～」を開催し、市内中学校と高校の書道部、和太鼓部、吹奏楽部、チアリーディング部によるパフォーマンスでエールを送り、24日にはオンライン交流会を行った。

成田市×アイルランド、カナダ、オランダ、オーストラリア、スロベニア

成田市では、オリンピックのアメリカ陸上代表チームの事前キャンプ受け入れが決定した後、共生社会の実現をさらに推進するため、パラリンピックの事前キャンプの受け入れに向けた誘致活動を展開。2017年6月のアイルランドパラリンピック委員会の視察などを経て、2018年5月、アイルランドパラリンピック委員会と東京2020パラリンピックにおける事前キャンプの覚書を締結し、同年8月にホストタウンとして登録された。

同年10月から、アイルランドパラ水泳チームの

トレーニングキャンプを受け入れ、学校訪問や水泳教室、日本文化の体験などによる交流を実施。2019年8月にはパラリンピアンを受け入れを契機に共生社会の実現に向けた取り組みを行う「共生社会ホストタウン」として登録された。

2021年8月、東京2020パラリンピックにおけるアイルランド代表チーム（アーチェリー、陸上、パワーリフティング、水泳、卓球）計38人の事前キャンプが中台運動公園陸上競技場・体育館・水泳プールにおいて行われ、18日に水泳の公開練習と、チームへの激励会および陸上の公開練習を実施した。



成田市立中台小学校から贈られたメッセージボードを掲げるアイルランドパラリンピック代表チーム



カナダサッカー女子代表チーム



スロベニア陸上代表チーム



オランダ3x3バスケットボール男子代表チーム



オーストラリア陸上代表チーム

水泳の公開練習には約20人、激励会と陸上の公開練習には約50人の市民が参加。激励会では公津の杜中学校吹奏楽部による演奏などが行われ、代表チームから成田市での心のこもった歓迎やホテルの快適さなどについて感謝の言葉を受けた。

また、成田市ではカナダのサッカー女子、オランダの3x3バスケットボール男子、オーストラリアとスロベニアの陸上競技の事前キャンプも受け入れ、それぞれ公開練習を実施した。

佐倉市×ボツワナ、ペルー、ドイツ

佐倉市は、2018年7月に第16回WBSC世界女子ソフトボール選手権大会に出場するボツワナ代表チームの事前キャンプを受け入れ、小・中学生等との交流を行ったことを契機に、ボツワナソフトボール協会と事前キャンプや大会期間中の市民との交流について合意した。また、市の花火大会や観光施設への来訪など、かねてより交流を継続しているペルーと大会後にも交流することについて合意。2019年

4月、両国のホストタウンとして登録された。

2019年8月には横浜で開催された第7回アフリカ開発会議（TICAD7）のサイドイベントに参加するために来日したボツワナのソフトボール選手と佐倉市内中学校ソフトボール部の生徒が交流。同年に佐倉市が台風や豪雨で被害を受けた際には、ボツワナ駐日大使がお見舞いに訪れた。

2021年7月には、ドイツレスリング女子代表チ



ボツワナのソフトボール代表チームによる小学校訪問（2018年）



台風や豪雨で被害を受けた佐倉市にボツワナの駐日大使が災害見舞で訪れた（2019年）



児童・生徒が作成した応援メッセージの前で（右がドイツ・レスリングのアリーネ・フォッケン選手）



アメリカ陸上競技連盟による陸上クリニック（佐倉市・印西市、2019年）

ーム5人が佐倉市民体育館で、東京2020大会に向けた事前キャンプを行った。大会では、女子76kg級でアリーネ・フォッケン選手が金メダルを獲得。オリンピックのレスリング女子でドイツ代表選手がメダルを獲得するのは史上初のことだった。

佐倉市・成田市・印西市×アメリカ

2016年12月、2015年世界陸上北京大会の際に行った事前キャンプの実績がアメリカ陸上競技連盟から高く評価され、東京2020大会でも千葉県・佐倉市・成田市・印西市・順天堂大学が連携して事前合宿の受け入れを行うことで合意し、佐倉市・成田市・印西市の3市が連名でホストタウン登録された。ホストタウン登録を契機に、3市では小・中学生を対象とした陸上クリニックを開催している。

成田市では、2017年度から2019年度までアメリカ陸上競技連盟のコーチと選手を招き、中台運動公園等での小・中学生対象の陸上クリニックに加えて、高校生との交流、指導者向けクリニック、成田山新勝寺における文化体験などを行った。また、同じホストタウンである佐倉市と印西市や、復興ありがとうホストタウンで同じくアメリカと交流している岩手県大船渡市にも声をかけ、陸上クリニックに参加

してもらうことにより、交流の輪を広げた。加えて、アメリカ大使館の協力のもとアメリカ空軍太平洋音楽隊による市民向けコンサートを開催するなど、文化的な交流も実施している。

佐倉市と印西市では、2019年2月に、世界でもトップクラスのコーチ2人をアメリカ陸上競技連盟から招き、岩名運動公園陸上競技場と順天堂大学さくらキャンパス陸上競技場で市内の小学5、6年生と中学生を対象とした陸上クリニックを開催。参加した小・中学生は、ミニハードルやラダー、ボール投げなどスポーツの基本動作につながるトレーニングを行い、世界最高峰の技術の一つでも吸収しようとコーチのアドバイスに熱心に耳を傾けた。最後には、指導のサポート協力を受けた順天堂大学陸上競技部も含めた参加者全員でリレーを行い、大いに盛り上がった。

旭市×ドイツ、ザンビア

旭市では「千葉県とドイツ・デュッセルドルフ市とのスポーツ交流」における卓球会場として、2009年からデュッセルドルフ市と旭市の子どもの卓球交流を進めてきた。この交流を契機に、2017年5月に市長や関係者がデュッセルドルフ市

を訪問。ドイツ代表チームと「事前キャンプを実施する場合は旭市で行う」との約束を交わし、同年12月にはドイツのホストタウンとして登録された。

2019年6月には、ザンビアが千葉県内で事前キャンプ地を探していることを知り、同国大使館を訪問して旭市内の施設や市の魅力のPRを実施。2020年1月、旭市総合体育館で東京2020大会の事前キャンプに関する覚書の締結式を行い、同年2月、ザンビアのホストタウンとして登録された。

2020年12月から2021年6月にかけて、JICA（国際協力機構）千葉デスクと連携して作成した計40本のザンビア紹介動画を、市内の小・中学校の給食の時間に放送。市の公式YouTubeでも配信し、ザンビアへの理解を深めた。この取り組みが効果的な情報発信として評価され、ホストタウンサミット2021で「優良情報発信賞・SNS賞」を受賞した。

両国とも新型コロナウイルス感染症の影響により事前キャンプを実施できなかったが、ドイツ卓球男子代表チームからはメッセージ動画が届けられ、ティモ・ボル選手は「交流がかなわず残念ですが、旭市の皆さんが応援してくれることを願っています。お会いできる機会を楽しみにしています」と寄せた。



ザンビア紹介動画を見る旭市内の中学生

また、ザンビア代表チームへは、市から同国大使館を通じて子どもたちの応援メッセージや記念品などを届けた。

柏市×イギリス

柏市では2018年8月、イギリスローンテニス協会と柏市内にある（公財）吉田記念テニス研修センター（TTC）との間で車いすテニスの事前キャンプについて合意。これを契機として、2019年4月、柏市はイギリスのホストタウンに登録され、市民体験型イベントによるイギリス代表選手との交流や広



ザンビアとの事前キャンプ覚書締結式（旭市）



柏市の体験型イベントに参加するイギリス車いすテニス選手（2019年）



柏市立田中中学校の生徒による応援メッセージパネルの前で（イギリス車いすテニス代表チーム）



東京2020大会事前キャンプ（柏市）
イギリス車いすテニス代表チーム

報紙への掲載などにより、市内の機運醸成に努めた。
なお、TTCは国枝慎吾選手が車いすテニスを始めたテニススクールとして知られている。

また、柏市は、ユニバーサルデザインのまちづくりや、心のバリアフリーの取り組みを実施する自治体として、2020年3月に「共生社会ホストタウン」としても登録された。

2021年8月、イギリス車いすテニス代表チームが東京2020大会の事前キャンプを実施。柏市では市立田中中学校の生徒が心をこめて作ったメッセージカードをパネル化し、選手たちにエールを送った。イギリスは、男子シングルスでゴードン・リード選手が銅メダル、男子ダブルスではリード選手とアルフィー・ヒューエット選手のペアが銀メダル、女子シングルスでジョーダン・ホワイリー選手が銅メダル、女子ダブルスではルーシー・シュカー選手とホワイリー選手のペアが銀メダルを獲得した。

市原市×オーストラリア、イスラエル

市原市では2021年7月、オーストラリアの男子サッカー代表チーム計38人を受け入れ、市原スポレクパークで東京2020大会事前キャンプを実施。続いて同月にイスラエルの陸上代表チーム8人を受け入れた事前キャンプでは、オリンピック開会式で旗手を務めたハンナ・ミネンコ選手などがゼットエーオリプリスタジアム（市原市臨海競技場）で公開練習を行い、記念撮影を行うなどの交流を楽しんだ。なお、ミネンコ選手は大会で三段跳に出場し、6位に入賞した。

また、イスラエル代表では新体操の女子個人総合代表チーム5人が7月から8月にかけてゼットエー武道場（市原市中央武道館）で調整練習を実施。市原小学校、市原中学校の児童・生徒がメッセージ入りの国旗を贈った。大会では、リノイ・アシュラム選手が金メダルを獲得し、ニコル・ゼリクマン選手が7位に入賞した。

東京2020大会事前キャンプ（市原市）



オーストラリア×ニュージーランドのフレンドリーマッチ



イスラエル陸上代表チームの公開練習 左がハンナ・ミネンコ選手



市立市原中学校の生徒から贈られた応援フラッグ



新体操で金メダルを獲得したイスラエルのリノイ・アシュラム選手の練習

市原市・君津市×ニュージーランド

市原市は、市民団体を中心にニュージーランドとの交流が続けられていたことなどから、同国の東京2020大会事前キャンプの誘致を進め、2016年12月、同国のホストタウンとして登録された。市原市は君津市と連携し、ニュージーランドソフトボール女子代表（愛称：ホワイソックス）のトレーニングキャンプを2017年から3年連続で受け入れるなど、同国との国際交流を推進。2019年12月には、市原市に加え、君津市がニュージーランドのホストタウンとして登録された。さらに2020年1月には両市と、ニュージーランドと交流のある(株)マザー牧場が官民連携協力体制を構築し、国際交流を通じた観光振興にも取り組むため、パートナーシップ協定を締結した。

また、2019年8月にはトレーニングキャンプの実施に先駆けて、「いちほら×ニュージーランドホス

トタウンフェア2019」を開催。ホストタウンのPRや市民によるホワイソックスへの応援メッセージアート作成（ふせんアート）、マザー牧場のブース出展、市原市内のダンスチーム「MATARI（マタリイ）」によるハカ演舞などが行われた。

2021年7月にはゼットエーオリプリスタジアムで、ニュージーランドサッカー男子代表チームと市原市で事前キャンプ中のオーストラリアサッカー男子代表チームによるサッカーフレンドリーマッチを開催し、子どもを中心に多くの市民が観戦した。

流山市×オランダ

流山市には、江戸幕府八代将軍徳川吉宗の時代にオランダから輸入された栗毛の馬をまつた「オランダ観音」があり、明治期にオランダ人技師ムルデルが設計した日本初の西洋式運河である利根運河が市内を流れるなどの歴史的なゆかりから、オランダ



ニュージーランドソフトボール女子代表トレーニングキャンプ（2017年）



県立君津高校での書道体験後の記念写真（2017年）



ニュージーランドを相手国とするホストタウン連携プロジェクト（2021年）全国のニュージーランドのホストタウンが同国の国民的フォークソングをリレーソング形式で歌い、同国の選手や国民にエールを送った。

との市民交流が行われていた。一方、流山市では老朽化により建て替えたキッコーマンアリーナ（流山市民総合体育館）が2016年4月に供用開始されたこともあり、オランダの体育館競技の誘致を図った結果、同年6月に千葉県内で2番目となるホストタウン登録が行われた。オランダの競技関係者によるキッコーマンアリーナなどの視察では、施設の機能性やバリアフリー面について高い評価を得た。

2018年9月には、横浜アリーナほか全4会場で開催された2018女子バレーボール世界選手権（世界バレー）に向け、オランダバレーボール女子代表チームがキッコーマンアリーナを拠点に事前キャンプを実施。流山市は、歓迎セレモニーやオランダ

代表チームによる市内中学校バレーボール部員を対象としたクリニックなどを行った。

翌2019年2月には、国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会に向けたオランダ代表チームの事前キャンプがキッコーマンアリーナで行われ、日本代表チームとの親善試合が開催されるとともに、市内小・中学校の児童・生徒が制作した応援幕の贈呈などの交流を実施。オランダ代表チームの監督から「流山市でのキャンプでは、宿舎や体育館が充実しているだけでなく組織的に迅速なサポートをしていただき、感謝しています」との言葉を受けた。また試合後には、オランダ代表選手たちによる車いすバスケットボールの体験会を開催し、市民と代表チ



オランダ代表選手が参加した車いすバスケットボール体験会（2019年）



東京2020大会事前キャンプでの流山市の歓迎式典（右上はオランダオリンピック卓球代表、下はハンドボール女子代表）

ームとの交流が行われた。

東京2020大会では、ハンドボール女子と卓球（オリンピック・パラリンピック）代表チーム計35人の事前キャンプを受け入れた。7月18日にオリンピック代表、8月18日にパラリンピック代表の歓迎式典（パラリンピック採火式と同時開催）をそれぞれキッコーマン アリーナで催し、市内の小・中学校の児童・生徒が作成した応援幕・記念品を贈呈した。また7月20日に、オランダハンドボール女子代表チームはロシアオリンピック委員会の女子代表チームとの練習試合を実施し、市民など約300人が観覧。オランダ卓球（オリンピック・パラリンピック）代表選手と、市内中学校の卓球部員とのオンライン交流も実施した。

我孫子市×スロベニア

我孫子市が柔道の創始者・嘉納治五郎師範ゆかりの地であることをきっかけに、千葉県スポーツコンシェルジュからスロベニア柔道女子選手などの事前キャンプの提案を受け、2021年5月に覚書を締結。同年7月、ホストタウンに登録された。



東京2020大会事前キャンプ（我孫子市）
応援動画を鑑賞するスロベニア代表選手たち



スロベニアテコンドー代表チームの練習



スロベニア柔道代表チームとの交流会

東京2020大会の事前キャンプでは、スロベニアの柔道女子代表チーム3人、テコンドー男子代表チーム4人を受け入れた。練習初日には、市民体育館の利用者や職員がスロベニア国旗や横断幕で選手を歓迎。その後、市作成の応援動画の鑑賞会なども行った。食事は、宿泊ホテルに隣接するイタリアンレストランの協力により、柔道チームには体重制限を考慮したメニュー、テコンドーチームには選手の希望に合わせて寿司やラーメンなどを提供した。また、競技終了後の7月25日、市民体育館で柔道チームと市内の小・中学校、高校の児童・生徒との交流会を実施した。

鴨川市×オランダ

鴨川市では、2016年度から地元の女子サッカーチーム「オルカ鴨川FC」や国内のサッカー関係者などを通じてヨーロッパの女子サッカー代表チームの誘致を模索。2019年度にはFIFA女子ワールドカップ2019で準優勝した強豪であるオランダサッカー女子代表チームを誘致するため、オランダに市長名の親書を送るなどのアプローチを行った。2020年1月から2月にかけてオランダ関係者が二度にわ



東京2020大会事前キャンプ（鴨川市）
オランダサッカー女子代表チームの歓迎セレモニー



オランダからの提案で行われた代表チームと鴨川市の現場スタッフとの記念写真



鴨川市サッカー協会とオランダサッカー女子代表チームの交流



イギリス車いすバスケットボール女子代表の華道体験（浦安市、2020年）



イギリス車いすバスケットボール女子代表による体験会（浦安市、2020年）

たつて鴨川市を訪れ、トレーニングや宿泊施設、医療環境などを視察。その結果、2021年6月に東京2020大会の事前キャンプ受け入れに合意し、2021年7月に鴨川市総合運動施設で計41人が事前キャンプを実施した。7月8日にはメディア向け公開練習、10日には激励会と公開練習が行われ、約250人が参加した。交流セレモニーでは、市内の小・中学生が折ったオレンジの千羽鶴と、鴨川伝統工芸「萬祝染」のマスクをチームへ贈って激励。また、地元のサッカー協会からは子どもたちが応援メッセージを書いた大きなフラッグのプレゼントとスタンドからオランダ語でのエールを送った。7月14日には、大会で金メダルを獲得したカナダ代表との練習試合（無観客）を実施し、引き分けとなった。

浦安市×イギリス、スロバキア、フランス、オランダ

浦安市は2017年8月、東京で開催された車いすバスケットボールの国際大会に際してイギリス男子代表チームのトレーニングキャンプを受け入れた。このとき、チームに帯同していた同国の車いすバスケットボール協会のパフォーマンスディレクター等が練習施設や宿泊施設、大会会場へのアクセスの良

さを高く評価。2018年2月にイギリス車いすバスケットボール協会と東京2020大会に向けた事前キャンプ実施の合意書締結に至り、イギリスのホストタウンとして登録された。2019年8月には、「共生社会ホストタウン」にも登録された。

また、スロバキアオリンピック委員会、フランスカヌー・カヤック連盟とも東京2020大会の事前キャンプに向けて覚書を締結したほか、オランダについてもアーチェリーの事前キャンプ実施について合意したことから、それぞれの国のホストタウンとして登録された。

2017年8月には、イギリス車いすバスケットボール代表チームのトレーニングキャンプを実施し、市内中学生との競技体験交流会や日本代表との公開練習試合を開催した。2018年7月には、オランダアーチェリー代表チームのトレーニングキャンプを実施し、市アーチェリー協会向けのクリニックや市弓道連盟によるオランダ選手の弓道体験が催された。2019年9月から10月には、フランスカヌー代表チームのトレーニングキャンプを実施し、市カヌー協会や児童育成クラブとの交流を行った。2020年2月には、イギリス車いすバスケットボール女子代表チームがトレーニングキャンプを実施し、日本代表

との公開練習試合を開催。また、イギリス選手の日本文化体験や市内小学生との競技体験交流会などが行われた。

東京2020大会では、2021年7月、オランダアーチェリー代表チーム7人が市運動公園アーチェリー場で練習に励み、スティーブ・ヴァイラー選手とガブリエラ・シュレッサー選手が、オリンピックのアーチェリー混合団体で銀メダルを獲得した。また同月、スロバキア陸上代表チーム20人が明海大学で練習を実施。市内小学生89人、市内児童育成クラブ児童30人とオンライン交流を行った。

フランスカヌー代表チームは事前キャンプの実施はなかったが、市内高校生がオンラインで選手への取材を実施。また、市内中学生がパラカヌー選手とオンラインで交流を深めた。

印西市×アメリカ、オランダ、アイルランド

印西市は順天堂大学と連携し、2021年7月、東京2020大会のアメリカ体操女子代表チーム28人、オランダ体操男子・女子代表チーム19人、アイルランド体操男子代表チーム3人の事前キャンプを受け入れた。受け入れにあたっては、市内の小・中学生および順天堂大学体操競技部の学生が寄せ書きメッセージ入りののぼり旗を作成し、体操競技場や宿泊施設に飾って選手たちを歓迎した。

2016年リオデジャネイロ大会で女子団体総合、個人総合、跳馬、床の4種目で金メダルを獲得したアメリカのシモン・バイルス選手は、東京2020大会の団体総合の第2種目からメンタルヘルスの改善に集中するとの理由で棄権。一時欠場していたが、順天堂大学のトレーニング施設においてプライバシーが守られた中で調整し、最終日に種目別の平均台



フランスカヌー代表による児童育成クラブ訪問（浦安市、2019年）



東京2020大会事前キャンプ オランダアーチェリー代表の練習（浦安市）



練習場の前で（スロバキア陸上代表と浦安市との記念品交換）



練習後のアメリカ体操女子代表選手



練習後のアイルランド体操男子代表選手



市内の小・中学生が作成したのぼり旗



オランダ体操男子代表の練習



アメリカ体操女子代表の練習



アイルランド体操男子代表の練習



駐日ブルキナファソ大使と白井市の小学生との交流（2018年）



小学校の授業で「ネリカ米」の稲刈りを体験（白井市、2021年）

に出場。銅メダルを獲得し、順天堂大学への感謝の言葉をSNSに投稿した。アメリカの女子体操は、団体総合で銀メダル、個人総合でスニーサ・リー選手が金メダル、種目別床でジェード・キャリー選手が金メダルを獲得した。

白井市×ブルキナファソ

白井市とブルキナファソとのつながりは、2003年に役目を終えた市の移動図書館「さつき号」を同国へ寄贈したことにさかのぼる。2004年からは市内にある認定NPO法人日本ブルキナファソ友好協会の協力のもと、白井第一小学校の5年生の総合学

習で西アフリカの飢餓対策のために開発された「ネリカ米」の栽培体験を開始。例年11月ごろに開催するネリカ米収穫祭に駐日大使などブルキナファソ関係者を来賓として招待し、交流を深めている。

東京2020大会の競技終了後にブルキナファソの選手が白井市を訪問し、市民と交流することになったことから、2019年12月、白井市はブルキナファソのホストタウンとして登録された。新型コロナウイルス感染症の影響により、大会後の交流は中止になったものの、ネリカ米の栽培をはじめとした交流を続けていく。

香取市×スロバキア

香取市は、2019世界ボートジュニア選手権大会でキャンプ地となった小見川ボート場を持つことなどから、ボート、カヌースプリントの事前キャンプを誘致。2020年1月、千葉県スポーツコンシェルジュの紹介によりスロバキアのカヌースプリント代表チームのコーチが香取市内の施設を視察し、充実したトレーニング環境、成田空港や東京へのアクセスが良いことが評価され、同年11月に同国のカヌースプリント代表チームの事前キャンプに係る覚書締結に至った。

東京2020大会前の2021年7月には、14人のス



東京2020大会事前キャンプ（香取市）
歓迎セレモニーでの書道パフォーマンス



スロバキアカヌースプリント代表チームの練習



スロバキアカヌースプリント代表チームによる銅メダル獲得の報告

ロバキア代表チームが来日した。21日には歓迎セレモニーを行い、香取市から手ぬぐいや香取神宮のお守り、地元産の野菜や果物などが贈られ、代表チームからはサイン入りユニフォームが贈呈された。次いで24日には、カヌー交流として「小見川海洋クラブ」の選手たちとスロバキア選手との100m競漕などを実施。参加した海洋クラブの選手たちは、「スロバキア選手の1ストロークの進みが大きかった」などと貴重な体験を喜んだ。

事前キャンプを行ったスロバキアカヌースプリント代表チームは大会で、最も得意とするカヤックフォア（K4）において銅メダルを獲得。代表チームからは「事前キャンプでは、要望に対して迅速な対応をしていただき、とても環境のよい充実したキャンプを過ごせました。メダルを取れたのは、家族のように接してくれた香取市の皆さんのおかげです」と感謝の言葉を受けた。

山武市×スリランカ

山武市では、東京2020大会の開催をグローバル化のチャンスと捉え、大会の開催効果を市の発展に結びつけていくため、早くから事前キャンプの誘致を検討していた。そうした中、市内小学校の校長として勤務経験があり、長年スリランカの里親里子交流に取り組んでいる鈴木康夫さんの協力により、スリランカと協議を開始。2014年12月、相互交流事業や青少年スポーツ発展の支援についてスリランカのスポーツ大臣と基本合意し、東京2020大会の事前キャンプの受け入れについてスリランカのオリンピック委員会と覚書を締結した。これを契機に山武市とスリランカの相互交流活動がスタートし、



山武市の中学校等で交流を行うスリランカの中学生と高校生（2016年）



山武市内の中学生と高校生がスリランカを訪問（2017年）



いすみ市に滞在したフランスサーフィン代表チーム



東京2020大会スリランカ体操女子代表ミルカ・ゲハーニ選手のオンライン激励会（山武市）



フランスサーフィン代表チームに提供された地元特産のイセエビ料理（いすみ市）

2016年1月、山武市は千葉県内で初のホストタウンとして登録された。

基本合意以降、山武市に招いたスリランカのオリンピックによる講演会や青少年との文化交流を行い、市内の中学生と高校生をスリランカに派遣するなど、交流を深めていった。

東京2020大会には、スリランカからオリンピック計7競技に9人の選手、パラリンピック計4競技に9人の選手が出場。市民が作成した応援メッセージが描かれたうちわ180枚と応援旗を選手村へ送り、スリランカ代表チームを応援したほか、日本国内の学校に通いながら体操のオリンピック代表選手となったミルカ・ゲハーニ選手への激励会、やり投のパラリンピック代表選手としてスリランカ初となる金メダルを獲得したディネーシュ・プリヤンタ選手たちとのメダル獲得祝勝会を開催し、交流を深めた。

いすみ市×フランス

いすみ市は、東京2020大会のサーフィン会場となった釣ヶ崎海岸（一宮町）に隣接しており、サーフィンが盛んに行われている。在京フランス大使館の協力を得ながら、大会中に市内の施設に宿泊予定のサーフィン代表チームと文化交流やサポートについて合意に至り、2020年2月、フランスのホストタウンとして登録された。

東京2020大会では、予定していた交流が新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったものの、市の特産物であるイセエビを使った料理や地元で生産された梨、日本食の振る舞いなど、食によるおもてなしで代表チームとの交流を図った。また、宿泊施設では代表チーム全員参加による卓球大会を開くなど、選手がリラックスできるように市の職員やホテルの従業員が選手たちをもてなした。大会後もサーフィンを通じた交流、支援等を継続する方針であり、次回大会であるパリ大会ではパラリンピックサーフィンが正式採用されるよう応援している。



フランスでつながる！ホストタウン連携プロジェクトの取り組み

浦安市やいすみ市をはじめ、全国で34自治体あるフランスのホストタウンは、フランスの選手や市民との交流が2024年のパリ大会以降にも引き継がれていくよう、連携してプロジェクトを実施。2021年2月には、フランスとの親睦の様子を4コマ漫画で紹介する「みんなで紡ぐフランス・ホストタウン物語」を日本語とフランス語で作成し、ウェブサイトなどで発信した。また「読売中高生新聞」(2021年9月24日号)では、浦安市、いすみ市、兵庫県神戸市、姫路市の高校生がレポーターとして、フランス代表選手やフランスにゆかりのある人などへインタビューを実施。それぞれのおもてなしや交流について紹介したほか、フランスの高校生とオンライン交流会を行い、パリ大会を盛り上げるためのアイデアを出し合った。

いすみ市を紹介する漫画(「フランスでつながる！ホストタウン連携プロジェクト」担当作家:むらたたいちさん)



2021年9月24日の読売中高生新聞※

※読売新聞東京本社が2014年に創刊した中学生、高校生向けのタブロイド判週刊新聞

このブロックは著作権上の理由で表示できません

このブロックは著作権上の理由で表示できません

横芝光町×ベリーズ

横芝光町は、在日ベリーズ大使館の名誉総領事と親交のある町内在住の日本ベリーズ友好協会理事との縁により、2018年1月、東京2020大会の事前キャンプの受け入れに関する合意書を締結。同年2月にベリーズのホストタウンとして登録された。

JICA青年海外協力隊員としてベリーズに派遣された経歴を持つ職員を中心にベリーズとの交流や機運醸成を推進。2019年11月には、ベリーズからスチールパン・オーケストラを招き、JR横芝駅前の情報交流館「ヨリドコロ」での演奏会や小・中学校における交流会を行った。

新型コロナウイルス感染症の影響により、東京2020大会の事前キャンプを行うことはできなかったが、大会前の小・中学生とベリーズ代表チームとのオンライン交流会において、町内すべての保育園・幼稚園、小・中学校、高校が参加して作成された応援動画を披露するなど、ベリーズ代表チームへエールを送った。大会期間中には応援に対する感謝の意を込め、ベリーズ代表チーム全員のサインが入ったポロシャツが横芝光町に贈られた。



横芝光町の小・中学校での交流（2019年）

長柄町×ロシア

2019年1月と5月に、競技会場である幕張メッセから近い事前キャンプ地を探していたロシアフェンシング連盟が長柄町内の施設を視察。同年10月にホストタウンに登録され、東京2020大会の事前キャンプに係る覚書を締結した。

事前キャンプの受け入れにあたっては、町内企業のリソルの森(株)、まちづくりの包括連携協定を結んでいる千葉大学、長柄町の産学官連携により準備を進めた。2019年12月には、千葉大学や日本フェンシング協会の協力のもと、交流事業を実施。小・中学校の給食でロシア料理が提供され、ロシア人留学生との文化交流会や、小学生全員が体験用防具を身に着けてのフェンシング体験会が行われた。

新型コロナウイルス感染症の影響により、東京2020大会の事前キャンプを行うことはできなかったが、小・中学校の児童・生徒による手書きのメッセージ入り横断幕や写真、手ぬぐい、扇子等の応援グッズをオリンピック選手村へ送り、ロシアオリンピック委員会のフェンシング代表チームを応援した。



ロシア人留学生と長柄町の小学生との交流（2019年）



ベリーズの「The Pantempts Steel Orchestra」選抜メンバーが来日（2019年）



千葉大学フェンシングサークルによるフェンシング体験会（2019年）



千葉県スポーツコンシェルジュの取り組み

2015年6月、千葉県は、国際大会の誘致や、東京2020大会の事前キャンプを誘致する県内市町村を支援するため、競技施設・宿泊施設の情報提供などをワンストップで行う「千葉県スポーツコンシェルジュ」を（公財）ちば国際コンベンションビューローに設置。全国に先駆けて県主導で国際大会および東京2020大会の事前キャンプの誘致を開始した。

千葉県スポーツコンシェルジュを設置後まもなく、「第16回WBSC世界女子ソフトボール選手権大会」の誘致に成功。さらに同大会の事前キャンプ誘致を積極



団長セミナー会場に設置したブースで県内のキャンプ地を紹介

的に支援し、鉾田市が台湾、印西市がカナダ、市原市と君津市がニュージーランド、市川市がイタリア、佐倉市がオランダとボツワナ、山武市がイギリス、長柄町が南アフリカの事前キャンプ受け入れを実施し、この縁により、鉾田市（台湾）、市原市と君津市（ニュージーランド）、佐倉市（ボツワナ）はそれぞれの国・地域のホストタウンとなった。

また、千葉県スポーツコンシェルジュは、東京2020大会の事前キャンプ誘致に取り組む市町村を支援。ホームページによる県内の競技施設・宿泊施設の情報発信だけでなく、2019年のオリンピック・パラリンピック選手団団長セミナーへのブース出展によるPR活動や、大使館・外国の競技団体への直接の働きかけなどにより情報収集に努め、市町村とのマッチングの際には、視察のアレンジや通訳等の支援を行った。

その結果、浦安市とスロバキア（陸上）、長柄町とロシア（フェンシング）、旭市とザンビア（サッカー女子、陸上等）、香取市とスロバキア（カヌー）、我孫子市とスロベニア（柔道女子、テコンドー男子）が事前キャンプ実施の合意に至った（新型コロナウイルス感染症の影響によりロシアとザンビアの事前キャンプは中止）。



カナダ代表チームによる印西市でのソフトボール教室（2018年）



県内競技施設の視察対応の様子



香取市とスロバキアの事前キャンプ覚書締結式



ホストタウンで繋ぐ写真展リレー

ちば国際コンベンションビューロー（千葉県スポーツコンシェルジュ）とJICA千葉デスクの共催で、ベリーズ、ザンビア、スリランカ、ナイジェリア、ブルキナファソ、ドミニカ共和国、ペルー、ボツワナの食べ物、生活、文化、自然などを紹介する写真展（写真協力：世界の応援団／青年海外協力隊）を開催。2020年12月から2021年3月にかけて、ホストタウンとなっている県内7市町の会場を巡回するとともにオンライン展示を実施した。また、2021年3月から同年7月にかけて、県内8カ所のイオンモールで巡回展示を行った。



県内ホストタウンでの展示の様子

ベリーズ

のホストタウンは横芝光町です

1 どんな国？

- 面積: 22,970平方キロメートル (四国より少し大きい)
- 人口: 38.3万人(2018年:世銀)
- 首都: ベルモパン
- 言語: 英語(公用語)、スペイン語、ベリーズ・クレオール語、モバン語等
- 民族: メスティーソ、クレオール、マヤ、ガリフナ等
- 宗教: キリスト教(カトリック、プロテスタント)等

ベリーズの国の概要



(左) ベリーズでは身が大きく、プリプリで濃厚なロブスターが安価で味わえる。
 (右) ライスアンドビーンズ（お米と豆）。ココナッツが入っているため、南国を感じられる。

パラスポーツの振興と オリンピック・パラリンピック教育

1

パラスポーツの振興

パラスポーツフェスタちば

千葉県は、2016（平成28）年から千葉市などと連携し、パラスポーツの普及や魅力発信、パラスポーツを通じた共生社会の実現を図ることを目的に、「パラスポーツフェスタちば」を千葉ポートアリーナで開催した。イベントの企画・運営には、県内大学の学生も参画。東京2020大会で幕張メッセが会

場となったパラリンピック競技のゴールボール、シッティングバレーボール、テコンドー、車いすフェンシングに加え、ボッチャ、車いすバスケットボール、車いすラグビー、パラバドミントンなどの体験会や対抗戦を実施し、広く県民にパラスポーツの魅力を発信した。

さらに、日本放送協会（NHK）千葉放送局などとも連携し、毎年特色のあるイベントを開催した。



シッティングバレーボール対抗戦（2018年）

写真提供：吉野義昭

初開催の2016年9月には、シッティングバレーボールの大学対抗戦のほか、「パラリンピアンセッション」と題し、千葉県ゆかりのパラリンピアンによるトークショーや現役パラテコンドー選手による競技紹介や実演が行われた。

2017年9月には、ゴールボールとシッティングバレーボールの日本代表選手による迫力あるデモンストレーションや県内の小学校・特別支援学校の児童・生徒が描いたパラスポーツ絵画作品の展示会を開催。また、同時開催イベントとしてNHK WORLDの歌番組の公開収録や歌手Ma y J.さんのスペシャルライブが行われた。

2018年9月には、「紅白対抗パラスポーツ運動会」をテーマに、パラスポーツを体感・応援できるイベントを実施。県内学校の児童・生徒とパラアスリート等が一丸となって紅白対抗車いすリレーを行った。

また、シッティングバレーボール女子日本代表選手によるエキシビションマッチや全国屈指の実力を誇る市立習志野高校吹奏楽部による楽器を使わない応援が披露された。



ボッチャ体験会（2016年）

写真提供：吉野義昭



テコンドー体験会（2017年）

写真提供：吉野義昭



シッティングバレーボール体験会（2017年）

写真提供：吉野義昭



車いすフェンシング体験会（2017年）

写真提供：吉野義昭

2019年8月には、NHKスペシャルプログラムとして、小学生によるゴールボールエキシビションマッチやパラスポーツに関するクイズを実施。また、小・中学生の音楽ユニット「Foorin」を招き、参加者と一緒に2020応援ソング「パプリカ」を披露した。

2020年11月には、学生企画のブース出展のほか、老若男女、障害の有無、運動の得意不得意にかかわらず、誰もが楽しめる特別ルールを設けた「ゆるスポーツ」の体験会を実施。「シーソー玉入れ」「トントンボイス相撲」「コツコツ！点字ブロックリレー」の3競技が行われ、幅広い参加者がスポーツに触れ

るきっかけとなった。

そして2021年は、東京2020大会後の11月に開催した。体験会では、東京2020大会で千葉県ゆかりの選手が活躍したパラバドミントン初めて実施。また、「パラスポーツパネルコーナー～東京2020パラリンピックの軌跡～」が設けられ、幕張メッセ開催競技や千葉県ゆかりの選手等の写真パネルを展示した。

なお、2020年および2021年においては、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、スポーツ庁のガイドライン等に基づき、参加人数を制限し、事前申込制とした上で開催した。



ゴールボールエキシビションマッチ（2019年）

写真提供：吉野義昭



テコンドー体験会（2019年）

写真提供：吉野義昭



車いすバスケットボール体験会（2019年）

写真提供：吉野義昭



車いすラグビー体験会（2019年）

写真提供：吉野義昭



陸上競技（車いすレーサー）体験会（2020年）

写真提供：吉野義昭



ゴールボール体験会（2020年）

写真提供：吉野義昭



ボッチャ対抗戦（2021年）



コソコソ！点字ブロックリレー体験会（2020年）

写真提供：吉野義昭



パラバドミントン体験会（2021年）

写真提供：野村雄治



パラスポーツパネルコーナー（2021年）

パラスポーツフォーラム in CHIBA

千葉県は、東京2020パラリンピックに向け、県内開催競技の紹介や体験会、パラアスリートとの交流を通じてパラスポーツの魅力を伝えとともに、障害への理解を深める契機とするため、県内の市や（公財）日本財団パラリンピックサポートセンター、競技団体等の協力のもと、「パラスポーツフォーラム in CHIBA」を開催した。

リオデジャネイロパラリンピックが開催された2016年9月には、キックマン アリーナ（流山市民総合体育館）で「パラスポーツフォーラム in CHIBA」（千葉県、流山市教育委員会主催）を初開催。第1部では、2000年のシドニーパラリンピッ

クで車いすバスケットボールの日本代表キャプテンを務めた根木慎志さんを講師に迎え、流山市内の小学生約450人が車いすバスケットボールを体験した。見事シュートを決めた高橋りんさん（流山市立八木南小学校6年生）は、「ボールを持ちながら片手で車いすを走らせるのは難しかったけれど、初めての体験で楽しかった」と笑顔を見せた。また、講師の根木さんは、「階段を上りたいときなど、僕一人だったら困ることも、みんなが手伝ってくれば困らない。周りの人の協力で、障害はなくすことができる。今日の体験を通じて学んだこと、感じたことを行動に移してほしい」と話した。第2部では、市内の高校生と県内の大学生約60人がゴールボール



車いすバスケットボール体験会（2016年）



ゴールボール体験会（2017年）



パラスポーツフォーラムに参加したいすみ市内の中学生たち（2019年）



車いすテニス体験会（2018年）



車いすラグビー体験会（2019年）

とシッティングバレーボールを体験した。

パラリンピック開催1000日前に当たる2017年11月29日には、旭市総合体育館で「パラスポーツフォーラム in CHIBA 2017」（千葉県、旭市教育委員会主催）を開催。旭市内の中学2年生および近隣の特別支援学校の生徒を対象に、県内開催競技をはじめとするパラスポーツ6競技の体験会を実施した。また、千葉県の公用車（燃料電池自動車 MIRAI）に導入された東京2020大会開催を記念した特別仕様ナンバープレートのお披露目を行った。

2018年12月には、「パラスポーツフォーラム in CHIBA 2018」（千葉県、千葉県教育委員会、君津市、君津市教育委員会主催）を新日鐵住金(株)君津体育館で開催。2004年のアテネパラリンピック車いすテ

ニス金メダリストの齋田悟司選手を講師に迎え、君津市立周西中学校および市内中学校テニス部の生徒を対象とした講演会やディスカッション、各競技団体の協力による8つの競技体験会を実施した。午後からは一般の参加者も来場し、競技ブースは大いに賑わった。

2019年10月には、「パラスポーツフォーラム in CHIBA 2019」（千葉県、千葉県教育委員会、いすみ市、いすみ市教育委員会主催）をいすみ市立大原中学校で開催。いすみ市内の中学1、2年生と特別支援学校中学部の生徒約500人が参加し、千葉県を拠点に活動している車いすラグビーの官野一彦選手による講演の後、さまざまなパラスポーツ体験を行った。

パラスポーツ普及の担い手育成

千葉県は、東京2020大会を契機に、これまでスポーツに親しむ機会の少なかった障害者がスポーツに参加できる機会を増やし、障害のある人とない人がスポーツを通じて相互に理解を深めることができる社会としていくため、広く大学や競技団体と連携してパラスポーツ普及の担い手育成を行っている。

2016年には、県内高校の初任者教員232人を対象に研修を実施。NPO法人日本知的障害者スポーツ連盟の後藤邦夫理事長を講師に迎えて学校現場での取り組みにつながる指導のポイントについて説明を受け、演習では、障害のある人と一緒に楽しめる

スポーツ（フライングディスク）を体験した。

また同年以降、県内大学や競技団体等と連携し、教員を目指す学生を対象にシッティングバレーボールやゴールボールの研修・体験会を開催。障害者スポーツへの理解を深めるきっかけとなった。

また2019年1月には、千葉県および市町村の職員向けにパラリンピック・パラスポーツを題材とした研修「あすチャレ！ Academy」が開催され、視覚障害者への道案内や聴覚障害者に向けた筆談体験を通じ、障害者とのコミュニケーションについて学ぶ機会となった。

一方、大学生の主体的な取り組みとして、2014



高等学校初任者研修（2016年）



シッティングバレーボール研修・体験会（2017年）



ゴールボール研修・体験会（2018年） 守備の基本動作の練習

順天堂大学や流通経済大学、帝京平成大学、植草学園大学など、多くの県内大学と連携して研修・体験会を実施した。

年8月に千葉大学の学生を中心に学生団体「おりがみ」が設立され、幅広いボランティア活動を展開。2016年5月にはパラリンピック競技体験会「第1回パラスポーツについて考えよう（「みんなで参加、みんなで創る！」）」を主催し、同年9月には「パラスポーツフェスタちば」の初開催に向け、企画運営にも参画した。



「あすチャレ! Academy」(2019年)
講師のマクドナルド山本恵理選手（パワーリフティング）

助け合う社会を根づかせ、共生社会を実現させていく

学生団体おりがみ設立者／NPO法人おりがみ理事長

つづきのりひこ
都築則彦さん

“ひとりでも多くの人が関われるオリンピック・パラリンピックをつくりたい”——その思いを活動理念に、2014年8月に学生団体「おりがみ」を立ち上げました。

2012年のロンドン大会では7万人のボランティア募集枠に対し、21万人以上の活動希望がありましたが、14万人以上の意欲のある人々が大会に関われませんでした。多くの人々のエネルギーが生かされないことは非常にもったいなく、東京2020大会でも同様のことが起きるのではないかと考えたことが活動を始めたきっかけです。

おりがみは、スポーツや文化、環境など、多様な活動を行ってきました。中でも共生社会に向けた取り組みには力を入れており、パラスポーツや障害者のことを知ってもらうためのパラスポーツ体験会や、大学生と特別支援学校の生徒がスポーツ等で交流する活動などを行っています。

また、真に共生社会を実現していくためには、助け合う社会を根づかせていくことが重要です。おりがみでは現在、同世代の団体と連携して、千葉市内の学校においてパラアスリートのエピソードを紹介することを通じ、クラス単位で「小さな共生社会」を作る活動を始めています。パラアスリートの強さだけでなく、特に困ったときに助けてほしいという意思表示、「援助要請」に着目した教育にも取り組んでいきたいと考えています。

おりがみの取り組みは、イベントの企画段階から関わるなど、社会に参加していく「ボランティア」です。行政や企業、学校など、いろんな人たちとパートナーを組みながら面白いものをつくりあげていく動きは、「ボランティア」だからこそできることでもあります。こうした取り組みをこれからも大事にしていきたいと思っています。



都築則彦さん

「おりがみ」には、「『おり』ンピック・パラリンピックを、『が』くせい、『み』んなで盛り上げよう」という思いが込められている。



学生団体おりがみが企画運営に関わったパラスポーツフェスタちば（2016年）

パラスポの「輪」フォーラム

千葉県は、パラアスリートによる基調講演や企業・福祉関係者、学生、パラアスリートによるパネルディスカッション、県の取り組みの紹介などを通して、関係機関の「輪」をさらに広げ、パラスポーツの振興に取り組む契機とするため、2019年8月、ホテルポートプラザちばでパラスポの「輪」フォーラムを開催した。このフォーラムは、「パラスポーツを通してバリアのない社会を作り上げていく」ことをテーマに千葉県内の大学生が運営スタッフとして企画から関わって開催された。また、同年実施したパラ「旅」応援事業でボランティアに従事する学

生により組織されたパラ「旅」応援団の結成式も行われた。

パラ「旅」応援事業

千葉県では、障害のある人の東京2020大会の観戦や、スポーツ活動への参加の推進を図るとともに、参加するボランティアや受け入れ施設等の理解促進と新たな介護観の醸成を目的として、障害のある人のパラスポーツ国際大会の観戦と商業施設等への外出を学生ボランティア、ヘルパーとともに支援するパラ「旅」応援事業を実施。

2019年11月には「ヒューリック・ダイハツJAPAN



パラスポの「輪」フォーラム 日本パラ陸上連盟の花岡伸和副理事長による基調講演



学生ボランティアによるパラ「旅」応援団結成式



フィナーレ 障害のある人たちによる舞台芸術



パラ「旅」応援事業（千葉ポートスクエアポートタウン）

「パラバドミントン国際大会2019」（国立代々木競技場第一体育館）、同年12月には「2019IBSAゴールボールアジアパシフィック選手権大会 in 千葉」を観戦し、障害のある人およびその支援者、学生ボランティア、トラベルヘルパー約220人が参加した。

千葉市におけるパラスポーツの盛んなまちづくり

千葉市には、日本代表選手を多数輩出する車いすバスケットボールや車いすラグビーのチームがあり、また、国枝慎吾選手をはじめとする障害者アスリート用の車いすを開発・製造している（株）オーエックスエンジニアリングの本社があるほか、2012年から車いすバスケットボール全国選抜大会を開催している淑徳大学もあることから、千葉市は東京2020大会の開催が決まる前から、車いすスポーツの聖地を目指し、さまざまな取り組みを進めてきた。

そして東京2020大会でパラリンピック4競技（ゴールボール、シットイングバレーボール、テコンドー、車いすフェンシング）の市内開催を共生社会実現のさらなる契機と捉え、障害のある人もない人も共に交流できるまちづくりを進めている。

〔パラスポーツ体験研修〕

2016年度には、障害者および障害者スポーツに関する理解を深めるため、職員研修の科目の一つと



課長研修のゴールボール競技体験会（千葉市中央コミュニティセンター）



ちばしパラスポーツコンシェルジュポスター

して競技体験を行うこととし、7月に新任課長約100人を対象に、ゴールボール競技体験会を実施。職員から「思っていた以上に難しい」といった声が上がったほか、研修に参加した熊谷俊人千葉市長は「想像力が必要となる面白い競技」と感想を話した。

〔パラスポーツコンシェルジュ〕

2019年7月には、千葉市ハーモニープラザに「ちばしパラスポーツコンシェルジュ」を開設（2021年4月からは千葉ポートアリーナに移転）。障害者が地域のスポーツ活動に参加するためのつなぎ役として、コーディネーターが障害の種類・程度に応じたスポーツの紹介やサークル活動へのマッチングを行っている。

〔学校教育〕

学校教育では、2015年度から実施しているパラスポーツの大会観戦や、2016年度から実施しているパラアスリートの学校訪問による交流などに加えて、2018年度から全市立小・中学校（2018年度は166校）でパラスポーツの授業を実施。パラスポーツを単なる体験にとどまらず、授業の一環として位置づけることで、子どもたちの理解を深めるだけでなく、保護者や地域のパラスポーツへの関心を高めることも目的としている。

2020年2月には、東京2020パラリンピックの開催200日前を記念して、千葉市子ども交流館アリーナで小・中学校の授業で行っているオリパラ学習を体験するイベント「チャレンジ！オリパラ学習体験」を開催した。また全市立小・中学校、特別支援学校

では、市内で開催されるパラリンピック4競技の参加予定国およびその選手を応援する「オリンピック・パラリンピック応援作品」を描き、ポスターやのぼり旗を制作。2020年2月から3月にかけてJR千葉駅西改札内、千葉都市モノレールの車内、Qiball（きぼーる）1階アトリウムなどに掲出した。

〔チバフリ〕

2016年度から、東京2020公認文化オリンピックアードとして、障害のある人もない人も共に表現するファッションショーとダンスパフォーマンス、アート展示などのイベント「チバリアフリーアートプロジェクト（チバフリ）」をイオンモール幕張新都心で開催。このイベントには、アスリートのほか、さまざまなジャンルのアーティストが参加した。



体育の授業におけるパラスポーツの実践 左：ゴールボール／右：車いすバスケットボール

チャレンジ！オリパラ学習体験



親子でシッティングバレーボール体験



「東京五輪音頭-2020-」の練習



児童・生徒のオリンピック・パラリンピック応援作品によるのぼり旗（Qiball（きぼーる）アトリウム）



「チバリアフリーアートプロジェクトVol.5」（2021年）



「Go！Together！～みんな一緒に共生する未来～」でJR海浜幕張駅南口前に出展された都市ボランティアのブース（2019年）



〔パラスポーツ大会応援イベント「Go！Together！～みんな一緒に共生する未来～」〕

千葉市では、パラスポーツ大会の観戦を通して、多くの人にパラスポーツファンになってもらうことを目的として、パラスポーツ大会に合わせて産学官連携による応援イベント「Go！Together！～みんな一緒に共生する未来～」(千葉市、みんなで応援！千葉県経済団体協議会、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会主催)を実施している。

初のイベントは、2018年5月に千葉ポートアリーナで開催された「2018ジャパンパラウィルチェアラグビー競技大会」で、2019年3月には、「第8回長谷川良信記念・千葉市長杯争奪車いすバスケットボール全国選抜大会」に合わせて開催した。さらに、2019年5月に「シットイングバレーボール

チャレンジマッチ2019」、同年9月には「天皇陛下御即位記念2019ジャパンパラゴールボール競技大会」と同時開催された。

イベントでは、地元企業などが学生ボランティアと一緒にパラスポーツ体験ブースを運営したほか、県内の飲食物販店がご当地グルメ等を堪能できるフードコートを設けた。また、競技会場最寄り駅から大会会場に誘引するイベントを実施し、大会会場との回遊性を高めたほか、駅や商業施設でのポスター掲出による周知を行うなど、観客増加につなげた。



市町村におけるパラスポーツ振興の取り組み

千葉県内の市町村では、東京2020大会に向けて、パラアスリートとの交流や競技の体験を通して機運醸成を図るとともに、パラスポーツ振興に取り組んだ。



松戸市 加藤昌彦選手による市職員向け講演・シットイングバレーボール体験研修会（2019年）



市川市 いちかわ市民まつりでのゴールボール体験会（2018年）



松戸市 中山和美選手講演会後の競技用車いす体験（2017年）



茂原市 もばらスポーツフェスティバルでの車いすラグビー体験会（2018年）



佐倉市 パラスポーツフェスティバルでのブラインドサッカー大会（2018年）



佐倉市 パラスポーツフェスティバルでのペガーボール体験会（2018年）
ペガー（pegar）は「引っつく、くっつく」という意味で、マジック式のボンチョを着た鬼役を追いかけてボールを当て、多くボールがくっついたほうが勝ちとなる。



鴨川市 ウェルKAMO X'MAS GAMES 2019のイベント「チェアライダー 42.195」



鴨川市 ウェルKAMO X'MAS GAMES 2019のイベント「プレゼントスロー」
パラスポーツをアレンジしたアトラクションなどをパラスポーツを知らない人も感覚で楽しみながら参加できるクリスマスイベントとして開催した。



袖ヶ浦市 三宅克己選手による車いすバスケットボール体験会 (2019年)



袖ヶ浦市 廣瀬隆喜選手によるボッチャ体験会 (2019年)



八街市 やちまたふくしフェスタ2019での車いすバスケットボール体験会



山武市 女子走幅跳の村上清加選手講演会 (2020年)



多古町 いきいきフェスタTAKO 2019でのゴールボール体験会



千葉県の実施方針と目指す姿

2016年7月、スポーツ庁は、「オリンピック・パラリンピック教育」（オリパラ教育）はオリンピック・パラリンピックを題材にして、

- ①スポーツの意義や価値等に対する国民の理解・関心の向上
- ②障害者を含めた多くの国民の、幼少期から高齢期までの生涯を通じたスポーツへの主体的な参画（「する」、「見る」、「支える」、「調べる」、「創る」）の定着・拡大
- ③児童生徒をはじめとした若者に対する、これからの社会に求められる資質・能力等の育成

を推進することを目的としていると示した。

また2016年12月、中央教育審議会は東京2020大会を「多様な国や地域の文化の理解を通じて、多様性の尊重や国際平和に寄与する態度や、多様な人々が共に生きる社会の実現に不可欠な他者への共感や思いやりを子供たちに培っていくことの契機ともしていかななくてはならない」と答申した。

これらを踏まえ、千葉県教育委員会は、次世代を担う子どもたちに国際感覚やスポーツの楽しさ、ボ

ランティア精神、障害者への理解などを身につけさせ、大会後も無形のレガシーとして引き継いでいくために、県を挙げてオリンピック・パラリンピックを活用した教育活動に取り組む指針として、2017年4月に「千葉県オリンピック・パラリンピックを活用した教育の実施方針」を策定。実施方針では、オリパラ教育で、目指す児童・生徒の姿を、「おもてなし」「心のバリアフリー」「スポーツ」「グローバル」の4つのプロジェクトに整理した。県は、この実施方針に基づいて、2017年度には競技開催地やその周辺市町村、キャンプ予定地の市町村を中心とし、県内30校を先行的に実践する学校としてオリンピック・パラリンピック教育推進校（オリパラ教育推進校）に指定し、2018年度以降は県内65校に増やし、さまざまな取り組みを行った（2021年度まで継続）。

オリパラ教育推進校の取り組み〔1〕

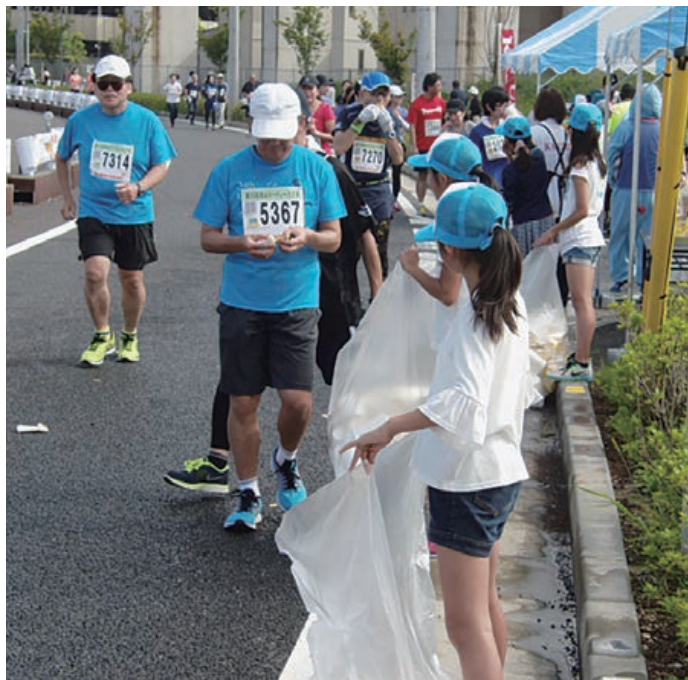
おもてなしプロジェクト・ボランティア隊

流山市立小山小学校は、2017年度にオリパラ教育推進校に指定されたことを受け、オリパラ教育のプロジェクトとして「おもてなし」と「心のバリア

◆ オリパラ教育を通して目指す姿と4つのプロジェクト

目指す児童・生徒の姿	
おもてなし	ボランティアに積極的に参加する意欲をもち、温かいおもてなしができる児童・生徒の育成
心のバリアフリー	共生社会の形成者にふさわしい、障害のある人や高齢者等を含めた他者を理解する児童・生徒の育成
スポーツ	生涯を通じてスポーツに親しみ、スポーツの楽しさや感動を分かち合う児童・生徒の育成
グローバル	自国の歴史伝統文化について理解を深め、他国の歴史や文化、言語について学び、世界を舞台に活躍する児童・生徒の育成
2020年の姿（東京2020大会までに達成してほしい姿）	
おもてなし	国内外の大会関係者や観客等を、どこで会っても明るい挨拶と最高の笑顔でお迎えしている 等
心のバリアフリー	障害、年齢、国籍等を問わず、公共の場等で困っている人を手助けしている 等
スポーツ	スポーツの魅力に触れ、障害の有無や年齢にかかわらず、誰もが一緒にスポーツを楽しんでいる 等
グローバル	日本の良さ（伝統文化など）を十分理解し、観光地等で世界の人々と臆せず積極的にコミュニケーションがとれている 等

◆ 小山小学校の取り組み



流山市ロードレース大会で「with Team Oyama」ロゴ入りキャップを被って給水所の片づけを行うボランティアを体験

フリー」の2つのプロジェクトを推進した。おもてなしプロジェクトでは、10月に実施された流山市ロードレース大会に5、6年生約30人が「小山小学校おもてなしプロジェクト・ボランティア隊」として参加し、選手の応援、水やバナナの配布、ゴミ箱が設置された給水所区間内での「ゴミはゴミ箱にお願いします！」という声かけ、選手通過後の給水所清掃などを実施。子どもたちはこの体験を通して、こうした行事がさまざまな人のボランティア活動などによって成り立っていることを知り、ボランティア活動に興味を持つようになった。

この活動に先立って、小山小学校の児童がボランティアスタッフとして参加していることが一目でわかり、子どもたちがこれからも地域活動に積極的に関わっていけるように、との願いを込めて、「with Team Oyama」のロゴ入りのキャップを製作。これ以降、地域活動の際にはこのキャップを着用している。

また、もう一つのおもてなしプロジェクトである「花いっぱい運動」では、栽培委員会を立ち上げて全校に呼びかけ、9月にパンジーの種をまいた。水分や日当たりの調節などに苦労しながらも11月の栽培委員会の活動でプランターに移植。春には色とりどりのパンジーの花が咲いて来校する人の目を楽しませた。

心のバリアフリープロジェクトでは、パラリンピックに関する事前学習を行った上で、シッティングバレーボール体験を実施。初めての座ったままで行うバレーボールに苦戦しつつも、動きが制限される中で行っている選手の「技」を知り、充実した時間を過ごした。

小山小学校は、その後も2021年度まで毎年オリパラ教育推進校の指定を受け、他にも幅広い取り組みを進めた。中でも毎年参加してきた流山市ロードレース大会については、学校のボランティア活動として根づき、今後も継続していくことを予定している。

オリパラ教育推進校の取り組み〔2〕

グローバル・コミュニケーションの実践

成田市立久住小学校では、1～4年生に20分を週2回、5～6年生には20分2回に加えて45分の英語の授業を週1回実施している。2017年度には、オリパラ教育推進校の指定を受けて、日本の文化や伝統に対する理解を図るとともに、積極的に外国の人とコミュニケーションをとり、より良い関係を構築しようとする気持ちを育てることを目的に、「おもてなし」と「グローバル」プロジェクトを推進した。

1、2年生は、体育館に多くの品物と店を準備し、久住中学校の1年生や地域住民のサポートを受けな

◆ 久住小学校の取り組み



成田山表参道でのインタビュー体験



成田山表参道でのインタビュー体験



日本文化体験会



やきり de ボッチャ (矢切特別支援学校)

がら英語での「買い物」を実践した。5年生は、成田空港での社会科見学を兼ねて、空港で外国人にインタビューする活動を実施。質問の内容も自分たちで考え、「日本の印象は」「日本とあなたの国との違いは何か」などについて話を聞いて英語でのコミュニケーションの楽しさや難しさを体感するとともに、英語圏以外の人も多いことを知り、多様性を体感した。6年生は、成田山表参道で外国人観光客に「習字」「城」「将棋」「剣道」「けん玉」「あやとり」「日本そば」などの身近な日本文化について知っているかどうかを身振り手振りも交えて質問した。また、地域の人たちを講師に迎え、学校周辺の水田地帯に伝わる「牛馬作り」¹⁾体験なども行った。

久住小学校は、毎年活動の中で、「心のバリアフリー」「スポーツ」にも取り組みの幅を広げた。

オリパラ教育推進校の取り組み〔3〕

スポーツを通じた心のバリアフリー推進

県立矢切特別支援学校は2017年度にオリパラ教育推進校の指定を受け、「心のバリアフリー」と「スポーツ」を推進することとした。併せて「特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業」(p.180参照)において、「障害者スポーツを通じた交流活動」というテーマで県の研究指定も受け、知的障害のある児童・生徒が実施しやすいオリジナル障害者スポーツ「キック&ダッシュ」²⁾を開発した。

同年度には、地域イベント「やきり de ボッチャ」を主催。地域のスポーツクラブの会員および近隣高

▶1 豊作や健康を願い、真菰（まこも、イネ科の多年草）で牛馬を作る伝統行事

▶2 県内の特別支援学校で実施している「キックベースボール」のルールを簡略化したもの

◆ 矢切特別支援学校の取り組み



やきりスポーツミーティング
給食での廣瀬選手と児童・生徒の交流

やきりスポーツミーティング
矢切特別支援学校では2016年度から全校を挙げてボッチャに取り組んでおり、2017年2月に開催した「やきりスポーツミーティング」ではパラリンピアンの廣瀬隆喜選手を招き、児童・生徒に加えて地域の人たちも体験会に参加した。



ウォークラリーのためのオリパラ豆知識掲示



世界の料理の掲示



オリパラクイズ



パラアスリートとの交流会



オリパラ給食の掲示

高齢者施設の入居者、地域の高齢者、大学生、近隣小学校の児童（3年生約60人、特別支援学級約20人）などが参加した。交流活動では、誰でも取り組みやすい障害者スポーツである「ボッチャ」を交流のためのツールとしたことで、障害の有無や年齢にかかわらず、共に楽しむことができた。また交流活動を通して、矢切特別支援学校の児童・生徒に対する理解や障害のある人に対する理解を広げる機会となり、「心のバリアフリー」の推進につながった。

2018年度には、「オリパラ豆知識」を校内のさまざまなところに掲示し、問題を作成してウォークラ

リーを実施。小学部、中学部、高等部混成のグループで協力し合いながらクイズに回答していくことで楽しく学んだ。

2020年度には、前年度までのようにトップアスリートや地域の人たちとの交流が難しい状況になったため、中学部の生活委員会が中心になってピクトグラムから種目を答えるオリパラクイズを実施するなど、楽しんで学習できる工夫を凝らした。

また2021年度には、オリンピック・パラリンピック給食活用レシピの掲示を行った。

◆ 秀明八千代中学校・高校の取り組み



鶴を折る生徒たち



生徒による作品をデジタルサイネージで掲示



優秀賞、日本賞（ホスト国の日本料理）、イギリス賞、ユニーク賞を選出し、校内に掲示



オリパラ教育推進校の取り組み〔4〕

日本から世界にエールを

秀明大学学校教師学部附属秀明八千代中学校・高校は、2018年度からオリパラ教育推進校に指定され、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、2020年度に「心のバリアフリー」「グローバル」に取り組んだ。

2020年6月、新しい学校生活をより良く送るための啓発活動として、同校の生徒一人ひとりが、世界の国旗の折り紙と和柄を使用して3羽の折り鶴を作った。世界規模で拡大する新型コロナウイルス感染症と戦う人々へエールを送り、私たちの生活環境を身近で支えてくれている人たちや家族への感謝の気持ち、今の自分にできることなどを形にして表すことが目的であった。

また、世界史Aを履修している高校1年生の全生徒を対象に、夏季休業中の課題として各国の料理をテーマに探究活動を実施。その際、生徒が探究する対象として選択した国についてオリンピック・パラ

リンピックとの関連を調べることで、出場国への理解と関心を高めた。

オリパラ教育推進校の取り組み〔5〕

共生社会を目指して

木更津市立清見台小学校は、2018年度からオリパラ教育推進校に指定され、同年度には「心のバリアフリー」「おもてなし」に取り組み、義足使用者を講師に招いて6年生全員で義足を体験。また、ちばアクアラインマラソン2018に何を持って行けばおもてなしになるかを各学年で考え、うちわや大きな旗を作り、それらを振って応援した。

2019年度からは、「共生社会の形成のための基盤となるように障害者理解を深め、地域のバリアフリーについて考えること」など、より具体的な目標を設定。国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を活用し、パラリンピックのクイズや映像資料を通して児童のパラリンピックへの関心を高めるとともに、授業参観を通して保護者のパライ



I'mPOSSIBLEアワード

国際パラリンピック委員会（IPC）公認教材「I'm POSSIBLE」は、パラリンピックを題材に、共生社会への気づきを子どもたちに促す教材としてアギトス財団（IPCの開発を担う機関）が開発したもので、教材の名前「I'mPOSSIBLE」には、「不可能（Impossible）だと思えたことも、ちょっと考えて工夫さえすればできるようになる（I'm possible）」という、パラリンピックの選手たちが体現するメッセージが込められている。

IPCは2019年8月、「I'mPOSSIBLEアワード」を創設し、共生社会の実現に寄与した学校と、同じく“社会を変える”顕著な貢献をしたパラリンピアンを東京2020パラリンピックの閉会式で表彰することを発表。2021年の閉会式では、開催国最優秀賞に木更津市立清見台小学校、開催国特別賞には千葉県立東金特別支援学校の取り組みが選ばれたほか、海外最優秀賞1校、パラリンピアン2人が表彰された（閉会式における表彰の様子はp.33参照）。



「I'mPOSSIBLE」表彰記念プレート

◆ 清見台小学校の取り組み



車いす補助について学ぶ児童たち

ンピック、パラスポーツへの理解も深めた。また6年生の授業では、校内のバリアフリーについて考えた後、家庭のバリアフリーについても考える機会を設けた。

さらに子どもたちは、自分たちが住む地域に目を向けることで、誰もが暮らしやすい社会にするために、どのようにすればよいかについて自然にハードと心の両面から考えるようになった。

新型コロナウイルス感染症の影響により、思うように活動ができない中、2020年度は6年生を中心に「オリパラ推進隊」を結成。児童が活動内容を企画し運営することで他の児童の意欲も高まった。具



学校の体育館でゴールボール体験

体的には、「世界記録実寸大の掲示（走幅跳・走高跳等）」「（オリンピック、パラリンピックまでの）カウントダウンカレンダーの掲示」「校内ぬり絵コンテスト」「オリパラ質問コーナー（校内放送）」等を実施した。

こうした同校の取り組みは、オリンピック・パラリンピックへの興味関心を高めるだけでなく、周囲を巻き込んで障害や共生社会に対して考えるきっかけを創出したことにより、「I'mPOSSIBLEアワード開催国最優秀賞」に選ばれ、東京2020パラリンピックの閉会式で表彰された。



グループごとに自分たちにできることを発表

I'mPOSSIBLEを活用！ 「共生社会の実現」を目指して 学び・実践

木更津市立清見台小学校では、「I'mPOSSIBLE」を活用して、共生社会の実現に向けた授業を実施している。2021年12月には、視覚障害者の疑似体験やこれまでの学習を踏まえたグループ発表が行われた。

視覚障害者の疑似体験では、「パラリンピアンが学校に来るとしたら」をテーマに、二人一組で、一人がアイマスクを着け、一人が声で誘導して校内を歩いた。歩き慣れた廊下や階段も普段どおりのスピードで歩くことができず、誘導役が「ここで廊下はおしまいだよ」「段差に気をつけて」「前から人が来る」など考えながら声をかけた。一番の難所である階段では、怖くて尻込みをしたり、他の人とぶつ

りそうになったりと大苦戦。体験した子どもたちからは「残り何段あるのか教えると歩きやすいと思う」「階段の数が全部同じならいいのに」などの声も聞かれた。

また、視覚障害や車いす体験、パラリンピアンとの交流など、これまでの学習を踏まえ、「誰もが住みやすい町 木更津」を実現するにはどのようなことができるかをグループごとに話し合った。そして、タブレット端末を用いて作成した資料を電子黒板に写し、障害・国籍・年齢・性別などに関係なくみんなが暮らしやすい共生社会を実現するため、自分たちにできることについて、それぞれの考えを発表した。

子どもたちの“気づき”を“変化”に導く

木更津市立清見台小学校 教諭

菅野元治さん

「I'mPOSSIBLE」を活用して授業を行うようになったのは、4年前にオリパラ教育推進校の指定を受け、何をやるか模索しているときに、何気なく教材を取り入れてみたことがきっかけでした。

初めは子どもたちに「障害って何？」と質問すると「大変そう」「かわいそう」というイメージが並んでいたのですが、教材にあるリオデジャネイロ大会のパラリンピック競技の映像を見せると「すごい」「こんなことができるんだ」と、ポジティブな答えに変わりました。この変化を目の当たりにして、こんなに面白い教材はないと思いました。授業では、車いす、視覚障害、高齢者体験やゴールボールなど、実体験をさせることを重視しました。

パラリンピック教育の一番の成果は、相手の立場で考えることができるようになったことです。学校近くで白杖をついている高齢者を見つけ、横断歩道を渡るのをサポートした児童もいました。学校での学習から、家や地域について考えていくことで、子どもたちが社会を変えてくれるようになればと思います。

パラリンピックを通じて、子どもたちには多くの気づきがあったと思います。その子どもたちの気づきを変化に導くことが私たちの仕事です。そのため、パラリンピック教育をここで終わりにするのではなく、むしろここから継続的にやっていかなければならないと考えています。ゴールである「共生社会の実現」に向けては、これからが勝負だと思います。



菅野元治さん



視覚障害者について学ぶ子どもたち



アイマスクを着けて行った視覚障害者の疑似体験



グループごとにこれまでの学習の振り返り



画像や動画を入れるなど、工夫を凝らした資料で発表

オリパラ教育推進校の取り組み〔6〕

パラスポーツの楽しさを発信

県立東金特別支援学校は、2018年度に県教育委員会からオリパラ教育推進校と「特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業」の指定をされたことから、学校内はもとより、地域にオリンピック・パラリンピックやパラスポーツを広めることを目的とした取り組みを見童・生徒主体で行う「オリ・パラ」推進隊を結成した。

「オリ・パラ」推進隊を中心に活動を進める中、地域イベントにおいてパラリンピアンへの講演に感銘を受けた見童・生徒たちから『I'mPOSSIBLE』（国際パラリンピック委員会公認教材）を通して学

びたい」との声が上がり、I'mPOSSIBLEを活用した学習を開始。パラスポーツの普及振興や共生社会の構築に向けた取り組みを推進した。また同校では、自分たちの学びにとどまらず、パラスポーツについて歌った「オリパラソング」やボッチャのやり方をわかりやすく説明するための動画を制作するなど、児童・生徒が自らのアイデアを形にし、さまざまな形でパラスポーツの楽しさを発信している。

2018年には「オリ・パラ」推進隊が地域の小・中学校を訪問し、障害者スポーツ（ボッチャ）出前授業などを実施する「オリ・パラ」キャラバン³を開始した。また同年8月には、東金アリーナで「オリ・パラ」サマーセッション in 東金を開催。同イベントには「オリ・パラ」推進隊の司会進行のもと142人が参加し、順天堂大学スポーツ健康科学部「障がい者スポーツ同好会」の協力によるゴールボールやボッチャの体験会、1998年長野パラリンピックで金メダル3つと銀メダル1つを獲得したマセソン美季さんによる講演などが行われた。

▶ 3 東京2020大会後は、パラスポキャラバンに名称変更



ゴールボール体験会（2018年） 日本代表選手からのアドバイス



ボッチャ体験会（2018年）



運動会に向けた模擬採火式（2018年）



城西国際大学の留学生たちとのボッチャ交流（2019年）

このほか、東金特別支援学校では、学校内にとどまらず、周囲の小・中学校や地域に対してパラスポーツの楽しさを伝える創造的な取り組みを数多く実施し、周りの人々の障害に対する意識を変えていった。同時に「オリ・パラ」推進隊の活動は、「障害のある自分たちからも、障害のない人に伝えられることがある」と、児童・生徒自身の成長の糧になっている。同校はこうした取り組みにより、「I'm POSSIBLEアワード開催国特別賞」に選ばれ、東京2020パラリンピックの閉会式で表彰された。

なお、東京2020大会後は、これからも継続して地域にパラスポーツを広めていくことを目的として、10月より“「オリ・パラ」推進隊”から“パラスポ推進隊”と名称を変え、活動に取り組んでいる。



パラスポキャラバン（2021年）
東金市立鶴嶺小学校の児童にアドバイス（上）
東金市立東中学校の生徒に点数の数え方を説明（下）



「オリ・パラ」推進隊の児童が折った1000羽のピース千羽鶴（海ほたる、2021年7～9月）



司会進行を担った「パラスポ推進隊」の高等部の生徒

I'mPOSSIBLEアワードパラリンピアン賞を受賞したザンビアのラサム・カトンゴさん（視覚障害・陸上競技）とのオンライン交流（2021年10月）



「ラサムクイズ」に答える高等部の生徒



オンラインでラサムさんとダンスをする小学部の児童



東金特別支援学校の選手たち



画面越しに挨拶する選手たち
右は各会場を映し出す大型モニター



「オリ・パラ」サマーセッション in 東金 2021

オンラインで 障害者スポーツを体験！

東京2020パラリンピックの開幕を1週間後に控えた2021年8月18日、パラリンピックの公式競技であるボッチャを通して、障害のあるなしにかかわらず、地域住民などが交流するイベント『「オリ・パラ」サマーセッション in 東金』が県立東金特別支援学校で開催された。

イベントを主催する東金特別支援学校は、2020年度まで県教育委員会から「特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業」の指定を受け、積み重ねてきた経験を生かし2021年で4回目となる本イベントを開催した。新型コロナウイルスの感染拡

大を鑑み、前年同様オンラインで実施され、同校の児童・生徒のほか市内の小・中学校、高校の児童・生徒、県職員など11チーム55人が参加した。競技はボッチャのルールをアレンジし、フラフープの中に入ったボールの総数で勝敗を決めるトーナメント方式とし、各会場をオンラインでつなぎ、参加者がリアルタイムで他の会場を見られるようにした。

イベントの運営は特別支援学校の児童・生徒からなる「オリ・パラ」推進隊を中心に行われた。推進隊は、開会式では競技ルールの説明や感染症対策の説明、対戦相手のアナウンスなど、司会進行を務めた。

障害者スポーツの普及に向け持続可能な取り組みを継続

県立東金特別支援学校 教諭

ふるかわふみひこ

古川文彦さん

「オリ・パラ」サマーセッションでは、本校の児童・生徒が「オリ・パラ」推進隊としてイベントの準備や開閉会式の運営等を行いました。特別支援学校では人前で何かを行う機会が少ない児童・生徒も多いのですが、推進隊としての活動を通じて人とのコミュニケーションの取り方を学んでいると感じます。もちろんまだうまくいかない面、苦手な面もありますが、小さな積み重ねから成長していくと思います。彼らも高等部を卒業すれば地域の一員として社会で働くので、プレッシャーを乗り越える勇氣や、チャレンジ精神を身につけてほしいですね。

今は東京2020大会で障害者スポーツが大きな注目を浴びていますが、大切なのは大会が終わった後です。自治体や企業、そして学校もトーンダウンしてしまうところがあるかもしれない。そこをどううまくつないでいけるか、持続可能な範囲でやっていけるかというところは自分でも注目しています。

本校ではサマーセッションのほかに、毎年11月に児童・生徒が地域の小・中学校に出向いてボッチャなどの授業の講師をやっています。事前準備はさまざまな場面を想定して練習を積み重ねていきますが、本番当日は自信を持って「はい、頑張ってきて」と送り出します。特別支援学校の児童・生徒でも小・中学生に教えることはできます。こうして本校から積極的に地域に出て発信していくことで、共生社会の実現につながっていくと思います。「オリ・パラ」推進隊をはじめ、今後も障害者スポーツの普及活動を持続可能な形で継続していきたいと思っています。



古川文彦さん

「オリ・パラ」推進隊長として頑張ったこと

高等部3年

まつの なな み

松野七海さん

Q1 何を頑張りましたか。
——ボッチャができるようにコロナ対策をしながら準備をしてきたことです。

Q2 ボッチャのどんなところが楽しいですか。

——みんなで協力して点数を入れるところです。

Q3 イベントに参加してくれたみんなに何を伝えたいですか。

——パラスポーツの楽しさを参加した人からも広めてほしいです。

Q4 今後やってみたいことはありますか。

——卒業後も地域のパラスポーツに関わるイベントに参加し、楽しさを伝えたいです。



松野七海さん

オンラインイベントの司会を務めて

高等部2年

かね こ は る や

金子温哉さん

Q1 何を頑張りましたか。
——話すときに緊張するので、最初は嫌だと思いましたが、先生にも相談しながらみんなに聞きやすいように心がけてやりました。

Q2 ボッチャのどんなところが楽しいですか。

——簡単そうだけど、やってみたら難しいところです。

Q3 イベントに参加してくれたみんなに何を伝えたいですか。

——ボッチャがもっと広まって、みんなにやってもらいたいです。

Q4 今後やってみたいことはありますか。

——生徒会長になって、いろんな意見を言ってみたいです。



金子温哉さん

特別支援学校を拠点としたパラスポーツの振興

千葉県では、東京2020大会を契機に、特別支援学校の児童・生徒にとってスポーツを身近なものにするとともに、スポーツによる交流を通じて学校および地域にパラスポーツを普及させ、パラスポーツを通じた共生社会の実現を目指すことを目的として「特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業」を実施した。本事業では、県内に幅広く拠点校を置き、各地域と連携をしながら持続可能なパラスポーツの振興を図った。また、県内の特別支援学校で組織した千葉県特別支援学校体育連盟主催のスポーツ大会や駅伝大会において、各競技のトップアスリートから実技指導を受けるなど、特別支援学校の児童・生徒が一流の技を肌で感じられる機会を作った。さらに、教職員を対象に実施したパラスポーツ

研修会では、県内で開催されるパラリンピック競技の県内強豪チームを招いた。児童・生徒がより有意義な体験ができるよう、研修で学んだ技術やルール、用具等の工夫を特別支援学校の体育の授業に取り入れた。

〔県立千葉特別支援学校〕

2018年度に拠点校となった千葉特別支援学校は、知的障害のある児童・生徒が通う学校で、小学部、中学部、高等部があり、県内の学校体育の充実とパラスポーツの普及に関する拠点として、千葉県特別支援学校体育連盟の事務局が置かれている。同校では、児童・生徒が水泳や陸上競技のパラアスリートから泳ぎ方や走り方のアドバイスをもらうなど、練習を通じて競技に親しんだ。中学部では、ボッチャ

◆ パラスポーツ研修会



ゴールボール体験

シッティングバレーボール体験

◆ 千葉特別支援学校の取り組み



ボッチャ大会



◆ 檼の実特別支援学校の取り組み



ボッチャ競技のアスリートとの交流



陸上競技のアスリートとの交流



のアスリートと共に地域の人たちを学校に招き、アスリートによるデモンストレーションや「ボッチャの交流試合」を実施。地域に向けてパラスポーツの理解を推進した。

〔県立檼の実特別支援学校〕

2018年度に拠点校となった檼の実特別支援学校では、学区内にある3つの児童養護施設から通学する児童・生徒が3分の1を占めている。同校では学校間交流でボッチャのルールを簡単にした「まきのみボッチャ」に取り組み、また、ボッチャや陸上競技のアスリートとの交流を行った。「まきのみボッチャ」では、ルールのわかる中学部や高等部の生徒

がボッチャの経験のない児童に積極的に教える姿も見られ、皆でボッチャに親しんだ。また、地域のスポーツイベント「ちばアクアラインマラソン」では和太鼓演奏による沿道応援に参加し、同校の活動を披露・紹介し、地域への発信を行った。

〔県立八日市場特別支援学校〕

2019年度には八日市場特別支援学校が拠点校となった。知的障害のある児童・生徒を対象として開校した八日市場特別支援学校では、コミュニケーションが苦手な生徒もいる中、「学生団体おりがみ」との交流を実施し、回を重ねて打ち解けていった。また、学生の考えたオリジナル種目も実践し、うま

◆ 八日市場特別支援学校の取り組み



北総地区特別支援学校駅伝大会
柏原竜二さんから伴走やハイタッチの応援を受けて走った。

くいったときにはお互いハイタッチをして喜び合う姿などが見られた。また北総地区特別支援学校駅伝大会では、学生時代には東洋大学、卒業後には千葉市に拠点を置く富士通の陸上部で駅伝を中心に活躍した柏原竜二さんが応援。大会後のエキシビションではランニングフォームや駅伝の楽しみ方（応援や会場の清掃）などを教えてもらい、走ることやスポーツへの向上心を喚起した。

〔県立千葉盲学校の取り組み〕

2020年度には、千葉盲学校が拠点校となった。同校は、視覚障害（見えない、見えにくい）に特化した県内唯一の特別支援学校で、幼稚部、小学部、中学部、高等部、専攻科の5つの学部があり、3歳から60歳代までの幼児、児童・生徒が在籍。県内の26市町に居住地があり、併設する寄宿舎から通

◆ 千葉盲学校の取り組み



パラトライアスロン体験会

う人もいる。同校では、視覚障害者が出場できるパラリンピック競技である「パラトライアスロン」の体験会を通して児童・生徒のパラリンピック競技への興味を喚起し、「挑戦したい」という声もあがった。初めて自転車に乗る児童・生徒も多かったため、自転車の構造や仕組みを知る機会ともなった。また、教職員を対象にボッチャの研修会を実施し、競技の特性やルール、審判方法などについて理解を深めた。

JOCオリンピック教室

文部科学省が定める現行の学習指導要領では、中学3年生の保健体育における体育理論の中で、「オリンピックや他の国際スポーツ大会等が国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」という文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義について学習することが明示されている。



© フォート・キンモト



© フォート・キンモト

これを受けてJOCは「オリンピズム（オリンピック精神）」や「オリンピックの価値（バリュー）」をより身近に感じてもらうため、その体現者であるオリンピックアン（オリンピック出場選手）を先生として、体育理論の学習に向けた事前啓発を目的に中学2年生を対象に授業形式で行う「オリンピック教室」を2011年度から実施している。

千葉県とJOCは、2016年にパートナー都市協定を結び、同年から協定に基づく連携事業として、県内の公立中学校において中学2年生を対象とした「JOCオリンピック教室」を開催している。オリンピックアンが自身の経験を通してオリンピックの価値な

どを伝える授業で、運動と座学の2コマで構成され、運動が苦手な生徒も参加しやすく、また貴重な経験を生徒が自分ごととして捉え、今後に生かすことができるよう工夫されたプログラムとなっている。

千葉県で初めてのJOCオリンピック教室は、2016年1月に船橋市立海神中学校で実施され、競泳の伊藤華英さんたちが授業を行った。

JOCオリンピック教室は、2016年から2021年までに計29校で実施され、夏季・冬季各種競技の多くのオリンピックアンが県内中学校の生徒と交流した。



日本フェンシング協会による学校訪問（松戸市立第三中学校）



日本フェンシング協会によるデモンストレーション（松戸市立河原塚小学校）



日本車いすフェンシング協会による学校訪問（昭和学院中学校・高校）

学校訪問プロジェクトによる機運の醸成

千葉県は各競技団体と連携し、大会に向けた機運醸成を図るとともに、子どもたちに県内で開催される競技の魅力や競技の見どころを伝え、競技に対する理解を深めてもらうため、県内の小・中学校、高校、特別支援学校を訪問する学校訪問プロジェクトを実施した。

千葉県と（公社）日本フェンシング協会は、初となる学校訪問を2018年1月に松戸市立第三中学校で実施。同校では2008年の北京オリンピックで日本フェンシング史上初の銀メダルを獲得した日本フェンシング協会の太田雄貴会長たちが競技紹介を行い、

所属選手によるデモンストレーション、代表生徒による競技体験が行われた。また同年4月には、競技に対する理解の促進、競技人口の増加や大会に向けた機運の醸成を図るための協定を締結し、学校訪問を継続して実施することとした。

2018年8月には、同様にNPO法人日本車いすフェンシング協会との間で協定を締結し、同年10月、県内初の車いすフェンシングの学校訪問を市川市の昭和学院中学校・高校で実施。競技紹介、講師によるデモンストレーション、代表生徒による競技体験などを行い、同学院の放送部が製作した車いすフェンシングの紹介動画を上映した。



日本レスリング協会による学校訪問（松戸市立相模台小学校）



日本サーフィン連盟によるサーフィン教室（白子町立白子中学校）



日本フェンシング協会によるリモート学校訪問（千葉市立千城台南小学校）

同年9月には、(公財)日本レスリング協会とも協定を締結し、松戸市立相模台小学校で初の学校訪問を実施。世界大会16連覇、個人戦206連勝の記録を持つ吉田沙保里さんたちが競技の解説を行い、タックル体験会などを実施した。また、東京2020ゴールドパートナー（乳製品・菓子）である(株)明治の協力のもと、食育講座も併せて開催された。

さらに同年10月には、(一社)日本サーフィン連盟とも協定を締結し、同年11月、白子町立白子中学

校で初のサーフィン教室を実施。日本サーフィン連盟広報委員会の岩波重之副委員長による動画等を用いた競技解説や、プロサーファーとして活躍中の田中英義選手が競技の見どころを紹介するとともに、サーフボードとバランスディスクを用いたサーフィン体験も行われ、代表生徒が挑戦した。

学校訪問は、2018年の開始以降、2021年までに延べ54校で行われ、約1万5,000人が参加した。

学校給食での東京2020大会応援メニュー

千葉県教育委員会は、他国の食文化や、千葉県の特産物を使った料理・郷土料理に興味関心を広げる良い機会であることから、学校給食を通じて子どもたちが多様な食文化に触れることができるように「オリンピック・パラリンピック給食活用レシピ」を紹介している。

また千葉市では、2017年度から、東京2020大会や幕張メッセで開催される競技の発祥の地にちなん

だ料理を、小・中学校、特別支援学校の全校で「応援メニュー」として学校給食に取り入れる取り組みを実施。2017年度はオリンピック発祥の地である「ギリシャ」、2018年度はフェンシング発祥の地の「フランス」、2019年度はテコンドー発祥の地の「韓国」と続き、2020年度はシッティングバレーボール発祥の地の「オランダ」、5年目となる2021年度は、開催国「日本」の料理の指導資料や家庭用のレシピ紹介資料を配布した。



応援メニュー（千葉市）左：フランス／右：オランダ

オリンピック・パラリンピック給食活用レシピ

◆特産物を使った料理・郷土料理



のだっ子と風スープカレー（野田市）



キャロットポタージュ（習志野市）



いわしのさんが焼き（四街道市）



棒もち入り雑煮（匝瑳市）



酢鯨（南房総市）



千葉チップス（御宿町）

◆世界の料理



タイ風チャーハン（八千代市）



マフェ（セネガルの料理、鎌ヶ谷市）



セビーチェ（ペリーズの料理、横芝光町）

児童・生徒による

「みんなの2020」イラスト・キャッチフレーズ

千葉県教育委員会は、児童・生徒自らが東京2020大会について考えるきっかけとすることを目的として、イラスト・キャッチフレーズの作品募集を実施。イラスト部門で129校1,665作品、キャッチフレーズ部門で150校9,118作品の応募があり、2020年1月に千葉県文化会館で最優秀賞表彰式が開催された。

◆ イラスト部門最優秀作品



高等学校の部 県立千葉女子高校 佐藤みゆさん



特別支援学校の部 県立東金特別支援学校 高橋葵さん

◆ キャッチフレーズ部門最優秀作品

えがおまんかい パワーぜんかい
がんばれ日本！

小学校の部 松戸市立常盤平第二小学校 吉岡心結さん

ようこそ日本へ。ようこそ千葉へ。
あなたの輝く姿を応援しています！！

中学校の部 香取市立佐原第五中学校 中村梨乃さん



小学校の部 習志野市立谷津南小学校 田中杏奈さん



中学校の部 流山市立常盤松中学校 市原彩羽さん・光悠さん

Dear 世界のアスリート様
最高の舞台を用意しました。

高等学校の部 県立流山おおたかの森高校 西野うらさん

炎みたいに熱くなれ 水のように走れ

特別支援学校の部 県立船橋夏見特別支援学校 岩里武洋さん

機運醸成の取り組みと文化振興

1

機運醸成の取り組み

カウントダウンイベントによる機運醸成

千葉県は、東京2020大会開催に向けて、県内の機運醸成や大会・競技への理解促進を図ることを目的に、東京2020組織委員会、千葉市、一宮町、県経済団体等と連携して、節目ごとにカウントダウンイベント等を実施した。

〔ALL CHIBAで盛り上がろう！

～みんなのTokyo 2020 3 Years to Go! ～

（開催3年前イベント）〕

2017（平成29）年には、大会の開催期間に当たる7月24日から9月6日までを「オリンピック・パラリンピック機運醸成期間」と位置づけて開催3年前を記念したイベント「ALL CHIBAで盛り上がろう！～みんなのTokyo 2020 3 Years to Go! ～」



オリンピックのカウントダウンカレンダー除幕式（ワールドビジネスガーデン／開催3年前イベント）



東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー フラッグ歓迎イベント



オリンピックのカウントダウンカレンダー除幕式（一宮町／開催3年前イベント）



パラリンピックのカウントダウンカレンダー除幕式（JR海浜幕張駅南口駅前広場／開催3年前イベント）

を開催した。

7月24日、ワールドビジネスガーデンにおいて、森田健作千葉県知事、熊谷俊人千葉市長出席のもとオリンピックのカウントダウンカレンダーの除幕式、アスリートや期待の若手選手によるトークイベントなどを開催。また、本イベントに先立って東京2020組織委員会等の主催で、「東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー フラッグ歓迎イベント」が行われ、フラッグツアーアンバサダーの廣瀬隆喜選手（2016年リオデジャネイロパラリンピックボッチャ銀メダリスト）から知事、千葉市長、県内の学生にオリンピックフラッグとパラリンピックフラッグが引き継がれた。

同日、釣ヶ崎海岸では「一宮町サーフィン会場でも盛り上がり！」としてプロサーファーによる競

技実演などのステージイベントが行われたほか、ビーチクリーン、カウントダウンカレンダーの除幕式が催された。

8月25日には、JR海浜幕張駅南口駅前広場でパラリンピックのカウントダウンカレンダー除幕式が行われ、トークイベントなどに加えて県立幕張総合高校合唱部と全盲のシンガーソングライター木下航志さんによるコラボレーションステージも披露された。

〔CHIBAにオリンピック・パラリンピックがやってくる！（開催1000日前イベント）〕

オリンピックおよびパラリンピックの開催1000日前の節目に当たる2017年10月28日および11月29日には、成田国際空港(株)、(公財)日本財団パリ



記念セレモニー（成田空港／開催 1000 日前イベント）



VRを活用したサーフィン体験会



VRを活用した車いすレーサー体験会



全盲のシンガーソングライター木下航志さんによるライブ

ンピックサポートセンター、競技団体等と連携して、開催1000日前を記念したイベントを開催した。

10月28日、成田空港で「CHIBAにオリンピック・パラリンピックがやってくる！」として千葉交響楽団によるオープニングコンサートや東京2020組織委員会の室伏広治スポーツディレクターを招いた記念セレモニーなどを実施。VRを活用したサーフィン、ボッチャ、車いすレーサー体験会などが催された。また、3年前イベントに続いて1000日前イベントでも全盲のシンガーソングライター木下航志さんによるライブのほか、オリンピック・パラリンピック競技写真パネル展、パラスポーツ絵画作品展なども開催された。

11月29日には、旭市総合体育館で開催された「パラスポーツフォーラム in CHIBA 2017」と連携し

たイベントを実施し、日本財団パラリンピックサポートセンターによる「あすチャレ！ School」としてゴールボールの体験などが行われた。

〔CHIBAにオリンピック・パラリンピックがやってくる！～Tokyo 2020 2 Years to Go!～（開催2年前イベント）〕

2018年7月下旬から9月上旬にかけては、東京2020大会に向けてさまざまなイベントを集中的に実施。オリンピック開催の2年前の節目となる7月24日には、サーフィン会場となる釣ヶ崎海岸と成田空港で記念イベントを開催した。

釣ヶ崎海岸では、記念セレモニーにおいて「おもてなしCHIBAプロジェクト」で育てたひまわりで作られたフラワーアレンジメントの贈呈式を実施し



ひまわり贈呈式（釣ヶ崎海岸／開催2年前イベント）



参加者による「2」の人文字（釣ヶ崎海岸／開催2年前イベント）



セレモニー（成田空港／開催2年前イベント）



テコンドーの競技パフォーマンス（成田空港／開催2年前イベント）



記念セレモニー（イオンモール幕張新都心／パラリンピック開催2年前イベント）



フェンシングのパフォーマンス（イオンモール幕張新都心／パラリンピック開催2年前イベント）

たほか、地元団体による子ども神楽・ダンスや県立一宮商業高校の生徒などによる「東京五輪音頭-2020-」の披露、参加者による「2」の人文字作成などのパフォーマンスを実施した。また、サーフィン日本代表「NAMINORI JAPAN」応援イベントも同時開催した。

成田空港では、テコンドーの競技パフォーマンスやひまわり贈呈式などのセレモニーのほか、参加型

イベントとして「県内開催競技を知ろう！夏休み謎解きラリー『チーバくんからの招待状』（成田空港内探索イベント）が実施された。

次いでパラリンピック開催2年前の節目となる8月25日、26日にはイオンモール幕張新都心においてイベントを開催し、記念セレモニーやフェンシングのパフォーマンスステージなどを実施したほか、「オール千葉おもてなし隊」結成式も行われた。

〔あと500日！オール千葉で応援しよう！
（開催500日前イベント）〕

2019年3月、3月12日のオリンピック開催500日前、4月13日のパラリンピック開催500日前を記念し、「あと500日！オール千葉で応援しよう！」フォーラムをイオンモール幕張新都心で開催。大会や県内開催競技を「オール千葉」で応援する機運を高めるため、県内の経済団体や企業、競技団体に広く周知し、約260人が参加した。同時に、イオンシネマ幕張新都心シアターで「スポーツを応援するチーバくん」のお披露目を行った。

また、千葉県がホストタウンとして登録されているオランダの魅力を紹介するため、「オランダを知ろう！ホストタウンイベント」を実施して事前キャンプ受け入れに向けた機運を高めた。ホストタウンイベントでは、イオンモール幕張新都心において、オランダアスリートの競技写真やホストタウン紹介パネル等の展示、ホストタウンクイズ、「ミッフィー」のオリジナル缶バッジ作り、オランダ衣装体験、オ

ランダストリートオルガン体験などが行われ、VRフェンシング・サーフィンの体験コーナーも設置された。

〔千葉にオリンピック・パラリンピックがやってくる！
～Tokyo 2020 1 Year to Go!～
（開催1年前イベント）〕

2019年7月、オリンピック・パラリンピック開催1年前を記念し、イオンモール幕張新都心で「千葉にオリンピック・パラリンピックがやってくる！」



記念セレモニー（イオンモール幕張新都心／開催1年前イベント）



「スポーツを応援するチーバくん」のお披露目
（イオンシネマ幕張新都心シアター／開催500日前イベント）



ミライティ、ソメイティとチーバくんによる県内開催競技紹介ステージ
（イオンモール幕張新都心／開催1年前イベント）



オランダを知ろう！ホストタウンイベント



オランダストリートオルガン体験

としてオープニングセレモニーやステージイベントなどを実施。

セレモニーには、オリンピックレスリング競技4大会連続メダル獲得の吉田沙保里さんや東京2020組織委員会の伊藤華英さん（元競泳女子日本代表）などが出演。ステージでは、東京2020オリンピックマスコット「ミライトワ」とパラリンピックマスコット「ソメイティ」、千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」やオリンピック・パラアスリート、オール千葉おもてなし隊オピニオンリーダーの保田圭さんなどが、県内競技や千葉県の取り組みを紹介した。さらに、参加者による県内開催競技応援

メッセージフラッグの作成、競技体験、聖火リレートーチやホストタウン紹介パネルの展示などが行われ、各ブースとも大いに賑わった。

一宮町では、一宮海水浴場で町主催のイベントを開催。プロサーファーの稲葉玲王選手によるトークショー、地元高校生による「東京五輪音頭-2020-」の披露、ビーチクリーン、参加者全員でのじゃんけん大会、参加者による「1」の人文字作成など、会場一体で楽しめるイベントとなった。

これらの機運醸成イベントと併せて、県内開催競技を周知し、さらなる大会機運の醸成を図るため、競技紹介パネルや懸垂幕などによる広報を実施した。



記念イベント（一宮海水浴場／開催1年前イベント）



稲葉玲王選手のトークショー
（一宮海水浴場／開催1年前イベント）



参加者による「1」の人文字（一宮海水浴場／開催1年前イベント）

〔東京2020大会の半年前に合わせた取り組み〕

東京2020大会の1年延期を受け、2021年1月、千葉県は大会の半年前に合わせて、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中でできる取り組みとして、県内開催競技への出場が内定している選手からのメッセージをホームページで紹介。併せて会場周辺の主要駅等で交通案内や観光案内などを行う都市ボランティア7人の大会に向けた思いを動画で紹介した。

また、大会を身近に感じてもらえるよう、新デザインのポスターを制作し、県内JR主要駅、小・中学校、高校、郵便局、道の駅や市町村など約2,400カ所に配布。オリンピック・パラリンピック7競技が行われる幕張メッセに隣接するイオンモール幕張新都心の外壁には、新デザインの懸垂幕を掲げた。海ほたるパーキングエリアにおいては、県内開催8

競技の紹介パネル等の展示を行った。

千葉市における機運醸成の取り組み

千葉市では、県内で開催される競技への理解や関心を高め、機運醸成を図るため、県や一宮町と共同でカウントダウンイベントを開催(p.188参照)。また、トップアスリートによる講演会を行うなど、さまざまな取り組みを推進した。

開催2年前の2018年7月には、千葉都市モノレールにおいて、東京2020エンブレムや県内開催競技をデザインしたラッピング車両の走行を開始(2020年9月まで)。2019年3月には、開催500日前イベントを実施し、市役所や各区役所などに懸垂幕を掲出した。

次いで2019年4月から5月には、千葉市科学館



新デザインのポスター
左は主に県内の小・中学校および高校、
右は主に県内のJR駅に配布



世界に一体のモニュメント

千葉県では、東京2020大会の機運醸成を図るため、ガッツポーズのミライトワ、ソメイティとサーフィンポーズのミライトワのモニュメントを制作。サーフィンポーズのミライトワのモニュメントは、世界に一体だけのものである。

制作したモニュメントは、2021年4月から6月までは千葉県県内に展示。また東京2020大会の開催期間中には、ガッツポーズのミライトワ、ソメイティは幕張メッセに、サーフィンポーズのミライトワは一宮町役場に展示した。

このモニュメントは、大会後も県内での開催を思い起こすことができるよう、競技会場となった幕張メッセと釣ヶ崎海岸にそれぞれ設置を予定している。



ガッツポーズのミライトワ、ソメイティ
(幕張メッセ)



サーフィンポーズのミライトワ

の企画展として「みんなのスポーツ展～ばくもわたしもアスリート！？～」を開催。アスリートの記録や実際の競技に用いられる用具などの展示に加え、運動が苦手という人でもゲーム感覚で楽しめるコンテンツを用意して来場者を迎えた。

そして開催1年前となった2019年7月には、千葉商工会議所および千葉県と連携し、中心市街地の商店街街路灯に東京2020エンブレムとスポーツを応援するチーバくんのバナーを掲出した。また、市ではJR海浜幕張駅前大型ビジョンをはじめとする各所での大会PR動画の放映を開始するとともに、同年8月には、京成バスの車体ラッピングおよび車内ジャック広告を実施した。

さらに2020年3月には、JR千葉駅・モノレール千葉駅連絡通路およびJR千葉駅東口駅前広場のモノレール支柱に市内開催競技をPRする装飾を施した。



千葉都市モノレールのラッピング車両



県内開催競技の写真をあしらった千葉駅の通路

大会が1年延期された後の2021年6月には、競技会場である幕張メッセ周辺においてラストマイル装飾を実施。同年7月には、リーフレット「TOKYO2020 幕張メッセで7競技開催」を発行し、改めて市内開催競技を紹介したほか、大会に出場する「千葉市ゆかりの選手」の横断幕を千葉市役所連絡通路や区役所に掲出するとともに、ポスターを公共施設や商業施設へ掲示した。

千葉市は2019年に「機運醸成等活動事業補助金」を設けて、市民団体や学生団体等が自主的に実施する大会機運醸成などを支援し、地元での大会開催を盛り上げる活動を支援した。



「みんなのスポーツ展」



京成バスのラッピングおよび車内ジャック広告

一宮町における機運醸成の取り組み

2016年12月、東京2020大会のサーフィン会場が釣ヶ崎海岸に決定したことを受け、サーフィンを軸に町の魅力を発信するPR動画「SEE YOU IN THE WATER!」の上映をウェブサイト「サーフィンと生きる町。」や庁舎内等で開始した。

2017年4月以降、町内の街路灯へのオリンピックエンブレムフラッグの掲出や「おもてなしの心」を伝えるポスターの掲示を行うなど、町ぐるみで開催地としての機運を高めてきた。

また、サーフィン競技の普及のために、サーフィンの基本知識やルールなどをわかりやすく紹介するチラシ「ICHINOMIYA SURFING」を作成し、町民や各種イベント来場者に配布したほか、カウントダウンイベントなどの場で選手のトークショーや競技体験会を積極的に行ってきた。

さらに、同年9月には「一宮町東京オリンピックサーフィン競技連絡協議会」、2018年1月には「長生郡市・夷隅郡市サーフィン競技応援連絡協議会」を設置。関係団体と大会関連情報を共有することで、



街路灯に掲出したオリンピックエンブレムフラッグ



町役場庁舎の懸垂幕



オリンピックエンブレム入りのサーフボードとカウントダウンボード



おもてなしポスター



国道128号線沿いに設置した看板



オーストラリア代表選手と東浪見小学校の児童との交流会



オーストラリア代表選手も参加した釣ヶ崎海岸でのビーチクリーン

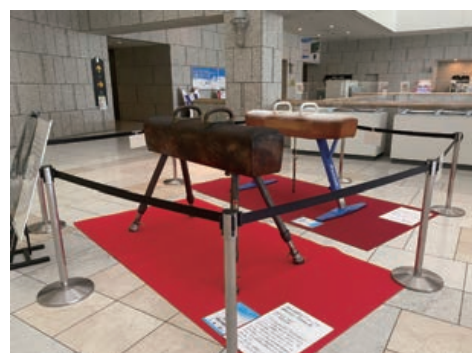
大会の開催機運の醸成に向け、地域全体での連携の強化を図った。

2019年3月には、サーフィン競技をより身近に感じてもらうため、オリンピックエンブレム入りのサーフボードを製作し、庁舎入口にカウントダウンボードと併せて展示した。同年9月には宮崎県で行われたサーフィン世界大会に先立って来訪したオーストラリア代表選手と一宮町立東浪見小学校の児童との交流会を開催。終了後には釣ヶ崎海岸でビーチクリーンを行った。同年11月には国道128号線沿いに、2020年3月にはJR上総一ノ宮駅東口にオリンピックエンブレム等の看板を設置するなど、大会への機運の醸成に取り組んだ。

チバミュージアムフェスタ2020

2019年8月から2021年8月にかけて、千葉県教育委員会は県立美術館・博物館の合同企画による「チバミュージアムフェスタ2020」として『『オリンピック・パラリンピック』と千葉のスポーツ史』のパネル巡回展示を実施した（東京2020公認文化オリンピックアード）。

千葉県ゆかりの人々の活躍を中心に、オリンピック・パラリンピックと千葉県における近代スポーツのあゆみ、現代のスポーツ競技を支える県内企業の技術についても紹介した。



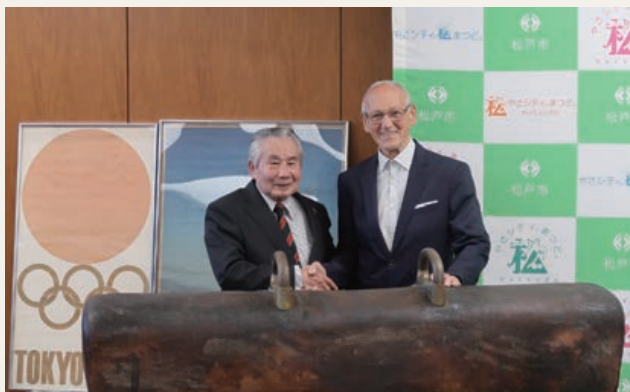
千葉県立中央博物館での展示の様子





市町村における機運醸成の取り組み

千葉県内の市町村では、東京2020大会に向け、1964年大会で使用された物品の展示やアスリートとの交流、競技体験等を通じ、機運醸成やスポーツ振興を図った。



1964年東京オリンピック体操あん馬のメダリストの対談
(松戸市、2019年)

1964年東京オリンピック体操あん馬の金メダリストミロスラウ・ツェラルさん（スロベニア出身）と銀メダリスト鶴見修治さんによる対談が、同大会で使用されたセノー（株）（松戸市）製のあん馬の前で内閣官房主催により行われた。ツェラルさんからは「友人の鶴見さんに会えて、湧き上がるものがある」、鶴見さんからは「一緒に演技したことを思い出して懐かしい」と再会を喜んだ。



習志野こどもしんぶん「オリンピック・パラリンピックがやってくる! 号」
(習志野市、2019年)

市とNPO法人「ならしの子ども劇場」が協働して行った事業。子ども記者たちが、市内でトレーニングキャンプを行っていたオランダ水泳選手に取材を実施。レイアウトなどについて意見を出し合いながら作成された。



大河ドラマ「いだてん」紹介展示（松戸市、2019年）

「いだてん」の主人公は、前半が明治時代に初めてオリンピックに出場した金栗四三（かなぐり・しろう）、後半は1964年の東京オリンピック招致の立役者である田畑政治（たばた・まさじ）。田畑役を松戸市出身の俳優・阿部サダヲさんが演じた縁で、紹介展示を実施した。



各種水球普及イベント（八千代市、2019年）

多くの水球女子日本代表選手を輩出している秀明大学とともに、東京オリンピックの正式種目となっている水球競技の普及イベント「プールで球技を楽しもう!」を開催。市内の小学1年生から6年生までの51人が参加し、水球男子日本代表キャプテンの大川慶悟選手や秀明大学水球部女子選手から競技指導を受け、アクアゲーム（ボールのパス・シュート、ミニゲームなど）を楽しんだ。



もばら夏まつりで東京五輪音頭-2020-
(茂原市、2019年)

茂原市では、「東京五輪音頭-2020-練習会」を実施して東京2020応援プログラム認証の「もばら夏まつり」で踊り、まつり当日や練習会の動画を公開した。



「感動再び！東京オリンピック展」
(香取市、2021年)

東京2020大会で使用する聖火リレートーチ巡回展、東京1964大会で聖火リレーの伴走を務めた「オリンピックカー」のほか、東京1964大会の聖火リレーでの貴重な資料を展示した。



「東京1964大会金メダリスト 桜井孝雄展」(香取市、2021年)

東京1964大会ボクシングバンタム級で金メダルを獲得した香取市出身の桜井孝雄さんの金メダルやボクシンググローブ、ボクシングシューズのほか、オリンピック公式ブレザーなどを展示した。



ゆかりのオリンピック・パラリンピアンを紹介展示
(銚子市、2020年)

銚子市ゆかりのオリンピック山口東一さん（1964年東京大会1500m出場）、加藤友里恵さん（2016年リオデジャネイロ大会トライアスロン出場）や、パラリンピアン渡邊紫帆さん（2012年ロンドン大会走幅跳、円盤投、100m出場）の大会当時の写真やユニフォーム、寄書きなどを銚子市役所1階において展示した。

国際大会による地域活性化の取り組み

国際大会は、地域のイメージアップを図る絶好の機会であり、地域スポーツのレベルアップや施設の有効活用、さらに交流人口の増加による地域の活性化につながることを期待される。そのため千葉県や県内の市町村、各競技団体は、東京2020大会の機運醸成や大会運営の検証等を行うとともに、県内のスポーツ振興や魅力発信、地域の活性化につなげるため、東京2020大会において県内で開催される競技の国際大会を開催。また、県内学校の児童・生徒を対象に国際大会の観戦事業を実施し、県内開催競技への理解や関心を高めた。

WSL QS6000 ICHINOMIYA CHIBA OPEN 2016 ~ 2019 (サーフィン国際大会一宮千葉オープン)

九十九里浜には日本有数のサーフポイントが点在しているが、中でも九十九里浜の南端に位置する一宮町は「サーフタウン」として名高く、初心者からプロまで、レベルやスタイルに合わせて選べるサーフポイントが多数存在している。多彩なサーフポイ

ントの一つが、東京2020大会のサーフィン会場となった釣ヶ崎海岸、通称「志田下^{しだした}」である。

釣ヶ崎海岸では、2016年から2019年までの4年間、日本最大のサーフィン国際大会WSL QS6000 ICHINOMIYA CHIBA OPEN (一宮千葉オープン)が開催された(4~5月の7日間)。QS(クオリファイニングシリーズ)は世界中で開催されているが、6000グレード(メンズ)は、世界プロサーフィン連盟WSL(World Surf League)が認める最も高い格付けの大会(2019年当時)で、20カ国・200人以上の世界のトッププロサーファーが集結し、最高グレードのチャンピオンシップツアー入りを目指して競い合う。2017年、2018年には一宮海岸広場で、大会に併せ、渚のファーマーズマーケットが開催された。

この大会は、千葉県と一宮町、いすみ市が東京2020大会サーフィン競技会場の誘致活動を展開する中でスタートし、その成果もあり、2016年12月、釣ヶ崎海岸が東京2020大会の会場に決定した。2018年の大会では、長生地域の小学生(一宮町立東浪見小学校、長柄町立長柄小学校、長柄町立日吉



WSL QS6000 ICHINOMIYA CHIBA OPEN (2017年)



表彰式では玉前神社の神輿が展示された（2018年）



サーフィン教室（WSL QS6000見学会、2018年）



大原洋人選手（2019年）

小学校、長南町立長南小学校、睦沢町立睦沢小学校の主に6年生を対象にサーフィン教室（国際大会WSL QS6000見学会）を実施。5校合計で約210人が参加し、一宮町サーフィン業組合所属の講師からサーフィンのルールや技の種類等について説明を受けた。

また、2019年5月にはWSL QS6000に続いてサーフィン日本一を決定する第1回ジャパンオープンオブサーフィン（日本サーフィン連盟主催）も行われ、翌2020年11月に開催された第2回ジャパンオープンオブサーフィンでは地元一宮町出身の大原洋人選手が優勝した。

釣ヶ崎海岸は約1,200年前から続く「上総十二社祭り」の場で、海岸には、町名の由来ともなった、平安時代創建の「上総国一宮・玉前神社」の鳥居が



稲葉玲王選手（2019年）

建つ。鳥居から海を眺める展望は、外国人観光客も驚く絶景となっている。上総十二社祭りの波打ち際を大きな掛け声とともに神輿を担いで走る「潮踏み」の姿は勇壮で、観光客も数多く訪れる。



選手がエスコートキッズとともに入場



ゴールボール体験会（ゴールボールジャパンメンズオープン）



天皇陛下御在位三十年記念 2019 ジャパンパラゴールボール競技大会

2018 Goalball Japan Men's Open（ゴールボールジャパンメンズオープン）

2018年1月、佐倉市民体育館でゴールボールの国際大会が開催され、日本、ベルギー、タイ、オーストラリア、韓国が参戦し、世界ランキング10位のベルギーが優勝した。

大会では、佐倉市の子どもたちがエスコートキッズ、千葉県国際交流センターの語学ボランティアが場内アナウンスや通訳、順天堂大学スポーツ健康科学部の「障がい者スポーツ同好会」を中心とした大学院生・学部生がボランティアスタッフとして参加した。また、ゴールボールの普及促進のための体験会も併せて実施された。

2019 ジャパンパラゴールボール競技大会

千葉市では、2017年からジャパンパラゴールボ

ール競技大会が開催されており、千葉県と共に競技への理解促進に取り組んできた。ゴールボールは、2012年ロンドンパラリンピック競技大会において、日本女子代表が金メダルを獲得した競技である。

2019年2月、「天皇陛下御在位三十年記念2019ジャパンパラゴールボール競技大会」（女子）が千葉ポートアリーナで開催され、世界ランキング1位のブラジル、同2位のトルコ、同6位のアメリカに、同4位の日本を加えた4カ国が参加した。日本は強豪国との激戦を制して決勝に進出したが、トルコに敗れ準優勝であった。

同年9月には、東京2020大会のテスト大会として「天皇陛下御即位記念 2019ジャパンパラゴールボール競技大会」（女子）が幕張メッセで開催。試合の間には、県立幕張総合高校ダンス部やきみつ少年少女合唱団が応援パフォーマンスを行った。大会



優勝した女子代表と3位となった男子代表（2019 IBSAゴールボールアジアパシフィック選手権大会 in 千葉）



シットティングバレーボールチャレンジマッチ 2019

には世界ランキング3位のブラジル、同5位のアメリカが参加し、日本のA・B 2チームを加えた4チームで総当たり戦が実施され、日本Aとの決勝を制したアメリカが優勝した。

2019 IBSAゴールボールアジアパシフィック選手権大会 in 千葉

2019年12月には、東京2020大会の予選として「2019 IBSAゴールボールアジアパシフィック選手権大会 in 千葉」が千葉ポートアリーナで開催され、アジアパシフィック地域の国際視覚障害者スポーツ連盟（IBSA）加盟国のチームが千葉ポートアリーナに集結。女子は日本代表が優勝し、男子は日本代表が3位の成績を収めた。日本代表は既に開催国枠で出場権を獲得していたため、女子では準優勝した

中国が東京2020大会の出場権を獲得した。また、県内の児童・生徒約4,800人が大会を観戦した。

シットティングバレーボールチャレンジマッチ2019

2019年5月、日本、中国、カナダ、イタリアの女子代表チームによる国際親善試合「シットティングバレーボールチャレンジマッチ2019」が千葉ポートアリーナで開催された。シットティングバレーボールの国際大会が千葉市で開かれたのは初めてのことであり、出場した4チームとも東京2020大会への出場が見込まれていたチームであった。優勝した中国は東京2020大会で銀メダルを獲得した。この大会では、市立習志野高校吹奏楽部の生徒たちが、演奏に加え、手拍子と声による応援を行った。また、県内の児童・生徒約1,800人が大会を観戦した。



SITE PUBLIS Presents アジアフェンシング選手権大会2019

海外メディア贈呈用に製作した千葉県PR
動画のDVD

(2019 IBSAゴールボールアジアパシフィック選手権大会、千葉2019ワールドテコンドーグランプリ、2019年女子レスリングワールドカップ成田大会)



SITE PUBLIS Presents アジアフェンシング選手権大会2019

2019年6月には、「SITE PUBLIS Presents アジアフェンシング選手権大会2019」が千葉ポートアリーナで開催され、男女全種目の個人戦・団体戦が実施された。この大会は、アジア・オセアニア地域より約30の国・地域の選手が参加する地域最高位の大会であり、東京2020大会、特に団体戦出場枠の確保に向けても重要な大会であった。決勝戦ではLEDによる演出、場内FMラジオでの特別解説が行われ、男子フルーレ団体では日本が優勝を果たした。また、県内の児童・生徒約2,100人が観戦した。

2019年12月には、東京2020大会の運営能力を高めることなどを目的としたテスト大会として、東

京2020大会のフェンシング競技会場と同じ幕張メッセで、「高円宮杯 JAL PRESENTS FENCING WORLD CUP 2019」が開催された。世界中から各国を代表する約200人の選手が出場し、男子フルーレの個人戦・団体戦が行われ、大会運営にあたっての検証の場ともなった。

東京2020大会開催1年前を迎えた2019年度には、このほかにも県内でプレ大会等の開催が本格化。千葉県では、この機会を捉え、大会機運を醸成するとともに国内外から県への関心を高めるため、幕張メッセ、釣ヶ崎海岸をはじめとする県の魅力を発信するプロモーション動画を制作し、各会場で映写した(p.240参照)。



千葉2019ワールドテコンドーグランプリ



県内の子どもたちを対象に開催したレスリング教室
(2019年女子レスリングワールドカップ成田大会)



表彰式 (2019年女子レスリングワールドカップ成田大会)

Chiba 2019 World Taekwondo Grand-Prix (千葉2019ワールドテコンドーグランプリ)

2019年9月には、千葉ポートアリーナで「千葉2019ワールドテコンドーグランプリ」が開催された。約50の国と地域から約250人の強豪選手が出場するテコンドーの世界大会で、オリンピックと同様に男女各4階級を実施。ランキング上位選手が招待されて行われるグランプリシリーズは日本で初の開催であった。自国開催枠で出場した鈴木リカルド選手(男子68kg級)は2回戦で敗退となった。

この大会では、市原市にキャンパスのある帝京平成大学の健康医療スポーツ学部の学生が運営ボランティアとして参加。また、県内の児童・生徒約1,100人が観戦した。

2019年女子レスリングワールドカップ成田大会

2019年11月、同年9月の世界選手権の国別対抗得点上位8カ国のうち6カ国が成田市の中台運動公園体育館に集結し、2019年女子ワールドカップ(国別対抗戦)が開催された。50kg級で松戸市出身の須崎優衣選手がテクニカルフォールで快勝して弾みをつけ、日本がアメリカを下して5大会連続11度目の優勝を果たした。

この大会の開会式では、県立成田国際高校ダンス部がオープニングアクトに登場。レスリングマットの上でダンスパフォーマンスを披露した。また大会の初日には、レスリング教室が開催され、県内のレスリングクラブの子どもたちが参加した。

オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典であると同時に「文化」の祭典でもある。東京2020大会は日本文化の魅力を世界に発信する絶好の機会であり、開催地となる千葉県でも文化プログラムを実施し、ちばの文化力向上と文化芸術による地域の活性化を図ることとした。

文化プログラムの枠組みには「東京2020文化オリンピックアード」と「beyond2020プログラム」があり、千葉県は、beyond2020プログラムの認証組織の一つとなった。

文化プログラムの実施にあたり、県では、①県民参加、②多様性、③ちばの魅力を発信、④未来への継承の4つを事業実施の基本方針とし、『県民の日』中央行事（県民のいちばワクワクフェスタ）「千葉・県民音楽祭」「ちばアート祭」等の事業に取り組んだ。

「県民の日」中央行事

（県民のいちばワクワクフェスタ）

千葉県は1984年に県の人口が500万人を突破したことを記念し、「県民が、郷土を知り、ふるさと

を愛する心をはぐくみ、共に次代に誇りうる、より豊かな千葉県を築くことを期する日」として、6月15日を「県民の日」に制定した。これは、1873（明治6）年6月15日に木更津県、印旛県の両県が合併して千葉県が誕生したことに由来している。

千葉県では、県民の日を記念して、千葉の魅力を再発見し、ふるさと千葉への愛着を深めることができるよう、例年6月15日前後に幕張メッセで参加体験型イベントとして、「県民の日」中央行事（県民のいちばワクワクフェスタ）を開催している。

このイベントでは、千葉の多彩な魅力を発信するため、県内で活躍する団体や千葉県ゆかりのアーティスト等によるステージ、各種体験コーナー、市町村等の特産品等の販売、千葉県産品を使用した料理等の提供を行っているが、東京2020大会の競技が同じ幕張メッセを会場に開催されることから、大会開催に向けた機運醸成のため、2016年度から競技の紹介や体験を実施してきた。

また、県が実施する文化プログラムと連携し、オリンピック・パラリンピックが文化の祭典でもある

◆ 東京2020組織委員会と国の文化プログラム

東京2020参画プログラム（文化分野） （東京2020文化オリンピックアード）

オリンピック憲章に基づいて行われる公式文化プログラム

東京2020公認文化オリンピックアード



【認証主体】
東京2020組織委員会

【事業実施主体】
国、開催都市、スポンサー企業、会場関連自治体（県内では、千葉県、千葉市および一宮町）など

【開始時期】
2016年10月から

東京2020応援文化オリンピックアード



【認証主体】
東京2020組織委員会

【事業実施主体】
非営利団体など（県内では、千葉市および一宮町以外の市町村、NPO法人、大学等）

【開始時期】
2017年7月から

beyond2020 プログラム

2020年以降を見据えたレガシー創出に資する文化プログラム



【認証主体】
内閣官房オリパラ事務局
文化庁、都道府県等
（2017年7月から認証組織を希望した都道府県等にも拡大）

【事業実施主体】
営利、非営利団体を問わず幅広い団体

【開始時期】
2017年1月から



サーフィン体験でサーフボードに乗るチーバくん（2018年）



オリンピック・パラリンピック競技体験コーナー（2018年）



千葉・県民音楽祭PRコンサート（2021年）



メインステージでのパフォーマンス（2019年）

ことを印象づけるため、2017年度以降は、ステージプログラムとして、東京2020公認文化オリンピックの認証を受けた「千葉・県民音楽祭」PRコンサートを実施してきた。

このほか、文化プログラムとの連携として、2018年度は、会場で「ちば文化資産」^{▶1}の投票・パネル展示の実施、2019年度は、この「ちば文化資産」に選定された茂原七夕まつりの七夕飾りや、もばら阿波おどりの実演を行った。また、文化プログラムの一つである「ちばアート祭」のPRとして、デジタル技術を用いたアート作品の体験コーナーも設置した。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とし、2021年度もまだ感染が収束しな

い状況ではあったが、出演予定であった団体等の発表の場を確保するとともに、千葉の魅力発信のため、無観客ではあったが、当日のライブ映像と後日編集した動画をYouTube等で配信した。収録はステージプログラムを中心に出演者のインタビュー等も併せて行い、千葉・県民音楽祭PRコンサートや「ちば文化資産」である銚子はね太鼓のステージ等を紹介した。

▶1 多様で豊かなちば文化の魅力を特徴づけるモノやコト。伝統的なものに限定せず、現代建築や景観、イベント等さまざまなものが含まれている。



ちば文化資産の選定とちばアート祭

東京2020大会の機会を生かし、多くの県民に県の文化的魅力を再認識してもらい、次世代に継承していくため、2018年度に「次世代に残したいと思う『ちば文化資産』」を県民参加により111件選定した。

また、この「ちば文化資産」を会場や作品のテーマとして活用し、世代や障害の有無を問わず、あらゆる人々が文化の担い手として参加・体験することができる県民参加型のイベントとして、絵画・写真公募作品展と屋外での作品展示を核とする「ちばアート祭」を2019年度から3カ年にわたり実施した。

東京2020大会開催年にデジタル技術を用いた作品展示を予定していたことから、初回となる「ちばアート祭2019」では、「ちば文化資産」をテーマとした絵画・写真の公募作品展に加え、県内に所在す

る大学の学生やプロのアーティストによるデジタル技術を用いた作品展示を行った。

「ちばアート祭2020」は、東京2020大会の延期および新型コロナウイルス感染症の影響により、絵画・写真公募作品展のみの実施となった。

「ちばアート祭2021」は、大会開催年の実施となることから、会場や内容の規模を拡大し実施することを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況であったため、感染防止対策が可能な内容のみとし、初回から続けてきた絵画・写真公募作品展のほか、千葉県ゆかりのアーティストによる屋外作品展示、世界的に活躍するアート集団「チームラボ」による屋外での作品展示を実施。制約がある状況での開催となったが、作品の応募者数および観覧者数は初回の2倍以上となり、多くの人に千葉県の文化的魅力に触れる機会を提供した。



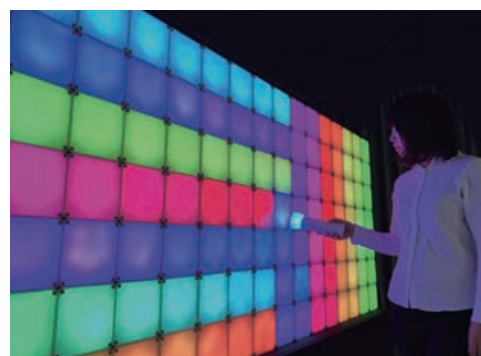
ちばアート祭2020の展示の様子（県立美術館）

チームラボ「自立しつつも呼応する生命と呼応する木々」（2021年、千葉ポートパーク展望の丘）



左：戸舗誠さん「空を眺めている人」（2019年、千葉ポートパーク円形広場）

右：城西国際大学メディア学部「pixcol（ピコル）」（2019年）



左：大川友希さん「記憶のかたち」（2021年）

右：中村岳さん「遡及空間（そきゅうくわかん）」（2021年）

千葉・県民音楽祭

文化プログラムの実施にあたっては、多くの県民がさまざまな分野の事業・イベントを、観るだけでなく、文化の担い手として参加し、交流できることが重要である。そこで千葉県では、2017年度から2021年度まで、県民とプロのオーケストラ等による市民参加型コンサート「千葉・県民音楽祭」を開催した。

東京2020大会の開催年まで年々内容を充実させ盛り上げていくことを目指し、ダンス・和楽器演奏など、公演内容に幅広い音楽ジャンルを追加していくとともに、公募のジャンルも徐々に拡大していった。また、障害の有無にかかわらず多くの人が参加して音楽を楽しめるよう、音楽活動を行う障害者団体のステージや、障害のあるプロのアーティストが演奏やダンス等を披露するステージを設け、音楽を通した共生社会の実現を目的に取り組んだ。

千葉県は音楽祭の開催に向け、県内のプロオーケストラ「千葉交響楽団」と一緒に演奏したい人や共演したい団体等を公募。オーディションで出演が決定した楽器演奏者は千葉交響楽団の楽団員の指導のもとで練習を行った。選考会で選ばれた参加団体なども練習を積み重ね、本番で演奏やパフォーマンス

を披露した。

さらに「左手のピアニスト」として第一線で活躍している舘野泉さんや、視覚障害がありながらも国内外で活躍しているヴァイオリニスト川島成道さんのほか、県内出身の若手アーティストである石田真奈美さん（箏）、實川飛鳥さん（ピアノ）などの多彩なゲストを迎え、プロ・アマチュアの違いや障害の有無などにかかわらず、多様な音楽により皆でステージをつくりあげ、千葉の文化の魅力を発信した。

また、大会競技のPRとして、千葉県フェンシング協会や千葉県テコンドー協会が、県内開催競技であるフェンシングとテコンドーの解説やデモンストレーションなどを行った。さらに、オーケストラ楽器展示・体験、和楽器体験、VRフェンシング体験、車いすフェンシング体験、VRサーフィン体験、サーフィンフォトスポット（トリックアート）、北総四都市江戸紀行・ちば文化資産の紹介展示などを行った。

なお、本事業は「東京2020公認文化オリンピック」の認証を取得した上で実施。また、集大成となる2021年の公演は、東京2020組織委員会と共催する「東京2020 NIPPONフェスティバル共催プログラム」に採択された（詳細についてはp.210参照）。



公募によるオーディションの様子（2019年）



演奏の練習会（2019年）



車いすフェンシング体験（2019年）



VRサーフィン体験（2019年）



ダウン症のある子と親の会ジュピターによる演技（上）
ジュニアコーラス フェアリーズによる合唱（左下）
義足のプロダンサー大前光市さん（右下）

千葉・県民音楽祭2021

世界に響け！ みんなでつくるハーモニー

2021年6月20日、「千葉・県民音楽祭 世界に響け！みんなでつくるハーモニー～世界を巡る音楽の旅vol.3～」が千葉県文化会館で開催された。千葉交響楽団の音楽監督で指揮者である山下一史さんによる指揮のもと、公募により選ばれた楽器演奏者が千葉交響楽団と共にオリンピック・パラリンピックにちなんだ楽曲等を披露。県内で活動する合唱団体、障害者団体、ダンス団体がパフォーマンスを披露し、

日頃の練習や活動の成果を十分に発揮し、ステージを盛り上げた。

また、義足のプロダンサー大前光市さんや県内出身の若手アーティストである西村悟さん（声楽）、望月太左乃（佐野友紀）さん（邦楽囃子方）のほか、プロダンサー北尾亘さんなどの多彩なゲストが登場し、素晴らしいステージで観客を魅了した。



邦楽囃子を披露する望月太左乃（佐野友紀）さん（前列左から1人目）



声楽家の西村悟さん



山下一史さん

一緒に演奏し、歌い、踊り、一つになる この喜びを大切にしたい

千葉交響楽団 音楽監督・指揮者

やました かずみ

山下一史さん

千葉・県民音楽祭への参加は3回目です。音楽は、世代、言語、宗教、イデオロギー、あらゆるギャップを乗り越え、人と人とをつなぐことができます。メロディをすべての人たちと共有できる、素晴らしい瞬間です。千葉交響楽団は「おらがまちのオーケストラ」として、県民に近い存在になりたいと活動しています。クラシックは敷居が高いと思われがちですが、共演すれば考えは変わります。プロと一緒に準備しリハに参加して、さまざまなプロセスを経て本番を迎える。県民音楽祭は理想的な場です。立場を超え、一緒に演奏し、歌い、踊り、一つになる。回を重ねるごとに皆さんとの距離が縮まっていく、この喜びを大切にしたい。

音楽監督として、定期コンサートなどのほかに、幼稚園や特別支援学校、小・中学校への訪問演奏会を行っています。子どもたちにとって一生に一度のオーケストラの演奏会かもしれないと思うと、絶対に手を抜けない。毎回、汗だくの真剣勝負です。昨年、念願の「千葉交響楽団を応援する会」が発足しました。コロナ禍において我々の心の支えになっています。プロのオーケストラとして何ができるか考え、チャンスがあればいろいろな場所でたくさんのコンサートを開きたいと思っています。



滝口順子さん

大舞台での経験が 子どもたちの“しなやかな心”を育む

ダウン症のある子と親の会ジュピター 代表

たきぐち じゅん こ

滝口順子さん

今回練習のために久々に集まって、お互いの気持ちや声、温もり、息吹を感じるには、対面することが一番なんだと改めて実感できましたね。大きい舞台でプロのオーケストラが演奏する中での本番でしたから、皆かなり緊張していました。でも、彼らは本番に強いんです。120%の力を出してくれました！終わった後はぐったりしていましたがね（笑）。でも、こういった経験が子どもたちの自信となって、将来社会に出たときに嫌なことであっても、ちょっとやそっとじゃ折れない“しなやかな心”が育まれるのだと思います。

また、社会の大多数は普通に生活していくことが可能な方ですが、一方で何らかのハンデがあり、援助や配慮が必要な方もいます。そのことを理解してもらうには、理屈ではなく、一緒にいる、一緒に何かをやるということが重要です。年齢、性別、それこそ障害の有無に関係なくできるのは文化芸術だからこそですので、さまざまな方が参加できる場を社会がつくっていく必要があると思います。



プロダンサーの北尾亘さん



フィナーレ



佐倉市 石高150石の武家屋敷（旧但馬家住宅）



成田市 参拝客で賑わう成田山新勝寺の参道



香取市 佐原の山車行事（左）と伊能忠敬旧宅（右）



香取市佐原伝統的建造物群保存地区



銚子市 漁港がある外川地区の町並み

「北総四都市江戸紀行」日本遺産に認定

「日本遺産」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、魅力ある有形・無形の文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することによって、地域の活性化を図ることを目的としている。千葉県は、東京2020大会開催を意識し、文化遺産を生かして県の魅力を国内外に発信するため、佐倉市・成田市・香取市・銚子市を舞台にしたストーリー「北総四都市江戸紀

行・江戸を感じる北総の町並み」を、4市とともに2016年に文化庁へ「日本遺産」認定を申請し、同年4月に認定された。

北総地域は、当時、百万人の人口を有したと言われる大都市江戸に隣接し、関東平野と豊かな漁場の太平洋を背景に、利根川の水運と江戸に続く街道を利用して江戸に東国の物産を供給し、江戸の暮らしや経済を支えた。こうした中、江戸の文化を取り入れることにより、城下町の「佐倉」、成田山の門前町である「成田」、利根水運の河岸、香取神宮にお



市町村における文化振興

千葉県内の市町村では、東京2020大会を契機にさらなる文化振興を図るため、市民と行政が一体となって市町村ごとに個性を生かした文化関連イベントを展開した。



千葉市 千の葉の芸術祭「生態系へのジャックイン展」(2021年)
千葉市初の芸術祭「千の葉の芸術祭」の一つとして開催。幕張新都心で活動するリサーチプロジェクト「METACITY」と連携し、幕張海浜公園日本庭園「見浜園」を会場として、光を使ったインスタレーション（展示空間全体をアート作品として表現すること）や回遊式のエキシビションなどを展開した。



匝瑳市 飯高檀林コンサート (2018年)
[beyond2020プログラム事業]
国の重要文化財である飯高寺（飯高檀林跡）の講堂を舞台に芸術文化の振興と文化財保護の啓発を目的として、ドイツ在住の日本人ソプラノ歌手・ピアニストとマンドリニストによるコンサートを開催した。



匝瑳市 八重垣神社祇園祭「神輿連合渡御」(2019年)
[東京2020参画プログラム事業]
神輿連合渡御では、10町内から集まった20基ほどの神輿と囃子連が延々と連なり、笛と太鼓の軽快な囃子に合わせ、「あんりゃあどした」という威勢のいい掛け声で市街を練り歩く。神輿の行列に冷水を浴びせかけるのもこの祭りの特徴。



四街道市 市民文化祭 (2019年)
[beyond2020プログラム事業]
四街道市民文化祭実行委員会に所属している各団体为中心となり、「展示部門」「芸能部門」「各種文化行事」に分かれて、市民の文化活動の成果を発表。また、県立四街道特別支援学校や県立千葉盲学校と連携して「児童生徒作品展」を開催し、障害の有無にかかわらず市内小・中学校の児童・生徒の情操教育の成果を発表している。

ける参道の起点となる「佐原」、漁港・港町、そして磯巡りの観光客で賑わった「銚子」という4つの特色ある都市が発展した。これら四都市では、江戸庶民も訪れた町並みや風景が残り、いまでも東京近郊にありながら江戸情緒を感じることができる。成田空港からも近いこれらの都市は、世界から一番近い「江戸」である。

2016年5月には、関係団体の連携強化を図りながら、これらの歴史的資源を有効活用するため、関係自治体を中心に「日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会」を設立。同協議会では、地域活性化および観光振興に資するようPRイベントを開催するなど、北総四都市のブランド力強化と魅力発信に取り組んでいる。



銚子はね太鼓保存会によるはね太鼓演奏

感動を再び！ 「ARIGATO TOKYO 2020」 フェスティバル

千葉県は2021年11月、東京2020大会の感動を再び味わうとともに、千葉の文化・芸術の魅力を再発見できるイベントとして『『セレブレーションに出演予定だった団体等による発表及びコンサート』～感動を再び！『ARIGATO TOKYO 2020』フェスティバル～』を千葉県文化会館で開催した。

千葉交響楽団によるファンファーレによって幕を開け、熊谷俊人知事が「オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典であるとともに文化の祭典。千葉県の文化・パフォーマンスを見てもらおうと何年もかけて準備したが、かなわなかった。それらを2021年以降に生かして受け継いでいくことで、千葉の活力にしたい。その一つが場がARIGATO TOKYO 2020フェスティバルになる」とあいさつした。

フェスティバルでは、聖火リレーのセレブレーション

ョン等に出演予定だった団体によるパフォーマンスや大会にちなんだ楽曲のコンサートなどを実施。併せて、東京2020大会に出場した船橋市出身のオリンピック体操競技団体銀メダリスト・谷川航選手と四街道市出身のパラリンピック5人制サッカー（ブラインドサッカー）代表・佐々木康裕選手へのインタビュー、オール千葉おもてなし隊トークショー＆ミニライブなどが行われ、約1,000人が観覧した。



千葉交響楽団によるファンファーレ

千葉県からブラインドサッカーを盛り上げていきたい

東京 2020 パラリンピック 5 人制サッカー日本代表

さ さ き や す ひ ろ
佐々木康裕選手（四街道市出身）

ブラインドサッカーを始めて18年になりますが、パラリンピックに出場したのは東京2020大会が初めてです。私は四街道市出身で、ずっと千葉県で育ってきました。娘が通う幼稚園、小学校における「出場おめでとうございます」といった張り出しや、近所の皆さんからの「頑張ってください」「テレビで観ました」といった声掛けが励みになり、パラリンピックを頑張ることができました。

ブラインドサッカーはキーパー以外の選手がアイマスクをして行うサッカーであり、天気や湿度、風向き等によって、音の聞こえ方や距離感、ボールタッチの感覚等が変わってきますので、試合前には必ずそれらを確認するようにしています。大会ではメダルが取れず、また、私自身の出場時間が短かったので悔いが残りましたが、今後も国際大会に選手として出場できるよう努めるとともに、所属している千葉のチームを強くすることや普及活動に力を入れ、千葉県からブラインドサッカーを盛り上げていきたいと思っています。



インタビューに答える谷川選手（左）と佐々木選手（右）

セレブレーション等に出演を予定していた団体によるパフォーマンス



木更津総合高校吹奏楽部によるヤングマンの演奏



松戸商工会議所女性会・小金原9丁目太鼓による「東京五輪音頭-2020-」



日本バトン協会関東支部によるバトン演技



ひびき連合会による銚子大漁節



「おもてなCポーズ」をとるオール千葉おもてなし隊オビニオンリーダー
左から岡田ロビン翔子さん、鈴木愛理さん、鍛冶島彩さん



来場者を見送る都市ボランティア

おもてなしの取り組み

1

オール千葉おもてなしアクション!

千葉県は、東京2020大会を契機として、千葉県を訪れる人を最高のおもてなしで迎え、「千葉に来て良かった」「また千葉に来たい」と思ってもらえるよう、オール千葉でのおもてなし機運の醸成を図

るため、庁内各部局によるおもてなしにつながる取り組みを、千葉県ならではのおもてなしである「思いやり」「スマイル」「クリーン」の合言葉のもと、連携・協力して推進する「オール千葉おもてなしアクション!」を展開した。



オール千葉おもてなし隊

〔結成式〕

「オール千葉おもてなしアクション!」の取り組みの一環として、2018（平成30）年8月に、千葉県民全員をメンバーとする「オール千葉おもてなし隊」を結成。県民や事業者が行う清掃や植栽などの環境美化、あいさつ促進、サービスやマナーの向上、



オール千葉おもてなし隊結成式 上の写真は左が鍛冶島彰さん、右が鈴木愛理さん

県民の日ちばワクワクフェスタ2021での
オール千葉おもてなし隊紹介ステージ
左が岡田ロビン翔子さん、右が鈴木愛理さん



千葉ロッテマリーンズが地元千葉県のために戦う「ALL for CHIBA」の日、宮本佳林さんが「オール千葉おもてなしアクション！」の一環として千葉県の特産品3品をセットにした「ちばの美食でおもてなしセット」を無料配布した（2021年）

安全・安心の提供などの活動が、国内外からのお客様への「おもてなしに繋がる活動」であるということをもPRし、それぞれに気づきを与えることで、オール千葉でのおもてなし機運の醸成を図ることとした。

結成式には千葉県出身の鈴木愛理さんやアイドルグループ「アップアップガールズ（2）」の鍛冶島彩さんたちが参加し、「オール千葉おもてなし隊」の取り組みを広くPRするオピニオンリーダーに就任した。

〔イベントでのPR〕

千葉県主催の「県民の日ちばワクワクフェスタ」や千葉ロッテマリーンズ主催の「ALL for CHIBA」など、多くの人が集まる県内イベントにオピニオンリーダーが参加し、PRを展開した。2018年10月に開催された「ちばアクアラインマラソン2018」では、

36km地点の「おもてなしロード」でランナーたちに千葉県産の新鮮な野菜や果物、名物のお菓子などを配布し、PRを行った。

〔各地域での「おもてなしに繋がる活動」への参加〕

各地域で行われる「おもてなしに繋がる活動」にオピニオンリーダーが参加し、活動を行うとともに、その様子を動画にまとめ、県のホームページに掲載するなどして広くPRを行った。

2019年8月には東京2020大会でオリンピック初のサーフィン競技が行われる一宮町で実施された「一宮海岸ビーチクリーン活動」に参加した。一宮海岸でのビーチクリーン活動は、長生村、一宮町、白子町が共同で実施しているもので、2017年から東京2020大会の開催までの夏季、「おもてなしCHIBAプロジェクトin九十九里・外房～ビーチ☆

ちばアクアラインマラソン
2018 おもてなしロード
中央が鍛冶島彩さん



一宮海岸ビーチクリーン活動



車いすフェンシングの切手モザイクアート

クリーン☆キャンペーン東京2020～」(p.222参照)の取り組みの一環として実施した。馬淵昌也一宮町長は、オピニオンリーダーからのインタビューで、「東京2020大会では『地域の力』を見せたい」と語った。

2020年2月には千葉大学工学部において、東京2020パラリンピック競技大会を盛り上げるために日本郵便(株)と千葉大学が共同で実施した「切手モザイクアート」に参加し、車いすフェンシングのモザイクアートを制作した。切手モザイクアートは、千葉県内の郵便局利用者から使用済み切手の寄付を募り、それを利用してパラリンピック競技のモザイクアートを作成するものであり、成田空港等に展示することで多くの人にパラリンピックに関心を持ってもらうことを目的としている。

その他、和洋女子大学と京成電鉄(株)が連携し、京



京成国府台駅「おもてなし看板」完成披露セレモニー

成線における千葉県の入口となる国府台駅に設置した「おもてなし看板」の完成披露セレモニーなど、計28の活動に参加した。



おもてなしロゴ使用例



タクシー用のおもてなしステッカー



おもてなしクリアファイル



おもてなしステッカー使用例



バス用の
おもてなし広告

千葉おもてなし宣言と オール千葉おもてなしキャンペーン

各事業者と連携・協働するための取り組みとして、「千葉おもてなし宣言」を展開した。「オール千葉おもてなしアクション！」の取り組みに賛同した事業者は、自らもおもてなしの取り組みを実践していくことを宣言し、店頭などに宣言書を掲示することで千葉おもてなし宣言事業者となる。(2021年時点：698事業者、2,940事業所が参加)

千葉おもてなし宣言事業者になると、「おもてなしロゴ」の使用や「オール千葉おもてなしキャンペーン」への参加が可能となる。

「オール千葉おもてなしキャンペーン」では、千葉おもてなし宣言事業者が取り組む「私たちのおもてなし」を再確認する期間とし、ポスターやのぼりを掲出するなど、県下一斉展開を行った。



おもてなしロゴ

県境おもてなし作戦

来訪者を最高のおもてなしで迎えられよう、「県境おもてなし作戦」として、千葉県への主要な入り口の道路看板を歓迎の気持ちや県の魅力を伝える統一感のあるデザインに刷新していくこととした。デザインは県民からの公募により決定し、2019年9月に第1号の看板が千葉県道1号市川松戸線下り葛飾橋に設置された。以降、2021年6月までに、東京湾アクアライン連絡道木更津金田IC付近をはじめ、計14基の看板を設置・更新している。



千葉県道1号市川松戸線下り葛飾橋の第1号看板

「おもてなしポスト」スタート

2019年11月に日本郵便(株)関東支社との包括連携協定に基づき、県内各地(約6,000カ所)に設置された郵便ポストを活用し、国内外からの観光客に観光や安心・安全情報を提供する「おもてなしポスト」の取り組みを開始することとし、11月11日、県庁前郵便ポストをその第1号とするスタートセレモニーを開催した。この取り組みは、郵便ポストに、千葉県公式観光情報サイト「CHIBA, JAPAN TRAVEL GUIDE」(まるごとe!ちば)▶¹と観光庁が監修した外国人旅行者向け災害時情報提供アプリ「Safety tips」▶²につながるQRコードを掲載したシール(お

▶1 観光施設やイベント情報・グルメ情報の発信とモデルコース・旬の情報やオススメ情報をまとめた特集記事を定期的に掲載している。英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語、タイ語、マレー語、ベトナム語、日本語の7カ国語対応。

▶2 観光庁監修の外国人旅行者向け災害時情報提供アプリで、英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語、タガログ語、ネパール語、クメール語、ビルマ語、モンゴル語、日本語の14カ国語に対応。日本国内における緊急地震速報や津波警報、気象特別警報などがプッシュ型で通知されるなど、災害時に役立つさまざまな情報を入手できる。



おもてなしシール



看板のデザインコンセプト

大都市東京に隣接していながらも豊かな自然があり、さわやかな気分になれる千葉県を、山やたくさんの農作物が採れる自然の緑と、青い海、きれいな菜の花で表現している。

歓迎のメッセージは、千葉県に入った時に一番最初に見るものであるため、「ようこそ千葉県へ」というシンプルな言葉としている。



もてなしシール)を貼付するもので、来日した外国人観光客にこれを知ってもらうために、成田空港内、県内ホテル・旅館などで告知カードを配布するなどのPRを行った。

CHIBA“おもてなし”多言語コミュニケーションシート

2020年10月には、観光関連産業で働く人と海外からの来訪者が、日常に加え、新型コロナウイルス感染症への対応や災害発生時など、さまざまな場面において指差しだけで簡単に会話できるコミュニケ

ーションシートを作成した。作成にあたっては、タクシー、バス、宿泊施設、飲食施設、物販の5つのシーン別に、関係団体などの意見を取り入れ、実用的な内容とした。

また、英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語、タイ語で228種類のフレーズを用意し、言語やフレーズを変更して、オリジナルシートが作成できるウェブサイトを公開した。フレーズは利用者からのリクエストも受け付け、随時追加していくことも可能となっている。

CHIBA “おもてなし” 多言語コミュニケーションシート



ビーチクリーン活動の様子
館山市北条海岸（2017年）



旭市内海岸全域（2017年）



九十九里町片貝中央海岸（2018年）



南房総市岩井海岸（2021年）



御宿町中央海岸、浜海岸ほか（2018年）

おもてなしCHIBAプロジェクト

〔おもてなしCHIBAプロジェクトin九十九里・外房～ビーチ☆クリーン☆キャンペーン 東京2020～〕

2017年7月から、東京2020大会で釣ヶ崎海岸がサーフィン競技の会場に選定されたことを契機として、住民参加によって地域の一体感を醸成するとともに、きれいな海辺をPRしていくため、九十九里・外房全域でビーチクリーン活動を実施することとし、

外房16市町村（銚子市、旭市、匝瑳市、横芝光町、山武市、九十九里町、大網白里市、白子町、長生村、一宮町、いすみ市、御宿町、勝浦市、鴨川市、南房総市、館山市）が一体となって「おもてなしCHIBAプロジェクトin九十九里・外房～ビーチ☆クリーン☆キャンペーン 東京2020～」を展開。地元の団体や住民が参加し、海水浴場や海辺の清掃活動を実施した。その後も、東京2020大会が開催さ



学校での栽培の様子（左：大網白里市立瑞穂小学校、右：睦沢町立睦沢中学校）



釣ヶ崎海岸の沿道を彩ったひまわり



一宮海岸広場のひまわり

れた2021年まで毎年行われた。

館山市の鏡ヶ浦（館山湾）では、海水浴客をはじめ、鏡ヶ浦を訪れる人に気持ち良く過ごしてもらうとともに、市民の財産である鏡ヶ浦を守り、未来を担う子どもたちに引き継ぐために、2000年から毎年7月、2008年からは春、夏に「鏡ヶ浦クリーン作戦」を実施している。2017年7月の鏡ヶ浦クリーン作戦は、「おもてなしCHIBAプロジェクト～ビーチ☆クリーン☆キャンペーン 東京2020～」を兼ねて展開。約700人が参加して船形から沖ノ島にかけての各海岸を清掃した。

〔おもてなしCHIBAプロジェクトin九十九里・外房～ひまわりと笑顔で結ぶオリンピック～〕

2018年3月からは、「おもてなしCHIBAプロジェクト」の第二弾として、九十九里・外房地域16

市町村の公立学校、幼稚園・保育所などで「おもてなしCHIBAプロジェクトin九十九里・外房～ひまわりと笑顔で結ぶオリンピック～」を展開した。

外房16市町村の子どもたち等が育てたひまわりで会場周辺を彩り、地域が一体となって訪れる人をおもてなしすることで、住民の参加意識と機運の醸成を図るものであり、子どもたちが栽培した背の高いひまわりから採れた種は地域の人たちに配布され、各家庭で栽培されるまでひまわりの輪を広げていった。東京2020大会時には、サーフィン競技会場周辺や沿道等を、子どもたちのメッセージプレートを添えた満開のひまわりのプランターで装飾した。

ボランティアの活性化に向けた計画、機運醸成

東京2020大会を契機に、ボランティアの裾野が拡大していくこと、また当初からレガシーを意識した取り組みが進められていくよう、千葉県では2017年7月に「東京2020大会に向けたボランティア推進方針」を策定。競技が開催される自治体をはじめとする多くの自治体は、広く県民が大会に関わることのできる重要な活動として、ボランティアの育成に取り組んだ。

外国人おもてなし語学ボランティア育成講座

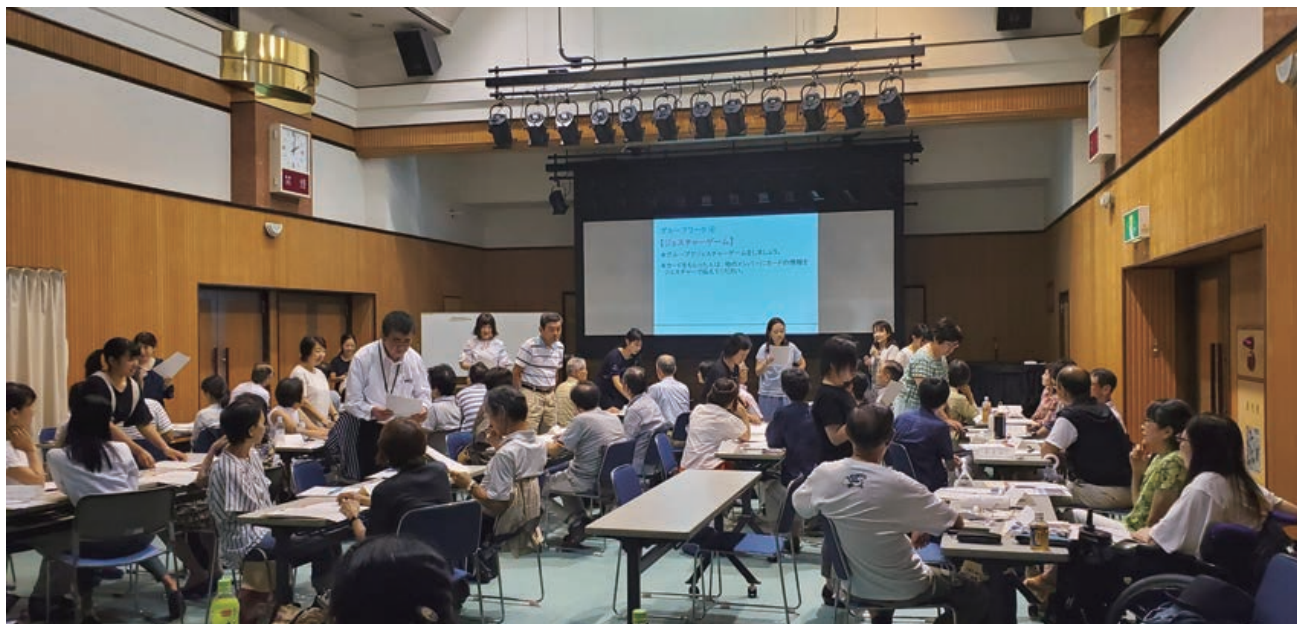
大会期間中は、国内外から多くの旅行者や観戦客が訪れることから、駅や観光地、空港などにおいて

交通・観光案内を行う「都市ボランティア」を育成することが、競技会場が所在する自治体（会場自治体）を中心に大きな目標となった。

特に、海外からの来訪者とのコミュニケーションスキルを養い、多くの県民が都市ボランティアに興味を持って応募する機運を醸成するため、2017年度から「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」を県内各地で開催。毎回、定員を超える多くの応募があり、2019年度までにおよそ2,000人が受講し、言語のみならず、ジェスチャー、表情、地図や絵を描くなど、さまざまな方法でコミュニケーションを図るスキルを習得するとともに、「おもてなしの心」を醸成した。



成田空港でパラリンピック選手や大会関係者をオンラインや分身ロボットで見送る都市ボランティア（City Cast Chiba）



市川市内で開催した外国人おもてなし語学ボランティア育成講座（2019年）



ジェスチャーでの
コミュニケーションの練習



千葉県職員による「出前講座」を2017年度から2021年度までの間に38カ所で開催、2,142人が参加した。（写真は2018年、ハラスポーツへの市民の関心を広げる活動に取り組む市民団体「OPENちば」定例勉強会）

都市ボランティアの募集

2018年7月に都市ボランティアの募集要項を公表し、同年9月から12月まで都市ボランティアの募集を実施。募集開始について周知するため、県内各地で説明会を開催し、高校や大学、イベントなどに職員が赴いて実施したもの、自治体が実施したものなど、合計32回の説明会に累計3,728人が参加した。また、障害の有無にかかわらず安心して応募・

参加できるよう、応募時に配慮を希望する事項を記入してもらうこととしたほか、視覚障害者向けに音声読み上げの対応を行うなど、多様性に配慮した募集広報を行った。

都市ボランティアは会場自治体が募集できる取り組みであり、千葉県が関係市町と連携しながら県内5カ所の活動エリアについて希望を取りまとめ、募集を行った。



募集特設サイト（2018年7月開設、2020年11月末閉鎖）には、ボランティア経験者へのインタビューや各所からの応援メッセージなど、応募の参考となる情報を盛り込んだ。



公的機関や学校に加え、経済団体や企業、郵便局などの協力を得ながら、各地に募集ポスターやリーフレットを掲示・配布した。



ボランティアシンポジウムで講演する太田雄貴さん「スポーツを通して応援する文化を作りたい」（2018年7月、幕張メッセ）



成田空港や平昌オリンピックでのボランティア、パラバドミントン村山浩選手を登壇者に迎えたパネルディスカッション（2018年7月、幕張メッセ）



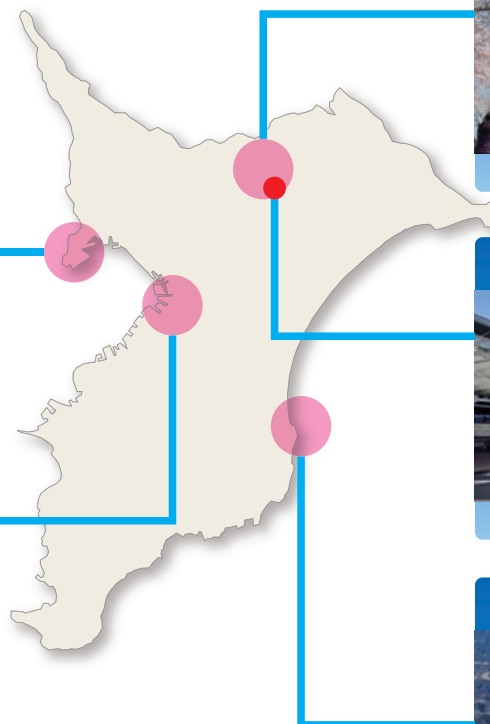
成田市文化芸術センタースカイタウンホールでの募集説明会（2018年9月）
同年7月のシンポジウム＆説明会には定員の2倍を超える応募があり、関心の高さがうかがえた。



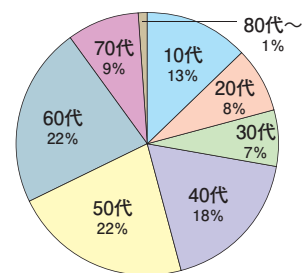
ロンドン2012大会時に活躍した「Coventry Ambassador」の経験者による都市ボランティアの魅力に関する講義（2018年9月、成田市文化芸術センタースカイタウンホールでの募集説明会）

競技会場となる幕張メッセを擁するJR海浜幕張駅周辺を中心とした千葉会場エリア、サーフィン会場である釣ヶ崎海岸の最寄りとなるJR上総一ノ宮駅周辺を中心とした一宮会場エリア、日本の玄関口となる成田空港エリア、空港周辺観光地としての成田市内エリア、多くの宿泊施設が立地する浦安市内エリアの全5エリアにおいて、近隣住民のみならず、全県そして遠くは県外からも、千葉への愛着を持つ多くの人たちから応募があった。

◆ 募集エリア・人数



都市ボランティア応募者年代内訳
募集定員3,000人に対して、約2.2倍の6,546人が応募。50代から60代が最も多く、20代から30代の働く世代の応募は少なかった。10代は応募可能年齢が2018年度時点で高校2年生以上という限られた対象となる中、882人（13%）の応募があった。



千葉市の官民連携のボランティア登録制度 「チーム千葉ボランティアネットワーク」

千葉市は、都市ボランティアの募集開始前の2017年7月、東京2020大会を契機としたボランティア活動を一過性で終わらせることのないよう、ボランティア登録制度「チーム千葉ボランティアネットワーク」を立ち上げた。

ボランティア活動をしたい個人と、ボランティアを求める団体とのマッチングシステムとしての機能を提供するほか、ボランティアの基礎知識を紹介する動画や研修などを実施。ボランティア文化が根付いたまちづくりへと発展することを見据えており、登録者数は大会終了時点で1,900人を超えた。



オリエンテーション・面接

2018年12月までに応募のあったおよそ6,500人の中から、エリアごとに書類選考を行い都市ボランティアの候補者約3,000人を選出。2019年5月から7月にかけて研修スケジュールなどに関するオリエンテーションや、応募者それぞれがボランティア

として大会に臨むにあたっての意気込みなどを共有し合う面接を実施した。オリエンテーションは初めてボランティア同士が顔を合わせる機会でもあり、チームビルディングや、言語だけでなく表現力を養い、コミュニケーション力を高める機会となった。



ボランティア同士が初めて集うオリエンテーション



面接の様子 和やかにボランティア活動への意気込みなどが語られた。



「ジェスチャーゲーム」で盛り上がる成田市内・成田空港エリア



千葉会場エリアでは「新聞タワー」を作ってチームビルディング



ネーミングとユニフォーム

2018年12月から2019年1月まで、大会ボランティアや全国各地の都市ボランティア応募者を対象として、4つの候補からボランティアの呼称を決める「ネーミング投票」が行われた。その結果は2019年1月末に東京2020組織委員会から発表され、大会ボランティアは「フィールドキャスト」、都市ボランティアは「シティキャスト」に決定。各自治体の都市ボランティアは、それぞれの自治体名を付加して使用することになり、千葉県では「シティキャストチバ」となった。

また、フィールドキャストやシティキャストのユニフォームは、ユニフォームデザイン選考委員会での選考を経て、東京2020組織委員会が2019年7月に発表した。都市ボランティアのユニフォームはエンブレムの市松模様を大胆に配置することで、街の中で一目見て識別できるようなデザインとなっている。



共通研修

2019年10月から2020年3月までの間、各活動エリアにおいて、オリエンテーション・面接に参加したおよそ2,600人を対象に、大会に関する基礎的な情報、街中での案内に必要な視点、千葉の魅力発信に関する情報等を学ぶための「共通研修」を計29回実施。研修では、障害に関する理解を映像やワークで深める「障害平等研修」も行い、活動に臨むうえで重要な多様性と調和の考え方や、仲間と一緒に大会に向けた本格的な準備をスタートしようとする思いを共有した。

なお、2020年3月中の研修は、新型コロナウイルスの影響から、一部はオンライン（動画視聴）で実施することとなった。



それぞれが「私のボランティアストーリー」を描いて掲示



東京2020組織委員会が作成した「シティキャストハンドブック」、案内活動のノウハウが詰まった千葉県オリジナルのテキスト、書き込み式で千葉の情報を集めることができる副教材



共通研修での
集合写真（千葉会場エリア）



障害の当事者である講師の進行により進められた「障害平等研修」
障害に対する理解を深めるためのワークに熱心に取り組み、大会理念の理解を促進した。



千葉県と、東京2020大会のボランティア育成、研修に携わる「(一財)日本財団ボランティアサポートセンター」がボランティア育成に関わる協定書を締結（2019年9月）
eラーニングシステムの提供やリーダーシップ研修への講師派遣など、さまざまな協力を得た。



2018年2月、千葉市は都市ボランティアリーダーを先行募集し、同年8月に千葉市内で開催された第16回WBSC世界女子ソフトボール選手権大会において活動を行った。



千葉市内で開催された高円宮杯JAL PRESENTS FENCING WORLD CUP 2019での実地研修（2019年12月）



Coventry Ambassadorからレクチャーを受ける都市ボランティア

実地研修・エリア別研修

2018年から2021年にかけて、各活動エリアでエリアの特性に応じたさまざまな研修を開催。千葉会場エリアでは、市内で開催された国際大会やテストイベントにおいて実地での研修が行われ、案内活動の実体験が重ねられた。

こうした実地の機会においては、大会当日の円滑な運営に向けて、交通事業者や東京2020組織委員会、都市ボランティア運営拠点との間における情報連携のシミュレーションも行われた。また成田市内エリアでは、2019年にイギリスコベントリー市から都市ボランティア「Coventry Ambassador」を招き、

案内に役立つ「おもてなしイングリッシュ」を学ぶオプション研修も実施された。

大会延期後から大会直前期

2020年3月24日、東京2020組織委員会等が大会の延期を発表。都市ボランティアについても、延期後の大会開催に向けて、当初予定していた研修日程や研修実施開催方法などについて、大幅な予定変更が生じることとなった。特にエリア別研修については、活動現場における詳細な情報の確認が必要となることから、概ね1年の延期を余儀なくされた。

この間、都市ボランティアのモチベーションを維

都市ボランティアオンライン交流会

自主勉強活動では、成田周辺のバリアフリー状況やハラルフードのレストランの調査、中国語コミュニケーションの練習や感染症対策など、都市ボランティア活動に役立つ全11テーマ(グループ)が活動を行った。



成田空港エリアの現場研修

2021年4月の動画研修の後、6月から7月にかけてはツアーガイドシステム(イヤホン)を利用し、距離を取りながら空港内の案内ポイントを学ぶ少人数の研修を実施した。



成田市内エリアの現場研修

2021年7月、感染症対策を講じながら成田駅から成田山新勝寺境内、表参道を歩き、案内ポイントを学ぶ研修を行った。

持し、自主的に研鑽を積んでいけるよう、ステイホームでも実施できる取り組みを模索。2020年9月から11月にかけては、オンライン会議システムを使いながらボランティア同士で対話を行い、不安な気持ちを共有し合い、感染症影響下でのおもてなしの形などについて話し合う「オンライン交流会」を開催した。また2020年12月から2021年2月にかけては、関心を同じくする複数人のグループをつくり、オンライン上での自主的な勉強会活動「みんなの都市ボラ大学inちば」を行い、発表会を実施した。

2021年6月から7月までの大会直前期に予定していたエリア別の研修は、オンラインや動画、資料送付による研修、フィジカルディスタンスを取っての少人数での現場研修など、常に感染症対策に細心の注意を払いながら、エリアごとにさまざまな方法で行った。リーダー希望者には、日本財団ボランティアサポートセンターの講師を迎え、リーダーシッ

プ研修を実施。都市ボランティア運営者である自治体職員や都市ボランティアが取り組むべき対策をまとめた感染症マニュアルやガイドラインも整備し、都市ボランティアに向けては、eラーニングでの「感染症対策動画研修」を実施した。

2021年7月8日、東京2020組織委員会等は、1都3県で行われるオリンピック競技について、無観客での開催を決定。これを受けて、都市ボランティアとしてできることをしようと「リモートでの活動」の準備が一気に進められた。8月16日には、パラリンピック競技も無観客開催となることが決定され、競技観戦者や旅行者を案内することを目的としていた都市ボランティアの活動については現場での活動を断念し、「リモートでの活動」のみで実施することになった。

大会期間中のリモートボランティア

新型コロナウイルス感染症の影響で、すべてのエリアで活動を行うことはできなくなったが、都市ボランティアの「大会を契機に、国内外に千葉の魅力を伝えていく」という本分に立ち返り、何ができるのかについて模索。そして、感染症影響下でも自宅等から遠隔で参加できることを前提に、①バーチャルツアー、②オンライン・ロボットによる選手、関係者の見送り、おもてなしグッズの配布、③広報紙やSNS、動画による情報発信や応援メッセージの拡散、④広報紙の翻訳活動などに取り組むこととした。

成田空港エリアでは、2021年5月末に「リモートボランティア・多言語発信情報ボランティア説明会」をオンラインで実施。興味のある活動をそれぞれ選択し、準備を進めていった。



バーチャルツアー告知ビジュアル



日本食に欠かせない酒や醤油などの「発酵」をテーマに神崎まで旅する英語ツアー



サイクリングで千葉をめぐりながらグルメを紹介する中国語ツアー

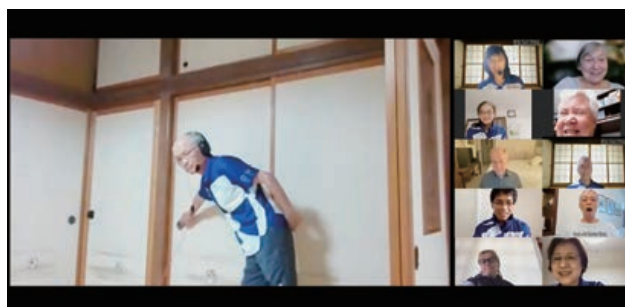
バーチャルツアー

語学のスキルなどを用いたおもてなしをしたいという都市ボランティアは、オンラインで観光案内を行う「バーチャルツアー」の企画グループを結成。英語3グループ、中国語とスペイン語それぞれ1グループの、計5グループが誕生し、歴史、食文化、日本家屋、列車の旅やサイクリングといったさまざまなテーマで千葉の魅力を伝えるツアーが企画された。

ツアーは2021年8月から9月上旬まで、5テーマにつきそれぞれ2～4回、計15回実施。時差のある海外の参加者を募るのは困難であったが、都市ボランティア自らが周知に努め、国内外に居住する109人の外国人が参加した。参加者から、「地域の魅力を伝えたいという思いやホスピタリティの心」を強く感じさせられたとの評価を受けた。



北総四都市の仏閣や武家屋敷を訪問しながら歴史と文化を学ぶ英語ツアー



都市ボランティアの自宅を訪問し、アットホームな雰囲気の中で日本家屋を紹介する英語ツアー



車窓の景色を都市ボランティアの描いた水彩画で紹介しながら旅するスペイン語ツアー



画面上のシテキャストに手を振り、ロボットと直接会話するパラリンピック選手たち
大会で獲得したメダルを画面越しに見せてくれる選手も



「おもてなしグッズ」を手にとって喜ぶ大会関係者

オンライン・ロボットによる見送り、おもてなしグッズの配布

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、仮に有観客で大会が開催されることになり、現場で活動できる状況になったとしても、対人での活動を不安に思う人が一定程度いると想定された。そこで、成田空港エリアでは、自宅等からオンラインを通して活動の現場に情報提供するという参加の形を検討。こうした試みに対し、日本財団ボランティアサポートセンターから「分身ロボット」の貸与がなされた。

その後、無観客開催が決定し、現場での活動ができなくなったことを受け、2021年7月から8月にかけて本格的に自宅等からスマートフォンやパソコ

ンでロボットを操作するトレーニングを開始。パラリンピック後半期間の8月31日と9月4日から6日までの4日間、成田空港第1ターミナルと第2ターミナルに設置した「お見送りブース」から、ロボットやモニター越しにオンラインで選手や関係者のお見送り活動を実施した。ブースでは県民が作成したおもてなしグッズも配布。空港内で選手等の誘導を行う大会ボランティアが選手たちに積極的にブースを紹介するという連携も生まれた。32の国と地域の選手・関係者がブースに立ち寄り、画面越しに手を振るなど、都市ボランティアや県民のホスピタリティに対して感謝の気持ちが表された。

ボランティアによる情報発信や翻訳活動

大会にまつわるさまざまな情報を「ボランティア目線」で発信していくことも都市ボランティアの重要な役割となり、SNS初挑戦の都市ボランティアは、説明会や個別相談で発信方法を学んだ。都市ボランティアたちは次々とSNS上でつながり、情報を拡散し合うようになり、2019年ごろから有志の都市ボランティアが千葉の魅力を発信するサイトが2つ立ち上がった。

SNSのみならず、都市ボランティアの中から「広報チーム」が立ち上がり、都市ボランティア自らが取材から執筆、編集を行う「ボランティア活動ニュースレター」が、大会期間中から2021年10月までの間、5号発行された。

また、語学が得意なメンバーが集まった「翻訳チ

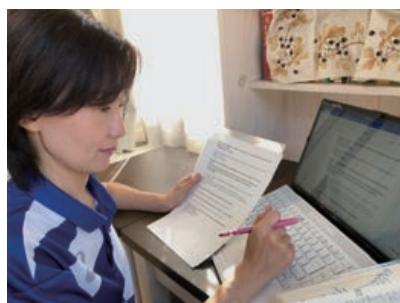
ーム」は、こうしたニュースレターやSNS発信情報、バーチャルツアーの告知内容などをさまざまな言語に翻訳し、海外に向けて積極的な情報発信を行った。

ロンドン大会時の都市ボランティアと交流

2021年8月14日、企画から運営までを都市ボランティアが担う形で、2012年のロンドン大会以降、活動を継続しているイギリスコベントリー市の都市ボランティア「Coventry Ambassador」とのオンライン交流会が行われた。コベントリーからは、あきらめることなくリモートの活動に取り組む都市ボランティアの姿勢に応援の声が寄せられ、都市ボランティア活動に重要な地域への愛着や笑顔など、ボランティアの価値について話し合った。



ニュースレターの取材活動に取り組む都市ボランティア（オランダ水泳事前キャンプでスタッフにインタビュー）



自宅などで語学スキルを生かした翻訳活動に取り組む都市ボランティア



ニュースレター 千葉県ホームページに公開した。



Coventry Ambassadorとの集合写真

ボラメーター
都市ボランティアのそれぞれの活動時間を毎日集計し、SNSで拡散することで一体感を生み出した。



千葉会場エリアでは、都市ボランティアのユニフォーム姿の写真と千葉や日本の魅力を発信するメッセージ等を募集し、動画で公開した。

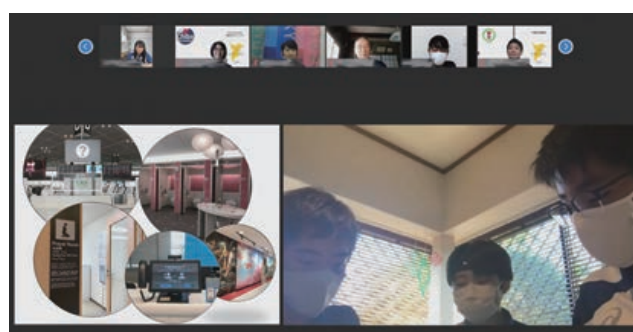
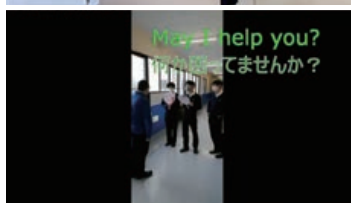


成田市内エリアでは、共生社会ホストタウンとして、アイルランドパラリンピック選手団に向けた応援メッセージを撮影するオンラインイベントを2021年8月に実施。メッセージはSNSを用いて選手に届けられた。



体験プログラム募集ポスター

高校生たちが「チームYELL」の活動として、おもてなし動画の作成や身近でできる「#ちよいボラ」活動を実施



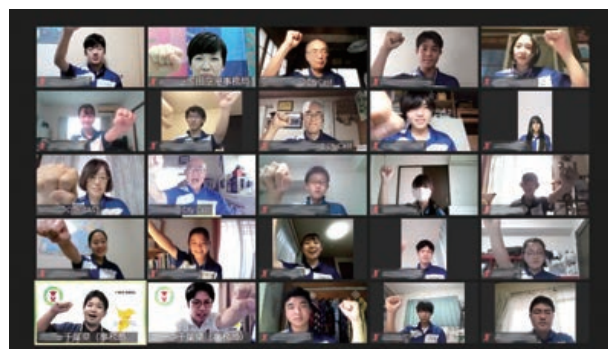
空港内の多機能トイレや礼拝室といったユニバーサルデザインの施設、アニメやアートを楽しめるスポットなどを、空港利用者に案内する想定でシミュレーション

体験プログラム

都市ボランティアの体験を通して、次世代を担う中高生世代を育成することを目的に、「都市ボランティア体験プログラム」を実施した。

2020年1月から3月まで参加者の募集を行い、500人の定員に対して2,194人が応募。しかし新型コロナウイルス感染症の影響から、同年の選考は延期となり、改めて2021年4月に選考を行い、5月にオンラインで事前説明会を実施した。大会期間中の現場での活動を心待ちにしていたが、都市ボランティアの現場活動が中止となったことから、体験プログラムについても代替となる活動について検討。2021年8月、学んだことを将来何かの形で役立ててもらうことを願い、成田空港内のユニバーサルデザインについて学び、案内の練習を行うオンラインワークショップを実施した。

また、中高生プログラムを牽引して盛り上げる役割として、プログラム応募者の希望者のうち8人が「チームYELL」として活動。2021年3月の事前説明会を経て、4月から9月までの間、身近なところまでできるボランティア活動や動画制作やSNS、取材活動などに取り組んだ。



ワークショップでは、毎回、都市ボランティア数人がサポートメンバーとして参加し、多世代交流が進んだ。



振り返りの会で、実行委員やプレゼンターとして活躍した中高生体験プログラムの参加者たち

振り返りの会～ We are LEGACY ～

都市ボランティアとしてのこれまでの活動を振り返るオンラインイベントを2021年10月24日に開催。パラリンピック出場3選手へのインタビューや、都市ボランティアが取り組んだりモート活動、体験プログラムについて順番に発表があり、最後には、都市ボランティア有志が、今後取り組みたいボランティア活動のアイデアをいくつも提案し、仲間を募った。全体の司会やインタビュアーなどについては、中高生体験プログラムの参加メンバーが実行委員として企画から運営までを行い、それを都市ボランティアがサポートする形で進められた。実際に集うことはできなかったが、100人を超える参加者があり、大いに盛り上がりを見せた。

東京2020大会にボランティアとして関わりたいという思いから、さまざまなボランティア活動が生まれていった。

若者のアイデアをボランティアの形に

2014年から、高校生など次世代を担う若者が、独自の発想で、自分たちにできることをボランティ

アの形として実践する「2020ちばおもてなし隊」に取り組んだ。NPO法人が中核団体となり、さまざまな団体や企業を巻き込み活動を支えた（千葉県ボランティア参加促進事業／次世代ボランティア人材育成事業）。

連携団体の中では、特に大学生の「学生団体おりがみ」が活動にあたり高校生をバックアップした。

成田空港で2016年リオデジャネイロパラリンピックに出場する選手を手作りの横断幕や演奏で激励する高校生たち（2016年8月）



ボランティアのアイデアを出す高校生たち
（千葉県ボランティア参加促進事業／次世代ボランティア人材育成事業、企画運営：NPO法人生涯学習応援団ちば 2014～2020年度）

活動内容は、各種国際大会における選手の応援・見送り、事前キャンプの語学サポート、災害マップづくり、優しい日本語のプログラムや特別支援学校生徒との交流など多岐にわたった。

語学や日本の技術を生かしたおもてなしに向けて

さまざまな団体が、東京2020大会を契機に海外から来る観戦客や地域への来訪者を迎えるために、語学や日本の伝統的な技術、文化を生かした人材育成や、交流プログラムの企画を進めてきた。

新型コロナウイルス感染症の影響で、海外の来訪

者との接点は持ちにくい大会期間となったが、世界と日本の往来が復活し、培ったスキルやアイデアが生かされていくことが期待されている。

誰でも参加できるおもてなしの形、県民に広がる

2017年に立ち上がった任意団体「プロジェクト結」は、とある高齢者宅を訪問した際に、高齢者女性の手作りの「箸置き」から着眼を得て、高齢者や子ども、障害のある人、誰でも参加できるおもてなしのプログラムを作ろうと活動を開始した。みんなで作成した箸置きを東京2020大会時に訪れる外国



幕張メッセ周辺のバリアフリー点検（2018年9月）

目にとまったポイントをマップに落とし込み、道路や施設管理者にバリアフリーに向けた提案も行った。



英語によるコミュニケーション力を高める「地域英会話サークル」を開催（「2016年度千葉県ボランティア参加促進事業」／企画運営：NPO法人子ども未来推進プロジェクト）



浴衣の寄付を集め、和裁や染めの技術で、外国の方向けのサイズや色にリメイク「着物体験プログラム」（「2019年度千葉県ボランティア参加促進事業」／企画運営：NPO法人さすが一の宮）

人の方にプレゼントしようというもので、気軽に参加できる取り組みとして、県内のみならず、県外にまで活動は広がりを見せた。

箸置きの「作り手」は必ずしも屋外で配る活動には参加できないかもしれないが、若者や都市ボランティアなど、「渡し手」として活動できる人に箸置きと想いを託すというボランティア同士の連携も生

まれた。

また、この活動の仕組みを参考に、千葉県では、気軽にできる「#ちよいボラ」キャンペーンを立ち上げ、県民などが自主的に作成した「おもてなしグッズ」を集め、東京2020大会時に都市ボランティアが配布する取り組みを行った。

コミュニティカフェ、障害者施設、ワークショップイベントなど、さまざまな場所で箸置きづくりが進んだ。紙を切る、糊をつける、結ぶ、メッセージを書くなど、誰でも自分に合った作業に気軽に取り組める「プロジェクト結」の活動（「2017年度千葉県ボランティア参加促進事業」／企画運営団体：プロジェクト結）



「#ちよいボラ」で集まった多様なおもてなしグッズ
工夫を凝らし、心温まるメッセージも添えられている。



「#ちよいボラ」ワークショップ 親子で折り紙のおもてなしグッズを作成（2019年6月、「千葉県民の日」中央行事）



手書きのメッセージを入れた「グッドラックチャーム」（折り紙のお守り）づくり

「#ちよいボラ」では数万点のグッズが集まった。東京2020大会時に配布しきれなかったおもてなしグッズは、県内の観光産業に従事する旅館などが登録する「#ちよいボラ」パートナーの協力により、大会後も継続して配布している（2019年我孫子市社会福祉協議会、ボランティア体験講座）



通訳ボランティアの養成

千葉県では、東京2020大会の開催に伴い、海外から多くの来訪者が見込まれることから、おもてなしの充実を図るため、「通訳ボランティア養成講座」(主催：千葉県、実施：ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター)を2015年から2019年にかけて開講した。

講座では、通訳としての心構え・マナーや外国人から見た日本独特の習慣・文化、宗教に対する配慮、競技者から見たオリンピック・パラリンピック、千葉の特性と魅力など、東京2020大会時の通訳ボランティアとして活動する際に役立つ知識が学べる講義が行われた。また、言語別ロールプレイは、千葉県の観光地の紹介やオリンピック・パラリンピック会場周辺での道案内など、さまざまな場面を想定し、それぞれの対応の仕方を実践形式で学べるものであった。

参加者からは、「自分の英語力をもっと磨くことはもちろん、日本に関する知識や道案内のための情報をもっと得なければならなかった」「アスリートの心理状態が分かり良かった。語学ボランティアの重要性が聞け、何が求められているのか本音がわかり、有益だった」「自分の知らなかった千葉の魅力を学べて、ボランティアをするにあたって自ら千葉の名所などに足を運び、自らの言葉で説明できるようにしようと思った」といった感想が寄せられた。



千葉県の魅力に関する講義



ロールプレイ (英語)



ロールプレイ (中国語)

千葉の魅力発信と環境整備

1

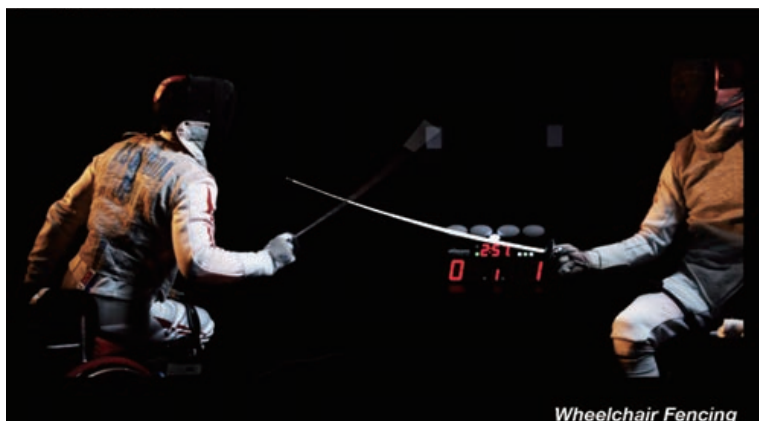
千葉の魅力発信と地域振興

千葉県は、2017（平成29）年に総合計画「次世代への飛躍 輝け！ちば元気プラン」を策定し、「千葉の『宝』を生かした観光立県の推進と移住・定住の促進」を掲げて、県の持つ魅力を十分に生かした魅力的な観光地づくりを進めることとした。また「観光立県ちば推進基本計画」（2019年3月第3次計画策定）では、「繰り返し選ばれる国際観光県CHIBA」の実現を目指して、①地域資源を活用した多様な観光需要への対応、②東京2020オリンピック・パラ

リンピックの開催効果の活用、③成田空港等の交通インフラの積極的な活用、④テクノロジー（ICT、AI技術）を活用した生産性の向上、の4つを重点課題として整理し、多様な主体が連携して「オール千葉」で計画を推進した。

東京2020大会に向けたプロモーション動画の制作

東京2020大会の開催は、国内外の注目が千葉県に集まる絶好の機会であることから、県は2019年



「Welcome to CHIBA ~ Welcome to TOKYO 2020 ~」より





「ちばの郷土料理」パンフレット

9月、東京2020大会に向けたプロモーション動画「Welcome to CHIBA ~ Welcome to TOKYO 2020 ~」をYouTubeで公開した。約2分間の動画に、東京2020大会の県内開催8競技や夏季に楽しめる観光地、食べ物や地域の名産品、おもてなしの様子など、魅力あふれる映像を収載。再生回数は大会終了までに120万回を超えた。

「ちばの郷土料理」再発見

千葉県では、オール千葉による「おもてなし」機運の醸成を図る一環として、千葉県ならではの食の魅力や県内外へPRする「ちばの郷土料理」再発見事業を実施した。

2018年度には、歴史や文化的な背景のある郷土料理や近年創作されたB級グルメ等のリストアップを行い、市町村への照会、有識者会議における検討を経て、「ちばの郷土料理」全511件を基本リストとして取りまとめた。このリストでは、郷土料理を「ご飯・餅」「汁物」「保存食」「惣菜」の4つとし、

料理名や地域名のほか、使用食材、作り方、歴史・由来、利用場面についても掲載している。さらに、リストをもとに外部審査員5人による試食を含む審査を実施し、設定した活用シーンに勧めたい20品を選定してパンフレットを作成した。また2019年度には、ジャンル別に「フォトジェニック」3品、「千葉ならではの」4品、「おみやげ」4品を選定するとともに、外国人観光客にも賞味してもらえるよう英語版のパンフレットも作成した。

千葉県産農林水産物の活用

千葉県では、野菜、果物、魚、米、肉、牛乳などさまざまな農林水産物が生産され、農業産出額（2020年産）は全国4位である。県は、東京2020大会の開催をきっかけに、2018年度と2019年度に県産農林水産物のPRのため「ちばの大地と海の恵み 産地視察会&商談会」を開催し、千葉ブランド水産物である江戸前船橋^{しゅんじめ}瞬^{しゅん}すずきの処理技術や三番瀬ホンビノス貝の水揚げ、乳製品やすいか等の



産地視察会（すいか圖場）



ビクトリーブーケづくり体験



WSL QS6000見学会



サーフィンのルールやサーフボードなどについて説明を受ける子どもたち

産地視察会などを実施した。

2019年7月には、1年前カウントダウンイベントの一環としてイオンモール幕張新都心で「みんなで作ろうビクトリーブーケ体験教室」を開催。館山市、南房総市、芝山町等を主な産地とするひまわりなどを用いてブーケづくり体験を行い、全国第2位（2020年産）の産出額を誇る千葉県の花きをPRした。また県は、東京2020大会の会場となる幕張エリアのホテルと連携してロビーなどに県産の花きを飾ることで、訪れる人へのおもてなしの気持ちを表すとともに、県の花きの魅力をアピールした。

長生地域とサーフィンの振興

長生地域の7市町村（茂原市、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町）と千葉県は、地域振興の取り組みの中で、東京2020大会のサーフィン競技の成功に向けて、地域住民の競技に対する

理解を深めるとともに機運醸成を図るため、日本サーフィン連盟や地元のサーフィン業組合の協力のもと、児童・生徒を対象にサーフィン教室を実施した。

2018年5月には、長生地域の小学生（主に6年生）を対象に、世界トップクラスのサーファーが参加する国際大会「WSL QS6000 ICHINOMIYA CHIBA OPEN」（p.200参照）の見学会を実施。児童約210人が参加し、競技会場で、一宮町サーフィン業組合の講師から競技の内容やルールに関する説明を受けた後、実際に世界トップレベルのサーフィン競技を観戦し、「波と人が一体化してとてもすごいなと思った。今度はぼくもやってみたいです」「選手が失敗してもあきらめずに、何回も挑戦していたことがカッコよく思えました」などの感想を語り合った。2018年6月から7月にかけては、長生地域の小学校8校（茂原市立鶴枝小学校、茂原市立東部小学校、茂原市立緑ヶ丘小学校、一宮町立東浪見小学校、一

◆ いきいき長生サーフィン体験会



茂原市立緑ヶ丘小学校（2018年）



長柄町立長柄小学校（2018年）



長生村立一松小学校（2021年）



白子町立南白亀小学校（2019年）



白子町立白潟小学校（2021年）



一宮町立東浪見小学校（2019年）

宮町立一宮小学校、白子町立南白亀小学校、長柄町立長柄小学校、長柄町立日吉小学校）の児童約560人が「いきいき長生サーフィン体験会」に参加（翌年度以降も継続）。一宮町サーフィン業組合と白子町サーフィン協会メンバーの協力のもと、小学校のプールで実際にサーフボードに乗り、プロサーファーなどから指導を受け、「興味を持った。サーフショップの体験会にも行ってみたい」「難しかったけど、楽しかった。オリンピックのサーフィンを応援しようと思った」などの感想が寄せられた。



長南町立長南小学校（2019年）



シェアオフィス「SUZUMINE」



上総一宮観光案内所



ウェブサイト
「サーフィンと生きる町。
ICHINOMIYA」

一宮版サーフォノミクス

年間60万人^{▶1}の観光客が訪れる一宮町では、海岸の全域にわたって良好なサーフポイントが存在するロケーションや地元に基づくサーフィン文化などの特徴を地域活性化に生かすため、2015年10月に策定した「一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、「一宮版サーフォノミクス」^{▶2}を打ち出した。

一宮版サーフォノミクスは、海沿いの文化と豊かな自然、上総国一宮としての伝統を享受し、ゆとりある住宅環境や働く場を創出することで町の魅力に磨きをかけ、新たな人たちを呼び込む好循環を生み出すための仕組みである。一宮町ではこのプランに基づいて海岸から県道30号線に沿ったエリアを「サーフストリート」と位置づけ、同エリアをブランディングするとともに、JR上総一ノ宮駅西側エリアの中心市街地としての機能を強化し、さらに駅周辺と駅東側のサーフストリートを結ぶための都市軸を整備して町全体の活性化を図ることとした。

一宮町では、まずサーファーにアンケート調査を行い、集まった意見や要望をもとにサーフスポットの駐車場舗装やシャワーの設置などの整備を実施。

2017年7月には、サーフストリートの経済効果を駅周辺に波及させるために、商店街の空き店舗を改修してサーフィンと仕事を楽しむシェアオフィス「SUZUMINE」をオープンし、飲食店、シャワーやサーフボードの保管庫、中庭ウッドデッキなども整えた。2018年4月には、駅前の上総一宮観光案内所をリニューアルオープンし、「サーフィンと生きる町。」を掲げ、レンタサイクルやサーフボードの貸し出しを開始した。

また、「一宮版サーフォノミクス」の一環として、一宮町の魅力を発信するため、ウェブサイト「サーフィンと生きる町。ICHINOMIYA」を開設し、サーファー100人にアンケートを取って作成したプロモーションビデオなどを掲載している。一宮町では、こうした事業を通じて、東京2020大会終了後もサーファーを主とした若者や子育て世代が定住し続けるような魅力あるまちづくりを目指している。

▶1 2015年の「一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に先立って行われた調査による。

▶2 サーファーが集まることによる経済効果

成田空港の利便性の向上と交通ネットワーク等の強化

東京2020大会を目標として「訪日外国人旅行者数4,000万人」を目指す取り組みが全国で進められる一方、千葉県は、「成田空港の利便性向上、交通ネットワーク・アクセスの強化」を東京2020大会に向けた戦略として掲げ、受け入れ態勢の整備を進めた。成田空港では、2015年3月に年間発着枠が27万回から30万回へ拡大され、同年4月にはLCC（格安航空会社）向けの第3旅客ターミナルビルの供用が開始されるなど、大きな転換点を迎えていた。千葉県は、こうして成田空港を利用する人や物の増大が予想される中、その人と物の流れを県内へ取り込むことによる経済の活性化を目指し、利便性の向



LCC専用ターミナルへの導線（成田国際空港㈱提供）

上のための各種施策を推進。2015年3月30日正午にはノンストップゲート化^{▶1}を実現し、警備レベルを維持しつつ利用者の利便性・快適性の向上を図った。また、四者協議会（国土交通省、千葉県、空港周辺9市町、成田国際空港㈱）での合意を経て、2019年10月から、騒音・環境対策を実施した上で、A滑走路の発着時間を「6時～23時」から「6時～0時」へ1時間延長。2014年4月から2019年10月にかけて、成田空港における国際線就航都市数が100から118に、国内線就航都市数が15から22に増加した。

さらに、成田空港に降り立った選手や観光客が、ストレスを感じることなく移動できるよう、鉄道・バスのさらなる利便性の向上を図るとともに、東京湾アクアラインと一体となって首都圏の高速道路ネットワークを構成し、首都圏の各都市と成田空港を結ぶ「圏央道」（首都圏中央連絡自動車道）の整備促進に取り組み、2020年2月には圏央道茂原長柄スマートインターチェンジが開通した。

▶1 検問による警備レベルと同等の警備を保ちつつ、空港利用者の利便性の向上を図るため、高度機械警備システム等の導入・整備により、利用者がスムーズに入場できるよう検問方法を変更すること



成田空港LCC専用ターミナル（成田国際空港㈱提供）

成田空港のユニバーサルデザイン化

成田空港は、東京2020大会を飛躍、発展のチャンスと捉え、将来を見据えた機能強化やさらなる利便性・快適性向上につなげるため、安全対策等に加えてユニバーサルデザイン（UD）を取り組みの柱の一つに据え、国や千葉県、東京2020組織委員会などと連携してバリアフリー化を進めた。

2017年度には、障害者、有識者、空港関係者などで構成される「成田空港UD推進委員会」を設置し、当事者（障害者）による現場視察等を踏まえて空港における課題を明確にした上で2018年度に基本方針を策定。具体的には、2018年度に「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」^{▶2}への対応として、空港ターミナル内主要動線におけるエレベーターの増設・機能増強（第1、第2ターミナル各2カ所）を実施し、また同年度から2020年の初めごろ



車いす等運搬用のエレベーター（成田国際空港(株)提供）



全面リニューアルを行ったユニバーサルデザインのトイレ（成田国際空港(株)提供）



大型の案内サイン（成田国際空港(株)提供）

までに、搭乗ゲート付近に18カ所の車いす等運搬用のエレベーターを設置した。

また、2018年度から2019年度にかけては、第1、第2ターミナルの大規模リニューアル（ターミナルのバリューアップ計画）に合わせ、誰もがわかりやすいように大型の案内サインの導入等を行うとともに、空間全体での明るさ感の確保や視認性向上のために、照明器具をLED化。併せて、第1から第3までの全ターミナルでトイレの全面リニューアルを実施し、音声案内、フラッシュライト（光警報装置）、L型手すりの設置、多機能トイレの機能分散、異性介助等へのニーズへの対応などを取り入れた。

さらに、成田空港では、障害に対する理解を深め、適切な接遇を行うため、ボランティアを含めた研修なども実施し、さまざまな角度によりユニバーサルデザインを推進した。

交通機関のバリアフリー化と福祉タクシー、ノンステップバスの整備

千葉県内の各交通機関では、従前から進めてきたバリアフリーの取り組みを、大会を契機により一層促進するため、主要ターミナル等でも面的・一体的

▶2 障害の有無にかかわらず、すべての人々にとってアクセシブルでインクルーシブな大会を実現するため、東京2020組織委員会が、国の関係行政機関、東京都、関係地方公共団体、障害者団体等の参画を得て策定し、IPCの承認を得たバリアフリー基準等のガイドライン



ノンステップバス（千葉海浜交通(株)提供）



福祉タクシー

なバリアフリー化を進めた。また、各交通機関等には「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（バリアフリー法）に基づく基本方針において整備目標が定められ、1日の乗降客数が3,000人以上の旅客施設等では2020年度までに原則100%バリアフリー化することが求められたことを受けて取り組みを加速。2020年度までにさまざまなバリアフリー化を実施し、鉄道駅のほかにもノンステップバスや車いすでそのまま乗車できる福祉タクシーの拡充などを図った。

◆ ホームドア

2014～2020年度に3市4駅18線で設置

◆ エレベーター（利用者3,000人以上/日の駅での設置割合）

2014年度：92.2%（201/218）

→2020年度：96.8%（213/220）

◆ 内方線付点状ブロック（同1万人以上/日の駅での設置割合）

2014年度：36.3%（52/143）

→2020年度：99.3%（147/148）

◆ 福祉タクシーの整備

2017年度：1,014台（13.2%）^{▶3}

→2020年度：1,694台（22.5%）

◆ ノンステップバスの整備

2014年度：1,107台（51.3%）

→2020年度：1,490台（69.9%）

「千葉県バリアフリー観光サイト」の開設

2020年3月、千葉県は高齢者や障害者にも安心して快適な県内観光を楽しんでもらえるよう、観光施設等やモデル地域のバリアフリー状況を写真や数値などで紹介するサイトを千葉県公式観光物産サイト「まるごとe! ちば」内に新設した。サイトの開設にあたっては、利用者の目線で、車いすを利用している人と一緒に施設や地域を調査し、必要な情報を写真や数値などでわかりやすく掲載。多目的トイレなどのバリアフリー情報だけでなく、段差の高さや通路の幅などのバリア情報も正確に情報提供している。

観光客の受け入れ環境整備

東京2020大会を契機に、千葉県に訪れる観光客にも満足してもらえる魅力ある観光地になるよう、オール千葉でのおもてなし機運の醸成を図るとともに、受け入れ環境の整備に取り組んだ。

観光関連施設等の整備では、市町村などが行う観光公衆トイレや駐車場、観光案内板、観光案内所、公衆無線LAN環境の整備に対する補助を実施した。

また、観光・宿泊施設の経営者、従事者等を対象に、外国人観光客の受け入れや、快適なトイレ環境を保つためのトイレの管理方法等についての研修会を実施するなど、おもてなし力の向上を図った。

▶3 以下の（ ）内は全車両数に占める福祉タクシーおよびノンステップバスの割合



千葉県バリアフリー観光サイト



多言語観光案内板（成田市）



おもてなしトイレ
ひこうきの丘（芝山町）

◆ 観光関連施設等の整備状況（2014～2020年度）

観光 公衆トイレ	駐車場	観光案内板	観光案内所	公衆無線 LAN
234カ所	31カ所	421基	6カ所	400施設

〔資料編〕



東京2020 オリンピック・パラリンピック 競技会場一覧

競技会場数

オリンピック
……42会場（1都8道県）

パラリンピック
……21会場（1都3県）



競技会場		オリンピック競技	パラリンピック競技
①	オリンピックスタジアム（新国立競技場）	開会式・閉会式、陸上競技、サッカー	開会式・閉会式、陸上競技
	東京体育館	卓球	卓球
	国立代々木競技場	ハンドボール	バドミントン、車いすラグビー
②	日本武道館	柔道、空手	柔道
	東京国際フォーラム	ウエイトリフティング	パワーリフティング
	国技館	ボクシング	
③	馬事公苑	馬術（馬場馬術、総合馬術、障害馬術）	馬術
④	武蔵野の森総合スポーツプラザ	バドミントン、近代五種（フェンシング）	車いすバスケットボール
	東京スタジアム	サッカー、ラグビー、近代五種（水泳、フェンシング、馬術、レーザーラン）	
	武蔵野の森公園	自転車競技（ロード〈ロードレース・スタート〉）	
⑤	有明アリーナ	バレーボール	車いすバスケットボール
	有明体操競技場	体操（体操競技、新体操、トランポリン）	ボッチャ
	有明アーバンスポーツパーク	自転車競技（BMXフリースタイル、BMXレーシング）、スケートボード	
	有明テニスの森	テニス	車いすテニス
⑥	お台場海浜公園	水泳（マラソンスイミング）、トライアスロン	トライアスロン
	潮風公園	ビーチバレーボール	
	青海アーバンスポーツパーク	バスケットボール（3x3）、スポーツクライミング	5人制サッカー
⑦	大井ホッケー競技場	ホッケー	
⑧	海の森クロスカントリーコース	馬術（総合馬術〈クロスカントリー〉）	
	海の森水上競技場	カヌー（スプリント）、ボート	カヌー、ボート
⑨	カヌー・スラロームセンター	カヌー（スラローム）	
	夢の島公園アーチェリー場	アーチェリー	アーチェリー
	東京アクアティクスセンター	水泳（競泳、飛び込み、アーティスティックスイミング）	水泳
	東京辰巳国際水泳場	水泳（水球）	
⑩	札幌大通公園	陸上競技（マラソン、競歩）	
	札幌ドーム	サッカー	
⑪	幕張メッセ	Aホール	シットティングバレーボール
		Bホール	テコンドー、車いすフェンシング
		Cホール	ゴールボール
⑫	釣ヶ崎海岸サーフィンビーチ	サーフィン	
⑬	さいたまスーパーアリーナ	バスケットボール	
⑭	陸上自衛隊朝霞訓練場	射撃	射撃
⑮	霞ヶ関カンツリー倶楽部	ゴルフ	
⑯	江の島ヨットハーバー	セーリング	
⑰	伊豆ペドロローム	自転車競技（トラック）	自転車競技（トラック）
	伊豆MTBコース	自転車競技（マウンテンバイク）	
⑱	富士スピードウェイ	自転車競技（ロード〈ロードレース・ゴール、個人タイムトライアル〉）	自転車競技（ロード〈スタート・ゴール〉）
⑲	福島あづま球場	野球、ソフトボール	
⑳	横浜スタジアム	野球、ソフトボール	
㉑	宮城スタジアム	サッカー	
㉒	茨城カシマスタジアム	サッカー	
㉓	埼玉スタジアム2002	サッカー	
㉔	横浜国際総合競技場	サッカー	



千葉県内開催競技結果一覧（日本代表選手）

◆ オリンピック競技 結果一覧

フェンシング

選手名	種目	成績
敷根 崇裕	男子フルーレ	個人：4位、団体：4位
西藤 俊哉	男子フルーレ	個人：13位、団体：4位
松山 恭助	男子フルーレ	個人：14位、団体：4位
永野 雄大	男子フルーレ	団体：4位
山田 優	男子エペ	個人：6位、団体：金メダル
見延 和靖	男子エペ	個人：10位、団体：金メダル
加納 虹輝	男子エペ	個人：15位、団体：金メダル
宇山 賢	男子エペ	団体：金メダル
吉田 健人	男子サーブル	個人：33位、団体：9位
ストリーツ 海飛	男子サーブル	個人：30位、団体：9位
島村 智博	男子サーブル	個人：34位、団体：9位
徳南 堅太	男子サーブル	団体：9位
上野 優佳	女子フルーレ	個人：6位、団体：6位
東 晟良	女子フルーレ	個人：17位、団体：6位
東 莉央	女子フルーレ	個人：24位、団体：6位
辻 すみれ	女子フルーレ	団体：6位
佐藤 希望	女子エペ	個人：16位
江村 美咲	女子サーブル	個人：13位、団体：5位
田村 紀佳	女子サーブル	個人：26位、団体：5位
青木 千佳	女子サーブル	個人：33位、団体：5位
福島 史帆実	女子サーブル	団体：5位

テコンドー

選手名	種目	成績
鈴木 セルヒオ	男子58kg級	11位
鈴木 リカルド	男子68kg級	12位
山田 美諭	女子49kg級	5位
濱田 真由	女子57kg級	11位

レスリング

選手名	種目	成績
高橋 侑希	男子フリースタイル57kg級	8位
乙黒 拓斗	男子フリースタイル65kg級	金メダル
乙黒 圭祐	男子フリースタイル74kg級	14位
高谷 惣亮	男子フリースタイル86kg級	10位
文田 健一郎	男子グレコローマンスタイル60kg級	銀メダル
屋比久 翔平	男子グレコローマンスタイル77kg級	銅メダル
須崎 優衣	女子フリースタイル50kg級	金メダル
向田 真優	女子フリースタイル53kg級	金メダル
川井 梨紗子	女子フリースタイル57kg級	金メダル
川井 友香子	女子フリースタイル62kg級	金メダル
土性 沙羅	女子フリースタイル68kg級	5位
皆川 博恵	女子フリースタイル76kg級	5位

サーフィン

選手名	種目	成績
五十嵐 カノア	男子	銀メダル
大原 洋人	男子	5位
都筑 有夢路	女子	銅メダル
前田 マヒナ	女子	9位

◆ パラリンピック競技 結果一覧

ゴールボール

種目	選手名	成績
男子	金子和也、川嶋悠太、宮食行次、 田口侑治、山口凌河、佐野優人	5位
女子	欠端瑛子、天摩由貴、浦田理恵、 若杉遥、萩原紀佳、高橋利恵子	銅メダル

シットイングバレーボール

種目	選手名	成績
男子	飯倉喜博、加藤昌彦、嵯峨根望、 佐々木一成、高砂進、田澤隼、 田中浩二、谷河勇綺、中野琢也、 日高恒仁、皆川鉄雄、柳昂志	8位
女子	赤倉幸恵、小方心緒吏、長田まみ子、 菊池智子、住友美紀子、竹井幸智恵、 田中ゆかり、西家道代、藤井順子	8位

テコンドー

選手名	種目	成績
田中 光哉	男子61kg級	9位
工藤 俊介	男子75kg級	7位
太田 渉子	女子58kg超級	7位

車いすフェンシング

選手名	種目	成績
恩田 竜二	男子カテゴリー B フルーレ、サーブル、フルーレ団体	フルーレ：14位、サーブル：11位、 フルーレ団体：7位
加納 慎太郎	男子カテゴリー A フルーレ、サーブル、フルーレ団体	フルーレ：12位、サーブル：12位、 フルーレ団体：7位
藤田 道宣	男子カテゴリー B エペ、フルーレ、フルーレ団体	エペ：12位、フルーレ：12位、 フルーレ団体：7位
阿部 知里	女子カテゴリー B フルーレ、サーブル、エペ団体	フルーレ：14位、サーブル：10位、 エペ団体：棄権
櫻井 杏理	女子カテゴリー B エペ、フルーレ、エペ団体	エペ：6位、フルーレ：11位、 エペ団体：棄権
松本 美恵子	女子カテゴリー A エペ、フルーレ、エペ団体	エペ：16位、フルーレ：17位、 エペ団体：棄権



千葉県ゆかりのオリンピック選手・パラリンピック選手 結果一覧

◆ 千葉県ゆかりのオリンピック選手 結果一覧

競技名	氏名	出場種目	成績	所属
水泳	松元 克央	競泳男子200m自由形	予選敗退（全体17位）	セントラルスポーツ株式会社
		競泳男子4×200mフリーリレー	予選敗退（全体12位）	
		競泳混合4×100mメドレーリレー	予選敗退（全体9位）	
	寺村 美穂	競泳女子200m個人メドレー	準決勝敗退（全体15位）	セントラルスポーツ株式会社
	塚本 真由	アーティスティックスイミング チーム	4位	東京アーティスティックスイミングクラブ
	大川 慶悟	水球男子	予選敗退（全体10位）	秀明大学（職員）
	小出 未来	水球女子	予選敗退（全体9位）	ブルボンウォーターボロクラブ柏崎
	稲場 朱里			秀明大学水球クラブ
	山本 実乃里			秀明大学水球クラブ
	岩野 夏帆			秀明大学
	浦 映月			秀明大学
	工藤 恭子			日本体育大学
	塩谷 南美			秀明大学水球クラブ
陸上競技	松枝 博輝	男子5000m	予選敗退（全体36位）	富士通株式会社
	坂東 悠汰		予選敗退（全体34位）	富士通株式会社
	泉谷 駿介	男子110mH	準決勝敗退（全体10位）	順天堂大学
	三浦 龍司	男子3000m障害	7位	順天堂大学
	戸邊 直人	男子走高跳	13位	日本航空株式会社
	高橋 英輝	男子20km競歩	32位	富士通株式会社
	中村 匠吾	男子マラソン	62位	富士通株式会社
	伊東 利来也	男子4×400mリレー	予選敗退（全体10位）	三菱マテリアル株式会社
	近藤 健介	野球	金メダル	北海道日本ハムファイターズ
	市口 侑果	ソフトボール	金メダル	ビックカメラ女子ソフトボール高崎
野球・ソフトボール	峰 幸代			トヨタ自動車株式会社
バスケットボール	保岡 龍斗	3x3バスケットボール男子	6位	秋田ノーザンハビネッツ
	富樫 勇樹	バスケットボール男子	予選敗退（全体11位）	千葉ジェッツふなばし
	エドワーズ ギャビン			千葉ジェッツふなばし
	三好 南穂	バスケットボール女子	銀メダル	トヨタ自動車アンテロープス
	林 咲希			ENEOSサンフラワーズ
	宮崎 早織			ENEOSサンフラワーズ
	宮澤 夕貴			富士通レッドウェーブ
	赤穂 ひまわり			デンソーアイリス
	並木 月海	女子フライ級	銅メダル	自衛隊体育学校
自転車競技	中村 妃智	トラック女子マディソン	途中棄権	株式会社JPF
馬術	福島 大輔	個人（障害馬術）	6位	STAR HORSES
		団体（障害馬術）	途中棄権	
	齋藤 功貴	個人（障害馬術）	13位	北総乗馬クラブ
		団体（障害馬術）	途中棄権	
サッカー	酒井 宏樹	男子	4位	浦和レッドダイヤモンズ
	中山 雄太			PECズヴォレ
	旗手 怜央			川崎フロンターレ
	菅澤 優衣香			浦和レッドダイヤモンズレディース
	平尾 知佳	女子	8位	アルビレックス新潟レディース
ゴルフ	稲見 萌寧	女子	銀メダル	都築電気株式会社
体操	橋本 大輝	体操競技男子団体	銀メダル	順天堂大学
		体操競技男子個人総合	金メダル	
		体操競技男子種目別鉄棒	金メダル	
		体操競技男子種目別あん馬	銅メダル	
	萱 和磨	体操競技男子団体	銀メダル	セントラルスポーツ株式会社
	谷川 航	体操競技男子団体	銀メダル	セントラルスポーツ株式会社
	大岩 千未来	新体操女子	予選敗退（全体19位）	イオン新体操クラブ
	宇山 芽紅	トランポリン女子	5位	スポーツクラブ テン・フォーティー
ハンドボール	土井 レミイ杏利	男子	予選敗退（全体11位）	ジークスター東京
	吉野 樹			トヨタ車体株式会社
柔道	ウルフ アロン	男子100kg級	金メダル	了徳寺大学（職員）
		混合団体	銀メダル	
空手	植草 歩	組手女子61kg超級	7位	日本航空株式会社
サーフィン	大原 洋人	男子	5位	一般社団法人日本サーフィン連盟千葉東支部
テニス	土居 美咲	女子シングルス	2回戦敗退（全体17位）	株式会社ミキハウス
トライアスロン	岸本 新菜	女子個人	途中棄権	公益財団法人福井県スポーツ協会・稲毛インター
		混合リレー	13位	
ウエイトリフティング	安藤 美希子	女子59kg級	銅メダル	FAコンサルティング株式会社
レスリング	須崎 優衣	女子フリースタイル50kg級	金メダル	早稲田大学
	皆川 博恵	女子フリースタイル76kg級	5位	クリナップ株式会社

◆ 千葉県ゆかりのパラリンピック選手 結果一覧

競技名	氏名	出場種目	成績	所属
アーチェリー	大山 晃司	男子個人W1	準々決勝敗退（全体6位）	警視庁
		混合チームW1	準々決勝敗退（全体6位）	
	宮本 リオン	男子個人コンバウンドオープン	3回戦敗退（全体9位）	株式会社テー・オー・ダブリュー
		混合チームコンバウンドオープン	1回戦敗退（全体9位）	
陸上競技	鈴木 朋樹	男子800mT54	予選敗退（全体12位）	トヨタ自動車株式会社
		男子1500mT54	9位	
		男子マラソンT54	7位	
		4×100mユニバーサルリレー	銅メダル	
	樋口 政幸	男子1500mT54	予選敗退（全体14位）	ブーマジャパン株式会社
		男子5000mT54	8位	
	岩田 悠希	男子1500mT20	8位	One's Para Athlete Club
	山崎 晃裕	男子やり投F46	7位	順天堂大学（職員）
	松本 武尊	男子100mT36	予選敗退（全体10位）	AC-KITA
		男子400mT36	7位	
バドミントン	村山 浩	男子シングルスWH1	4位	SMBCグリーンサービス株式会社
		男子ダブルスWH1-WH2	銅メダル	
	里見 紗李奈	女子シングルスWH1	金メダル	NTT都市開発株式会社
		女子ダブルスWH1-WH2	金メダル	
	長島 理	男子シングルスWH1	5位	株式会社LIXIL
	杉野 明子	女子シングルスSU5	銅メダル	ヤフー株式会社
混合ダブルスSL3-SU5		銅メダル		
ボッチャ	廣瀬 隆喜	混合個人BC2	予選敗退（全体12位）	西尾レントオール株式会社
		混合チームBC1/BC2	銅メダル	
	高橋 和樹	混合個人BC3	予選敗退（全体10位）	株式会社フォーバル
		混合ペアBC3	銀メダル	
馬術	高嶋 活士	個人グレートIV	14位	ドレッサージュ・ステーブル・テルイ
		団体グレートIV	15位	
5人制サッカー	佐々木 康裕	男子	5位	ファンタス千葉SSC 松戸ウォリアーズ
ゴールボール	佐野 優人	男子	5位	順天堂大学
柔道	小川 和紗	女子70kg級	銅メダル	株式会社オー・エル・sエム
パワーリフティング	宇城 元	男子72kg級	6位	順天堂大学（職員）
シットイング バレーボール	加藤 昌彦	男子	8位	千葉バイレーツ
	田澤 隼			千葉バイレーツ
	皆川 鉄雄			千葉バイレーツ
	長田 まみ子	女子	8位	東京ブラネッツ女組
水泳	鈴木 孝幸	男子50m自由形S4	銀メダル	株式会社ゴールドウイン
		男子100m自由形S4	金メダル	
		男子200m自由形S4	銀メダル	
		男子50m平泳ぎSB3	銅メダル	
		男子150m個人メドレー SM4	銅メダル	
	窪田 幸太	男子100m自由形S8	予選敗退（全体16位）	日本体育大学
		男子100m背泳ぎS8	5位	
		男子4×100m34ポイントメドレーリレー	8位	
	荻原 虎太郎	男子100m自由形S8	予選敗退（全体13位）	セントラルスポーツ
		男子100mバタフライS8	予選敗退（全体12位）	
		男子200m個人メドレー SM8	予選敗退（全体11位）	
		男子4×100m34ポイントメドレーリレー	8位	
	中島 啓智	男子200m自由形S14	予選敗退（全体15位）	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
		男子100mバタフライS14	予選敗退（全体15位）	
		男子200m個人メドレー SM14	予選敗退（全体18位）	
	辻内 彩野	女子50m自由形S13	7位	三菱商事株式会社
		女子400m自由形S13	8位	
		女子100m平泳ぎSB13	予選敗退（全体10位）	
		混合4×100m49ポイントフリーリレー	5位	
卓球	竹守 彪	男子シングルスC11	5位	TOMAX
	竹内 望	女子シングルスC10	予選敗退	株式会社エントリー
		女子団体C9-C10	5位	
トライアスロン	秦 由加子	女子PTS2	6位	キャンノマーケティングジャパン・マースフラッグ・プリヂストン
車いす	川原 凜	男子	銀メダル	株式会社ローソン
バスケットボール	香西 宏昭			NO EXCUSE
車いすフェンシング	松本 美恵子	女子エペ個人A	予選敗退（全体16位）	都立多摩総合医療センター
		女子フルーレ個人A	予選敗退（全体17位）	
		女子エペ団体	棄権	
車いすラグビー	羽賀 理之	混合	銅メダル	ペプチドリーム株式会社
	池崎 大輔			三菱商事株式会社
	今井 友明			三菱商事株式会社
車いすテニス	国枝 慎吾	男子シングルス	金メダル	株式会社ユニクロ
		男子ダブルス	4位	
	荒井 大輔	男子シングルス	2回戦敗退（全体17位）	BNPパリバ証券株式会社
		男子ダブルス	2回戦敗退（全体9位）	



2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議の開催状況

	開催日	議題等
第1回	2014.11.25	●2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議の運営及び専門部会 ●2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた県内における取組状況（報告）
第2回	2015.2.9	●専門部会の設置 ●（仮称）2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略（素案）
第3回	2015.3.25	●2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略（案）
第4回	2015.7.21	●2020年東京オリンピックにおける競技会場の見直し ●「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」に係る新たな戦略の策定及び既存の戦略の改訂
第5回	2015.10.23	●2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略（案） ●専門部会の取組状況 ・事前キャンプ及び国際大会の開催結果 ・魅力ある観光地づくり・外国人受入体制専門部会における今後の取組 ●2020年に向けた県の取組状況 ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けた取組検討調査 ・県内開催3競技の普及
第6回	2016.9.12	●東京オリンピック・パラリンピックに関する動向 ・東京オリンピックのサーフィン競技 ・事前キャンプ誘致の取組状況 ●千葉県戦略に係る取組状況 ●リオデジャネイロオリンピック視察報告
第7回	2017.1.27	●東京オリンピック サーフィン競技の開催 ●東京オリンピック・パラリンピックに向けた行程表 ●千葉県戦略に係る平成28年度の取組状況
第8回	2017.7.25	●オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成 ●オール千葉の行程表 ●東京2020大会に向けたボランティア推進方針 ●オリンピック・パラリンピックを活用した教育の推進
第9回	2018.3.19	●開催準備の進捗 ●平成29年度の取組状況 ●平成30年度の主要事業 ●平昌2018冬季オリンピック・パラリンピック
第10回	2019.3.25	●オリンピック・パラリンピックに係る県内の主な動き ●取組事例報告等「みんなで応援!千葉県経済団体協議会」、「学生団体おりがみ」
第11回	2019.9.11	●取組事例報告等「みんなで応援!千葉県経済団体協議会」、「成田国際空港株式会社」 ●有識者による講演「東京2020組織委員会パラリンピック統括室長 中南 久志 氏」
第12回	2020.3.26	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止
第13回	2021.3.29	●「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」に基づくこれまでの取組（報告） ※書面開催
第14回	2021.11.15	●「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」に基づく取組 ●オリンピック・パラリンピックのレガシーの活用に係る今後の方向性 ※ウェブ会議によるリモートでの開催
第15回	2022.3.25	●「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」取組実績 等 ※書面開催



2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議 委員名簿

役職	氏名	現職
会 長	熊谷 俊人	千葉県知事
議 長	佐久間 英利	一般社団法人 千葉県商工会議所連合会 会長
副議長	新倉 涼子	千葉大学 名誉教授
委 員	飯沼 喜市郎	公益社団法人 千葉県観光物産協会 会長
	井崎 義治	千葉県市長会 会長（流山市長）
	伊藤 稔	公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー 代表理事
	今清水 浩介	株式会社幕張メッセ 代表取締役社長
	岩田 利雄	千葉県町村会 会長（東庄町長）
	鶴沢 清永	一般社団法人 日本サーフィン連盟千葉東支部 支部長
	大澤 克之助	株式会社千葉日報社 代表取締役社長
	大野 敬三	公益財団法人 千葉県スポーツ協会 理事長
	金子 庄吉	一般社団法人 千葉県タクシー協会 会長
	京谷 和幸	2008年北京パラリンピック日本選手団 主将
	久保 健	株式会社ペイエフエム 代表取締役社長
	後藤 邦夫	元筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授
	小林 敏也	京成電鉄株式会社 代表取締役社長
	三枝 紀生	一般社団法人 千葉県経営者協会 会長
	齋藤 隆	一般社団法人 千葉県バス協会 会長
	齋藤 哲二	鴨川シーワールド 総支配人
	澤 徹	一般社団法人 千葉県レンタカー協会 会長
	篠塚 泉	千葉テレビ放送株式会社 代表取締役社長
	篠原 正人	千葉県旅館ホテル生活衛生同業組合 理事長
	清水 徹也	一般社団法人 日本旅行業協会関東支部千葉県地区委員会 委員長
	須田 守	一般社団法人 千葉県経済協議会 会長
	平 栄三	千葉県中小企業団体中央会 会長
	田中 俊恵	千葉県警察本部長
	田村 明比古	成田国際空港株式会社 代表取締役社長
	田村 悦智子	公益財団法人 日本バレーボール協会 評議員
	富塚 昌子	千葉県教育委員会 教育長
	中川 晴美	東日本旅客鉄道株式会社 執行役員 千葉支社長
	秦 重悦	千葉県商工会連合会 会長
	早川 康一	千葉インバウンド促進協議会 会長
	林 茂壽	千葉県農業協同組合中央会 会長
	細田 美和子	日本放送協会千葉放送局 局長
	前田 伸	株式会社マザー牧場 代表取締役社長
	増田 明美	スポーツジャーナリスト、大阪芸術大学 教授
	吉村 雅文	順天堂大学スポーツ健康科学部 学部長
	渡辺 淳一	元城西国際大学観光学部 教授
特別アドバイザー	加賀見 俊夫	株式会社オリエンタルランド 代表取締役会長
	帖佐 寛章	順天堂大学 名誉教授、公益財団法人 日本陸上競技連盟 顧問

*2022年3月1日時点

*五十音順・敬称略



県内開催競技のテストイベント開催実績（実施日程順）

競技	イベント名	日程	会場	主催
サーフィン	READY STEADY TOKYO -サーフィン	2019年 7月18日～21日	釣ヶ崎海岸 サーフィンビーチ	東京2020組織委員会
テコンドー (オリンピック・パラリンピック)	READY STEADY TOKYO -テコンドー	2019年 9月27日～28日	幕張メッセ Aホール	東京2020組織委員会
ゴールボール	天皇陛下御即位記念 2019ジャパンパラ ゴールボール競技大会	2019年 9月28日～29日	幕張メッセ Cホール	公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会
レスリング	READY STEADY TOKYO -レスリング	2019年 10月3日～5日	幕張メッセ Aホール	東京2020組織委員会
フェンシング	高円宮杯 JAL PRESENTS FENCING WORLD CUP 2019	2019年 12月13日～15日	幕張メッセ Bホール	公益社団法人 日本フェンシング協会

※テストイベントには、東京2020組織委員会が主催する大会と競技連盟が主催する大会がある。

※車いすフェンシングとシットイングバレーボールは、テストイベントを実施していない。



県内の公式練習会場等

会場		所在地	競技	開設期間（いずれも2021年）	備考
競技会場併設 練習会場	幕張メッセ	千葉市美浜区	フェンシング	7月19日～8月1日	オリンピック
			レスリング	7月27日～8月7日	パラリンピック
			ゴールボール	8月20日～9月3日 （8月24日を除く）	
			車いすフェンシング	8月20日～8月29日	
	釣ヶ崎海岸サーフィンビーチ	一宮町	サーフィン	7月20日～8月1日	オリンピック
独立練習会場	高円宮記念JFA夢フィールド	千葉市美浜区	サッカー	7月16日～8月6日	オリンピック
	稲毛海浜公園スポーツ施設球技場	千葉市美浜区		7月16日～8月6日	
	秋津サッカー場	習志野市		7月16日～8月6日	
	中田スポーツセンター球技場	千葉市若葉区		7月25日～8月5日	
	アキラススポーツフィールド	千葉市若葉区		7月25日～8月5日	
	NTTコミュニケーションズ アークス浦安パーク	浦安市	ラグビー	7月21日～7月31日	
	クボタ船橋グラウンド	船橋市		7月21日～7月28日	
	市川市塩浜市民体育館	市川市	バレーボール	7月19日～8月8日	
千葉県立柏の葉公園総合競技場		柏市	開会式・閉会式 （リハーサル）	4月1日～10月31日	オリンピック・ パラリンピック



千葉県オリンピック・パラリンピック教育推進校一覧 (2017～2021年度)

〔小学校〕

学校名	実施年度
習志野市立秋津小学校	2017～2021
習志野市立香澄小学校	2017～2021
八千代市立高津小学校	2018～2021
船橋市立宮本小学校	2018～2019
船橋市立高根東小学校	2020～2021
船橋市立七林小学校	2020～2021
市川市立菅野小学校	2018
市川市立真間小学校	2019～2021
市川市立平田小学校	2019～2021
浦安市立見明川小学校	2018～2021
松戸市立大橋小学校	2017～2021
柏市立酒井根小学校	2018～2021
野田市立清水台小学校	2018～2021
流山市立小山小学校	2017～2021
我孫子市立湖北小学校	2021
鎌ヶ谷市立五本松小学校	2018～2021
佐倉市立印南小学校	2017～2021
佐倉市立寺崎小学校	2019～2021
成田市立久住小学校	2017～2021
印西市立いには野小学校	2017～2021
印西市立平賀小学校	2018～2021
香取市立小見川北小学校	2017～2021
香取市立新島小学校	2018～2021
山武市立松尾小学校	2017～2018
山武市立大平小学校	2019～2021
一宮町立東浪見小学校	2017～2021
一宮町立一宮小学校	2017～2021
長生村立一松小学校	2017～2021
いすみ市立太東小学校	2017～2021
館山市立豊房小学校	2017～2021
鴨川市立西条小学校	2018～2021
木更津市立清見台小学校	2018～2021
君津市立八重原小学校	2018～2021
市原市立明神小学校	2018
市原市立湿津小学校	2019
市原市立京葉小学校	2020
市原市立辰巳台東小学校	2021

〔中学校〕

学校名	実施年度
習志野市立第七中学校	2017～2021
船橋市立法田中学校	2018～2021
船橋市立古和釜中学校	2018
船橋市立海神中学校	2019
市川市立妙典中学校	2018
松戸市立小金中学校	2017
松戸市立第五中学校	2018～2021
柏市立田中中学校	2018～2021
野田市立東部中学校	2018
野田市立川間中学校	2019
野田市立木間ヶ瀬中学校	2020
野田市立関宿中学校	2021
流山市立常盤松中学校	2017～2021
我孫子市立久寺家中学校	2018～2020
佐倉市立根郷中学校	2017～2018
佐倉市立臼井南中学校	2018～2021
成田市立久住中学校	2017～2021
印西市立印旛中学校	2017～2021
香取市立佐原第五中学校	2017～2021
旭市立第二中学校	2018～2021
山武市立山武南中学校	2017～2018
山武市立蓮沼中学校	2019～2020
山武市立松尾中学校	2021
一宮町立一宮中学校	2017～2021
いすみ市立大原中学校	2017～2021
館山市立第二中学校	2017～2020
館山市立館山中学校	2021
君津市立周西南中学校	2018～2021
富津市立大貫中学校	2018
富津市立富津中学校	2019～2021
袖ヶ浦市立蔵波中学校	2018～2021
市原市立姉崎中学校	2018
市原市立八幡中学校	2019
市原市立五井中学校	2020
市原市立市東中学校	2021
昭和学院秀英中学校	2018～2021
秀明大学学校教師学部附属秀明八千代中学校	2018～2021

〔高等学校〕

学校名	実施年度
千葉県立千葉女子高等学校	2017～2021
千葉県立八千代高等学校	2017～2021
千葉県立一宮商業高等学校	2017～2021
千葉県立流山おおたかの森高等学校	2018～2021
千葉県立流山南高等学校	2018～2021
千葉県立市原緑高等学校	2018
千葉県立沼南高等学校	2019
千葉県立千葉南高等学校	2020
千葉県立四街道北高等学校	2021
昭和学院秀英高等学校	2018～2021
秀明大学学校教師学部附属秀明八千代高等学校	2018～2021
日本体育大学柏高等学校	2018～2021
千葉黎明高等学校	2018～2021

〔特別支援学校〕

学校名	実施年度
千葉県立桜が丘特別支援学校	2017～2021
千葉県立矢切特別支援学校	2017～2021
千葉県立東金特別支援学校	2018～2021

千葉県の東京2020大会広報



県内開催競技、県内ホストタウン周知チラシ（左：表面、右：裏面）



県庁に掲出した懸垂幕



県内開催競技紹介リーフレット
(上：英語版、下：日本語版)



県庁（左）と海ほたる（右）に設置したカウントダウンボード



大会期間中の装飾



JR海浜幕張駅（左）とJR上総一ノ宮駅（右）の装飾



県内の歩道橋や選手・関係者の移動経路等に掲出した横断幕（県内35カ所）



県内開催競技周知ステッカー



料金所等に掲出したのぼり（県内3カ所）



「ちば県民だより」オリンピック増刊号（左）、パラリンピック増刊号（右）



そごう千葉店（上）、イオンモール幕張新都心（下）における千葉県ゆかりの東京2020大会メダリストのパネル展示



東京2020オリンピック・パラリンピックに関する主な動き

■東京2020組織委員会・東京都・政府等 ●千葉県

年	月日	主な動き
2013	9月7日	■2020年のオリンピック・パラリンピック開催都市が東京に決定
	11月15日	●「千葉県東京オリンピック・パラリンピック戦略推進本部」を設置
2014	1月24日	■東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が設立
	7月24日	●「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組の基本方針」を策定
	11月4日	●「2020年東京オリンピック・パラリンピックCHIBA推進会議」を設置
	12月9日	■IOC総会で「オリンピック・アジェンダ2020 20+20提言」が承認 〈開催都市の組織委員会が追加種目を提案することが可能となる〉
2015	3月25日	●「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」を策定
	6月8日	■幕張メッセでオリンピック3競技（フェンシング、テコンドー、レスリング）を実施することが決定
	6月15日	●事前キャンプ等の誘致を図るため「千葉県スポーツコンシェルジュ」を設置
	10月23日	●幕張メッセでのオリンピック競技実施決定を踏まえ「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」を改訂
	11月12日	■幕張メッセでパラリンピック4競技（ゴールボール、シッティングバレーボール、テコンドー、車いすフェンシング）を実施することが決定
	11月26日	●九十九里・外房地域の16市町村長および千葉県内のサーフィン競技団体各支部長が、千葉県に対し、オリンピック・サーフィン競技の千葉県内での開催実現に協力を求める要望書を提出
	11月27日	■組織委員会が「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた関係自治体等連絡協議会」を設置
2016	2月3日	●オリンピックサーフィン競技の千葉県での実施に関する要望書を組織委員会に提出
	2月5日	●千葉県とJOCが「JOCパートナー都市協定」を締結
	4月25日	■組織委員会が「東京2020大会エンブレム」を決定
	5月26日	●東京2020オリンピックに向けたアメリカ陸上代表チームの事前キャンプ地が千葉県に決定
	7月5日	●オランダオリンピック委員会と千葉県が東京2020大会に向けたオランダの事前キャンプを千葉県で実施することに基本合意
	8月3日	■IOC総会で東京2020オリンピックの追加種目（サーフィンを含む5競技18種目）が決定 〈サーフィン競技会場の候補地が一宮町釣ヶ崎海岸に決定〉
	8月5日～21日	■リオデジャネイロ2016オリンピック開催
	9月3日	●第1回の「パラスポーツフェスタちば」を開催
	9月7日～18日	■リオデジャネイロ2016パラリンピック開催
	12月7日	■一宮町釣ヶ崎海岸でオリンピックのサーフィン競技を実施することが決定
2017	4月20日	●「千葉県オリンピック・パラリンピックを活用した教育の取組方針」を策定
	5月9日	■東京都が「開催都市契約2020」の内容を公表
	5月31日	■関係自治体等連絡協議会で、組織委員会・東京都・政府・関係自治体間における大会の役割分担および経費分担に関する基本的な方向について合意
	6月9日	■東京2020オリンピックの全実施種目が決定
	7月20日	●「東京2020大会に向けたボランティア推進方針」を策定
	7月24日・8月25日	●開催3年前イベント「ALL CHIBAで盛り上がろう！～みんなのTokyo 2020 3 Years to Go!～」を開催
	7月28日	●県内の経済6団体が「みんなで応援！千葉県経済団体協議会」を設立

年	月日	主な動き
2017	10月28日・11月29日	●開催1000日前イベント「CHIBAにオリンピック・パラリンピックがやってくる！」を開催
	12月11日	●千葉県がオランダのホストタウンとして登録
2018	1月17日	●競技団体と連携して第1回の学校訪問プロジェクト（フェンシング）を実施
	2月28日	■組織委員会が「東京2020マスコット」を決定
	7月12日	■組織委員会がオリンピック聖火リレーの出発地、出発日、各都道府県実施日を発表
	7月24日・ 8月25日～26日	●開催2年前イベント「CHIBAにオリンピック・パラリンピックがやってくる！～Tokyo 2020 2 Years to Go!～」を開催
	8月6日	■東京2020パラリンピックの全実施種目が決定
	9月12日	●都市ボランティアの募集開始
	12月21日	●都市ボランティアの募集結果を公表
2019	1月17日	●「スポーツを応援するチーバくん」のデザインを公表
	3月12日	■組織委員会が「東京2020オリンピックスポーツピクトグラム」を発表
	3月18日	●開催500日前イベント「あと500日！オール千葉で応援しよう！」を開催
	3月25日	■組織委員会がパラリンピック聖火リレーの実施日、実施概要を発表
	4月13日	■組織委員会が「東京2020パラリンピックスポーツピクトグラム」を発表
	4月16日	■組織委員会が東京2020オリンピックの全競技スケジュール（種目実施日程）を発表
	5月9日～28日	■東京2020オリンピック観戦チケット第1次抽選申込受付（6月20日結果発表）
	6月1日	●組織委員会がオリンピック聖火リレーの聖火ランナー募集概要、各都道府県の日程、実施市区町村を発表したことに合わせて、千葉県におけるオリンピック聖火リレーのルート概要を公表
	6月27日	●千葉県におけるオリンピック聖火ランナーの募集を公表
	7月18日～21日	■サーフィン競技のテストイベント（READY STEADY TOKYO-サーフィン）開催
	7月27日～28日	●開催1年前イベント「千葉にオリンピック・パラリンピックがやってくる！～Tokyo 2020 1 Year to Go!～」を開催
	8月8日～19日	■東京2020オリンピック観戦チケット第1次抽選（追加）申込受付（9月11日結果発表）
	8月13日	■組織委員会が東京2020パラリンピックの全競技スケジュール（種目実施日程）を発表
	8月22日～9月9日	■東京2020パラリンピック観戦チケット第1次抽選申込受付（10月20日結果発表）
	9月27日～28日	■テコンドー競技のテストイベント（READY STEADY TOKYO-テコンドー）開催
	9月28日～29日	■ゴールボール競技のテストイベント（天皇陛下御即位記念2019ジャパンパラゴールボール競技大会）開催
	10月3日～5日	■レスリング競技のテストイベント（READY STEADY TOKYO-レスリング）開催
	10月12日～	●都市ボランティア研修を実施
	11月13日～26日	■東京2020オリンピック観戦チケット第2次抽選申込受付（12月18日結果発表）
	11月22日	●組織委員会がパラリンピック聖火リレーの聖火ランナー募集概要、各都道府県の採火・出立実施場所、競技開催都府県のリレールート通過市区町村を発表したことに合わせて、千葉県におけるパラリンピック聖火リレーの実施概要を公表
	11月28日	●千葉県が組織委員会に求めてきた大会に伴う幕張メッセの使用期間の短縮について、以前示された期間の一部をさらに短縮する旨の回答があったことを公表
	12月11日	●千葉県におけるパラリンピック聖火ランナーの募集を公表
	12月13日～15日	■フェンシング競技のテストイベント（高円宮杯JAL PRESENTS FENCING WORLD CUP 2019）開催
	12月17日	●組織委員会がオリンピック聖火リレーの各都道府県ルート出発地および到着地等を発表したことに合わせて、千葉県におけるオリンピック聖火リレーの詳細ルートを公表
		●千葉県選考のオリンピック聖火ランナーを公表

年	月日	主な動き
2020	1月15日～29日	■東京2020パラリンピック観戦チケット第2次抽選申込受付（2月18日結果発表）
	3月12日	■東京2020オリンピック聖火リレー聖火採火式がギリシャ・オリンピアのヘラ神殿跡で開催され、ギリシャ国内での聖火リレーがスタート 〈新型コロナウイルス感染症の影響により、ギリシャ国内での聖火リレーは翌日3月13日に中止となる〉
	3月23日	●都市ボランティアの採用者を決定
	3月24日	■安倍総理大臣、組織委員会森会長、IOCバッハ会長、小池東京都知事などが電話会談を行い、大会を延期し、遅くとも2021年の夏までに大会を開催することで合意 ■組織委員会がオリンピック聖火リレーのスタート中止を発表
	3月30日	■組織委員会森会長、IOCバッハ会長、小池東京都知事、橋本オリンピック・パラリンピック担当大臣が電話会談を行い、延期後の大会日程について合意 ■組織委員会がオリンピック聖火リレーの延期を各都道府県に通知
	6月10日	■組織委員会が、IOCと合意した2021年の大会開催に向けた方針（安全・安心、費用の最小化、大会の簡素化）とロードマップを発表
	7月1日	●JR上総一ノ宮駅東口の利用開始
	7月17日	■組織委員会がオリンピックの新たな競技スケジュール（種目・実施日程等）を発表 ●延期となった大会での幕張メッセの使用期間について、組織委員会との協議の結果、延期前に予定されていた期間よりさらに短縮が図られたことを公表
	8月3日	■組織委員会がパラリンピックの新たな競技スケジュール（種目・実施日程等）を発表
	9月3日	■政府が「東京オリンピック・パラリンピック競技大会における新型コロナウイルス感染症対策調整会議」を設置
	9月24日・25日	■組織委員会が、IOCと合意した大会簡素化に向けた52の項目を発表
	9月28日	■組織委員会が延期後のオリンピック聖火リレーおよびパラリンピック聖火リレーの実施概要を発表
	12月2日	■政府の新型コロナウイルス感染症対策調整会議で中間整理を取りまとめ（観客数の上限の最終的な決定は来春までに行う）
	12月15日	●組織委員会がオリンピック聖火リレーの各都道府県における実施市区町村、セレブレーション会場を発表したことに合わせて、千葉県におけるオリンピック聖火リレールートを発表
2021	2月3日～	■IOC・IPC・組織委員会がブレイブブック（ルールブック）v1を公表
	3月2日	●組織委員会がオリンピック聖火リレーの各都道府県ルート出発・到着地（予定時間）等を発表したことに合わせて、千葉県における各区間の出発・到着予定時間、実施セレモニーを公表 ●千葉県選考のオリンピック聖火ランナーを公表
	3月20日	■五者協議（IOC・IPC・組織委員会・東京都・政府）で、海外観客の日本への受け入れを断念し、4月に国内観客の上限について方向性を決めていく方針を確認
	3月25日	■オリンピック聖火リレーが福島県「ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ」からスタート
	3月31日	●組織委員会がパラリンピック聖火リレーの各都道府県における聖火フェスティバルの実施内容と競技開催県のリレールート通過市区町村を発表したことに合わせて、パラリンピック聖火リレー千葉県聖火フェスティバルの実施概要を公表
	4月28日	■五者協議で、国内観客の上限については、6月に国内のスポーツイベント等における上限規制に準拠することを基本に行うことで合意
	4月28日～	■IOC・IPC・組織委員会がブレイブブック（ルールブック）v2を公表
	5月12日	●アメリカ陸上代表チームの東京2020オリンピックに向けた事前キャンプ中止を公表
	5月27日	●千葉県におけるオリンピック聖火リレーについて、県内全区間で聖火ランナーの走行を中止し、各日のセレブレーション会場が無観客の点火セレモニーを実施するとの県の考えを公表
	5月28日	●千葉県におけるパラリンピック聖火リレーのルートを発表
	5月28日～	●都市ボランティアのリモート活動を実施
	6月1日	■組織委員会が千葉県におけるオリンピック聖火リレーについて、代替措置として点火セレモニーを実施することを発表

年	月日	主な動き
2021	6月10日	●千葉県における東京2020ライブサイト等の中止を公表
	6月15日～	■IOC・IPC・組織委員会がプレイブック（ルールブック）v3を公表
	6月21日	■五者協議で、観客数の上限を「収容定員50%以内で1万人」とすること、7月12日以降、緊急事態宣言等が発動された場合は措置内容を踏まえた対応を基本とすること等を合意
	6月29日	●千葉県選考のパラリンピック聖火ランナーを公表
		●千葉県選考のオリンピック聖火ランナーを最終公表
	7月1日～3日	●千葉県においてオリンピック聖火リレー（点火セレモニー）を実施
	7月8日	■五者協議、関係自治体等連絡協議会を経て、東京2020オリンピックは、1都3県（東京、埼玉、千葉、神奈川）の全会場で無観客とすることを決定 ※7月9日に北海道、7月10日に福島県の会場も無観客とすることを決定
	7月11日～8月2日	●オランダ代表チームが東京2020オリンピックに向けた事前キャンプを千葉県内で実施 ※水泳チーム（7月11日～26日）、陸上チーム（7月16日～8月2日）
2021年7月23日～8月8日 東京2020オリンピック競技大会		
	8月5日	●千葉県におけるパラリンピック聖火リレーについて、公道での聖火リレー実施を中止し、出立式会場で無観客の点火セレモニーを実施することを公表
	8月12日～20日	■各都道府県でパラリンピック聖火フェスティバルを実施
	8月12日～23日	●オランダ陸上代表チームが東京2020パラリンピックに向けた事前キャンプを千葉県内で実施
	8月16日	■東京2020パラリンピック競技会場所在自治体懇談会、四者協議（IPC・組織委員会・東京都・政府）を経て、東京2020パラリンピックは、無観客とすることを決定
	8月18日	●千葉県においてパラリンピック聖火リレー千葉県聖火フェスティバルを実施
2021年8月24日～9月5日 東京2020パラリンピック競技大会		
	9月5日	●「I'mPOSSIBLEアワード」の表彰式が開催され、千葉県内の2つの学校が開催国最優秀賞と開催国特別賞を受賞

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会千葉県開催記録誌

2022年3月発行

発 行 千葉県

制 作 千葉県環境生活部
オリンピック・パラリンピック推進局開催準備課

所在地 〒260-8667
千葉市中央区市場町1-1



裏表紙のイラストは、「みんなの2020」イラスト・キャッチフレーズ
イラスト部門小学校の部最優秀作品



Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 in CHIBA